
今度は戦国時代かよ....。

浦波

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今度は戦国時代かよ…。

【コード】

N6674Q

【作者名】

浦波

【あらすじ】

「恋姫？…マジ！？」の主人公の北郷一刀が今度は戦国時代に転生しました。

日本統一後には世界進出を企む北郷がどう動くのか…。

この小説は作者の妄想です。
所々に史実と違う点があるかと思いますが、寛大な心で見てください。

この小説の肝付家についてですが、調べたのですがあまりにマイナーなのか大した事は分からず、想像で書いてます。
そこの所はご了承ください。

この小説はご都合主義です。
というかご都合主義でないとチート国家の島津家に簡単に潰されてしまうのでこうなりました。

この小説では有名所の武将達が簡単に死にます。
ゲームや映画みたいな武将補正はありません。
むしろ逆補正がかかり、敵は弱くなっています。

本来大名や武将などは役職名などで呼びますが、この小説では普通に名前で呼びます。

この小説の主人公は「明治?…マジ!?」の北郷一刀が転生しました。
しかし前作の「明治?…マジ!？」は諸事情により既に削除しました。

以上、こんな面倒くさい設定が多々ありますが出来れば読んでやってください。

浦波

2011年3月7日修正

この小説はあくまでご都合主義です。

作者は歴史の知識に乏しく、歴史書や年表などを見ながら書いていますが、おかしい所が何点もあるかと思えます。

ですから歴史に詳しい方は見ない事をお勧めします。

前作の「明治?…マジ!？」を削除した理由ですが、私があるサイトの小説を盗作してしまったからです。

盗作した小説の作者様からも嚴重な苦情を頂き、削除致しました。本当に申し訳なく思っています。

今作はまだ前作を削除していなかった時に続編として書いていたので前作の事もたまに出てきます。

しかし前作を知らない方も多いでしょうから簡単なあらすじを説明致します。

「恋姫?むしろ三国志」の世界で天下統一を果たした北郷一刀は今度は明治中期の世界に漂流してしまった。

このままでは日本は悲惨な事になると思った北郷は歴史を変えるべ

く、様々な工作をして日本を牛耳れる程になった。

そして最終的にはアメリカ、ロシア、中国を支配下に置き、日本が世界最大の超大国に登りつめ、北郷の寿命が来て終わりました。

これが前作「明治?…マジ!?’のザックリとしたあらすじです。

前作は安易な考えから盗作をしてしまいましたが、今作は勿論盗作をしていません。

サイトを去るべきかとも思いましたが、それではただの逃亡になってしまうのでサイトに残りました。

改めて盗作をしてしまい、本当に申し訳ないと思っています。

2011.3.28日追記

読者参加制を廃止しました。

1 準備編

1550年（天文19年）

いきなりだが今度は転生らしい。

初めての人には分からないだろうから先ずは自己紹介だ。

俺の名前は北郷一刀。

ちなみに恋姫の北郷とは全く無関係だ。

最終学歴は中卒のニートだった。

まあ、世に言う社会のクズだ。

俺は人生を二度体験した。

一度目は現代から恋姫の世界に漂流してしまった。

神だか悪魔だか知らないが、誰かが俺を恋姫の世界に飛ばしたらしい。

未だにそれが誰かが分からないが。

二度目は1890年の明治時代だ。

またもや誰かは分からないが飛ばされた。

そして今回で三回目だ。

何故転生だと分かったのはまたもや誰かは分からないが手紙が懐に入っていた。

（服が着物だった）

でいあー 北郷一刀君

やあ、久しぶり。

早速だけど君今回は戦国時代に転生したから。

転生先は肝付家の肝付兼続。

本当はまた漂流にしようかと思ったけど、庶民には生き辛い時代だから大名家に転生させてあげたよ。
でも強い大名家に転生させたら面白く無いから国力的にも地勢学的にもキツイ肝付家に転生させちゃった。
隣国にはあのチート国家の島津家がいるけど、まあ何時ものように頑張つてよ！

あまりに可哀想だから今回は君のチート能力も多少強化してあげたよ。

以前の世界で見て触った本は全部その世界でもコピー出来るようにしてあげました。

でもそれ以外は流石に出来ないよ。

出来るとチート過ぎるからね。

まあ、かなりヒマだったせいで読みまくった知識を得たんだから許してよ。

それと寿命も弄ってあげたよ。

今までは寿命がネックになって途中で終わっちゃったけど、今回はそんな事は無いよ。

寿命は数百年は保つように改造したから。

でも何年生きるかは秘密だよ。

自分の寿命が分かったらつまらないでしょ？

多分最低でも2、300年は生きるから。

でも寿命が長いだけで体は普通の人間だから注意してね。
ちなみに見た目は今と変わらないから。

それじゃ頑張つてね。

これで終わってる。

またもや名前は無しだ。

最早どうでも良いが。

しかし良いニュースもあつたな。

今まで唯一の強敵の寿命がかなり延びた。

正確には分からないが2、3世紀は生きれるらしい。

それだけが唯一の救いだ。

能力のチェックも完了した。

確かに前の世界の知識は頭にビッシリ残っているし、本もチートで出せる。

前までは以前いた世界の物をコピーすることは不可能だったから一応能力は強化されたのか？

出来るなら兵器もコピー出来たらなあ…。

機関銃とか出せば戦なんか簡単に勝てるぜ。

外国相手にも戦艦でも出せば最強なのに。

そこまで甘くは無いか。

ちなみに俺の能力の詳細は見たもの触ったものをコピー出来るという能力だ。

数、大きさの制限は無いが、その代わりに生物はコピー出来ない。

もし生物がコピー出来れば兵士を何百万人に増やしてサッサと日本統一をするんだけどなあ。

にしても肝付家か…。

結構直ぐに島津に潰されたよな。

あまりにマイナー大名なためか殆ど資料も無かつたな。

確か一時期強かつたんだよな。

一時期は島津さえも圧倒してたとか。

でも兼続が死んでからは没落の一途を辿り、最後は島津に臣従したんだよな？多分。

『信長の野望』シリーズでは肝付って役立たずの代名詞だよな？大丈夫かよ俺。

とりあえず役立たずの代名詞である兼亮と兼護をどうしよう？始末するべきか？

2 (前書き)

この小説はご都合主義です。

あまり深く考えずに見てください。

これからも「これあり得ないんじゃない?」という場面が山ほどあります。

俺は先ずこの肝付家の支配する大隅半島は地政学的にやりにくい所にあるので変える事にした。

島津家に「日向と大隅を交換しないか？」と持ちかけた。

島津にして見れば今の日向の飢肥城のままでは大隅の肝付城が邪魔で薩摩の内城との連携が取りにくい。

薩摩に行くためにはいちいち大隅を通る必要がある。

ここで飢肥と大隅を交換すれば薩摩との連携がもの凄くやりやすくなる。

何せ陸続きだからな。

こつちにも利益が大きいです。

ロクに発展していない大隅半島より日向の方がやりやすい。

婚姻関係にある伊藤家共連携が取りやすい。

結局島津は俺の申し出を受け取り、日向と大隅の領土交換を承諾した。

建物などはそのままにして人員のみを交換して終了した。

そして交換の際に島津との友好関係も深めておいた。

兼続のクソ親父が島津の娘を俺（兼続）とくつつけて島津と婚姻関係にした癖に何故か島津と敵対関係の伊藤家とも婚姻関係を結びやかった。

そのせいで島津とは微妙な関係だった。

しかし今回の領土の交換の時に友好関係を深めておいた。

とりあえずしばらくは島津と戦う気は無いからな。

俺の準備が整って攻めるその日までは島津には荒廃した大隅半島の発展に集中してもらおう。

いつか受け取りにいってきます。

それまでに発展させておいてください。

チートみたいに優秀な人材が腐る程いるんだからな。

こつちには戦国時代でもトップ5に入る役立たずが2人もいるんだ。どんなハンデ戦だよ。

しかし役立たずにも使い道はある。

恋姫時代にそれを証明した。

僅か200程度の弓兵である呂布を討ち取ったんだからな。

それと今不安定な肥後を狙わせよう。

領土平定と発展、それに肥後を狙わせれば流石の島津もこちらを警戒する余裕は無い筈だ。

そのまま肥後を取っても良いですよ。

それも一緒に貰い受けますし。

先ずは樂市樂座を実施した。

これは既に他の大名がやっていた事だからそんなに珍しくは無いが、効果は高い。

しかし欠点も多々あり、商人有利な政策である。

ならばそれを利用してこちらが商売を始める。

先ずは樂市樂座で今まで利権を占有していた座を排して、既に鉄板と化した北郷商会を開いた。

流石にこの時代に大名が商売をするのは不味いので代理人を立ててオープンした。

その代理人がたまたま北郷氏の支配地域産まれだったので北郷商会にした。

北郷商会は独占などせず、あくまで自由経済を行うから問題ない。

やはり質の良い商品を安値で売るから客は一杯来る。

この国に無い製品でも大名特権で商人に注文して持ってこさせることも出来る。

大口の商人とは取引を繰り返しているのでこちらはお得意様だ。

あつちから色々と商品を見せてくる。

そしてその商品をコピーして一般庶民でも買える値段にして売る。

ドンドン商会がデカくなればその大口の商人が所属する商会を買収だ。

買収出来なければヤクザなどを雇い入れて脅す。

商人達が俺に訴えて来ても証拠が無いので泣き寝入りだ。

やがては買収に応じて傘下に入る。

傘下に入れば最初は悔しい思いをするが、ドンドンドンドン儲けて

いくから悔しさが感謝に変わる。

所詮人間なんかそんなものさ。

次は港の改装だ。

港は国内の貿易港はあるが、とても外国と取引出来るような設備などが無かったから大改装を行った。

この公共事業によって雇用が激増したことにより国民の所得が上がった。

そのせいでまた商會が儲かるし税収も上がる。

後々外国との貿易のために港は絶対必要だ。

大型のガレオン船が入港しても大丈夫のように作る。

最初に面倒なのは終わらせる。

いちいち文句言ってくる奴は全員肅清だ。

最初に「俺を信じる。」と言ったにも関わらず、意見して来る奴や中には混乱を期にクーデターは無かったが、賄賂など汚職に走る者がいた。

そういう奴は街中で公開処刑をした。

汚職に始まった奴の家族も同罪として処刑した。

これで俺に逆らう奴はいなくなっただろう。

流石に家族の命は惜しいからな。

それにもしクーデターでも起こそうとしても無駄だ。

家臣の中には俺のスパイが多数いる。

何かあれば俺に報告に来る。

基本的に人間は金と権力になびく生き物だ。

それは恋姫時代でも明治時代でも変わらなかった。

俺の妻である御南は島津の長男から貰った生贄だ。
つまり政略結婚だが。

この女は史実で兼続の実家との離縁命令に従わなかったらしいので
今から躰とく。

女を躰るのは古来から決まっている。

セックスだ。

伊達に2つの世界を経験した訳では無い。

その間に女を抱いたのは数知れない。

この時代のセックスは単純に子供を作るためだけの行為だ。

もしその時代に相手を屈伏させるために鍛えたテクニックで責めら
れたら果たして耐えられるかな？
楽しみだ。

責め続けて3日後に落ちた。

きちんとした前戯をされた経験が無かったのか、それだけでイッた。
後は簡単だ。

ゆっくりゆっくり責めて相手から服従するように仕向ける。

目の前で侍女をイカせまくったら結構簡単に落ちた。

今では俺の命令には何でも聞く。

この女には頑張って貰わなければいけない。

男はいらないが女を産んで欲しいのだ。

取引材料に使えるからな。

次に食料の増産だ。
好景気だからか人口がドンドン増えているんだ。
その分食料が必要不可欠だ。
畑や田んぼを拡張したり新たに作る。
鉄製の農機具を無料で貸して生産量を上げて貰う。
以前より高値で農作物を買い取れば農民達も一生懸命作る。
日本人は勤勉な民族だ。
目標が出来ればどこまでも頑張れる。

役人による汚職や不正を一斉摘発した。
金と暴力で簡単に口を割った。

「今後我が領で汚職や不正を働いたらどんな身分であろうが死罪とする。」と民衆に向けて宣言した。
事実、捕まえた奴らは公開処刑だ。
罪状は国家反逆罪。

国を裏切る行為だと激しく非難した後には家族諸とも処刑した。
こうすれば恐くて汚職など出来ない。

領内の治安向上のために各地域に交番を設置。
恋姫でもやっていたが、これは確実に治安は上がる。
それと秘密警察を組織して反逆者などを捕らえる。
汚い仕事もさせられるから便利だ。

それと諜報組織の設立だ。

何故かこの時代の日本では忍びは忌み嫌われた。

意味が分からない。

情報は何より重大だと言う事を理解出来ないのか？

まあ頭の中は魔女狩りしているキリスト教徒みたいに凝り固まっているんだろう。

俺が日本統一後したら一掃してやる。

忍びみたいな特殊な奴らを育てるのは時間がかかるが、商人を装って情報を集めるだけなら大した手間はかからない。

以前にも育てていたのだ。

同じ事をやれば良いだけだ。

それと近代で覚えたスパイの技術も教えておこう。

そして何より軍拡だ。

今の軍事力では島津には遠く及ばない。

だから大増強が必要だ。

兵農分離をする。

暇な奴らなど幾らでもいる。

高給で釣って厳しい訓練を課し、鍛える。

恋姫時代と同じように全体の質を高める。

例え逃げようとしても秘密警察が見張っている。

少なくとも訓練過程が終了して愛国心の刷り込みが完了するまでは家には帰れない。

訓練の厳しさからたまに死人も出るが、その場合は家族に遺族年金を支払う。

それに真の愛国者として称え、一定期間減税にしてやる。

そうすれば文句は言っていない。

それと人口を増やすために子作りを奨励した。子供を三人以上出産すれば助成金が貰え、その後一人産む以降減税される。

これなら好景気と相まって人口は爆発的に増加するだろう。

出きるなら人口を三倍ぐらいに増やしたい。

使えるようになるには15年はかかるが。

職人も増産する事にした。

これから俺の無茶振りを聞いて貰うために技術力と人数を上げる。

先ず職人達に若い奴らを育成させる。

大多数は渋るが、「技術は継承してこそ価値があるのだ。」と俺が直接頼んだから全員承諾した。

この時代に領主が直接来る何て有り得ないからな。若干脅しの要素も入れたが。

そして他国の、特に島津の職人達に来て貰った。

島津の生産力を下げるためだ。

いきなりやるのでは無く、ゆっくりと職人達をこちらに移動させた。今島津に攻められたらひとたまりもなく潰されるからな。

慎重に事を運んだ。

別に全員が欲しかった訳では無いから、金や暴力でなびかなかった職人達はいらぬ。

後で貰うよ。

島津を滅ぼした後には。

そして何より大事な種子島、鉄砲の生産だ。

鉄砲は島津が持っている。

流石にこの時代高価な鉄砲を貰う事は出来なくても、見て触るぐらいは出来る。

現在の島津との関係は良好だ。

同盟国の当主が鉄砲を是非とも見てみたいと言えれば見せるぐらいならしてくれる。

それで十分だ。

何せ俺のコピー能力は見るだけでOKだ。

その見た鉄砲と弾、火薬などをコピーして配備させる。

新たに鉄砲隊を設立して日夜訓練に明け暮れる。

そしてコピーした火縄銃を職人達に分解させて構造を分からせ、生産させる。

幸いにも前の世界でこういった銃器の本は大体読んだから詳しく説明出来た。

生産自体はそんなに難しくない。

そして初めての開発命令を下した。

フロントロック式の銃をだ。

火縄銃は火種が必要だが、フロントロックなら火種は必要無い。

それに火縄銃は発射時の火花のせいで密集して撃つと火薬が誘爆して危険だが、フロントロックなら密集陣形でも問題無く撃てる。

銃は弾幕を作れなくては意味が無い。

だから俺は恋姫時代でもフロントロックを作らせた。

あの時代に出来たんだ。

この時代で出来ない訳が無い。

開発費は無限だ。

資源も無限に用意出来るから研究者にとっては最高の環境だな。

次は船だな。

まだ港が出来ていないから作れないが、今から造船所の建設や船大工を集める。

全国に放ったスパイ達に金で船大工を釣ってこいと命令した。

先ずは和船を造らなくてはな。

いきなりガレオン船を造れといっても無理だからな。

徐々に技術力を上げなくては。

いずれは戦列艦も造らせるのだから。

士官学校を設立した。

将校や参謀など軍にとってかせない人材育成のためだ。

士官学校は試験こそ難しいが、授業料など一切は無料だ。

国にとって必要不可欠な人材を育てるためだからな。

指導員は俺が近代戦術や軍規などを教え込んだ武将達だ。

最初は文句を言っていたが、俺の聞いたことも無い独創的な戦術などを聞いてからは逆に積極的に質問さえして来る。

テキストなどは近代軍のテキストを流用した。

この時代用に修正はしたが。

この時代に陸戦法なんか無いから人権については省いた。

敵に人権など必要無い。

それと平行して大学も建てた。

肝付大学という、主に研究者と官僚の育成のための大学だ。

これまた講師は俺が鍛えた者達だ。

ちなみにこいつ等には蒸気機関の開発を命じた。

テキストなどは俺がコピーした物があるから理論は理解出来る。後は実践だ。

流石にこれはかなり時間がかかるだろう。

しかし必ず出来る筈だ。

何せ工業用も船舶用の蒸気機関の作り方は全部コピーしている。

それを教え込めばいずれ出来る。

それさえ出来れば爆発的に技術力は加速する。

現時点での最重要課題だ。

官僚の育成についてもバッチリだ。

近代で覚えた官僚にとって必要なものなどを教え込んでいる。

何せ優秀な官僚がいれば国家運営がとんでもなく楽になる。

勿論、国に対する忠誠心を植え付けてからだ。

他にも医療関係や外国語、政治、経済、農業、科学など様々な科を設立した。

最終的には総合大学になったな。

とりあえずは家臣達をここで鍛え直さねば。

今更俺に逆らう奴はいないから楽だ。

案外早く日向平定は終わった。

新設した銃を装備した機械化大隊のおかげか反抗勢力は全滅させるか、降伏させられた。

降伏した者達は士官学校に入れて肝付に対する愛国心を刷り込んでやる。

一年もすれば従順な兵士達の完成だ。

この時代の日本人はアメリカ人より単純だからな。強さと豊さを見せ付ければコロツと落ちるものだ。

落ちない者は港建設など重労働を頑張って貰おう。
人材は無駄にはしない。

それと伊藤義祐と友好関係を作る。

これはかなり長期になるが仕方ない。

ゆっくりゆっくりと親友関係を作り、伊藤に俺を心から信頼させる。
後々こいつの国を丸ごと頂くために。

1552年（天文21年）

国内の平定が完了した俺は博多など外国船が来る港に行った。もちろん隠密で。

城には影武者を置いていったから問題無いだろう。

わざわざ博多や長崎に来たのは南蛮船、つまりポルトガルやスペイン、明のガレオン船やジャンク船を見に来たのだ。

ガレオン船をコピーするには直接見なければならぬため俺自ら直接来たのだ。

そして何よりも貿易を開始するためだ。

ようやく港が完成したのだから使わなければ勿体無い。

とりあえず長崎についた俺は通訳を雇った。

この時代では海外の言葉を話せる奴らはほとんどいないから通訳を雇うのはそれなりに金がかかった。

ちなみに俺は北郷商会の営業として来てる。

だから外国の商人と話しても問題ない。

先ず港に来た俺はガレオン船を見て回った。

大体の船は3本マストの二層〜三層式、大砲は40門ぐらいかな？

やはり渡洋性が高い船で来るから大型船が多いな。

まあ、商品を大量に積む必要があるから大型船にもなるか。

大体の船を見て回り、コピーが終えた後に俺は南蛮船の船長に貿易の話を持ちかけた。

いちいち通訳を通さなくてはならないのが面倒くさい。

肝付国が港を拡張して海外の国々と貿易をしたがっていると伝えた。

船長は最初は信じなかった。

まあそうか、何年か前まではロクな港も無かった国がいきなり海外と貿易がしたいなんて言っても信じないだろう。

しかし最終的には信じてくれた、金の力のおかげで。

大金とも言える額の金を渡し、「もし肝付国に来てくれるなら倍払ってやる。」との言葉が効いたのか肝付国に来てくれることになった。

他の国にも同じような手段で肝付に誘いをかけた。

金があると分かれば必ず来る筈だ。

それがアングロサクソンだ。

そして貿易の話が着いたら次は船大工を探す。

勿論ガレオン船の船大工だ。

ガレオン船の建造は重要機密で他国に渡して良いものではないが、こんな極東の島国にすればそんな警戒心も薄れる。

それに金で動く人間はどここの国にもいる。

借金漬けの奴とかな。

かなりの金を払って通訳と一緒に船大工を何人が雇った。

通訳は外国語の指導員にもなる。

これからは外国語が話せないとやっていけないからな。国に帰ったら俺も勉強だ。

そしてついでに西洋の馬や中国の馬を購入した。

オスとメスセットで買い、国に帰った。

この外国馬を繁殖させて増やす必要がある。

日本原産の馬は小さくて役に立たない。

大型の外国馬が大群で突っ込んで来れば混乱すること間違い無いだろう。

国に帰った俺は早速港の商館設置を命じた。
あの船長達の様子ではとりあえず一度は見に来る筈だ。
その時までには設備を整える必要がある。
雇った通訳を使い外国語の勉強をさせる。
外交官を任命してそいつ等に必死にポルトガル語、スペイン語を習得させる。
俺も勉強をしとく。
役に立つだろうからな。

造船所でコピーしたガレオン船を解体させて作り方を分からせる。
細かい箇所は雇った船大工に教えさせる。
流石に時間がかかるだろうが、ガレオン船が出来れば海上戦で圧倒出来るし外海への航行も可能となる。
とりあえず今は和船の建造を優先させる。
和船ならそこまで難しく無いからな。

次にコピーして来た大砲を城に配備して防御を固める。
確かこの時代では国崩しとか言われてたか？
大砲はとんでもなく高価だったから他国が大砲を備えるのはほぼ不可能だったが、俺には問題ない。
そして鉄砲職人達に大砲の製造を命令した。
まだ技術不足からとても造れないだろうが、研究させていけばいずれ出来る。
船大工の中には大砲の造り方を知っている奴がいたから研究は順調に進むだろう。

牧場を多数作らせて外国馬の生産を命じた。これからの時代はこの大型馬が主戦力となる。機動部隊として騎馬軍団を編成する必要がある。しばらくは繁殖に専念しなくてはな。

島津に対する工作を開始した。

どんなに優れた一族でも完璧では無い。

大きい領土を持つなら全体に目が行き渡らない。

中には腐った役人など幾らでもいる。

そういった奴らに汚職を蔓延させて領民達の不満を高めさせる。

地域によつては極端に税を高くするなど緩やかに不満を高めされる。そして流言飛語も流す。

「隣国の肝付では税が安く暮らしやすい、職も沢山あつて食うに困らない。」と。

嘘は言っていない。

本当に他国に比べて税は安いし、雇用も腐る程ある。

誰か一人が言つて確認して来れば真実と分かる。

そうなれば後は勝手にこつちに来る。

少しずつ少しずつ領民が流れて来る。

流れて来た奴らは農民はそのまま農民になれるし、職人なら職人になれる。

何の技術も無いのなら兵士に勧誘する。

高給だし、社会保障も受けられる。

訓練はかなり厳しいが家族を食わせられる金を稼げる。

少なくとも島津にいる時よりは良い暮らしが出来る。

だから軍は人気職だ。

次に商人達をこちらに引き寄せろ。

こちらの国は購買意欲が高いから儲かる事が分かる。

それに国自体が沢山商品を購入してくれるから島津に仕えるより利益になると分かるだろう。

楽市楽座のおかげで税や法が緩和されるから出店もし易い。

これだけの好条件なら利益を追求する商人達はこぞって肝付に来る。

まあ、大体の商人達が集まったら北郷商会が吸収合併するけど。

ちなみにもう一つの実盟国である伊藤家にも北郷商会は出店している。

かなりの税を献上している北郷商会を伊藤義祐は重宝している。

少しずつ少しずつ伊藤領を占領していく。

島津を潰した時には伊藤領の商売を独占出来ているだろう。

商館設備などの整備が完了した頃、南蛮船が訪れた。

最初に来たのは一番始めに交渉したポルトガル船だ。

船長は驚いた顔をしていた。

そりゃあそうだろう。

2、3年前までは何も無かった街が今では貿易都市として栄えているんだからな。

早速ポルトガルとの貿易を結んだ。

他の国々もンドン来た。

スペイン、明国ともに全員驚いていた。

そして様々な貿易をした。

食料、衣服、医療品など民政品。

地図、コンパス、鉄砲などの軍需品。

麻薬などヤバい物も貿易出来た。

これで敵国を弱体化させられる。

さて、それでは懐かしい工作をするか。

鉛の上薬を塗った食器を職人達に作らせた。

見た目は美しく、それでいて嫌みでは無い見た目にした。

それを大隅の島津家に友好の証として島津家と重臣に一式贈った。

「是非とも皆様でお使いください。」と言えば同盟国からの頼みだ、使わざるを得ない。

それに見た目は最上だ。

喜んで使ってくれる筈だ。

食器から鉛の毒素がジワジワと神経を犯す。

そうすれば領民の減少などの異変に気付きにくくなる。

少しずつ少しずつ犯されれば食器のせいだと気付く事は無い。

気付いたとしても既に手遅れになるだろうしな。

伊藤に対する工作は続いている。

何とか友人関係のようなものが作れた。

これ以後は簡単だ。

今までの経験上、友人関係になるのは難しいが親友関係になるのはさほど難しくはない。

伊藤の城に行く時は毎回酒を持っていく。

その酒の中にたまに毒薬を混ぜる。

俺は解毒剤を飲んでているが、伊藤は勿論飲んでいないので少しずつ体が弱って来た。

これで良い、少しずつ少しずつ弱っていけば心が弱くなる。

そうなれば親友の俺を頼るしかない。

まだその時ではないから心配するだけで終わる。

その内楽になれるさ。
良くも悪くも。

富国強兵を目指すために戸籍調査と更新のために人物帳を作り、それと農地調査のために検地を行なった。これで人口や農地を正確に把握出来る。農民や町民、産婆などには出産したら国に届け出る事。と言っておいた。

そして次は税に関してだ。

今までは農民に税として米納にしていたが、次からは金納にした。ある程度裕福になって来たから変更した。

米貰っても困るしな。

もちろん税を取るのには農民だけでは無い。

町民からは町役の名目で収入の5%を徴収する。

以前より裕福な暮らしをしているからこのぐらいなら問題無い。

そして裕福な寺社からも経費と生活費を引いた収入に課税した。

どの時代も宗教は儲かるからな。

経費には免除しているから寺社は文句は言い難い。

それと有事の際に備えるために領土の東西南北にアウトバーンを整備した。

信玄の棒道を参考にした。

出来るなら舗装したいなあ。

アスファルトなら天然アスファルトが日本でも産出出来るけど日本

海側の地域だから遠いしなあ。

セメントやコンクリートなら出来そうだけど開発に時間かかりそうだし。

いっそのことヨーロッパみたいに石畳でも敷くか？

5 (前書き)

この小説はほぼ主人公視点のみで構成されています。

1553年（天文22年）

地面を舗装するためにコンクリートやセメントの開発を命じた。
この時代より遙か昔には既にあつたのだから、この時代でも作れる筈だ。

出来るならアスファルトも作りたいが原油が無いから合成出来ない。
天然アスファルトは日本でも産出出来るが、それは東北や新潟県などの日本海側の遠い地方だ。
流石に其処まではいけない。

それまでは西洋よろしく石畳やレンガだ。
コピーした極上の石畳やレンガを敷き、雨でも泥が跳ねないように
など舗装した。

まだ主要箇所しか出来ていないがいずれは全国の道路を舗装する。
そのために先ず自領の道路を整備した。

何里かに一本の塚を立てて目印にしたり、道端を拡張して大勢が通れるようにした。

途中、賊や野武士に襲われないように賊の拠点に強襲を仕掛けた。
訓練を終え、一人前の兵士となった新兵達の実戦経験とした。

訓練での鬱憤が溜まっていたのか物凄い勢いで攻め落とし、賊を皆殺しにした。

鉄砲隊も出撃したため、まるで狩りを行うように圧勝した。

これで領内の治安は向上した。

治安の向上によって更に流民や商人などが入って来た。

商隊には護衛として兵士達を付けてやった。

これで商人達との友好度が上がる。

この時代は何より信用が第一だからな。領内を通過する時は護衛を付けてくれる国に好感を持たない訳が無い。

造船所にて小早川船や関船など小型〜中型船舶が出来てきた。まだ安宅船程大型船舶では無いため大砲は積めない。まあ、まだ沿岸警備ぐらいにしか使えないからな。とりあえず海軍を創設して海賊狩りをさせて実戦経験を積ませている。

次の目標は安宅船と鉄甲船だ。

でも鉄甲船は直ぐ装甲が錆びるんだよなあ。

何か防錆用に塗料を開発しなくては。

亜鉛メッキを貼ると良いんだよな。

確かポルトガルが亜鉛を手に入れていた筈。

まだ利用法は分かっていなかったけど。

貿易でなんとか手に入れてやる。

海軍を設立したのでこの気に陸海軍を統合して国防軍とした。

統合参謀本部を設立して陸海の壁を取り除く。

そして陸海軍を統一した防衛大学を設立。

士官学校を卒業した生徒達が進学する学校でより専門的な知識を学べる。

始めは全員同じクラスだが各適性を見て陸海に分ける。

また、戦術や戦略をより学べば参謀にもなれる。

入学試験が非常に難しく、入るのは困難だが卒業すれば出世は約束される。

入学資格は士官学校を卒業した男子のみで貴賤は問わない。
しかし入学資格が難しいので、高等教育を受けている者達しか入れない。

つまり初めから下流階級の人間は入れないのだ。
よほどの天才でなくてはな。

食事に刺激が欲しいから南蛮船からコシヨウを購入。

流石に日本では栽培出来ないから買うしか無い。

この香辛料をめぐって戦争もあつたんだよなあ。

もしこればアジアに無かつたら大航海時代が遅れてた可能性もあつたらしい。

すげえなヨーロッパのコシヨウに対する思いは。

日本の香辛料も改良させた。

先ずは七見唐辛子の製造だ。

一味唐辛子では飽きた。

原料は日本で手に入る物だからだからな。

それと肝付の家臣で多分一番有名な禰寝重長だ。

こいつは現代でも大人気な温州ミカンを作った奴だ。

だからこいつには前から温州ミカンの品種改良をさせ続けている。
というか農業担当者に変えた。

肝付の役立たずの武将達より、士官学校や防衛大学を卒業したエリート達の方が優秀だからな。

まあ、まだ戦力化していないから武将達を使うが。

一応武将達にも近代戦術や戦略を学ばせた。

もちろん厳しい軍規もな。

例え誰であろうとも独断専行などをすれば死刑だ。

俺の厳しさは教えて来たからな。

よく二次小説では融和政策とか大甘な判断などをしながら家臣達の心を掴むのが多いが、一番手っ取り早いのは恐怖政治だ。

最初は恐怖で縛り付け後からは融和政策や信仰などをさせた方が早く済む。

そして何故か俺には何時も信仰心が集まって来る。

恋姫の時も明治の時も、そして今も。

何か独裁者的な動きをすると信仰心を植え付けられるのか？

今まで見たことも聞いたこと無い知識を広めたり、経済に関しても成功を収めたし、軍事力も増強したせいで家臣達は勿論、領民達から早くも神扱いだ。

この時代一番チヨロいかも。

前の世界では宗教は流行らせなかったが、この世界では逆に流行らせた方が良い。

恋姫の時にその有効性は十分分かった。

宗教を作った。

その名も兼続教だ。

直江兼続と被るのが面白く無いが仕方ない。

肝付教では肝付家全体を指すし、北郷教では尚おかしい。

今の俺は北郷姓では無いからな。

内容は俺の治世を褒め称え、邪魔する者は排除するという、他国から見たら異常な宗教だ。

まあ、人殺しまくるキリスト教よりは良いよな？

キリストは実在しないけど（本当にいたのかは分からないが。）俺は実在するし。

それに寿命は何百年も保つらしいから、他国から見ても神か悪魔に認定されるだろう。

多分キリスト教圏内からは悪魔扱いされるだろうがな。

しかしキリスト教と違い政治に口出ししないから良い。

俺は宗教が政治に口出しするのは許さない。

政教分離が目標だ。

信者の数は増加傾向だ。

この夢希望が無い世界で唯一庶民にも夢を見させてくれるからな。誰だって継りたいのだ。

義務教育制度を作った。

二年間学校に通い、読み書き算盤など簡単な算数を学ばせる。

国民はある程度バカな方が操り易いが、バカ過ぎても困る。

それにこれからは無能な武将では無く、優秀な一般人が必要になる世界だ。

家柄だけが良いボンボンなど必要無い。

庶民であっても才能があるのなら国の要職にも就ける。

まあ、まだやらないがな。

とりあえず日本統一したら本格的にやるか。

ようやく火縄銃の生産が出来てきた。

とりあえず生産規模を増大させてコピーしなくても良くさせる。

いちいちコピー何てやってらんない。

それより今はプリントロックを開発中だ。

これが出来れば銃の操作性は上がる。

いちいち火種に注意する必要が無いからな。

そしてライフリングを刻んでゲベル銃にする。

まだ蒸気機関が出来て無いから無理だが、いざという時は職人達に手で彫らせる。

一個でも完成すれば後は簡単だからな。

だから一応手でもやらせている。

もしかしたら蒸気機関はかなりの時間が必要かも知れないからな。

官僚を作ったがキチンとした法整備が行われていなかったので整備した。

信玄家法や今川家の法律みたいに、憲法、民法、軍法、商法などを制定。

近代憲法を参考にしたため細かく制定されている。

しかし人権などは無い。

あると邪魔だからな。

外国船が近くの村を襲い国民を奴隷として持って行く被害が出たので外国船と協定を結んだ。

奴隷を輸出しない代わりに海産物の干物や茶など保存が効く食品や装飾品、宝飾品、刀剣類、甲冑類、工芸品、芸術品などを輸出するとした。

また、我が国は奴隷売買は一切行わないと明記した。

奴隷売買なんてやったら支持率が落ちるからな。

道路舗装に石畳やレンガを使うようになったので、他の分野でも使ってみることにした。

例えば石畳を作る時に使う石を切る技術。

これを使って城に石垣を築く。

まだ西の方では石垣を持つ城は無かったからな。

江戸城のようにキツチリとした石垣を築かせた。

もう一つは建物だ。

レンガを用いた建物なら耐久性に優れているから蔵などに重宝されるだろう。

1553年（天文23年）

島津への工作が効きだした。

島津家の人間達が時折変な行動をしたり、突然怒り出したりなど情緒不安定になっている。

まだ領土を維持出来ているが、これからどうなるのかが分からなかった。

俺は更に弱らせるために今度は酒の贈り物をした。

弱い麻薬を入れた酒を島津家当主の忠良に贈ってやった。

極上の酒を贈ってやったためか感謝状まで送って来た。

酒自体は素晴らしいものだからな。

ちょっと添加物を入れたけど。

この酒を定期的に贈り付けてやった。

そして少しずつ少しずつ濃度を上げていった。

当主だけでは無く他の重臣達の間も一緒に贈る。

毒見をしても分からないだろう。

最初は極微力だから例え飲みきっても少しまた飲みたくなる程度だ。

それが段々と依存度が高くなっていく。

そうすれば島津を自在に操れるようになる。

その時が楽しみだよ。

大砲がようやく完成した。

これでとりあえずは自国生産が可能となった。

ドンドン造らせて戦力を揃える。

そして次の開発をさせる。

榴弾を作らせるのだ。

今の砲弾はただの鉄の塊だが、榴弾は内部に火薬や鉄片などをいれて広範囲に破壊力を持たせた物だ。

瞬発信管を作れば良いんだ。

幸いにもそういった知識も持っている。

設計図と詳細を書いたから出来るだろう。

これが出来れば陸戦でも海戦でも優位に立てる。

何せまだこの世界に存在しないからな。

攻撃兵器として炮烙弾を開発した。

近距離兵器としてはそれなりの威力が期待出来る。

構造も簡単だし。

でも相手が小早川船や関船なら通用するけど安宅船にはキツいかもなあ…。

まあ、主に使うのは海賊相手だし。

それと初期型のロケット兵器も開発した。

炮烙弾をロケット状にして内部に火薬を詰めて大砲に差して発射するという単純な兵器だ。

でも近々中距離攻撃が可能だし、相手によっては圧倒出来る。

陸上兵器としても転用出来るから使い道は広い。

その他の航海用の道具も開発出来て来た。

六分儀やコンパス、砂時計など航海に必要な物が揃って来た。

まだクロノスマーターは出来ていないので砂時計で代用するがな。

それと信号旗も重要だ。

国際的に使用されている旗を作り、各船での意思疎通を可能とした。

陸上兵器もそこそこ発展して来た。

まだ馬は必要な分は出来ていないがハルバードを作り馬上攻撃能力を強めた。

そして連発兵器として「レッドクリフ」の連続クロスボウを開発した。

一度に10発まで連続して矢を射るといふ画期的な兵器だ。

鉄砲は単発式で時間がかかるからこれで代用出来る。

弾幕射撃こそが俺の軍の強さだ。

順調に兼統教の信者達が増えて来た。

今では昔の制度を守ろうとしている者達は異常者扱いされる。

そりゃあそうか、民衆にとっては昔より今の方が遥かに裕福になったし、飢餓も経験しなくなった。

家臣達も俺の知識の素晴らしさを認めたのか大多数は俺を指示している。

どんな説得しても俺を指示せずに既得権益にしがみついた奴らは全員粛清した。

全員が分かり合える事など有り得ないからな。

大多数は俺が恐いのと自分に利益があるから付いてくる。

まあ中には国のためになるからと付いて来る純粋な愛国者もいるけどな。

これで国の支持を取り付けた。

もし誰かがクーデターを起こしたとしても誰も付いては来ない。

だからだろつか、逆らう奴らは急激にいなくなった。

おかげで地方分権制度から中央集権制度に完全に変わった。

中央が制定した税率などを守らなければ肅清されるからな。地方を管理できる官吏は幾らでも換えが効く。まだ大学の卒業者はいないが、俺が直接鍛えた官吏がいる。いずれは大学卒業者で地方を固める。大学にいる奴らには国と俺に対する忠誠心を植え付けているから逆らう事は無い。

この時代では仕事の掛け持ちが当たり前だ。家老は現代で言う軍事、経済、農業など大臣職を幾つも掛け持ちでやっているし、他にも奉公は都知事、警察署長、最高裁判長官を掛け持ちしている。

代官は税務署長、警察署長、行政長官。

など、それぞれが掛け持ちをしていて仕事に集中出来ない。だから現代のように細かく分類することにした。

経済、軍事、司法、行政、農林水産、国土交通などなど家老を増やしてそれぞれ細かく担当を割り振り、責任の所在を明らかにした。これならはつきりとして分かりやすく、各分野の専門家を就ければやり易くなる。

他にも税務署や警察署、裁判所などは別々にしてそれぞれに担当長官を就ける。

これで多少近代化をする筈だ。

1555年（天文25年）

島津の国力は順調に落ちて来ている。

島津家は勿論、重臣達も徐々に依存症になってきた。

少し酒の運搬を遅らせると催促の手紙や使者が訪れる。

そこで「財政が厳しいからこれ以上無料では贈れない。」と伝えたら金を払ってきた。

そこで適正な値段で売ってやった。

まあ初めから高い酒だから値段も割高だ。

それでも喜んで買っていくがな。

国庫を削って麻薬を買っている島津家を思うと笑えて来る。

おかげで領民からの信頼が段々と失われ、次々隣国の肝付に来る。

こっちの国は希望があるからな。

誰だって麻薬でラリった国には居たくないさ。

もう直ぐ島津を落とす。

その前に搾れるだけ搾らなきゃな。

段々酒の値段を上げよう。

それで攻めて来れば島津を潰す大義名分になるからな。

未だに蒸気機関が出来てはいないが、ライフリングを刻むことには成功した。

職人の手作業すげえ。

これでフリントロックが出来ればゲベール銃が出来る。
しかし前装式の銃では撃つのに時間がかかるな。
後装式の銃の開発もさせなくては。

それにライフリングを刻んでも丸型の弾丸では色々と面倒くさい。
ミニエー弾丸みたいなドングリ状の弾丸を作る必要がある、
それにライフル小銃に黒煙火薬では爆発が早過ぎて銃身が弾けるか
も知れない。

褐色火薬を開発する必要があるな。

確か木炭を入れるんだよな。

そうすれば爆発の早さを遅れさせるから問題なくなる筈。

それに発射煙が邪魔だから無煙火薬も欲しい。

でも無煙火薬を作るには化学知識が必要だ。

ニトロセルロースやニトログリセリンなどをどうやって作るんだよ。

合成法は知っているけどこの時代で作れるのか？

とりあえず今は褐色火薬を作ろう。

そしてフリントロックを完成させてゲベール銃を作る。

そうすれば射程距離は飛躍的に上がるし、命中力も上がる。

ストックも作る必要もある。

今の鎧では邪魔で撃てないがメイル（鎖）を作って構えられるよう
に鎧の基準を作る。

それとダットサイトもだ。

あれがあると無いとでは狙いが全然違う。

オープンダットサイトでもそれなりに使える。

次はインフラ整備だ。

メインストリートや街道は石畳やレンガで固めて歩きやすくした。それに道端を更に広くして馬車が楽に通れる広さを作った。

西洋馬の繁殖に成功すればカゴから馬車に変えるからな。

何時までもカゴはキツイ。

あれって乗り心地最悪なんだよ。

ずっと座ってなきゃいけないし。

おまけに体を支えるのが天井から下げられたロープだぜ？

耐えられない。

馬車でノンビリとしたい。

それと上下水道の整備だ。

上水道はまだ井戸で良いよ。

でも開放式井戸は疫病の蔓延原因になるからポンプ式に改良した。

恋姫時代に既にやっていたから簡単だった。

下水道は明治時代の真似だ。

レンガで固めた下水道を張り巡らせた。

これで疫病が流行ることも減る筈だ。

下水道は海につながっているからそのまま排水だ。

魚の餌になるだろう。

コレってエコ？

まあこの時代自体がエコか。

大規模な税調査をした。

以前に調査して国の決めた税率よりカサ増しして領民に請求していた領主達は粛清したが、未だにカサ増し請求する奴がいるらしい。

国内に放っている秘密警察から報告が上がった。

領主達を大粛清した後、各地域の領主達は全員肝付大学を出た優秀

な駒達で固めた。

こいつ等には領地経営を叩き込んだし、何よりも中央の命令に逆らうことは無い。

これで地方の問題は解消される。今回の肅清で分かっただろう。例え遠くの領地であろうと何かすれば分かるのだと。

領民からはエライ感謝されたがな。

圧制を敷かれて生活が出来なくなっていたからな。

おかげで国の隅々にまで兼続教が浸透した。

北郷教の時と違って国が統制しているから暴走する危険性が薄い。それに腐って来たら直ぐに取り除くしな。

宗教は残念ながら必ず腐敗する。

まあ、組織体制を作れば当たり前か？

これで強力な軍隊が出来たも同然だ。

最終手段の国民皆兵も出来る。

銃で固めればそれなりの戦力になる。

これが他国には無い強さだ。

多分民を戦わせる武家は無いだろうからな。

島津落としての為の布石を打った。

港などを管理している薩摩内城に工作している。

乱心する本家の島津忠良を見限り、こちらに来るように説得している。

明らかに本家の様子がおかしい事は分かっているので薩摩も悩んでいた。

以前の肝付相手ならこんな話は断り本家に知らせていたが、今の本家は明らかに異常だ。

税率を急に上げたり、政務も滞りがちになっていた。

そのせいか領民は島津を見限り、最近良い噂を聞く肝付の方に行く。それにより肝付は力を付けて兵力も増している。

その事を本家にも伝えたが、「友好関係を深めているから問題無い。」などと帰って来る始末。

更には「肝付との友好関係を乱すような行動は慎むように。」とも来た。

本家は頭がとち狂ったとしか思えなかった。

味方はこんな弱体化しているにも関わらず、肝付は国力、軍事力共に着実に伸ばして来ている。

今攻めても相当な被害がこちらにも出るだろうから迂闊に攻められない。

しかし時間が経つ毎にこちらは弱り、肝付は強くなっていく。

もし何年か経ち、肝付が攻めて来たら島津は滅ぶ可能性が高い。

その前に肝付に組すれば自領は安全になるかも知れない。

しかし薩摩も吸収され島津が無くなる可能性も否定出来ない。

薩摩島津内城の主、島津貴久は悩んでいた。

彼は選択を迫られていた。

あくまで本家である大隅を守り、強敵となった肝付に攻め入るか。

それとも弱体化する本家を見限り、お家存続のために肝付と手を組むか。

彼に選択肢は存在しないのに。

北郷サイド

薩摩は悩んでいる。

しかし悩めば悩む程こちらの戦力は強大化していく。

初めから選択肢なんか与えていないんだよ。

大隅には麻薬の販売の際に「最近薩摩の方から面白く無いことをしている様子なので注意をお願いします。」と頼んだ。

忠良など日向の奴らは麻薬入りの酒に依存しているから、販売元の俺の頼みを断れない。

サービスに安くしてやったら大喜びでやってくれた。

ジャンキーの行動なんか簡単に操れるんだよ。

その甲斐あつて薩摩は揺らいでいる。

今の本家には何を言っても無駄な事が分かる。だからこのまま狂った当主に仕えるよりも急激に成長している隣国に仕えるべきか。

選択肢なんて初めから無いのに。

まあ、悩んだ方が良いかもな。

併合したら好き勝手するし。

別にお家をそのままにしておいてやる何て約束した覚えは無いからな。

「我が国と組めばそちらにも利となります。」とは言った。

嘘は言つて無いよ？

本当の事も言つてないけど。

それに併合すれば確実に領民は感謝するだろう。

だから嘘は言っていない。

どう取るかはそちらの自由だけだね。

薩摩の判断を更にこちら側に引き寄せるために伊藤家併合に動いた。今まで散々毒薬を飲ませたせい伊藤は既に衰弱状態だ。もう長くないだろう。

そんな時に伊藤に呼ばれたので伊藤の城まで行った。伊藤の部屋に入ったらそこには正装をした伊藤が座っていた。

「どうかしたのか？」

俺が聞くと伊藤は姿勢を正して

「ワシはもう長くないだからまだ生きている内にこれをお前に渡したくてよんだのだ。」

伊藤が懐から手紙を出して来た。

それを受け取り読んだ俺は伊藤の目を見て聞いた。

「…これは何だ？」

「…見ての通り「国譲り状」だ。お前にワシの国を任せる事にした。」

「…どういう事だ？」

「知つての通りワシにはまだ嫡男がいない。だからワシが死ねば家は滅びるか後目争いが起きるだろう。」

しかし現状では後目争いなど出来る状態では無い。そんな下らん事をしていれば隣国から攻められ、この国は滅びる。

だからそんな事が起きる前にお前にこの国を譲る。親友であるお前なら信用出来る。」

真剣な顔をして伊藤が見てきた。

しばらく視線を交わした後俺は手紙を受け取り

「分かったお前の国は確かに譲り受けた。そして約束しよう。この国の民達を必ず幸福にすると。」

その言葉に伊藤は笑い頷いた。

計算通りだ。

伊藤が思ったより耐えたせいでこんなに時間がかかったから冷や冷やしたぞ。

このまま死ぬんじゃないか？と。

そうだったらそうだったでチャンスだがな。

混乱に乗じて攻め落としていた。

このためだけに親友になっただんだからな。

これで労せず領土が広がった。

ついでに伊藤家の家臣や兵士付きだ。

そしてその後正式に伊藤と俺が両国の家臣達の前で国の譲渡式を行った。

これで晴れて俺の国だ。

その後、伊藤は俺の領土内で必死に看病をした結果、見事に病が治った。（ただ解毒剤と栄養を取らせただけ。）

その結果、伊藤は感激して俺に臣従した。

今は士官学校で勉強中だ。

あいつ政治能力は皆無だが軍を率いる才能はあったからな。

しっかり勉強させれば軍団長にもなれるだろう。

そのためにわざわざ看病したフリまでしたんだからな。

もしもあいつが無能だったらそのまま殺してたし。

例え直ぐ死んでも誰もが病死と疑わないだろうからな。

これでようやく終わった。

弱小国が被害を出さずに国を得るのは大変だからな。

とりあえず成功して良かったよ。

これで薩摩島津もこちらにつくだろう。

そうなればリアルチート軍団の一部は俺のものになる。

こんな伊藤家みたいな弱小国じゃなくなてな。

でも伊藤の子供の祐兵や義益は有能だったな。

伊藤に子作りでも頑張らせよう。

それと日向を平定したため、隣国となった豊後の大友家と誼を通じ
て善隣関係を築いた。

そして弱体化工作のために大友にあることを囁いた。

島津の強さについてだ。

現在島津が肥後を取ろうと阿蘇家を攻めている。

阿蘇家は大友家の属領だ。

そのため大友家は阿蘇家に対して援軍を出そうと考えていた。

それを聞いた俺は島津の情報を色々話してあげた。

兵の強さや数、そして何よりも島津と言えはの人材チート。

如何に島津は人材豊富で強いのかを教えてやった。

まあ、俺が話したのは昔の話だがな。

今では当主を筆頭に本城の島津一族や重臣達は麻薬依存症の鉛中毒
だ。

既に政務はほったらかし。

一日中酒浸りだ。

今は下が頑張つて支えているが後数年でほつといっても滅びそうだ。

麻薬酒のために俺に多額の金を毎月支払ってくれるお得意様だ。

財政を圧迫した結果、肥後を攻めたのだからな。

領民達は島津には希望を失い、希望を求めて肝付の領土に入っていく

る。

兵士達でさえコツソリと脱走して内に来ている。

麻薬酒のリストから外されている縁の下の力持ち達が頑張っているからかるうじて持っている現状だ。

それでも下が頑張っているから多分肥後は取れる。

それで打ち止めだが。

上記の事は一切話さず、昔の栄光を伝えてやったせいか大友も島津への警戒を強めたらしく援軍の数を増やした。

これで島津と大友の力は弱まる。

何せ島津を落としたり次は大友だからな。

大友さえ落とせば九州は取ったも同然なのだから。

今年は厳島の戦いが起こる年だ。

この戦いによって毛利一族は有名となった。

そして現代にも語り告がれている。

しかしもしも毛利元就が勝たずに陶晴賢が勝ったら？

毛利家は後々面倒くさい障害となるので今の内に潰しとく。

毛利元就と陶晴賢の関係が最悪になった時に「毛利攻めの際には参戦します。」と陶晴賢に伝えた。

そして1555年9月に厳島の戦いが始まった。

陶晴賢が二万の大軍を引き連れ厳島に上陸。

そして毛利元就も厳島に上陸、陶晴賢との戦闘が始まった。

そして陶晴賢を挟撃するべく厳島に接近した毛利水軍を俺の海軍が迎え撃った。

毛利水軍は炮烙弾で有名だが、この時代ではまだ硝石の作り方はほとんど知れてないため炮烙弾はまだ存在していない。

だから鉄甲船ではなく、急いで完成させた安宅船の艦隊を編成して先に毛利水軍の進路で待っていた。

ちなみにこの安宅船は竜骨を持つという和洋折衷の江戸幕府型の船だ。

サイズはかなり違うが。

大砲は全面に2門、後方に2門、片舷5門という重装備だ。

しかし大砲の積み過ぎのせいか遅い。

一応帆走船なのだが、艦隊運動をする時はガレー船みたいに漕ぐ必要がある。

おまけにデカイ櫓があり、中には多数の銃兵士達を乗せるから更に遅くなる。

それに織田信長を真似てかの有名な大安宅船、鉄甲船も作っている。鉄板を張り巡らせて防御力を高めたが、そのせいでまた遅くなる。

ちなみに鉄甲船の方が安宅船より一回り大きいため攻撃力が増し、片舷の大砲が2門増える。

まあ今回の海戦には間に合わなかったが。

進路上に待ち構えていたとんでもない大きさの安宅船を見た毛利水軍は動揺した。

自分達の乗っている小早川船や関船ではまるで勝てる気がしなかったのだ。

しかしこのまま退却する訳には行かない。

自分達には厳島に上陸して陶晴賢を挟撃するという重大な使命があるのだ。

だから今まで見たこともない巨大な安宅船の艦隊に勝負を挑んだ。

あんなデカイんだ、動きは鈍い筈だ。と希望を見いだした。

いくらでかくても包囲して火矢で焼いたり、乗り込んで逆に奪う事も出来ると自分達に言い聞かせた。

そう思わなくてはやっていけないのだ。
幸い敵は横つ腹を見せている。
今が絶好の好機と見て接近してしまった。
それが敵の狙い通りだとも知らずに。

大分接近してもう直ぐ散会して包囲するか、と思っていたら突然！
ドドドドー！！！！

というとてもない大きな音が鳴り響いた。

「何かが近付いて来る？」

それが彼の最後の思考になってしまった。

何故なら砲弾が彼を直撃して頭が吹っ飛んでしまったからだ。

最初の斉射で前列にいる奴らがほとんど沈んだ。

やはり30隻以上の安宅船の斉射に手も足も出なかつたか。

敵艦隊が突然前列の船達が沈んだから動揺が広がっている。

この時がチャンスなので更に斉射した。

それによって中列の船達も沈んで行く。

毛利水軍の雰囲気は潰走寸前だったため、先に待機させといた俺の艦隊の小早川船や関船が毛利水軍の背後から接近し、毛利水軍に砲烙弾を次々投げ込んで沈めた。

まだ無事な船の船員達には銃で撃ち殺し、海に浮かんでいる奴らには弓矢をくれてやった。

前方からはゆつくりとだが安宅船の艦隊が接近して再び砲弾を与える。

そういつた攻撃が暫く続いた後、毛利水軍は全滅した。

そして毛利水軍を撃破した艦隊は厳島に上陸して史実とは逆に毛利

元就を挟撃した。

元就もかなり抵抗したが、多勢に無勢。

間もなく元就は自刃して毛利家の敗北が決定した。

さて、次は戦果の分配だ。

今回の厳島の戦いにおいて俺がいなかったら確実に負けていた事を陶晴賢に伝え、重大さを分かった。

そして分配の結果は、肝付家は安芸や厳島は貰わないし褒賞金も要求しない。

その代わりに九州の大内家の支配領土の豊前と筑前の譲渡、それと毛利家の捕虜を全て貰い受ける事となった。

もちろん優秀な毛利一族もね。

最初は揉めたが、「じゃあ安芸を寄越せ」と言うと黙った。

地政学的に大内家にとって安芸を手放す訳にはいかない。

だからと言ってこのまま戦うことになればあの凶悪な肝付水軍と戦うことになる。

それは何としても避けたかった陶晴賢は肝付兼続の要求を受け入れた。

後日、大友との会談で大内から受け取った豊前や筑前を豊後の南半分と肥後との交換を行なった。

肝付側の言い分では、「飛び地の豊前や筑前より領土に接している豊後の南半分や肥後の方が価値がある。」と主張。

大友の方も悪い話では無かった。

領土は減るが国際貿易都市である博多も手に入れたし、豊前も手に入った。

それに本拠地である府内館を失わなかったので問題無かった。

よし、これで懸案事項だった毛利も潰した。
それに毛利家の優秀な一族や官吏達も手に入った。
こいつらは全員先ず学校に入れて教育と洗脳だ。
たっぷり知識を教えて使える人材を育成する。
もしも洗脳出来なかつたら始末すれば良いし。

次はいよいよ島津を潰す。

薩摩島津もこの大戦果を見ればこちらにつかざるを得ないだろうか
らな。

8 (前書き)

この小説に戦闘シーンを求めないでください。
この小説は開発や領土拡張などがメインです。

1556年（弘治2年）

遂に薩摩島津が肝付との併合を承諾した。
ちなみに島津本家は戦ったが肥後を奪えず、逆に俺に奪われて軍は
ボロボロだ。

これが千載一遇のチャンスと見た俺は大隅の島津本家に攻め入った。
勿論薩摩島津も一緒に攻めるといふ挟撃攻撃だ。
一気に攻め込んで本城まで追い詰めた。
島津は籠城作戦を取り城門を固く閉ざした。
その周囲を俺の兵達と薩摩島津の兵達が取り囲んだ。

とりあえず降伏勧告を行った。

「島津忠良よ！！既に大勢は喫した！！大人しく降伏すれば無駄な
死人も出ない！！直ちに降伏せよ！！！」

ダーン！！

返事は鉄砲だった。

残念ながら外したがな。

麻薬中毒者が鉄砲撃ったって当たる訳無いだろ？

大方薬が切れたんだろう。

今月は酒をまだ配達していないからな。

それでは一応チャンスは与えたので遠慮無くやらせて貰おう。

「大砲隊撃ち方よーい！！！！！！………撃て！！！！」
ダダダーン！！！！！！！！

ズラリと並んだ大砲が一斉に火を吹いた。

飛び出した砲弾が城門や城壁を抉り、破壊した。

穴が開いたせいか島津の兵士達の顔が見えた。

みんな啞然として固まっていた。

砲弾に巻き込まれた兵士達が呻いていた。

その光景に今度はゲベル銃を持った銃隊に命令した。

「撃て!!!」

「ダダダーーン!!!」

普段から砲弾の音になれている俺の兵士達は動揺した様子も無く、直ぐに撃った。

城壁が穴だらけになり遮蔽物が無くなった兵士達に弾丸が面白い程よく当たる。

信長の三段撃ちを真似て四段撃ちをして連射した。

そして弓隊にも攻撃命令を出して雨のように矢を降らしている。

「ギャー!!!」

「痛い、痛い!!!もう止めてく……!!!」

「何なんだあれは!!!いきなりドデカい音がなったら壁が無くなった!!!」

などなど兵士達の悲鳴が鳴り響く。

懐かしい音だな。

恋姫時代はよく聞いた。

明治時代からは戦場には立たなくなったから基本的に戦闘後に書類で見るだけだったからな。

そう思い出に浸っていると何時しか悲鳴が聞こえなくなっていた。

「撃ち方止め!!!」

俺の命令に各兵達は撃つのを止める。

訓練の成果かみんな一斉に止めた。

「これが最後の警告だ!!!今すぐ降伏せよ!!!さもなければ皆殺しにする!!!」

そう言った後に城の方から騒ぎ声が聞こえた。

クーデターか?

しばらく経つと島津一族や重臣達を縛り上げた下級武士達や文官達が出て来た。

「降伏致します。ですのでこれ以上の攻撃はお許しください!」
全員が土下座をして頼んで来た。

軍のクーデターによって島津や重臣達は縛り上げられ、俺の前に引っ張り出されて終了となった。

麻薬や鉛に狂った奴らは全員処刑して島津領土を占領。

これにて肝付対島津の大隅大合戦は終わりを告げた。

そしてその後は旧島津領の平定だ。

中には島津本家の降伏を信じず籠城した者達もいたが、降伏して来た奴らに降伏勧告をやらせた後、島津一族の首を掲げたら信じたのか次々降伏して来た。

中には最後まで抵抗した者もいたが、大砲を撃ち込んでやったらあっさりと降伏した。

やっぱり大砲は怖いからねえ。

そして新たに広がった領土の平定も完了した。

南九州を制圧。

こうして肝付家が島津家に大勝利したという現実なら有り得ない事が起きたのだった。

とりあえず今は残党狩りや国持衆達の成敗だ。

肥後などはまだ奪ったばかりで安定していないので現時点は阿蘇や周辺の安定に尽力した。
隣国になった肥前の龍造寺とは善隣関係を築くために挨拶に行った。大してお互いを知らないがとりあえずの友好関係は築いた。

既に登場したが、フリントロック式銃が出来たのでゲベール銃が完成した。

これなら火縄銃より遙かに射程距離が伸びたし、弾道も安定する。

次はミニエー銃だ。

前装式のゲベール銃から後装式に変え、弾丸もドングリ状にする。更に紙薬莢にする。

これが出来ればいちいち火薬と弾丸を別々に入れる必要が無くなる。とんでもない技術力が必要になるがそれは地道に鍛えていく。

幸いにもミニエー銃の製造法は知っている。
作れない事は無い筈だ。

それと拳銃を作らせている。

これから船上で戦う事もあるだろう。

その時にデカイ銃よりコンパクトな拳銃の方が良い。

まあゲベール銃を小さくしただけだがな。

薩摩島津や捕虜にした旧島津家臣達は武将や武士達は士官学校に、文官や官吏達は肝付大学に入れて基礎から勉強だ。

それまでは各城には俺の優秀な駒達を配置する。

まだあいつらはこの国に対する愛国心と俺に対する忠誠心が無いから今から叩き込む。

それと軍事や官僚教育を受けてもらい全員をレベルアップだ。
あのガタガタだった島津家を支えた奴らなら第一線でやっていける
筈だ。

そうなれば俺の土台は更に盤石となる。
今から楽しみだ。

さて、次は大友に竜造寺。はたまた今の内に長宗我部を潰すか。
今なら勝てるだろう。
放置しておくとかいつら強くなるからな。
島津並みに人材チートだからな。

機械工業レベルを高めるために水車小屋やオランダの風車を作って
脱穀や灌漑に利用する。
これなら収穫量も増えるし工業レベルも上がる。
それとカラクリ人形や忍者屋敷も普及させよう。
あれらも精密機械レベルを上げる要素になるしな。

最近肉が食いたくなつた。

この時代の日本は仏教や神道の影響を諸に受けているから肉食は禁
忌とされる。

唯一食えるのは鳥ぐらいだが、それも飽きた。
牛肉や豚肉が食いたい。

日本的に不味いなら海外から来たという事にしよう。
明から入ってきたとして餃子、焼売、肉まん、ラーメン、焼肉など

中華料理やスペインやポルトガルから入ってきたとしてステーキ、ハンバーグなど肉料理や海外のお菓子のカステラやウイロウ、ケーキなどを取り入れた。

主に貿易に立ち寄った外国人向けだ。もちろん日本人も食べられるけど。

外国人には好評だ。

異国の地に来て、不完全ながら故郷の味を味わえると日向の貿易港は人気となった。

誰だって遠い異国で故郷の味を思い出すのは嬉しいものだ。

後々の晩婚化対策として一夫多妻制を確立した。

生物学的に見てもこっちの方が良いに決まっている。一夫一妻制は近代の倫理観の問題で全くナンセンスだ。

これじゃあ先進国の人口が減るのは当たり前だ。

それにこれなら浮気問題もかなり減る筈。

新しく欲しければ結婚すれば良いんだしな。

幸いこの時代は別に一夫多妻制を導入しても問題無い。

倫理観なんか欠片も無い時代だ。

飢饉の対策として琉球からサツマイモ、蘭印からジャガイモを輸入した。

それに粟、ヒエ、麦、ソバも輸入した。

現代でも重宝されている食物だ。

栽培法もそんなに難しくないし。

健康にも良いしな。

芋焼酎でも作るか？

足利義輝や公家などに贈答すれば箔がついて高値で売れそうだし。他にも大豆、モロコシ、リョクトウ、キヌアなど日本では見当たらない作物を輸入した。

大豆なら畑の肉と言われる程栄養価が高い、それに聞き慣れない名前だがキヌアだ。

キヌアは冷寒な痩せた土地でも育つし、栄養価は満点だ。

ただし、赤血球を破壊する成分を含んでいるため大量摂取は多少危険。

まあ、よく水洗いして加熱すれば問題無い筈だ。

9 (前書き)

今回もご都合主義が満載です。

1559年（永禄2年）

九州を制圧するために工作を打った。

友好関係となった大友と龍造寺を潰し合わせるために互いが警戒心を抱くように囁いた。

「龍造寺が貴方の家を攻撃しようとしております。」

とでと伝えればこんな時代だ、多少なりとも警戒心は抱く。

そして龍造寺にも同じ事を告げる。

大友家は実際に警戒してるため、その事を伝えれば龍造寺は信じる。

そして互いが牽制しあい、警戒心がピークに達した時に切っ掛けを作ってやる。

今回は大友に悪役になってもらった。

大友の足輕の格好をさせたスパイ達に龍造寺の村を襲わせた。

強盗、強姦、虐殺などをしてその村を壊滅させる。

もちろん目撃者がある程度残して。

そして暴れまわり、龍造寺の兵が来る前に大友の国境の方に逃げる。

そうなれば龍造寺は復讐のために大友の領土に攻め入る。

龍造寺にいきなり攻められれば大友も反撃する。

こうして大友対龍造寺の構図が完成した。

お互い潰し合って頑張ってください。

終わる頃にこちらから伺いますから。

しばらく潰し合いが続くと思うのでこっちは先に長曾我部を潰すことにした。
歴史に名が轟く程強かった長曾我部も今はまだ土佐の弱小勢力ではない。

長曾我部の他にも国衆はいるが大した事は無い。

長曾我部さえ潰せば後は簡単なのだ。

というか長曾我部さえ潰せば四国は簡単だ。

三好が怖いけど。

油津港から鉄甲船8隻の艦隊が土佐を目指していた。

それぞれの鉄甲船にはこの日のために海に慣れさせた兵士達を満載していた。

兵士達の顔は自信に満ちていた。

「とうとう実戦だな。この日のために地獄の訓練に耐えて来たんだ。」

「全くだ、二年前に海に集合させられて何をするのかと思ったら突然教官達が「泳げ!!!」とか言って来たもんなあ。」

「あの頃全く泳げなかったから無理矢理海に叩き落とされた時は死ぬかと思った。」

「おかげで泳げるようになったがな。」

「おまけに次は船酔いに慣れるために一日中船で海をさ迷う毎日だったな。」

「船酔いに慣れたら今度は海上戦についての訓練だ。まあ大砲が撃てるから悪くなかったが…」

などなどバカ話をしながらも決戦の準備を整えていた。

何せ今から始まるのは実戦だ。

これまではたまたま死者も出たがあくまで訓練だ。

初の海上戦なため多少緊張気味だ。

しかし日頃から実戦より辛い訓練をしているため、そこまで緊張はしていなかった。

何より自信となったのは自分達が乗船している鉄甲船があるからだ。恐らくこの日本（訓練中に教わった）一強いだろっ船に乗っているのだ。

おまけそれが8隻も連なる艦隊で訪れているのだ。

土佐水軍など木っ端微塵にしてくれる。そういう思いだった。

戦支度を整え、長曾我部領室戸港に向かっていた艦隊の行く手を阻む者が現れた。

土佐水軍だ。

鉄甲船の歩みは非常に遅いため、土佐水軍に迎え撃つ準備を整える時間を与えてしまったのだ。

しかし肝付海軍は慌てない、それを想定した上でこの鉄甲船の艦隊でやって来たのだから。

土佐水軍が艦隊に向かって突っ込んで来た。

土佐水軍の陣営は小早川船や関船といったスピード重視だ。

鉄甲船を取り囲むように接近して来る。

その接近してくる土佐水軍にゆっくりと横腹を見せ、

ドドドドーーーーー！！！！！！

艦隊の56門の大砲が火を吹いた。

訓練の成果か三割の土佐水軍を沈める事に成功した。

しかし砲主達は喜んだ様子も見せず、次の発射準備に動く。

訓練で叩き込まれた動きをするのみだ。

何故ならまだ「砲撃止め」の合図が無い。

命令が無ければ撃ち続けるように最早洗脳と言っても良い程刷り込

まれているのだ。

一方土佐水軍は冷静ではいられない。

いきなり敵艦からとんでもない音が鳴り響いたと思ったら何か飛んで来て味方を大勢沈めたのだ。

冷静でいられる訳が無い。

何とか落ち着かせようと土佐水軍の隊長達が頑張っていたが、時間は待ってくれなかった。

ドドドドーーーーーン!!!!!!!!!!

またもや大きな音が鳴り響き、仲間がまた多くの味方が沈んだ。

このままでは全滅してしまうと思った土佐水軍を率いていた吉田重俊が叫んだ。

「皆の者聞けー！ー！！このままでは何もせずに全滅してしまう！

！あの鈍ガメ共に我ら土佐水軍の強さを思い知らせてやるのだ！！

！

そう兵士達を鼓舞して肝付海軍に突っ込んで行った。

その重俊の行動に周りの船も落ち着き、重俊に続けとばかりに艦隊に突っ込む。

艦隊の近くまで近付いた土佐水軍が敵艦を沈めるために火矢などを撃ち込んだ。

しかし火矢は鉄甲船の装甲に弾かれて終わった。

近付いた土佐水軍はゲベル銃に撃たれるか櫓に設置した大筒や大砲に沈められた。

そして重俊もその砲撃に巻き込まれて死んだ。

重俊が死んだ事により土佐水軍は恐慌状態に陥り、四方八方に逃げていった。

追撃しても追いつかないため無視して上陸した。

ずっと待機していた上陸部隊は一斉に上陸して、長曾我部の本城である同豊城に向けて進軍した。

途中、防衛設備などがあつたが大砲を撃ち込んだり火矢などで燃やした。

こうして障害を排した肝付軍は同豊城を囲んだ。そして降伏勧告を行う。

「長曾我部国親に注ぐ、直ちに降伏せよ！！！！さもなければこの城を焼き払い、皆殺しとする！！！！」
そう告げて暫く待った。

しかし返事が一向に無いため城門に向けて砲撃を行なった。

ドドドドーーーーー！！！！

一斉射によつて城門が吹っ飛んだ。

「これが最後の警告だ！！今すぐ降伏せよ！！！！さもなくば皆殺しとする！！！！」

その言葉を聞いて諦めたのか国親を筆頭に武装解除をして出てきた。やはり頭が良いな。

薬で狂つた忠良とは大違いだ。

国親は身体検査をされた後に本陣にいる俺の所に連れ出された。

国親は俺を見ると直ぐに土下座をして

「私の首を差し上げます！ですから何卒、何卒家臣達の命をお助けください！」

国親は頭を地面に擦り付けて頼んだ。

その国親を見て俺は

「ほう、自分の命より家臣達の助命嘆願をするか。」

国親をジッと見る。

国親はひれ伏したまま動かない。

「国親よ面を上げる。」

その言葉に国親が顔を上げる。

「国親よ、天下を見たくはないか？」

その俺の質問に国親は一瞬ポカンとしたが直ぐに顔をキリっとさせて

「…出来るのなら是非。」

国親は答える。

その顔はとても敗残の将には見えなかった。

やっぱりコイツ主人公っぽい。

「ならば国親よ、私に仕えるのだ、さすれば天下を見せてやろう。」

国親の目を見ながら言う。

やっぱりコイツ等長曾我部一族が欲しいんだよな。

島津の時は大多数を狂わせて殺したけど、やっぱり有能な人材は欲しい。

国親は俺を見ながら暫く黙り、そして言った。

「……………出来ますかな？貴方に。」

ある意味挑発に取れるけど無視して答えた。

「この島国を治めるだけだ、容易い事よ。」

俺の言葉が面白かったのか国親は突然爆笑した。

「…ハハハハハハ！！！！確かにこの日の本は島国だな、貴方に言われるまでは思いもなかった事よ！！！！」

ひとときしり笑い終わった後に国親は再び真剣な顔をして尋ねた。

「たかが島国、されど島国。この島国を統一する事が果たして貴方に出来るかな？」

その問いかけに自信満々に言い放つ。

「私の目標はこんな島国一国では無い。朝鮮、明、天竺までも支配し、大帝國を築くのが私の悲願なのだ。」

その俺の人生プランを聞いた国親は目を瞑り、答えた。

「……………ならば見せてもらいましょう。貴方のその壮大な夢を。」

そう言つて国親は俺に臣下の礼を取つた。
こつして長曾我部一族と家臣達を手に入れたのだつた。

上手くいった。

アイツ等をこんな事で失いたくはなかつたからな。

もし国親がもう少し強い家に産まれていたら天下を取っていた可能性もあつたぐらいだ。

だからその才能を有効活用して貰おう。

早速長曾我部一族や家臣達は仕官学校に入れて能力アップと忠誠心を植え付ける。

事務関係の奴らは肝付大学に入れて優秀な官吏や官僚になつて頂きましょう。

ちなみに国親に言つたのはあながち嘘では無い。

何百年後かに実現出来る筈だ。

このまま技術を押し進めれば「戦国自衛隊1549」みたいに百年後には初期型のコンピュータさえ出来るかも知れない。

もし核でも出来れば簡単にアジアどころか世界さえ制圧出来る。

まあやらないけど。

前にも言つたが利益が少なすぎる。

精々得られるものは自己満足と言語の統一ぐらいか？

やつてられるか。

長曾我部侵攻の際に対した損害も無かつたのでついでに戦国時代の役立たずトップ5に入っている一条兼定を攻めるために中村御所に攻め込んだ。

公家根性が根付いている一条は大砲の音にビビり、簡単に降伏。国親と逆で兼定は自分の命のみを嘆願した。役立たずはいらないのであつさり処刑。唯一使えそうな分官達は大学にいれといた。

こうして土佐を平定した。

隣国となった三好とは友好関係を築いておく。

暫く戦う気は無いからな。

大友と龍造寺の戦いがまだ長引きそうならこのまま西園寺と河野を攻め落として四国を安定させる。

基礎技術の発展のために様々な本を出版した。

天文学、化学、数学、物理、気象学、科学、医学、経済学、などなど様々な本を出版した。

と言ってもコピーしたのを多少書き換えただけだが。

それに百科事典だ。

様々な知識が書かれたこの辞典は必ず役に立つ。

それと化学技術発展のために元素記号表やベンゼン環位、化学式など基礎知識を教える。

これなら化学技術の発展が期待出来る。

島津領を併合した後、色々面倒が起きた。

特に面倒なのは物の基準・規格の違いだ。

長さ、重さ、など規格が違い過ぎるのだ。

だからJISみたいに様々な規格を制定した。

これでとりあえずの面倒は解消されるだろう。

後々に併合した領地でもまた行つ必要があるが、仕方がない。

学校を設立した。

今までは寺子屋みたいな所に義務教育の二年だけ教えていたが、今度からはきちんとした学校を建設して、義務教育の二年と希望者には五年の高等教育を与える。

家が裕福な者達や才能がある者達が学ぶ。

義務教育は読み書き、算盤、道徳ぐらいだが、高等教育なら和算、測量、天文、簡単な化学、物理、経済など国にとって必要な学問を習う。

成績優良者なら肝付大学に入れる。

これで使える人材が増えるだろう。

一 国一城制度を制定した。

一つの国に幾つもの城があるのは無駄だ。

だから秀吉のように一つに纏めた。

しかし例外もある。

国境と接する所や金、銀、鉄など資源産地や鉄砲、大砲など産業地帯、米収穫度が高い地域、商業的価値が高い町、国際貿易港、国内貿易港のある町などの城の保有は認める代わりに国の財政直轄地とした。

廃城となる建物はその郡の役所とする。

いらぬ所の城は解体して各所で再利用する。

壁は水害の多い川や港の堤防に使ったり、櫓は灯台代わりや洪水などの警報を出す監視塔に転用出来る。

城のリサイクルだ。

1560年（永禄3年）

大友家と龍造寺家の戦いはピークを迎えており、互いに疲弊していた。

戦鬪の推移としては多少大友の優位となっていた。

大友は肥前の伊万里城や須古城に攻め込み龍造寺を追い詰めていた。ほとんどの戦力を南に集中させていたため、北の筑前や本拠地がある府内館の守りが薄くなっていた。

それをチャンスと見た俺は大友の本拠地であると同時に海外貿易の拠点である府内館に攻め入った。

ようやく増えてきた外国馬に乗り、大軍で府内館にまで攻め入った。更に大友の援軍が来ない内に立花山城にも同時に攻め入った。

今まで見たこともない巨大な馬に乗った大軍が押し寄せたため大友兵達はパニック状態になった。

そのパニック状態になった足軽の集団には小型化に成功したゲベール銃で馬上から一斉に撃った。

ダダダーン！！！！

という大きな音がして味方が死んでいく様を見た大友兵達は潰走状態になってしまった。

まあ仕方がないだろう。

口々に味方も居ない状態で見ただこともない大型の外国馬の大軍が突っ込んで来て襲われ、更には銃で味方が殺されれば潰走状態にもなる。

潰走した奴らには馬に鎖を繋いだ連環部隊が追撃する。

分かりやすく言うと鎖にトゲがついた輪が付いており、その輪で敵を殺傷する兵器だ。

そんな鎖を繋いだ馬の大軍が横一列で突っ込んで逃げる兵士達を皆殺しにする。

散らばって逃げれば馬上弓や銃でやられる。

こうして敵を散らした後に城に攻め込んだ。

城門は大砲で破壊した後に何時も通り降伏勧告を行う。

それに従えば全員助かるが従わなければ皆殺しだ。

何時もなら降伏に追い込んだりして被害を減らす、今回はスピドが命なので一度の降伏勧告に応じないのなら城に大砲を打ち込んで穴だらけにするか火矢を撃ち込んで焼く。

そして逃げて来て降伏するなら助ける。

しなきゃそいつは殺す。

こうして豊後、豊前、筑前を攻め落とした。

一方大友は大慌てだった。

自分達の領土が犯されたのだから今すぐ戻って防衛する必要があるが、目の前の龍造寺に背を向ければ好機と見られ、大被害が出てしまう恐れもある。

だから大友の本隊は未だに筑後にいた。

そんな大友や龍造寺を尻目に肝付はどんどん進軍を進める。

肥前に侵攻して大友の本隊を迎え撃った。

大友は騎馬や足軽などで一気に突撃する戦術で挑んだ。

既に待ち受けていた肝付軍は長篠の合戦のように空堀や馬防柵を築いて進軍を阻む。

大友の突撃が一旦止まった隙に大砲を放つ。

「撃ち方よーい!!!…撃て!!!!!!」

仏敵はお前に任せるよ。
その後は必ず潰すけど。
アイツ短気らしいから俺とは合わないだろう。
独裁者は仲良く出来ないからな。
悲しい事だが。
まあどうでも良いけど。

ようやく蒸気機関が完成した。
産業革命を200年以上前に行なってやる。
とりあえず船舶にも使用出来るように船舶用の蒸気機関を開発だ。
耐久性や整備性を上げる必要がある。
合戦の度に壊れたり、整備が難しかったら普及し難い。

とうとうガレオン船が完成した。
二本マストでまだまだ小型だが完成した。
初期の戦列艦の6等艦ぐらいでしかないがそれなりの攻撃力や航行力も持つ。
大砲の門数は40門で甲板は三層式だ。
艦主に2門、後方に2門、上部甲板に12門、中部甲板に12門、下部甲板に12門の配置だ。
大砲の大きさは二種類で上部には12ポンド砲、中部には24ポンド、下部には32ポンド砲だ。
砲弾の種類も増え、今までの球形砲弾、鎖で繋いだ鎖玉、テニスボール大の鉄の玉が数個を袋で包んだぶどう弾、銃弾が詰まった円筒の容器の散弾など様々出来た。
しかしまだ榴弾は出来ていない。

榴弾が出来れば敵船を効率よく沈められるのになあ。

木造船時代なら絶大な威力を発揮するだろうし。

それにいつかは砲は固定した砲塔も作りたい。

砲塔が出来れば砲は大きく出来るようになる。

今の砲はロープで固定しているから怖い。

ちなみに1号艦の名前は大隅だ。

やはり肝付の始まりだったからな。

医療技術発展のために外国の医師を招き、外科手術を医師達に学ばせる。

外国でもこの時代では大した技術は無いだろうが日本よりは絶対マシだろう。

死体なんか幾らでもあるから解体させて身体の仕組みをよく理解させる。

内蔵の絵などを写實的に書いて本にする。

そして本の大量生産のために活版印刷や凹版印刷技術の開発を始めた。

「JIN」の真似としてペニシリンの生産を開始。

大体の内容は覚えているし、多分出来る。

それと手術のために麻酔導入剤などの開発もさせる。

合成法などは全部分かっているから問題無い。

まあ、まだ外科技術が無いから意味が無いが、何れ役に立つ技術だ。今は先行投資だ。

それとやっと軍馬を生産出来たが、まだまだ数が少なすぎる。牧場数を増やして更に繁殖させる。

そして馬の蹄を守るために蹄鉄を開発した。
この時代にはまだ蹄鉄が無く、布で蹄を守って？いた。
しかし布だから直ぐに破れてロクに役に立たなかった。
それと馬用の鎧も開発した。
中世の騎士団みたいにガツチリとした鎧だ。
これなら突撃にも耐えられる。
それと兵士達の鎧も改造する。
足軽の鎧は鎧とは言えない。
あれでは人的資源を失ってしまうので恋姫時代の時のように顔も隠れたガツチリとした鎧を開発した。

それと近接戦闘のために銃剣も開発した。
これで銃隊でも突撃出来る。
乱戦になったら剣としても使えるようになるしな。

にしてもようやく蒸気機関が出来たが、薪でお湯を沸かすのは面倒くさいなあ。
出来れば石炭か石油が欲しい。
日本は石炭が結構出たらしいから炭鉱でも掘るか。

西園寺家視点

九州周辺の大名は肝付家の急激な発展に戦々恐々していた。
特に伊予の西園寺家や河野家は恐れていた。
四国の雄である長曾我部を倒し、土佐を平定した時にはそのまま自

分達の領土に攻めて来ると恐れていた。

しかし実際は襲っては来なかった事から、一安心していた。

九州の一大勢力である大友家と同盟を結んでいる自分の国を恐れたのだろう。

そう思っていた。

しかし現実には悲惨だ。

頼りにしていた大友家、更には龍造寺家までもを滅ぼし、九州全土を肝付家は制圧した。

これのせいで次は自分達だと大名達は震えていた。

他の大名を頼るにも、大内家とはそこまで親しくないし、尼子、宇喜田とも親交は深くない。

唯一親交が深いのは四国で残っている河野家ぐらいだが、河野家では同盟を結んでも意味が無い。

一緒に潰されるだけだ。

どうしたものか、どうしたものか。

と悩むしか無いのだ。

せめて出来る事は肝付家が自国を攻めずに通り過ぎていってくれるように祈るだけだった。

ちなみに隣の河野家も同じことをしていた。

次は四国に移るが、その前に土佐の開発だ。

土佐は土地の9割が山林という、あまり使えない土地だ。

農業には向いていないので工業地帯にする。

だから林業や製材業、建築業などや鯨領や製塩業、海運業、造船業を起して雇用を生み出そう。

1562年（永禄5年）

四国制圧のために先ず伊代の西園寺と河野を潰すことにした。と言っても大した戦闘は無かった。

西園寺は一条同様公家根性が抜けきっていないために攻めたら直ぐに降伏して来たし、河野は微妙に抵抗したが陸海から挟撃して落とした。

とても簡単に終わった。

まあ、既に九州全土を落として一大戦力となった肝付とマトモに戦おうとは思わないのが当たり前か。

降伏した奴らは役立たずの当主様達にはご退場願って、他の奴らは仕官学校や大学に入れて教育と洗脳だ。最早ルーチンワークだな。

さて、次は四国を制圧するために三好だな。

摂津にいる三好は後々に松永久秀に切り崩されるし。

四国を制圧するだけが目的だからな。

四国を手に入れたら和睦すれば良い。

その後中国地方を攻めるが、正面から攻めても被害が大きくなるだけだから大友と龍造寺同様、潰し合って頂く。

尼子をけしかけ、大内に攻め込ませた。

いきなりの攻撃に驚いた大内は尼子に攻められ、劣勢となった。

そこに宇喜田が尼子に参戦して大内を攻める。

しかし態勢を立て直した大内が反撃しているから戦闘は長引くだろ

う。
互いに潰し合って疲弊してください。
そうすれば楽に終わるので。

信長が比叡山焼き討ちや長島一向一揆勢皆殺しなど宗教破壊を行う
までは信長を潰さない。

というかこの進軍スピードではどのみち無理だろうが。

1574年に長島一向一揆勢皆殺ししたら直ぐに潰すために位置に
つかなくてはいけない。

だから播磨が因幡までは平定しなくてはいけない。

次に攻めるのは讃岐と阿波の三好家だ。

三好家は四国の他に畿内に領土を持っている。

だから三好家に秘密交渉を持ち掛け、「四国の領土をくれるなら畿
内には手を出さない。」と八百長戦争を持ち掛けた。

三好としては本拠地である阿波を失いたくはない。

しかし現在破竹の勢いで戦力を拡大している肝付家と正面からぶつ
かりたくはない。

それに今は戦力を畿内に集中させているから差ほど損害も出ない。

それに西からの外敵に悩まされる事は無くなると思えば、三好は肝付
との八百長戦争を承諾。早速八百長戦争の準備のために主戦力を畿
内に移動させ始めた。

多分四国にはカスしか残らないだろう。

まあ、こつちも助かるけど。

どうせ松永久秀に裏切られて終わるんだから。

ようやくミニエー銃が完成した。

後装式の紙薬莢を用いたライフルだ。

弾丸も現代の形に近付いたから空気抵抗もグツと減る。

何より凄いのが装填速度の速さだ。

今まではいちいち火薬を入れてから弾を込める必要があったが、これなら弾と火薬を同時に詰められる。

何よりいちいち銃口から入れる必要も無い。

銃口から入れるだけでは銃を下に向けると弾が落ちた。

しかしこれなら落ちる事は無い。

これで陸戦においては圧倒的優位に立てる。

ミニエー銃と同時に榴弾も完成した。

瞬発信管がようやく実用可能になった。

今までは敏感過ぎて発射と同時に爆発したり、爆発しなかったりなど苦難の連続だった。

しかし榴弾が出来たとなれば攻撃力は跳ね上がる。

海上戦においても陸上戦においてもだ。

今まではただの鉄の玉を飛ばすだけで大した威力を発揮しないが、榴弾なら大ダメージを与えられる。

それにミニエー銃の技術を応用して弾は現代のようなドングリ状にして、砲身にもライフリングを刻めば射程距離も命中精度もグツと上がる。

後は砲塔や砲を固定する技術が完成すれば砲も大きく出来てアウトレンジ攻撃が可能になる。

まあ、まだ大した艦も出来ていないが。

未だに二本マストで頑張っていますし、鉄鋼船ではないから重い砲身には耐えられない。

技術が偏ってしまったのだ。

しかし問題無い。

もう直ぐに三本マストや四本マスト、もしくは蒸気機関を載せた蒸気船だつて可能だ。

そして鉄網船が完成すれば明治時代の戦艦が完成する。

そうなれば制海権を握れる。

外国勢力にも先ず海上戦では負ける事は無い筈だ。

次に、ボルトアクションライフルを作りたから金属薬莢を作る必要がある。

紙では心もとない。

そのために製鉄技術を上げなくてはいけない。

今まではたたら製鉄方を用いていたが、これは八ヶ山を作るし、量が取れないので溶鉱炉を作る事にした。

石炭を用いたコークス炉を作るために只今炭坑掘りをしている。

九州に炭鉱があつたのを知っていたので現在採掘中だ。

というか日本には鉱物資源が豊富にある。

現代では無資源国だが、この時代ではそれなりの資源国だ。

何せ原油だつてあるし。

量は少ないけど。

とりあえず冶金技術を向上させて金属薬莢を作らないと限界が来る。

やっぱり銃は連射出来てナンボだ。

ベルト給弾式の機関銃でも開発出来ればこの時代なら最強だ。

この時代の戦法は最後は突っ込め、という戦法しかない。

それに重機関銃の大軍が迎え撃てば余程の数の差が無い限り勝てる。

領土全域において税制、法制、司法、規格・基準の統一だ。

四国と九州で違うんじゃないや不便過ぎる。

こうすればより収益も見込めるようになる。

それと刀狩りを行うか。

無いと思うが、反乱なんか起こされたら面倒だからな。

もし名刀などがあれば高値で売れるし、ボロボロの屑鉄なら溶かして再利用すれば良い。

大仏でも作るか？

それと讃岐を手に入れたんだからあの有名な讃岐うどんのブランドを守らなくてはならない。

産地、原材料の明記義務を厳格化。

そして新たに産地ブランドを立ち上げるには製法、原材料が統一されていること、地元の人が作っている事など県や国が認められたもののみとした。

今からこういうブランドは守らないと本物が消えてしまう可能性が高い。

1563年（永禄6年）

予定通り讃岐と阿波を攻めた。

ほとんどの主力は畿内に移ったため本当に弱くて、大砲（ただの球形弾）を撃ち込んだら直ぐに降伏した。

捕虜の話では「そこそこ抵抗したら降参しても良い」と言われていたらしい。

そりゃあやる気も出ないわ。

そして約束通り畿内には攻め込まず、三好と和睦して四国統一戦争は終結した。

えらい早く終わったな。

やっぱりある程度勢力がデカくなると楽で良いわ。

士官学校や防衛大学を卒業した優秀な人材が増えたせいか戦争も楽になったし、肝付大学を卒業した官僚達も精力的に働いてくれる。

やっぱり楽で良い。

最初の頃は全部俺がやらなきゃいけないかったからな。大学の講義も政策も軍事も何もかもを。

あの頃は過労で倒れるかと思ったよ。

しかし今では城でのんびり出来る。

特に娯楽も無いからつまらないけど。

そこは新たな研究開発に費やす。

占領した地域の資源を調べさせている。

鉄坑山や炭坑などそれなりに資源はあった。

今は蒸気機関の改造や石炭燃焼機関などを開発させている。

戦艦だつて黎明期は石炭で動いていたんだ。

石炭で動く艦隊を編成して早いところ樺太、極東ロシア、蘭印など原油が出る所を確保しなくては。

まだ原油の価値を知られる前に。

海底にも油田はあるけど、海底を掘削する技術なんか何時出来るか分からない。

日本の油田は日本海側しかない。

太平洋側には小規模な天然ガスだけだ。

油田と言つても現代の消費量から考えれば雀の涙にも満たない。

しかしこの世界なら重要な意味を持つ。

一滴でもあれば俺のコピーで何億バレルにもなる。

でも映画の「戦国自衛隊1549」で富士山周辺に原油の精製設備があつたよな？

あそこにも油田があるのか？

次なる攻略目標の中国地方は泥沼が続いている。

尼子、宇喜田の連合軍が勝つたと思つたら大内が勝つたり、またもや逆転したりなど戦争が続き、国も軍も疲弊している。

それも間もなくピークを迎えるだろう。

その時が狙い目だ。

一気に中国地方を取る。

大内、尼子、宇喜田を潰せば後は雑魚だけだ。

降伏勧告でもすれば直ぐに降伏する。

しなきゃ攻めるだけだし。

少し現代が懐かしかったせい、ジャガイモを使ってポテトチップスを作った。

現代と違って食品添加物が無いからなんか物足りない。
添加物の開発もさせよう。

1564年（永禄7年）

中国地方での3家の争いも終盤に差し掛かっていた。

大内家は2家の攻撃により安芸を失い、石見や周防で防衛戦をやっていた。

長らく続いた戦も間もなく終わる。

そう尼子や宇喜田は油断していた。

しかしそこに突如肝付家が突撃して来た。

四国から水軍を率いて備中や備前に上陸して来て手薄となっている本城を攻めてきた。

もちろん上陸前に宇喜田や尼子も水軍で対抗した。

しかし外国船のような巨大な船で押し寄せ、何十門もある大砲で打ち碎かれ、あえなく壊滅した。

そして上陸した肝付軍は大砲と見たこともない連続で撃ってくる種子島を持ち、火のごとく備前、備後、美作、伯耆などに侵攻した。

また、豊前や筑後からも水軍が現れ、長門や周防に上陸して大内家にも侵攻して来た。

もちろん大内家も奮戦したが、突如現れた砲弾が爆発する大砲に翻弄された。

そして何よりも脅かされたのはその弾幕。

矢や鉄砲が止むことがない程の射撃に騎馬隊や足軽なども敵に到達する前に壊滅し、敗走したなら鬼のように大きい馬に乗った騎馬軍団に追撃され、成す術が無かった。

結局、肝付家の電撃的な侵攻により大内、尼子、宇喜田の領土は併合され、本城も落ちた事により3家は肝付家に降伏。

それぞれの当主は斬首刑に処されて終わりを迎えた。

やっぱり簡単に終わったな。

榴弾の威力は凄まじかったらしく、水上、陸上でも無敵を誇ったらしい。

今までは鉄の玉が飛んでくるだけだったのに、いきなりその鉄の玉が爆発して被害を及ぼすからな。

榴弾の中には鉄片などを混ぜたから広範囲に被害が及んだ。

それにミニエー銃が凄かった。

今までは銃を撃つ時は三段や四段の隊列を組んで撃つ必要があった。しかしミニエー銃では一人一人で装填から射撃が可能だから今まで装填係に使っていた人員も射撃要員にも出来るから弾幕が今までの倍以上だ。

これでボルトアクション式ライフルも出来れば更に弾幕は厚くなる。あの有名なエンフィールドライフルでも出来ればほぼ最強だろう。

それと遂に三本マストのガレオン船というか戦列艦が完成した。

64門の三等戦列艦に匹敵。

砲列甲板の大きさは43メートル。

全幅11メートル。

各種砲を64門搭載。

動力 三本マストによる風力。

まだ日本統一も終わっていないのに外洋航行が前提の船が出来た。

まあ、輸送船としても使えるからいいか。

このままいくと日本統一の頃には100門搭載の一等戦列艦も完成

しそうだ。

出来るなら蒸気機関を取り付けたかったが、まだ不安定だ。船舶に取り付けて長期間の使用にはとても耐えられない。

先ずは基礎技術を固めないとダメだな。

石炭は何か採掘出来たから現在溶鉱炉を開発中だ。

これが出来れば今までより多く鉄が取れるようになる。

金属薬莖開発のためにも頑張らねば。

それと将来無煙火薬を開発するために化学技術も高めている。

現在は様々な爆薬等を精製する際に必要な硝酸と永久磁石やモーター等を作るのに必要なハード・フェライトの製造をしている。

どちらも製造法は分かっている。

この時代では工業技術が発展していないから作るのはかなり難しいが、出来る筈だ。

これが出来れば電気動力の物も出来るようになる。

さてと、とりあえず中国地方の主要な国は併合した。

後の中国地方の国はカスばかりだ。

攻める前に降伏勧告をすれば勝手に降伏するか、無駄な事と知っていても意地のためにやる特攻ぐらいだろう。

確かに特攻は時に大戦果を与えるが、それを読まれている場合は逆にピンチに陥るだけだ。

マリアナ沖の七面鳥撃ちが良い例だ。

こっちにアウトレンジ攻撃能力が無いのなら可能性はあったのにな。

1566年（永禄9年）

因幡、但馬の山名家、美作の赤松家、播磨の別所家、丹後の一色家の四国を侵略した。

赤松、別所、一色は降伏勧告に応じて簡単に終わったが、山名家は意地があつたのか降伏に応じず逆に攻めて来やがった。

まあ、ただのヤケクソだったがな。

国境付近で待ち構えて大砲やミニエー銃、弓矢などで迎え撃った。

山名家はなけなしの騎馬軍団と足輕を合わせて特攻して来た。

ある程度近付いたら榴弾を装填した大砲で斉射をして騎馬軍団を壊滅させる。

残った足輕達は銃や弓矢で撃退した。

散らばった敵に追撃して簡単に終わった。

四カ国を制覇して併合した。

順調に日本統一に近付いている。

もう直ぐ信長が比叡山焼き討ちや長島一向一揆衆皆殺しなど宗教破壊をする筈だ。

その後は信長は必要無いから潰す。

だから1574年の長島一向一揆討伐の後に直ぐ様攻められるように準備をしなくては。

先ずは1573年に織田家が朝倉家を滅ぼした後に越前に侵攻するために若狭もそれまでに落とさなければならぬ。

家臣が義景を殺した直後に電撃戦を仕掛けて越前を取らなくてはいけない。

そして和泉や河内も奪い、織田家との決戦に備える。補給線を強化して大攻勢に備えなくてはならない。

多分その戦が最大の山場になる。

上杉、武田、北条と3大国の当主は共に70年代前半に死ぬ。

そうなれば後は簡単だ。

武田家は長篠合戦の再現でもしてやれば良いし、上杉は跡目争いで疲弊する。

一番厄介なのは北条だが、氏康が死んだ後ならそこまで問題無い。

それに織田、上杉、武田の大国を下した後ならそんなに難しくない。

関東さえ終われば後は東北や北海道だがそこまで難しくない。

伊達や最上は少し怖いけど多勢に無勢だし、それに戦わずに降伏してくる可能性も高い。

というか戦う気になるのか？

今から北海道など寒い所に行くので貿易で羊を買った。

防寒装備を充実させなくては。

それと手動ミシンもだ。

一々手で縫っていたら面倒過ぎる。

その後に足踏みミシンも開発するがな。

今から樺太やカムチャツカ半島など極東ロシアを取つとけば資源に

困らない。

出来るならシベリアにも侵攻したいが、流石に無理だろう。

広すぎる。

新たな金属が誕生、ステンレス綱だ。

原料の紅鉛鉱を中国から輸入してようやく出来た。
見た目はエラく派手な赤い石だからな。
鉱石調査のためなど言って取り寄せた。
この鉱物は酸素とクロムで出来ているから鉄と合成すればステンレス綱が出来る。
これで錆びにくい鉄が出来た。
航海などに役に立つ筈だ。

そうそう、時間が余ったからついでに琉球併合して来た。
戦列艦で攻め込んで簡単に倒した。
マジ弱かった。
大砲で撃つたらビビって逃げたらしいし。
本当に軍かよ…。

まあ、琉球は結構使えるしな。
貿易の中継地点になるし、サトウキビを育成出来るからこれからは砂糖を生産出来る。
しかし野菜や肉は本土から運搬しなくてはいけない。
資源が無いからね。

琉球も手に入れたので港や工廠の建設や拡張を進めた。
長崎や佐世保、真珠湾に似ている鹿児島などには造船所と海軍基地を建設。
そして琉球の那覇にも軍港と海軍工廠を建設した。

まだ木造船しか作れないが、軍事大国であると外国に分からせなくてはならない。

そうすれば迂闊に攻めて来ない。

まあ、技術が発展しても偽装のために時代対応の艦艇しか見せないが。

精々一等戦列艦でも発表すれば怖がって戦争を吹っ掛ける事はしないだろう。

何せこの時代では砲の数は多くても40〜50門程度。

一等戦列艦なら100門だからな。

怖くて戦う気にはならないだろう。

まあ、一等戦列艦を発表するのは1600年の後半ぐらいかな？

それなら時代対応だ。

あんまり早く発表してもいらぬ警戒を呼ぶだけだ。

1568年（永禄11年）

遂に丹波、若狭を併合。

越前への攻撃位置についた。

丹波の波多野は大した勢力を持っていなかった。なので簡単に降伏したが、若狭の武田が諦めずに戦って来やがった。

しかし部下達はやりたくなかったらしく、榴弾で本城を攻撃したら島津みたいにクーデターが起こって当主を引き渡して来た。

あの甲斐の武田家と同じ血筋なのに随分無能な奴だったらしい。

捕虜にした本部下達は仕切りに当主の悪口を言う。

庇う気ゼロだな。

何か特に戦闘シーンも無いなあ。

大抵敵が突撃して来るか降伏して来るかだし。

突撃して来てもバカの一つ覚えのように正面から突っ込んで来るから楽に迎撃出来る。

大砲とミニエー銃で待ち構えているんだぞ？

高々中型馬に乗った騎馬軍団と足軽、弓矢の歩兵軍団に何が出来る？

それに俺の騎馬軍団や歩兵軍団は弱くない。

というより強い部類だ。

織田家は弱兵で有名だったが、肝付は強兵で有名になった。

主に大砲や銃を使うから騎馬軍団や歩兵軍団は弱いと思われがちだが、全体の質は高い。

地獄みたいな訓練を毎日行っている軍隊が弱い訳無いだろう？
それに経験だつて積んでいる。

何せ島津家を破って以来戦い続きだ。

20年足らずで九州、四国、中国地方を制圧して北陸地方にも進んでいるんだぞ？

そんな国の兵士達が弱い訳無いだろう？

まあ、ここで一旦停止だけど。

しばらくは戦争はしないから国内に集中する。

新たに増えた占領地域のインフラ整備や食料増産、兼統教の布教などやることは幾らでもある。

第一次領土総合開発計画を実施する。

領内の相互関係や補完関係を築く。

例えば余剰米と材木を交換するなどだ。

後はインフラ整備が遅れている地域の発展だ。

九州は大体道路の舗装や上下水道も完備しているが、四国や中国地方はまだ未発達。

格差を無くすためにそういった地域の発展も推進させる。

それと鉄山、炭鉱、製鉄所、鉄工所、火山の蒸気を利用した動力炉を有機的に繋いで原始的なコンビナートを形成する。

これなら生産効率も遥かに上がる。

それと火山地帯を利用して南九州、西九州、東九州に工業地帯を作った。

火山から出る地熱を利用すればエネルギーは無尽だ。

北九州にも工業地帯は作ったが、火山が無いから石炭で普通に蒸気を出す。

まあ、炭鉱が近いから良しとするか。

それとついでに火山の蒸気を利用して製鉄所や鉄工所などにサウナを作った。

作業終わりにサウナを浴びれると好評だ。

鉄は国家の屋台骨だ。

大事にしなくてはならない。

ついでに蒸気を使って大きい町には一つずつ薬草園を作った。

人口が上がるんだから薬は必需品だ。

大阪など重要工業地帯には軍事基地を建設した。

城では無く、現代みたいな基地だ。

基地は後の空軍が入れるような滑走路も設けた。

まあ、飛行機が出来るまでは無意味だけど。

それと基地周辺の民家や商店は移転させた。

邪魔だし、後々に騒音被害などで訴えられたら面倒だ。

それに、軍ではこの時代ではあり得ないテクノロジーが満載だから機密保持のためにも民間人を遠ざける必要がある。

今までは軍は基本的には1万石に300人などの軍役か志願制だったが、これからは国民皆兵として徴兵義務を負わせる。

そうすれば兵の数には困らないし、洗脳教育を施せるから楽になる。それにこの時代では兵を率いれる数は役職によって決められていたが、士官学校や防衛大学を卒業した優秀な士官や将校は自分の権限内で兵を率いれるように変えた。

これなら能力に応じて率いる兵の数を減らすことも増やす事も可能になる。

まあ、男尊女卑が根強いから女性は徴兵が免除されるがな。それに韓国みたいに国にとって重要な仕事をやっている者達は免除される。

これで兵数の問題は解決される。

人口が増えてある程度の兵数を確保出来たら志願制に変更する。

そんなに数がいても困るし。

志願制の方が兵士の質は上がる。

北朝鮮みたいに国民のほとんどが軍人だと国家が崩壊しちまう。

1571年（元龜2年）

延暦寺の戦い、つまり比叡山焼き討ちが行われた。

史実通り織田信長が比叡山の東麓を包囲した後、門前町を総攻撃した後、比叡山に登って堂塔を焼き払った。

その時に僧兵や僧侶、そして本来ではいけない女子供も惨殺。

およそ三千人近くが死んだらしい。

その結果諸国は信長を仏敵と呼んでいる。

まあ、うちの国は微妙だな。

別に熱烈な仏教徒ではなかったし、それに国内では兼続教の方が強いのでそこまで関心は無い。

むしろ散々好き勝手やって来た比叡山を落とした信長を英雄扱いだ。あくまでも心の中ではな。

ちなみに国内においては新聞も発行している。

国民の識字率が高いので問題なく読める。

また、字が読めなかったり、新聞が買えない者達のために各村や町に掲示板を設けている。

掲示板には解説員がついていて、内容を解説してくれる。

解説員になるのは子供好きな人員が就く。

新聞の内容に質問してくる子供達にキレてたら誰も新聞なんか読まなくなるしな。

新聞は月二回発行だ。

内容は国内の状況や新しい政策などの内容だ。

国外の内容は中立的な立場で報道する。
と言っても大した情報は無いから、戦があつたらどんな戦でどうなつたなどを書いてあるだけだ。

しかしこの新聞は重要な意味を持つ。

それは国民の情報操作だ。

自分達の有利になるように情報を操作して国民を誘導出来る。

幾らこの時代では庶民に価値は無くても、反乱などを起こされても困る。

だから手綱をしっかりと持つために情報を操作する。

革命的な開発が完了した。

ボルトアクション式ライフルが完成した。

金属薬莖を用いた後装式のライフルという少なくとも250年先のライフルだ。

これなら織田や武田、上杉の軍勢においても優位に立てる。

何せミニエー銃を一発撃つ間にボルトアクション式なら5発は撃てる。

火縄銃が相手ならその倍以上。

オマケに匍匐しながら撃てる。

今までは装弾のために立ちながら撃つ必要があつたけど、これなら匍匐して隠れながら撃てる。

生存率も上がる。

正に革命的な銃だよ。

同じく革命的な開発が完成。

ガトリングガンだ。

金属薬莖が完成したから作れると思ひ開発をしていた。

見た目はバルカン砲に近いな。
手動式だけど。

しかしあの「ラストサムライ」で圧倒的な戦力を誇ったのだ。
必ず役に立つ。

それと迫撃砲だ。

構造は単純だから作るのにはそんなに苦労しなかった。

弾頭は榴弾だからそれなりの威力を発揮する筈だ。

大砲と違って軽しいし分解が可能だから重宝する。

罪人を刑期が開けたらそのまま解放すれば仕事が無いから結局はまた犯罪を起こす。だから刑が軽い者は職業、技能教習を受ける修行場みたいな所に入れる。

そして放免される時は役所が発行する技能所得証明書と技能を手に入れるために低賃金で働いていた成果を受け取る。

更にどんな技能を持っているか、どんな仕事をした事があるのか？などを記入した履歴書を持たせれば就職に役立つ。

後はハローワークを作る。

まあ、やることは現代と変わりは無い。

どんな仕事があるのか？どんな人材を募集しているのか？などをし
らべ、就職の手伝いをする。

初任給の5〜10%を経費として頂く。

公共事業には島帰りが技能身に付けた者達などを優先して雇えば再
犯率も下がるだろうし、技術者も得られる。

1573年（元龜4年）

織田信長が將軍足利義昭を殺した。

実際は追い詰められた義昭が自刃しただけだ。

槇島城の戦いで追い詰められた足利義昭が自刃しようとしたが、史実では信長に「將軍殺し」の汚名を着させなくなかった秀吉が手の者を送り込み、自刃を止めさせたが、この世界では信長は立派な「將軍殺し」だ。

何故かと言うと、織田家に侵入させていたスパイに秀吉の手の者を始末させたからだ。

だから義昭は重い留まらずに自殺。

信長が追い込んだとして「將軍殺し」の名がついたのだ。

まあ、信長本人は気にしてないから問題無さそうだが。

そして何よりも待ち望んでいた事も起きていた。

織田家対朝倉家戦だ。

朝倉家と裏切った浅井家の連合軍を潰すべく激しい戦いが繰り広げられていた。

まあ、姉川の戦いからはもう一方的か？

そして朝倉家の本拠地の越前にも侵攻して織田家は勝利を収めた。

そしてそのまま近江の浅井家を攻めるために近江に向かった所でこちの準備も完了した。

準備とは越前に電撃戦を仕掛ける準備の事だ。

今の朝倉家は風前の灯火、そして間もなく起きる事件によって完全

に灯火が消える。

賢松寺の変だ。

一乗谷城から逃げた朝倉義景が家臣の手によって殺される事件だ。まあ、本能寺の変と同じだ。

朝倉義景死亡の翌日に若狭に集結していた肝付軍が越前に攻め込んだ。

前もって用意していた進軍は凄まじく早く、越前を次々占領していった。

警備のため残っていた織田軍も反撃したが、肝付軍の弾幕によって全滅させられた。

織田軍も弓矢やなけなしの火縄銃で撃ち返したが、一発撃ち返せばその百倍撃ち返されるという悪夢だった。

肝付軍は一乗谷城を包囲、一度だけ降伏勧告をしたが無視されたので大砲で門や城壁を破壊して乗り込み、占領。

こうして織田軍が近江に取って返した直後に越前は肝付家に奪われた。

その事を知った信長は怒り狂った。

直ぐ様取り返しにいきたいが、現在は近江を平定中だ。

それに肝付は大勢力。

戦っても勝ち目は無かった。

仕方なく諦めて近江平定に集中した。

近江まで肝付に奪われたくないからだ。

思ったより上手かったな。

大砲や重い荷物は外国馬に引かせたから運搬には困らなかった。

織田軍と衝突はしたものの、問題は無かった。

相手も銃は持っているが相手は火縄銃、こっちはボルトアクションライフル。

勝負になる訳がない。

そしてまだ終わらない。

三好とは秘密協定で攻めない契約だが、そんなことは知ったこつちやない。

河内、和泉にも侵攻した。

石山本願寺勢などもいたが、海軍を出して補給を一切絶ち、同時に砲撃をして海からの上陸作戦と陸からの挟撃を行った。

史実では本願寺には紀伊の雑賀傭兵部隊がいたが、この世界ではない。

雑賀とは話をつけている。

もしも侵攻したなら皆殺しにすると伝えた。

肝付の鉄砲隊の凄さは全国に轟っている。

だから如何に雑賀の鉄砲集団が強くとも、勝てない事が分かっていた。

雑賀の援軍も無い一向一揆衆は簡単に壊滅され、信用出来ないの
本願寺勢は全員処刑にした。

三好もそれなりに抵抗したが、敵わない事や、いずれ攻めてくる事
も分かっていたのか簡単に降伏した。

三好にはそれなりに使える人材がいたから丁度良かった。

上杉謙信にある提案をした。

我が領である越前を通過して近江に侵攻しないかと。

「將軍殺し」である織田信長を討伐しないかと。

その際越前の肝付は上杉軍を援助すると言った。

その肝付兼続の提案に謙信は承諾した。

「將軍殺し」である信長を生かしておく事は出来ないし、物資などは肝付が援助してくれるなら侵攻も可能だったからだ。

上杉軍は越前を通過し、近江に侵攻した。

それに対して織田軍は防衛のために兵を派遣した。

こうして織田軍对上杉軍の激しい戦いが始まった。

そしてその動きに呼応する男がいた。

武田家当主、勝頼だった。

勝頼に対しても兼続がある要請をしていた。

武田、上杉、肝付の3家で「將軍殺し」である織田家を討伐しよう。

という要請だった。

確かに大義名分はある。

だから侵攻しても不思議は無い。

しかも勝頼にとっては別の意味も持つ。

信玄亡き後、家督を受け継いだ勝頼だったが、信玄程のカリスマ性が無かった勝頼は家臣達に当主として認められていなかった。

だからこの戦で大戦果を上げれば家臣達も自分を認める筈だ。

と勝頼は考えた。

武田軍は美濃と遠江に侵攻した。

もちろん織田軍は防衛のためにまた兵を派遣する。

こうして近江、美濃、遠江に多数の兵士達を派遣した織田家の畿内の戦力が低下していた。

しかし畿内の近くの肝付は不動。
てつきり上杉、武田に続いて侵攻してくるかと兵士達を畿内に派遣
していたが、攻めて来ない肝付を警戒している余裕は現在無いため、
兵士達は近江、美濃、遠江、更には最近また動き出した長島一向一
揆衆に振り分けた。
もちろん畿内には未だに多数の兵士達がいる。
しかし、当初の頃よりは減った。

これで織田攻めの準備は整った。
こっちの戦力は約30万人。
ポルトアクションライフル、ガトリング、迫撃砲、大砲などを近代
装備で固めている。
織田軍は総勢10万人程度、おまけにその内4〜5万人ぐらいが防
衛のために畿内にいない。
今なら取れる。
来年が勝負だ。
少しでも侵攻ペースが遅れれば他国に取られる。

国内開発を進めた。
現代のように安芸の呉に軍港と造船所、工廠を築いた。
設備はこの時代相応な大したものではないが、カモフラージュには
なる。
少なくとも秘匿が必要な艦は本土では建造しない。
流石にバレるからな。
呉で造るのは精々戦列艦だ。
その戦列艦を使って領土の警備を行う。
多分南洋諸島みたいな遠い所も領有宣言するからな。

大型船舶が必要不可欠だ。

それと国内、国際貿易港の建造と拡張だ。
長門や対馬は明や国内の貿易にうってつけだし、新たに手に入れた堺、つまり大阪は国内、国際貿易の拠点にもなる。
その他にも貿易に利用できる所や軍施設に利用出来る所も多い。

ロクに役に立たない所もあるがな。

例えば出雲、伯耆など現代で言えば島根や鳥取だ。

現代でさえよく知られていない地域だ。

発展させるには軍需産業を設けるぐらいしか無いな。

後、隣の石見も。

石見銀山が有名だけど、それしか価値が無い。

ここも軍需産業を流行らせるか？

でも淡路島は利用価値があるな。

中継地点に使えるし、造船所にも出来る。

東洋のマルタにする事も可能だ。

若狭も可能性がある。

鉄山はあるし、国内貿易港もあるから臨海工業地帯に出来る。

それに現代でも重要な舞鶴がある。

軍港や工廠、造船所などを作れば十分発展する。

日本統一後、長い航海や行軍する事になるだろうから保存食料の開発が必要だ。

既に金属薬莖が出来ているから缶詰を作るのは難しく無い。

缶詰なら壊血病対策のために野菜や果物も保存出来るからこれで長

期間の航海も問題無くなる。

しかしこれは民間には転用出来ない。

もし缶詰が外国にバレればかなりの技術が流出する。

だから民間用にはビン詰めで保存食を販売しよう。

ビン詰めなら時代的にもおかしくない。

それなりの期間保存出来るから飢饉などが起きても食料を配れる。

後は発酵食品の開発でも進めるか。

ハムやソーセージ、燻製なども立派な保存食だ。

段々肉食文化も広まって来たから問題無いだろう。

兼続教は肉食などを否定していないからな。

1574年（天正2年）

現在各戦線においては織田軍が優勢となっていた。

やはり自領から遠い上杉は士気が持たないし、兵農分離が進んでいない上杉は収穫時期などになるとどうしてもある程度は兵を帰さないてはならない。

収穫は落ちるし、何よりも兵達が勝手に逃げる可能性も高い。

一方武田の方は奮戦している。

此方も兵農分離は進んでいないため苦戦していたが、精強な騎馬軍団を有しているため、上杉よりは幾分がマシだった。

その相手をしている織田軍は兵農分離が進んでいるから兵数は問題無いが、兵の質がそんなに高くないため苦戦していた。

各戦線とも泥沼状態になり一進一退を続けていた。

一方煩かった長島一向一揆勢は片がついた。

皆殺しにする事になってしまったがとりあえず一つの悩みは消えた。しかし代わりに悪夢が訪れた。

畿内に肝付軍が侵攻して来たのだった。

長島の戦いが終わった直後に畿内に総力戦を仕掛けた。

総兵力30万人の侵攻だ。

山城、大和、伊賀、伊勢に電撃戦を仕掛けた。

ガトリングガンや迫撃砲で障害を突破して大砲で城を落とす、その繰り返しで侵攻を続けた。

途中、織田の鉄砲集団もいたが、ボルトアクションライフルやガトリングガンで薙ぎ払った。

火縄銃を使う織田の鉄砲集団が肝付軍の近代装備に叶うわけなく、瞬く間に破れ、肝付軍は侵攻を続けた。

そのあまりの速さに織田軍が戸惑っていた。

援軍を呼ぼうにも近江は上杉の侵攻を受けているし、美濃、徳川家は武田の侵攻を受けているから援軍を出す余裕は無い。

こうして肝付軍の電撃戦は成功し、畿内と伊勢、志摩を併合した。もちろん織田軍も取り返すべく奮闘したが、ことごとく失敗した。

肝付軍のガトリングガンや迫撃砲に阻まれた。

肝付軍は更に侵攻を進めた。

武田軍と戦っている美濃や尾張、徳川領にも侵攻した。

もしもこのまま尾張や美濃、徳川領を攻めなかった場合、劣勢になった織田軍を武田軍が破る可能性すらあった。

だから何としても美濃や徳川領を占領する必要があった。尾張や美濃にはやはりそれなりの兵力があった。

しかし武田軍との戦闘に疲弊していた兵士達を倒すのは難しくなかった。

ガトリングガンで掃射をすれば

「何じゃあれは?! 鉄砲が連続で撃てるなぞあり得ん!!!」や迫撃砲を見ると

「何で大砲があんなに連続で撃てる!?!」

などなど驚きながら死んでいった。

そして徳川領にも侵攻したが、徳川家康は簡単に降伏した。

時代の趨勢が分かったのだろう。

流石天下を取った男だ。

織田家の時代が終わったら直ぐに独立して、秀吉の時代が終わったら直ぐに天下を奪い取った男だ。

伊達では無いようだ。

本当ならこいつは能力が高いから欲しいが、俺は獅子身中の虫は飼わない主義なので直ぐ様処刑した。

同じく家康に絶対の忠誠を誓っていた者達も処刑した。

寝首を狩られる可能性は残さない。

だから俺は生き残れて来たのだ。

一方、俺に徳川や美濃の領土を全部取られた勝頼は怒り狂った。

せつかく家臣達に認められるチャンスをまんまと奪われたからな。

更にこれでは無駄に兵力を失ったも同然だ。

結局勝頼は何も得る事は無く、自領へ撤退していった。

電撃戦は勝利に終わった。

肝付家の総力戦は何とか功をそうした。

後は織田家の本拠地、近江の安土だ。

上杉軍は来年ぐらいには勝手に撤退するだろう。

これ以上国を離れられない。

兵士達にも脱走者が現れている。

まあ、煽ったのは俺だがな。

スパイ達に上杉軍の兵士達に故郷の状態を吹き込んで戻るように誘導している。

だからそろそろ撤退するしかない。

上杉軍が撤退すれば後は近江を包囲出来る。

如何に織田軍の本隊が強かろうと近代兵器の前には無意味だ。

新たな溶鉱炉を開発した。

反射炉だ。

熱を反射させて製鉄するという単純な溶鉱炉だ。

木炭ではなく、石炭を使用して鉄を作れるのが利点だ。

木炭を使いまくると禿げ山を量産してしまうからな。

それに反射炉にすれば鉄工業が発達するから税収も上がる。

日本には幕末期に来たが、その時には既に転炉が出来ていたから旧式化していた。

しかしこの時代なら最新鋭だ。

何せまだ出来て無いからな。

1575年（天正3年）

上杉軍は撤退した。

兵士にかなりの損害が出ていたし、脱走者まで出る始末だ。これ以上は戦えないと謙信は判断した。

それにこのままなら肝付が信長を討つだろうから問題無い。

謙信はあくまでも「將軍殺し」の織田信長の討伐のために来たのだから。

上杉軍の撤退を確認した肝付軍は近江に侵攻を開始した。

最早残ったのはこの近江だけになったので織田軍は激しい抵抗をしたが、それもことごとく敗れた

自慢の火縄銃部隊はボルトアクションに敗れ、騎馬隊はガトリングガンに敗れた。

長槍の歩兵軍団は迫撃砲に翻弄され、ガトリングガンなどによって全滅させられた。

そしてとうとう肝付軍は織田家の本拠地、安土に攻め込んだ。

安土は敵からの侵略に対処してなく、ほぼ直線に行けば本城である安土城に着くのだ。

だから進軍は簡単に行き、安土城を包囲した。

…無駄だと思いが一応降伏勧告をする。

「織田信長よ!!!無駄な抵抗は止め今すぐ降伏せよ!!!さすれば無駄な被害は出ずに済む!!!」

と何時も言っている降伏勧告をする。
応じるとは思えないが。

しばらく経ち、何も返答が無いので迫撃砲を天守閣に撃ち込んでや
った。

「これが最後の警告だ！！！！今すぐ出てこい！！！！」

またしばらく待った。しかし返答は無い。

そろそろ突撃するか？と思っていたら、誰かが出てきた。

警戒を緩めずその男を包囲した。

その男をよく見ると若干猿顔に見えたことから羽柴秀吉と分かった。

「降伏致します。…お館様は自害され申した…。」

秀吉はそう言っただけで包みを俺に渡した。

中身は信長の首だった。

それを確認した後、俺は降伏を受理した後、安土城を占拠。

こうして織田家は滅んだ。

安土城に入ると信長に忠実だった家臣達は自害していた。

柴田勝家、丹羽長秀、前田利家、森 蘭丸など有名処はみんな死んで
いた。

秀吉も首を届けた後に自害した。

まあ、秀吉にとって信長は神に等しかったからな。

農民からここまで取り入れてくれたのだ、その主が死んだのなら仕
方がないか。

まあ、良いや、生きていても多分殺すし。

天下を取った男だからか。

信用出来る訳がない。

さて、次は武田家か。

上杉はまだ謙信が生きているから微妙に怖いけど、信玄が死んだ武田家なんか怖くも何ともない。

史実みたいに長篠の戦いでも起こすか？

それとも一気に攻めるか？

謙信が死んだら混乱している隙に上杉は取りたいしな。

加賀、能登、越中を取れば後は簡単だ。

そのために武田にはお早目に退場して頂こう。

いや、まてよ…。

もしかしたら戦わずに臣従させられるかも。

上杉も武田も元は天皇家。

帝からの臣従命令なら聞き入れるかも。

京都は完全に支配したから天皇家も思いのままだ。

詔勅を出させる何て簡単だ。

それに、臣従命令に背けば逆賊。

今度は自分達が討伐される。

肝付家の力は既に知っている筈だ。

あの織田家を圧倒的な戦力で駆逐したのだ。

勝てる訳が無いことは知っている。

あの経験不足の勝頼だって流石に分かるだろう。

分からなければ周りが分からせてくれるさ。

でも利用するだけ利用して何も恩賞を与えないと他国の臣従が取れないだろうから恩賞は与えるか。

勝頼には信玄の官位と役職を与えれば喜ぶだろう。

謙信には関東官領から幕府の官領に昇格させれば十分だ。
後は両方に報償金でも渡せば完璧だ。
これだけ与えれば北条なども臣従して来るだろう。

20 天下統一

1576年（天正4年）

勝頼視点

武田勝頼は悩んでいた。

突然送られてきた帝からの勅書。

内容は「天下安寧のために肝付に降伏せよ」という命令。

勅書という事はこれは天皇からの直々の命令だ。

断る事など不可能だ。

そんな事をすれば大逆者の扱いを受け、「將軍殺し」の信長のよう
に各大名が討伐に乗り出す。

しかしここでただ肝付兼続に降伏しては武田家の名誉が損なわれる
のではないか？

という思いが消えなかった。

迷っていた勝頼を後押しする文が届いた。

上杉謙信からの手紙だ。

長年宿敵であったが、尊敬する人物からの文とあって緊張しながら
読んだ。

内容は「天下のために肝付に共に降伏しよう。

これは決して不名誉なことではない。

この日の本のため、民達のために行く事だ。」という感じの文だっ
た。

確かに民達のためなら肝付に降伏した方が良いのかも知れない。

肝付領は民達の笑顔が絶えないとよく聞く。

実際に飢饉や災害などにも素早く対処して民達の被害を最小限に抑えているらしい。

謙信の言う通り、これは決して不名誉なことでは無いのかも知れない。

それに明らかに時代は肝付に來ている。

どうせ足掻いても何れは滅ぼされるだけ、ならば民達の事を考えて敢えて肝付に降伏した方が良いだろう。

その方が武田家の名にも傷はつかない。

後日武田家、上杉家共に勅書に従い肝付家に降伏した。

二家が降伏した事により時代が來たのだと悟り、北条家も肝付家に降伏した。

三大家家が降伏した事で、他の残った大家家も勅書に従い次々降伏した。

こうして肝付家が日本統一を果たしたのだった。

北郷視点

1576年か…。

史実では豊臣秀吉が1590年に天下統一を果たしたから14年早く統一出來たな。

普通の戦記小説ならここでハッピーエンドだが、俺はこれでは終わらない。

せっかく何百年という寿命を貰ったんだ。

それを生かさない事はない。

これからも領土拡大に動くぞ。

とりあえず南進は無理だな。

もう南方はヨーロッパ勢の庭になっている。

これが百年前なら南進もしたが、今はまだしない。

これからは北進だ。

先ずは北海道を平定して確固たる足場を築く。

そして次は千島列島、樺太、カムチャツカ半島、沿海州に進む。

まだロシアはこっちに来ていないから取り放題だ。

とりあえず今は北海道平定だ。

あの広大な土地を平定するのは骨だが、やるしかない。

兵士達は大量にいるんだからな。

まあ、新たに編入した兵士達は基礎教育が必要だかな。

それに武将達や官吏達も。

仕官学校や大学に入れて洗脳と教育に専念しなくては。

それと各地にも学校や大学を建てなくてはな。

国民全体のレベルを上げなくては意味が無い。

仕官学校も建てて士官も増やさなくては。

それと廃藩置県を行い中央集権体制を確立する。

これからは中央が全て決定する。

新しく制定した県には役所や税務署、警察署などを管理に必要な建物を建築する。

兼続教の信者達は順調に増えているからそこまで混乱は起きない。

混乱が起きても小規模だから鎮圧も簡単だ。

大名達は既に学校に入っているから文句は言えない。

もしもクーデターなんて画策したら処刑だ。

海外侵略のための新たに戦列艦が完成した。

敷島型戦列艦

全長50m

全幅14m

喫水5m

動力、三本マスト

各種80門搭載。

二等戦列艦クラスの大きさだ。

これなら外洋も楽々だ。

兵員もそれなりに積めるしな。

それとそろそろ砲塔を開発しなくてはな。

そうすれば大型砲も搭載出来る。

砲にもライフリングを削り、砲弾も近代のような形にすればアウトレンジ攻撃が可能だ。

そうなると自動装填機が必要になるな。

流石に人力で重い砲弾を装填は出来ないし。

そのためには機械工業レベルを上げなくては。

電池やモーターの開発。

つまり電気を使う。

幸いにもモーターの開発は既に行っていたからそこまで時間はかからないだろう。

電池も材料の亜鉛などは幾らでも手に入る。

蒸気機関のレベルも順調に上がっている。

もうすぐ燃焼機関が出来る筈。

そうなれば列車が出来る。

交通革命が起きる。

それに船舶に積めば蒸気船にもなる。

とりあえずやることは腐る程ある。

幸いにも時間はたっぷりある。

それに知識もある。

人類が長年かけた技術を嘲笑うかのように開発出来る。

軍部も改革する。

陸海軍を統一して国防総省とした。

陸海軍に分けると縄張り争いが面倒だからな。

それと歩兵、騎兵、工兵、砲兵など総合的に併せ持つ師団制を導入。命令系統も明確になるし、動きも早くなる。

若手に参謀教育を施してあるので統合参謀本部も設立。

これで陸海軍の命令系統がはっきりとする。

他にも国政を担う内務省、外務省、農林水産省、文部省、技術化学省、財務省、国土交通省、経済産業省、法務省などなど、省庁を設立させる。

これで完全に中央集権体制となった。

首都東京には江戸城ではなく、国会議事堂みたいな石造りの議事堂を建設。

ついでに皇居を建てて天皇には移動して頂いた。

天皇にはこの大日本帝国の象徴として君臨して頂く。

勿論実権は無いが。

天皇であろうと独断専行をすれば裁判の対象だ。

そのために家庭裁判所、地方裁判所、最高裁判所を設立したんだ。民主主義は無いが裁判を受ける権利は一応ある。弁護士も用意する。

しかし俺の息がかかっているから抵抗は無意味だ。俺に楯突いたら例え神だろうと有罪だ。

それぐらい出来なくては国を纏めるなど不可能だからな。

本当なら土農工商の武家制度は無くして現代のような平等政策の方が管理しやすいが、まだこの時代では不可能なので、とりあえずは農工商は平等にするために全員庶民とした。

これなら抵抗は少ない。
これからは皇族、華族（旧大名、公家）、武士、庶民の皇華士民となる。

まあ、百年か二百年ぐらいかけて身分差別を無くしていけば良い。何れは平等化社会が好まれるようになるのだから。

そのために職業選択の自由を与える。

武士でも職人、科学者、小説家、農民、職人などと職業を自由に変えて良いようにする。

戦争は軍がするから武士など必要無い。

だから何れは武士を辞めて他の職に就かないと情けないからな。

それと各地の活火山、休火山など、つまり富士山や浅間山、磐梯山など江戸〜明治頃に酷い被害を出した噴火による被害を減らすために全国の活火山や休火山の付近にマグマエネルギーや蒸気エネルギーを利用して発電したりしてエネルギー供給する設備を作り、ガス

抜きし続ければ噴火が起きないか、噴火規模は縮小するかも知れない。

まあ、あくまでも推測に過ぎない。

史実通り噴火が起きれば起きたらで別に良い。

少なくとも火山エネルギーを利用した発電やエネルギー供給技術の発展にはなる。

それと医学、薬学、天文学の発展のために顕微鏡と天体望遠鏡を開発した。

ようやくマシな外科手術が出来るようになったんだから内科のレベルも引き上げる事にした。

天文学もこの時代では重要だ。

何せこの時代では方角や時間を知るためには星を見るしかない。航海技術を上げるためにも必要だ。

内乱が終わって日本統一がなったんだからこれからは資本主義的会社になる。

今から資本主義に向けた様々な法律を作る必要がある。

先ずは利息制限法だ。

出資法は組織設立時の出資や投資のみに適用するなど厳格化して、何をどう解釈しても数十%の利息を取れるなど思わせなくする。

それと貨幣も変えよう。

金含有率を同じにしたコイン状の金貨にして、数え方も今までの4千文で1分、4分で1朱、4朱で1両などの4進法から1、5、10の10進法を採用しよう。

明との貿易には銀で支払う。

この時代の中国は金より銀を有り難がったからな。

そして日本国内においては金本位制を制定する。

しかしこのままでは明と貿易をする関西方面が銀を有り難がり、関東方面は金を有り難がる。

と言った東西で違った貨幣を使うという混乱が起きてしまう。

だから金融関係も今までは両替商や金貸し個別にやっていたが、国が管理する必要があるから銀行化するように指導して両替手数料を廃止させる。

貨幣の金の含有率が均一なら専門知識は必要無い。

これなら銀を金に両替するのも簡単になるから混乱は無い。

21 世界進出編（前書き）

これから技術発展が更に異常になります。

それと世界進出編になっても基本的北郷視点での話になります。たま〜に他国の視点も出ますけど…。

21 世界進出編

1577年（日輝元年）

新たな年号のスタートだ。

日輝とは輝く日本という意味だ。
国民に希望を与える名前にした。

国名も変えた。

日の本から大日本帝国だ。

やっぱりこっちの方がカッコイイ。

この他にも様々変えた。

憲法を作り、国を統制する。

大本は前の世界の大日本憲法だ。

民主主義とか人権は省いたけど。

16世紀に民主主義や人権などという言葉は邪魔でしかない。
前の世界で憲法は結構弄ってたからやり易い。

それと今年からは北進政策を決めたのでまずは北海道平定だ。

しかし史実みたいな強引な政策は取らない。

アイヌ人達にも理解して貰い、搾取はせず、無意味な殺しはしない。
しかし確実に北海道を占領する。

アイヌ人には絵はあるけど字は無いから日本語を教える。

そしてアイヌ文化などを書き記した本を出版してアイヌ人とはどう
いう民族なのかを全国民に理解させる。

そして生活を豊かにすればアイヌ人との衝突も起こりにくいだろう。
彼らには北方領土開発という重要な任務をやって貰うからねえ。

防寒装備もバツチリだ。
少なくとも第二次大戦中ぐらいの装備は整えた。
前の世界でもロシア極東地域に攻め込んでいたから雪山の大体のノ
ウハウも分かる。
それらもキチンと教え込んだから多分大丈夫。

機関車を作るための蒸気機関が段々出来てきた。

最初はデカイだけで低出力な機関だったが、今では小型化に成功し
て高出力なエンジンが出来た。

これらのこの時代にはあり得ない発明品は海外には分からないよう
にする。

南蛮船などが入港する港町や南蛮人がよく訪れる場所には通さない。
バレたら真似される。

それでは日本のアドバンテージが無くなる。

南蛮人が多い地域は今の時代にあっても不思議では無いレベルに発
展させる。

しばらくは馬車だな。

それに復水器なども開発しなくてはいけないから結局時間はかかる。

それと武器の開発だ。

ボルトアクションが出来たから次は自動小銃だ。

まずはM1ガーランドみたいな半自動小銃だ。

あれなら発射速度も上がる。

それにそんなに開発は難しくない。

ついでにリボルバー拳銃も開発した。

今まで拳銃は一発ずつで面倒だったからな。

これで接近戦も有利になる。

医療レベルも上げなくては。

レントゲンなど放射線技術を開発する必要があるし、点滴なども開発しなくては。

抗生物質など薬も様々開発が必要だ。

南方にいくためにマラリアの予防注射の開発などもしなくては。

化学技術も発展させなくては。

様々な原理を開発して基礎技術を埋めなくてはならない。そのため知識はあるから困らないが実際やると難しい。日本には無いものが多いからな。

それと油田開発だ。

新潟など日本海側を掘削して原油を掘り当てる。少しでも出れば十分だ。

後は精製技術を高めなくては。

原油が出ても精製出来なくては無意味だからな。

東京はまだ未開発地域だから開発が必要だ。

上下水道やレンガなどを敷いて道路整備をしなくては。

それに政府庁舎など様々な建物を建てなくてはならない。

港も整備拡張して外国船も入れるようにしなくては。それに土地開発も後々に広い幹線道路、鉄道、地下鉄、空港などを作る事を前提に開発を進める。

今は馬車が走り回るこの広い道路も何れは車が行き交うのだ。

とりあえず今は北海道平定だ。

アイヌ人と分かり合えば後々のロシア南進も防げる。

アイツ等不凍港を欲しがっているからな。

残念ながらこの世界では極東地域は先に貰っとくよ。

史実と違い、大阪城は建てず、臨海工業地帯を築いた。

平和な時代が来たのだから戦闘要塞である城は必要無い。

その代わりに大阪には工業地帯として発展して貰う。

せっかくの良い地点なんだ、それを早期に利用しない手は無い。

他にも工業地帯や工廠、軍港などを築く。

これから日本は軍事大国となる。

だから生産能力を上げつつ、軍事力も上げなくてはならない。

これから後の大国となるロシア帝国や、後の大英帝国のイングリッド王国などと戦う事になるのだから。

海軍創設のために村上や伊勢など各水軍の訓練法や各海域の波の高さ、水温、風向きなどなどの情報の共通化して普遍化が必要だ。情報が無いと話にならない。

そして海外にスパイを放つ前に忍びの統合をしなくてはならない。

各地域の忍び達の修行法や技術などを共通化してレベルを均等に上げる必要がある。

そうじゃないと国内の情報能力が衰える。

国内の全水軍、忍び集団を帝国海軍、帝国情報部に編入させて皇帝直屬にする。

これなら軍も情報も独占出来る。

西洋軍学を取り入れる前に日本の甲州軍学や北越軍学、北条流軍学などが栄えるが、それらを統合して日本軍学を築く。そうしないと西洋軍学が入ってきたから日本の軍学が排斥される。どうせ軍学なんて何処の国も基本的に変わらない。だからまずは日本軍学で基礎を固める。

特許法を制定した。

これからは新技術をバンバン開発するから儲けるために制定しなくてはならない。

まあ、漏らして良い技術だけだな。

蒸気機関の作り方などは国家機密だからまだ漏らさない。

多分公表するのは後200年後ぐらいになるだろう。

特許の有効期限は最初から100年に設定しておく。

流石に100年も経てば周りの技術も上がるからそうすれば特許料もかなり入るだろう。

金本位制を導入して国内の金含有率を制定したが、外国の貨幣の金・

銀の含有率はバラバラだ。

このままでは日本の金が一方的に流出してしまうので日本との貿易を望む国は定期的に貨幣を提出させ、そこから交換レートを定める。面倒くさいが仕方がない。

政府の財政や報告書を今までの大福帳式から西洋簿記の貸借対照表や損益計算書、試算表や資産表の作成を義務付けた。

この方が財政・商業上分りやすい。

資料として政府のみならず、各県の今までの年貢収入も金額に換算して西洋簿記式にする。

こうすれば単年度財政主義から連年度財政主義に変えられる。

これなら格段にやり易くなる。

棒グラフや円グラフ、折れ線グラフなどグラフも教えてやれば財政構造や歳入の伸びを把握しやすくなる。

商人にも西洋簿記の習得を義務付ける。

日本最大の商会である北郷商会で取り入れさせる。

最早大体の商売は北郷商会がやっているからな。

そしてその財政書類を毎月税務署に提出させる。

そうすれば今までは盆暮れの二回だけの季節払いではなく、その月の売上、債権をその月に回収させれば貸し倒れを見込んで売値を高くする必要無くなるから物価は安くなる。

もしも提出しなかったら出店規模に合わせて五倍、十倍などなどドンドン課税してやる。

ちなみに暦も変更した。

グレゴリオ暦を取り入れて一年は12ヶ月と定めた。

今までは閏月というのがあり、一月多い13ヶ月だったのだ。公務員の給料を何でわざわざ一月多くやらなくてはならない？金の無駄だ。

それに、こっちの方が分りやすい。

一々年号で考えると計算が必要だからな。

天気予報や地震予報、津波予報などのために日本各地の言い伝えや格言などを収集して予報の基礎にする。

まだ電報などは無いから正確な天気予報は無理だが、大体は分かる。雨などが降る前兆の雲や湿度などは分かるし、大災害が起きたなら歴史に残るから俺が知っている。

それと本当か分からないが、中国には既に地震計が存在するらしい。本当かどいかは分からないが確認してみよう。

あるなら輸入して地震計の基礎にする。

それと帝国心霊科学研究会を設立した。

現代ではどの国にもこういった心霊関係の機関がある。

本当に効果があるか分からないが、とりあえず設立した。

この時代ならまだ陰陽師などがあると思うからもしかしたら地震予報や犯罪捜査などに役立つかも知れない。

まあ、俺みたいなあり得ない存在がいるんだ。

そういうのが存在しても不思議は無い。

税についてもだ。

廃藩置県前はそれぞれの国で好き勝手に事細かく税を制定していた。確か全部引ってくるめると千五百種類を越えていたらしい。

しかしこれからは日本全国の税は統一して23種類に整理する。
アホみたいな細かく税を取っていたら国が発展しない。

1582年（日輝5年）

ようやく北海道を平定した。

手っ取り早く虐殺でもすれば二年ぐらいで終わったが、地盤を固めて発展させながらだったから五年もかった。

まあ、時間をかけたおかげでアイヌ達とも理解しあい、寒さに強い将兵を大量に得られた。

きちんと教育したからある程度使えるようになった。

ちなみに北海道平定をしている間に択捉島など千島列島の平定も完了した。

ただの島の連なりだから大した手間はかからなかったしな。

兵の輸送には戦列艦が大いに役に立った。

夏は良いが冬は地獄だからな。

防寒装備を万全にして、更には石炭のストーブも持ち込んで暖を取った。

しかし次からは寒さに慣れたアイヌ人達も将兵として加わるから進軍スピードは上がる筈だ。

北海道にも士官学校を建てて訓練中の将兵達を寒さに慣れさせる。

しばらくは兵士達の訓練所は北海道など寒い所になるな。

さて、北海道が終わって本土が完了したんだから次は樺太だ。

地味にデカいから大変だが、資源の宝庫だ。

何より大規模な油田がある。

必ず手に入れなくてはならない。

それに早くだ。

確かロシアが1632年迄にはヤクーツクを占領するから急がないと沿岸地域もロシア領土にされてしまう。

ウラジオストクは現在明の一部だから攻められないけど、樺太から海峡を渡り、ラザレフに上陸して北進して沿岸地域は取る。

というよりそれ以上は管理出来ないから無理だ。

まあ、極東地域だけでも広大なんだけどな。

蒸気機関車が完成した。

復水機も積んでいるから長時間の運行も可能だ。

現在は北海道に実験として鉄道を開通した。

内陸部だから外国人に見られる心配は無い。

まだ少なくとも100年ぐらいは出てこないからな。

極東地域を占領したら鉄道を通して開発を進めよう。

というか鉄道使わなきゃ無理だ。

馬では無理な距離だしな。

北海道以外の地域では未だに馬車だよ。

国民は長距離には駅馬車を使って移動する。

山を迂回するからかなりの距離を必要とするがな。

まあ、日本は国土のほとんどが山だからな。

道路を通すとそうなってしまう。

道は一応レンガ敷きだから安定する。

まだ石油精製技術が未熟だからアスファルトが出来てない。

天然アスファルトは産出したが量がイマイチだ。

コピーすれば良いんだけど、別に今はレンガ敷きでも良いしな。

べつに焦る必要も無いから日本全国の道路はレンガ敷きとなっている。

まだ主要道路だけだから砂利道が多いけどな。

発電機などが完成した事から電気工学技術が上がった。
まだ初期型だがモーターも開発出来た。
後は発電施設だ。

水力発電ならそんなに難しくない筈だ。

後は火力発電所だ。

原油は幾らでもあるんだ。

燃料には困らない。

発電所が出来ればかなり楽になる。

今は電気を起こすには人力か電池を使うしかない。

電池は幾らでもコピー出来るから良いんだけど、一々面倒だ。

それに大容量では無いから直ぐに切れるしな。

化学技術も順調に上がっている。

硝酸や硫酸など必要不可欠な薬品が次々揃ってきた。

化学知識も叩き込んだから研究者達が日夜新たな薬品を開発している。

食などにも変化が現れた。

港町などで肉を食う事が流行ったから周りも真似をして肉を食い始めた。

仏教では禁忌だが、兼続教は肉食を禁じていないから信者達は肉をよく食べるようになった。

やっと肉食文化が定着してきたから牛、豚、鳥などの品種改良を行う。

この時代の牛や豚はあんまり美味しくない。

現代みたいな品種改良で勝ち残った品種のみを食うなんて贅沢は不

可能だからな。

国家元首たる俺の食事さえ、現代の一般家庭に劣るだろう。それほどバリエーションが少ないのだ。前の世界の時は豪勢だったのになあ。とんでもない格下げだよ。

新たな戦列艦が完成した。

大和型戦列艦

全長50m

全幅15m

喫水5.6m

各種砲100門搭載

動力 三本マスト

一等戦列艦がようやく完成した。

恐らく現時点では世界最強。

確かこの時代の各国の戦艦は大して大きくなかった筈。

まだガレオン船の時代だからな。

それに砲塔がようやく完成した。

まだオープンタイプだが大きな一歩だ。

まあ、まだ積む船が無いから陸上の防御設備だけど。

史実でも陸上兵器を海上兵器に転用したんだから問題無いか。砲塔が出来た事で砲身長が上がった。

今では203ミリ砲も出来た。

これを戦艦に取り付ければ圧倒出来る。

今は鉄鋼船を作るために技術の習得だ。

製鉄技術も上がったから出来る筈だ。
それにリベット打ちも必要だ。
今までの止め方では不足だからな。

これらの様々な問題が解決すれば装甲艦が完成する。
蒸気機関を搭載すれば蒸気船にもなるしな。
それに今からレシプロ機関の開発もだ。
明治時代の軍艦はこれで動いていたからな。
石炭燃焼式機関は既に出来ているから問題無い。
船が出来るまでに小型化と出力を上げなくてはな。

とりあえず今は砲塔を積んだ戦列艦の開発をする。
何時まで丸い砲弾撃っている訳にもいかないからな。

庶民の生活様式も変わってきた。
洋服を輸入して国内でも生産しているせいか、運動性が高い洋服が
好まれるようになってきた。

中には洋服と和服を合わせた和洋折衷服も出てきた。
洋服の運動性と和服の機能性を持たせた服になっている。
それに武士達がマゲをしなくなってきた。

俺がマゲをしないから真似たのか？
それとも訓練などで面倒くさいなつたので止めたのか？
まあ、良いや、何時までもマゲをしているのは格好悪い。
ていうかマゲの意味分かんない。
町人達なども上がマゲを止めたからしなくなつて来ている。
面倒くさいからな。

それにながやらないなら止めた方が良いのか？と思うだろう。
トップたる俺がしていないからな。

兵器も開発を進めなくては。

今までは手動式ガトリングガンを使っていたが、次は自動機関銃を作る。

銃身を冷やす際に水冷式と空冷式の二つがあつたが日本は空冷式一本でいく。

水冷式は長時間の連続発射が可能だが、一々水が必要だし、動きにくいから後の主戦力となつた空冷式にする。

今から開発をすれば空冷式でも使える機関銃の開発が出来る筈だ。機関銃が出来れば大軍が来ても圧倒出来る確立が高まる。

とりあえず最初はバナナ式やドラム式マガジンなどあまり連射は出来なくて良い。

冷却技術が弱いからな。

冷却技術が発展すればベルト給弾式にする。

次は牽引式榴弾砲の開発だ。

今までの大砲では射程や威力が心もと無い。

少なくとも第二次大戦の155ミリ榴弾砲みたいなのが必要だ。

既に砲にライフリングを削るのは出来るし、金属薬莖も出来ている。それに機械工業レベルも上がっている。

だから技術的には出来る筈だ。

設計図などはあるんだからそんなに難しくくない。

まあ、実用化には多少時間がかかるだろうが。

後は地雷などだな。

国境を守るためには一番手っ取り早い。

国内においての銀貨の使用を禁じた。

しかし明からの輸入では銀で支払い、輸出では金で受け取る。

それなら明は銀が手に入り喜び、日本は金を手に入れてその金を金貨に変えて国内で流通させれば良い。

ヨーロッパとの貿易でもメキシコで銀鉱山が発見されて銀暴落が起きるまでは銀で支払う。

暴落する前なら銀はかなりの価値があるからな。

暴落したら金に変えるけど。

1585年（日輝8年）

樺太を平定した。

北海道より短かったのは、北海道程気を使う必要は無かったからだ。北海道のアイヌ人達を連れていったから話が早かったし、人口も少ないから大した時間もかからなかった。寧ろ樺太を制覇するのが難しかった。厳しい自然に阻まれて進みにくかった。樺太にも鉄道を通した。地味にデカいからな。機関車が無いと移動は難しい。

樺太を取ったので間宮海峡を渡り、遂にロシア大陸に上陸する。

明の支配地である沿海州は無視してアムール州やザバイカル州などを占領する。

そして占領したら沿岸地域を北進しながら占領していく。

とりあえずは沿岸地域を占領する。

あと30年ぐらいはロシアは来ないけど急ぐ。

しかし無意味な殺しなどはしないで現地人は出来るだけ説得する。

こっちの強さが解れば勝手に従うだろう。

抵抗するなら殺すが。

その後に裕福にさせてやって飢えを無くしてやれば問題無い。

とりあえず急がなくては。

ロシアの事もあるが、一番の問題はこのままでは女真族が反乱を起こして清になり、明を攻撃しだす。

その時に明に色々恩を売って満州や沿海州、台湾、海南島を貰うつ

もりだからな。

しばらくは明だけでも抑えられるだろうが何れは限界が来るだろう。いざとなれば清側に物資や兵器を売ってやれば頑張ってくれるだろう。

とりあえず今は極東地域の占領だ。

千島列島からカムチャツカ半島にも上陸させて挟撃しよう。

それならペースは上がる。

幸いにも国内は安定している。

反乱勢力などは育つまえに兼続教の襲撃を受けて壊滅している。

こういう時に便利だよな。

勝手に治安維持活動をしてくれるんだから。

しかし二ヶ所から攻めてもそれなりに時間はかかるな。

何せ広大だ。

日本の数倍も広いからな。

それでも最低アムール州、ザバイカル州、ハバロフスク地方、マガダン州、チュクチ自治州、カムチャツカ半島は手に入れる。

時間が余ればサハ共和国の半分ぐらいも取る。

流石にシベリアには進めないだろう。

時間的にも環境的にも無理だ。

広すぎて管理出来ない。

まあ、進めてもベルボヤンスク山脈以東が限界かな？

機械工業を上げるためにJISのような統一規格・基準を制定した。これで機械産業は更に発展する。

今までは現場での混乱が多くて面倒だったからな。

本土では鉄道網を構築出来ないからどうしても流通に遅れが生じる。
だから各地に運河を通す。

洪水になりそうになれば脇道を作って海に流してやれば良い。

現代でも運河を流通の要にしている国はそれなりにある。

だから鉄道網が完成して流通経路が完成しても運河は残しておく。

観光や漁業、流通、洪水対策など様々に役立つ。

1590年（日輝13年）

ロシア極東地域占領。

あんまり人は多くないし、話し合いや多少の武力衝突はあったが、最後は分かって貰えた。

これで沿岸地域は取った。

思ったより時間がかからなかったから続いてサハ共和国に侵攻する。とんでもない広大な土地だが、多分そこまで時間はかからない筈。寧ろ補給線をしっかりするのに時間がかかるだろう。

鉄道を敷設しないと食料や兵員を輸送出来ないからな。

今の内に極東地域にも線路網を構築しなくては。

極東地域は現代になってもシベリア鉄道ぐらいしか無いからな。

それに道路も整備しなくてはな。

軍を移動させるにもきちんとした道路が必要だ。

寒いだろうから暖房設備をしっかりと整えなくては死人が多数出る。

雪国の知恵としてカマクラや雪洞の掘り方も教えよう。

とりあえずの寒さは凌げる。

石炭ストーブなど暖房器具もだ。

薪ストーブよりは長持ちする。

石炭など補給は張り巡らした鉄道網で運搬だ。

河川がある場合は水運をする。

陸路よりは早い。

武器なども手袋を着けたままでも分解や整備が出来るように簡略化する。

まあ、早い話ロシア軍の装備を真似すれば良い。
防寒装備もキツチリとしなくては。
大砲を牽引する馬にも防寒装備をつけさせ進軍させる。
それが無理なら犬にでも引かせるか？
犬ゾリみたいに。

しばらくはロシア占領が続くからな。
最終目標は18世紀までにウラル山脈以東を手に入れる事だ。
それまでならロシアはウラルを超える事は非常に難しかった筈だ。
多分史実の幕末辺りになつたらロシアは東進をしてくるだろうから
それまでにウラルを封鎖しなくては。

ようやく蒸気艦が出来た。
まあ、まだ使い道は無いが。
精々ロシアへの輸送船代わりに使われるのがオチかな。

武威型蒸気船

排水量 926トン

全長 65m

全幅 9.1m

吃水 4m

エンジン 石炭専焼円缶2基、レシプロ機関1基・1軸もしくは三
本マスト

最大速度 11.5ノット

兵装

17センチ20口径単装砲×1基

12センチ25口径単装砲×2基

8センチ単装砲×3基

まあ、巡洋艦コルベットぐらいの大きさだ。ちなみに外輪式ではなくスクリュー式だ。外輪式は目立つしな。

それに砲撃の際には邪魔だし。時代が来たら偽装のために外輪式も作る。

まあ、その頃には日本は蒸気タービン式にはなっているだろうが。ちなみにこういった秘匿艦は樺太やカムチャツカ半島に掘ったトンネルに隠してある。

ダイナマイトを発明した事で容易にトンネルを掘る事が出来るようになった。

もうすぐ装甲艦も完成する。

金剛型装甲艦

排水量2250トン

全長67m

全幅12.5m

エンジン 石炭専焼円缶6基、レシプロ機関1基1軸もしくは三本マスト

最大速度13.7ノット

兵装

17センチ20口径単装砲×3基

15センチ単装砲×6基

7.5センチ単装砲×2基

3.7センチ単装砲×4基

装甲 舷側137ミリ、水線部111ミリ。

構造は鉄骨木皮だ。

見た目的には戦列艦と変わりはない。

艦の真ん中に煙突がある以外は。

この船を使う機会は何時くるんだろうか…。

多分南進政策に変更したら訪れるだろうな。

樺太の油田を掘り当てた。

上質な原油が産出した事から、石油技術はますます上がるだろう。

精製技術もようやく上がり石油、灯油、重油、ガソリン、ナフサなどようやく分離出来た。

これでアスファルトやプラスチック、ナイロンなど石油製品が作れる。

石炭は燃やすと煤が出るから掃除が面倒くさい。

早いところ灯油ストーブなどを開発したい。

ボイラーなどを開発出来れば船舶の速度なども上がるしな。

石炭は日本でも産出出来て楽で良いけど、やっぱり石油の方が色々便利なんだよなあ。

そろそろ魚雷を開発するか。

圧搾空気を作るのはそんなに難しくないから黎明期の魚雷なら出来る筈だ。

この時代なら一撃必殺になり得るからな。

それと機雷だ。

あれなら簡単に作れる。

接触したら爆発するように信管を取り付けて浮遊させとけば良いんだからな。

海域を封鎖するのに便利だからな。

天皇の実権は無いも同じだが、本当に無い訳では無い。

この国を千年以上治めた？一族だからまだ権力は持っている。

しかしこの国は強力な中央集権国家となったのだ、権力者は二人いない。

だから正式に天皇陛下が持つ「全権限」の移譲の詔勅を受け取った。これで天皇陛下はあくまで大日本帝国の象徴として君臨する事になった。

こうして正式に肝付兼続は皇帝となった。

天皇と地位が被るが、儀礼的には兼続が下。

何か公式的な行事があれば上座には天皇が座る。

こうすれば体面は保てるだろう。

とりあえずこれで面倒くさい事は減った。

公家の奴らが昔の栄光に縋って天皇を利用しようとしてウザいから徹底的に奪った。

後は華族の奴らの権力も徐々に下げなくては。

少しづつ少しづつ訴える迄も無い所から徐々に削る。

別にこつちとしては大規模な反乱は起こして欲しい。

それを潰せば華族を一気に潰せるんだからな。

1592年（日輝15年）

サハ共和国も占領完了。

これで極東連邦管区は制圧完了だ。

無限の補給力と鉄道のおかげか早く終わった。

というより兵達が寒さに慣れたのか？

まあ、良いや。

鉄道網も順調に展開している。

補給線はバツチリだ。

次はシベリア連邦管区だ。

何もない土地だから邪魔してくる先住民もロクにいないだろう。

暖房器具が無いととても生きられない。

でも南のモンゴルやカザフスタン付近にはそれなりに人がいたな。

そいつらを説き伏せるなり武力鎮圧なりすれば問題無い。

労働力にも出来るしな。

まあ、ロシアと違って南進はしないからカザフスタンとかには入る必要は無い。

だからそんなに時間はかからない筈だ。

それと島も占領しなくてはな。

ウランゲリ島、メドヴェージー諸島、ノヴォルシビルスク諸島など

北極に近いが立派な領土だ。

こんな所に来る船はまだ無いから装甲艦の出番だ。

早く終わらせないと流氷が来るからな。

閉じ込められたら終わりだから夏しかいけない。

砕氷船を作らないとな。
それに船に暖房設備を作らないと凍死する。

ようやく半自動小銃が完成した。

これで歩兵戦力は倍増だ。

新たに作った80ミリの野砲と機関銃とで使用すればロシア軍を食い止められる。

まあ、正確にはコサツク兵達だろうが。

多分コサツク兵達や毛皮商人の私兵集団を全滅させればロシア皇帝のピョートル一世もアジアへの拡大よりもヨーロッパ方面に集中するだろう。

この時代はヨーロッパ方面は騒がしいからな。

ウラル山脈以東への本格的な侵攻は多分19世紀になるだろう。

その頃からヨーロッパからアジア方面の不凍港を欲しがるからな。だからその前にはウラル山脈を封鎖しなくては。

今ならロシアはまだ弱い。

こちらの北方へ動員出来る兵力は約30万人。

本土の防衛を最小限に抑えれば更に30万人は投入出来る。

それだけ兵力と近代兵器があればロシアの正規軍が大軍で来ても持ちこたえられる筈。

いざとなればシベリアまで後退して防御を固めれば良い。

シベリアまでなら鉄道網が発達しているから補給や撤退も出来る。

その場合は多分100年後に再戦だ。

多分その頃には原爆が出来ているだろうからな。

まあ、そうならないように兵器技術を更に高めよう。

半自動小銃が出来たんだから次は自動小銃だ。

AK47みたいなアサルとライフルを開発する。

あれなら極寒の地でも十分戦える。
楽に作れるしな。
既に明治の時に作っていたから難しくない。

公家の抵抗力を更に削ぐために領地などを全て没収した。
代わりに年金を与えてそこその生活は出来るようにしてやった。
これで歯向かう気も起きなくなっただろう。
何せ逆らえば唯一残った年金を失う事になるからな。
最早華族は風前の灯火だ。

宗教の力も削ぐ。

この御時世にバカでかい領地は宗教には必要無い。
領地を没収する代わりに本堂などの新築や修理、維持などに補助金を交付してやる。

これで文句無いだろう。

宗教がデカイ領地を持っても仕方ないからな。

大体、そのデカイ領地で稼いだ金で金貸しなどをしていたんだから、
宗教としてどうかと思うしな。

本来の宗教に戻って貰おう。

幸いにも兼続教には別にデカイ本堂などは必要無い。

基本的に信仰心さえ持っていれば兼続教信者になれる。

経典にも宗教を利用して金稼ぎをしなければならない。と記した。

維持費など最低限度は信者からのお布施で何とでもなる。

少なくともキリスト教みたいにデカイ建物を築いて信仰心を得よう
とはしない。

総本山も神社レベルの大きさでしか無い。

国旗を制定した。

現代と同じように国旗は日章旗だ。

シンプルだけどやっぱり日本と言ったら日の丸だろう。

そして軍旗はやはり旭日旗だ。

これぞ大日本帝国の軍旗に相応しい。

自衛隊旗は何か微妙だしな。

それと国歌も作った。

最初は君が代で良いかとも思ったが、この世界の大日本帝国のイメージには合わないかと思い、違うのを考えた。

面倒だったので駒達に任せたら出来た歌のタイトルは「兼統帝万歳

！」

イギリスの「女王陛下万歳」

の真似じゃねえか。

まあ、英連邦みたいな巨大な国家を築く予定だから丁度良いか。

それに歌にすれば愛国心と俺に対する忠誠心は上がるだろう。

このタイトルではまるで俺がナルシストのように自分を賛美しているようだが、断じて違う。

むしろこの時代ではこれが普通なのだ。

何か小っ恥ずかしいけど仕方がない。

26 (前書き)

この話には現代の社会機構や国家体制を批判するような表現もありません。

ですからそういった事が気になる方は見ない事をオススメします。

1600年（日輝23年）

シベリア連邦管区を占領。

まだロシアは来ていないからスムーズに済んだ。

ちよつとモンゴルやまだ無いけどカザフスタンと少しやり合ったけど話はずいた。

大体現在のロシア連邦と同じ国境線を引いた。

ロシアみたいにアフガニスタンまで攻めるような事はしない。

線路網も滞りなく敷設出来た。

機関車の技術も上がっているから牽引能力も上昇している。

オーストラリアの穀物輸送列車みたいにズラリと長く出来るから一度に大量の物資や人員を輸送出来る。

シベリア鉄道みたいにこれが無いとロクに輸送も出来ないからな。

さて、これからは本格的な戦争が起きる可能性が高い。

このままシベリア連邦管区だけで終わるなら多分そこまでの戦いは発展しないだろう。

しかし時代が来ればロシアはアジアに進出して来て戦争になるんだから今から先制攻撃だ。

ウラル山脈には確かロシアの毛皮商人かロシアのコサック兵達が既に進駐している。

1587年にはウラル山脈を越えた筈だから多少の陣地構築は終えているだろうが、大した事は無い筈だ。

この時代ではウラル山脈を越えるのは容易では無かった。だから大軍はいないだろう。

正規軍達はヨーロッパ方面の制圧に忙しいから来れない。

この時代なら極寒の何も無い広大な土地よりも人口が多くてまだ暖かい小さいヨーロッパが欲しい筈。

それがこの時代の常識だ。

様々な技術がようやく明治ぐらいには上がってきた。

機械工業が上がったから複雑な機械も作れるようになった。

ちなみに現在機械式計算機を導入しているので計算は楽で良い。

現在は真空管を開発している。

電気技術も上がった。

一般家庭ではまだランプだが、既に電球は開発されている。

しかしおおっぴらに流行らせたら外国人にバレるので軍施設、研究施設などに使用されている。

電気は各所に水力発電所や火力発電所、地熱発電所などを建てたから電力不足には陥らない。

まあ、まだ使用する電力が少ないからな。

化学技術も上がっている。

様々な薬品も順調に出来ている。

そういえば食品添加物も完成した。

この人工っぽい味が良いだよな。とポテトチップスを食べながら再認識した。

科学技術も順調だ。

X線を発見した事からレントゲンが出来た。

これで医療技術はかなり上がる。

他にもウラン鉱石など放射能を持つ鉱石を仕入れて原子力研究をし

ている。

中性子を発見すれば原爆に大きく近付く。
他にも原子力技術は役に立つからな。

前記したレントゲンのように医療技術も上がっている。

外科手術などのレベルが上がっているから今までは治療不可能とされてきた様々な病気なども治るようになってきた。

もちろん内科も上がっている。

抗生物質や点滴、注射、血圧計、聴診器、などなど近代医療に必要な物はある程度開発した。

ちなみに漢方医療など旧来以前の治療方も残している。

軽い症状などなら漢方の方が効く事があるからな。

教育制度を変えた。

義務教育を2年から4年に引き上げた。

これは国民全体が裕福になったから義務教育の2年以上の教育が普通になったからである。

それに中学校も設けた。

大学に行く前に基礎はしっかりと固めて欲しいからな。

高校を作らないのはまだ早いからだ。

働き手が早く欲しいのだから高校卒業まで待てない。

バカの癖に高校まで働かせないなど無意味だ。

国民の知能は徐々に上げていけば良いのだ。

農業制度も変えた。

今までは地主が経営していたが、大規模農業方式に変更した。

小さい農場を複数管理するのではなく、大きい農場を少なく管理す

るのだ。

農機具も発達してきたし、化学肥料なども開発したから収穫量のアップを見込める。

まだコンバインやトラクターなどは自動車を開発していないので無理だが、馬を使った全自動農機具ならある。

19世紀のヴィクトリア王朝時代の農機具でもそれなりの効果が得られる。

種まき機や収穫機など様々あるんだからな。

自由主義革命を防ぐためにフランスとの国交を樹立した。

東洋のロクに知らないだろうが、マルコ・ポーロが「黄金の国」と記した国から正式な国交樹立の要請があつたんだ。

フランス国民達は好意的に歓迎した。

同盟と通商協定を結んだ。

フランス革命は貧困と困窮、それと権力闘争から起きた革命だ。

無意味かも知れないが、革命前に税制、法制、財政改革をやらせる。見返りに食料、資金、情報など多方面から支援すると伝えれば流石にフランスも日本の要求を受け入れるだろう。

受け入れなければ自分達の地位がヤバイからな。

これでフランスは絶対君主国家から専制君主国家になる。

これなら宗教力も多少押さえられるから財政も良くなる。

不満を高めている国民達も食料が行き渡れば革命は起こしにくい。

余程困窮した状態にならなければ自由民主主義などイカれた考えだ。という時代だからな。

そうなれば緩やかな革命が起きた事で満足するだろう。

希望的観測だが…。もしも史実通り自由主義革命が起きるとロクに

考えもせずに自由と平等を求める行進が始まる。

自由と平等が一緒に出来る訳無いだろ？

自由は文字通り自由だ。

資本主義的で利益を出せばその分儲かる。

だから格差が広まる。

しかし平等は社会主義的だからみんな一緒になる。

この二つをスローガンに掲げている限り革命は成功しない。

水と油の関係のように決して混じり合わない。

だから意味分かんない自由民主主義革命が長く続いたんだ。

これが公正と自由、公正と平等なら上手くいくだろう。

公正なら国がある程度縛れるから制限が効く。

まあ、現代社会がこれに近いな。

とにかく、この革命を阻止するためにわざわざ遠いヨーロッパまで行ったのだ。

なるべく早い内に国交を結んどけば友好関係も深まるだろう。

フランスと戦う予定は今のところ無いし、ご機嫌取りのために献上品もかなり持っていたからお互い笑顔で同盟を組めた。

スエズ運河があればもっと楽だったんだけどまだ出来るまでに200年近くかかる。

しばらくは喜望峰を回航して友好関係を深めるしかないな。

27 (前書き)

日本語としておかしい部分が沢山ありますが、勘弁してください。

1604年（日輝27年）

ウラル連邦管区に侵攻した結果、ロシアの尖兵であるコサック騎兵隊と遭遇。

先ずは何時も通り話し合いをする。

こちら側の条件はウラル山脈以東の占領。

通訳を介しながらの交渉だったが、見事に決裂。

コサック騎兵隊は突撃をかけて来た。

日本軍視点

日本軍においては余裕の雰囲気さえあった。

相手は自分達より大軍だが、持っている武器はハルバードや槍、剣など旧態以前（日本軍視点）の武器と馬による突撃だけ。

ごく少数は火縄銃を持っているようだが。

確かに騎馬隊の突撃は脅威だが、自分達には脅威には成り得ない。

自分達は日本軍でも最精鋭だ。

だから極北地域の進駐を命じられた。そのため武器も最新鋭だ。

ベルト給弾式の機関銃や野砲、半自動小銃、手榴弾など多数の近代兵器を有する。

そんな自分達に向かって騎馬突撃を敢行するとは…。

敵だが哀れに思えてきた。

「全員撃ち方よーい！！！！」

築と線路の敷設をして補給が来るようにした。

こうしてウラル山脈以東を制圧した大日本帝国の北進は一時停止となった。

北郷視点

これで北の資源地帯を確保出来た。

しばらくは資源には困らない。

後はウラル山脈を封鎖するために要塞線を築かなきゃな。

資材を鉄道でどんどん運んでマジノ線みたいな要塞線を築く。

これなら例えロシア軍が何十万単位で侵攻して来ようが粉碎出来る。

少なくとも後二百年は頑張って貰うからな。

これぐらいの要塞線を築かないと不安だ。

とりあえずはこれでロシアへの侵攻は終わりだ。

流石にこれ以上侵攻すればロシアも本気になるしな。

次は中国か…。

色々面倒な民族だけど今なら問題無い。

この時代なら気に入らない民族を虐殺しても大した騒ぎにならないしな。

とりあえず今はまだ本格的には動かない。

今は女真族の反乱を手助けしてやるために武器などを格安で売ってやる。

勿論日本からの支援と分らないように仲介人を立てるがな。
売る武器もスペイン、ポルトガル、オランダから買ったこの時代相
応な武器だ。

まだフリントロックさえ開発されていない時代だからな。

この世界でも明は疲弊しているが、史実程では無い。

何故なら日本が朝鮮侵攻をしていないからだ。

だから明はそれほど弱っていない。

だから史実より粘れる筈だ。

しかし女真族もそれなりの勢力を持つ、このままいけば史実通り1
616年には後金になって、その後朝鮮を併合して清に変わる。

そして明と戦争になり、清が北京を占領した辺りで日本が明側に参
戦して清を打ち破る。

そしてその報酬として沿海州、満州、朝鮮、台湾、海南島を貰うと
いう寸法だ。

これなら大した労力を使わずに南方にも進出出来る。

今はまだ女真族に頑張って貰おう。

武器を売って勢力拡大に貢献してやらなくてはな。

そしてその間はアリューシャン列島、アラスカに侵攻しよう。

まだヨーロッパ勢には知られていないいいない。

今の内に頂く。

アラスカもかなりの資源地帯だからな。

後それと小笠原諸島や南鳥島など日本から近い島々も占領しなくて
はな。

まだ南方には本格的には進出しないが、近場なら問題無い。

戦艦が完成した。

と言っても他国にバレると不味いので偽装用の三本マストを立ててある戦艦だ。

扶桑型戦艦

全長67m

全幅14.6m

吃水5.5m

排水量3720トン

エンジン レシプロ機関2基2軸、石炭専焼円缶4基

最大速度13ノット

兵装 24センチ40口径単装砲×4

17センチ25口径単装砲×4

7.5センチ30口径単装砲×4

35.6センチ単装魚雷発射管×2

装甲 舷側最厚部231ミリ。

鉄骨木皮の見た目はデカイ戦列艦だ。

煙突も帆走時は低く出来る。

明治時代では豆装甲艦扱だったが、この時代なら立派な大型戦艦だ。

戦力として見ても多分最強。

ラム（衝角）も設けたから体当たりをすればそれなりの被害も出させられる。

完全鋼鉄製の戦艦はまだ完成していない。

砲の大型化が思ったより手間取っているせいだ。

現在は駆逐艦、魚雷艇、潜水艦なども開発中だ。

ロシア視点

ロシア帝国皇帝、ボリス・ゴドノフは東方の占領状況についての報告を聞いて仰天した。

「コサツク騎兵共が全滅しただと？」

ゴドノフは信じられないように聞いたが、補佐官は頷いた。

「間違いありません。シベリアのトムスク付近を占領していた所、大日本帝国という国の軍と遭遇した後に戦闘になり、全滅しました。」
それを聞いても尚信じられ無かった。

コサツク騎兵隊はロシアの占領民だが、その強さはヨーロッパ中に轟いている。

少数の歩兵集団で戦ったならまだしも、大軍の騎兵集団のコサツクは無敵と言っても良い程の強さを誇る。

その騎兵集団を全滅させたなど常識的にあり得ないのだ。

「大日本帝国と言ったな…聞いた事の無い国だな？」

遙か極東の島国だった日本をこの時代のロシア人が知る筈は無かった。

「はい、新興国らしく、ここ30年で勢力を拡大させている国で、本国は遙か極東の島国のようです。

30年程前に本国を統一し、領土拡大のために北方に侵攻した模様です。」

成る程、とゴドノフは頷く。

30年そこらの新興国では知られていない筈だ。

「それで、その大日本帝国は何処まで侵攻したのだ？」
一番大事な所はそこである。

もしまだ侵攻を続けるならウラル山脈を越えて此方に来る可能性も高い。

その場合は国軍を派遣して防衛する必要があるが、コサツクを破った軍だ。

かなりの被害が出るだろう。

最悪、ロシア帝国が無くなる可能性さえもある。

だが、ゴドノフの考えは杞憂に終わった。

「ウラル山脈まで侵攻して止まりました。現在は要塞線を構築しています。」

この様子から見るに、ウラル山脈を我が国との国境とする考えのようです。」

それを聞いてゴドノフはとりあえず一安心した。

要塞線を築くという事は今すぐにでも攻めて来る事は無いからだ。

「東方の領土を獲得出来なかったのは残念だが、今はヨーロッパ方面が忙しい。これ以上の東方侵攻は一時中止とする。」

ゴドノフはそう補佐官に伝えた。

現在は東方の島国との戦争はしたくなかった。

大飢饉が続く、国内は疲弊したせいで内乱が絶えない。

それに隣国との関係も微妙だ。

だからこれ以上の敵は作りたくはない。

それもコサツクを破った軍との戦争など考えたくも無いのだ。

ちなみにゴドノフは何故コサツク騎兵集団が全滅したかの理由を知らない。

何故なら目撃者のコサツク兵は全滅して証言出来ない。

コサツク騎兵集団にはロシアの将校などは一人もいず、コサツク騎兵集団は軍というよりも野党の集団に近いのだ。

しかし幸運にも数名のコサツク共がかるうじて生きていて、敵の兵器などを伝えたが、無学な彼らが半死状態で朦朧としていた時の証言は何を言っているのかが分からず、そのコサツク兵達も直ぐに死んでしまった。

だから無学なコサツク共が敵に罾にでもはめられてやられたのだから。と大して考えなかった。

この時に知っておけば日本に何としてでも接触して探りを入れられたのだが、ゴドノフはヨーロッパや国内に手一杯だった。

北郷サイド

そろそろ人間としては限界だな。

肝付兼続は1511年生まれだから現在95歳。

これ以上生きると人間としては微妙だからこれからは裏に回ろう。

突如病気となり、病に伏せたと国民に発表、そして自分はもう長くはないと悟ったとして後継者を指名した。

その際今までは大日本帝国皇帝と兼続教教祖を兼続が兼任していたが、次代からは大日本帝国皇帝と兼続教教主を分離した。

皇帝には自分にソツクリな息子を指名し、教主には兼続教信者で信頼の厚い者を指名した。

ちなみに息子の名前は肝付兼次だが兼続の死後、正式に皇帝に就任すると名前が肝付兼続となる。

こうする事で兼続教の本尊を守った。

こうして儀礼的には天皇をトップとする絶対君主国家、大日本帝国が多少変わった。

政教分離を完全にして政治に宗教が関わる事を一切禁じた。

指名から半年後、肝付兼統は崩御した。

96歳というこの時代ではあり得ない程の長命だったが、遂に終わりを迎えた。

死亡する前に権力の移譲などは全て終わっていたので国政に混乱は起きなかった。

しかし国民は嘆き、悲しんだ。

自分達の絶対的君主が死んだのだ。

最早この世に希望は無いと自殺する者達まで出始めていた。

ここで新たに皇帝となった肝付兼統の子、肝付兼次が国民に向けて宣言をした。

「親愛なる帝国臣民よ。

私が見続けた事は私も悲しい。敬愛し、常に我々を導いて下さった

父上を無くしたのはこの国にとって重大な損失だ。

しかし！！だからと言って立ち止まる事は出来ない！！父上の悲願であつた富国強兵、そして何よりも民達が安心して暮らせる国を築くという理念をここで止めてはいけないのだ！！！！

だから私が父上の理念を受け継ぎ、この大日本帝国を更に強く、豊かな国にする事を皆に、そして今は亡き父上に誓う！！！！

大日本帝国万歳！！！！！！
兼統帝万歳！！！！！！」

「……………」

となる。

そうならば簡単に処刑出来る。

華族の権力も大部分を削ぎ落としたからこれでもうほとんど動けない。
い。

もしも大々的に動けば華族制を潰せる口実を渡す事になるからな。

1610年（日輝33年）

アリユーシャン列島、アラスカ平定。

日本人と同じモンゴロイドのイヌイトだから話は思ったより早くまとまった。

だから領有宣言をした後、役所を建てて住民登録などをした後に線路網を構築して移動を楽にした。

道路も作り、アスファルトで舗装して軍や民間人の移動に便利な国道を作り上げた。

ちなみに今更だが、支配した土地には学校を建設して義務教育として2年間日本語教育と計算を教える。

勿論洗脳教育だが。

そして新たに占領した地域の民族は三等国民となる。

これは矯正が必要な民族という意味だ。

三等国民は就職しても大した役職にはつけないし、国に関わる仕事も出来ない。

これはいきなり支配した民族に国政を担わせるのは危険な事と、単純に知識が足りないからだ。

基本的にヨーロッパから知られていない土地を支配するんだ。

近代知識など無い。

だからまずは日本語教育をして日本人化させる。

そしてある程度民族全体が日本人化したら二等国民に格上げされる。二等国民になると義務教育が5年間に伸び、高等教育を受けられるようになる。

そうなればある程度の役職に就けるし、多少なら国政にも関われる。

そして国民全体が本土と遜色無い程に知識レベルや日本人化出来たら一等国民になれる。

という事だ。

一等国民なら本土の人間と同じ権利を有する。

ちなみに現在、北海道、沖縄は二等国民、ロシア、アラスカは三等国民だ。

これで北方の資源地帯は粗方手に入れた。

本来ならロシア領となる筈だった土地をほとんど頂いたからな。

スターリンが知ったらブチギレそうだな。

とりあえずは資源を採掘しなくちゃな。

埋まったままでは無意味だ。

インフラを整備し終えたら早速採掘だ。

この後大量の労働力が手に入る予定だからな。

しっかりと働いて貰おう。

キッチンと給料は支払うんだからな。

ようやく真空管が完成した。

これで電子工学がかなり進んだ。

先ずは真空管のレベルを上げなくては。

初期のコンピュータは真空管で動いていたんだから真空管でもかなり役に立つ。その次のトランジスタも開発しなきゃいけないけど。

次はレーダーの開発だ。

レーダーは何れは必須となる。
今の時代にレーダーが出来れば夜でも敵を察知出来る。
でもこの時代は木造船だから反応するのか？

そして重要なのは電話と無線だ。

どちらも状況の確認や命令の伝達に必要な不可欠だ。

今は手紙で命令を出すから一々時間がかかる。

それにもしロシアが攻めて来ても本土にいる俺に伝わるのは一月以上かかる。

鉄道が出来たから多少は早くなつたが、やはり遅い。

少なくとも電信ぐらいい出来ない辛い。

造船技術も高めなくては。

木造の戦列艦は本土の普通の造船所で作っているけど、鉄鋼製の軍艦は樺太、カムチャツカ半島、ロシア沿岸部を掘った秘密造船所で政策している。

ドックはかなり広く、初めから10万トンクラスの船を作れるくらい広くしてある。

設備も最新設備で、電動式のクレーンやリベット打ち機など様々ある。

ちなみに電気溶接は現在開発中だ。

これら秘匿艦を作る者達はこの造船所から出られない。

造船所の中には生活に必要な施設や娯楽設備など全て無料で使用出来る。

ちなみに逃げたら死刑だ。

しかし造船官達はここが楽園であるため自分から逃げようとはしないがな。

兼続教の信者でもある彼らは兼続帝のお役に立っているという実感

があるので幸せなのだ。

さてと、まだ清が出来て無いから南進するか。

南鳥島からマリアナ、パラオ、カロリン、ビスマルク、マーシャルなどの南洋諸島に進軍して領土化する。

マリアナ諸島などは発見はされているけど領有宣言はまだされていない。

だから今の内に取る。

その後も南下を続ける。

何せあのオーストラリアもまだ植民地では無いからな。

ちなみに初代兼続が死んだけど年号は変わらない。

肝付兼続の統治下ならこのまま日輝で続ける。

他の年号を考えるのが面倒だったからもあるがな。

ドイツとの間に国交を樹立した。

フランスと国交を視察して同盟を結んだんだからその周辺の有力国と国交を結んどいて損は無い。

神聖ローマ帝国ドイツは日本の特使を歓迎した。

ヨーロッパでは日本はロシアを打ち破った国として有名になったのだ。

ポーランド王国を挟んでロシアと接するドイツにとってはロシアに完勝した日本から国交の樹立要請は願ったり叶ったりなのだ。

無事同盟も結び、交渉は終了した。

これで一安心だ。

これからイギリスとやり合う事になるからドイツを先に引き込んだ。長い同盟関係にある日本を裏切つてまでドイツはイギリスに味方はいないだろう。

時期が来たらドイツ統一の手伝いでもしてやれば同盟は強固なものになるしな。

国交を樹立したのは良いけど、ドイツにはまだロクな船が無いから基本的にこっちから行くしかない。

たまに献上品や輸出のために行く必要があるから大変だ。

まあ、フランスに行った後に行けば良いか。

それなら一石二鳥だ。

29 (前書き)

この小説はご都合主義です。

1612（日輝35年）

南洋諸島を領有化。

ほとんどが無人島で労働力はあまり得られ無かったが、リン鉱石やボーキไซด์が産出するのでそれなりに有用な土地だ。

農業も漁業もそれなりに発達するだろう。

ちよつと遠いけど秘匿艦を製作する造船所も設けられる。

本土で作るよりはバレにくい。

ちなみにグアム島やウエーク島などアメリカにとって重要な拠点も勿論領有化した。

まあ、この時代のアメリカはまだオランダとフランスの植民地ではないが。

次はニューギニア島だ。

マラリアなど病気が多かったからまだオランダも領有宣言をしていない。

しかし日本軍は予防接種をしているためそこまで感染しない筈だ。

ニューギニアが確保出来ればオーストラリアへの道が出来る。

オーストラリアはバカデカイから鉄道網を構築する必要がある。

それとこの時代ではまだオーストラリアは不毛な大地だからダムを作ったりして河川を作るなどしないと作物が育たない。

オーストラリアには史実通り食料生産地になって頂くからな。

そのためにはアボリジニなど原住民とも仲良くしなくては。

ある程度の犠牲はしょうがないけど。

移民も募集しなくてはな。

大規模農業を開始するには知識と経験を持った者達が必要不可欠だ。その前に土地を開発しないと意味が無いがな。

中国情勢は順調に混乱している。

もうすぐ女真から清に国名を変える。

まあ、それでもまだ時間はたっぷりとある。

少なくとも後30年ぐらいは武器売買のみにしとく。

朝鮮を併合して貰わないと困るからな。

ドイツとフランスは長年にかけて仲が悪い。

だから何の為にドイツと国交を結んで関係改善に図るのかをフランスに説明した。

主な理由はイギリスに分断されなためだ。

これから日本はアジア方面に進出するから必ずイギリスとブチ当たる。

そしてスペイン、ポルトガル、オランダ、フランスと大西洋方面のヨーロッパ諸国と手を組む事になり、イギリスは不利になる。

そしたらイギリスの事だ、日本と分断させるためにドイツに統一を支援してやるからフランスやオランダに攻めると言うだろう。

そうなつては欲しく無いから先にドイツと関係を結んだだとフランスに説明した。

ちなみにドイツにも同じ説明をした。

どうにかお互い分かってくれた。

まあ、それでもお互いが嫌いだから戦争は起きるだろうな。

でもイギリスの口車に乗る事は無いだろう。

乗れば日本共戦う事になるんだ。

ロシアを破った事で有名になった未知数な国をそう簡単には相手にしたく無い筈だ。

それに時代が進めば日本は更に大きくなる。

そうなったら益々日本とは好き好んで敵対関係にはなりたがらないだろう。

ちなみにポーランド分割には関わらない。

日本がウラル以東を取ったからロシアの国力は史実より大分疲弊している。

このままではロシアが滅びると思ったからロシアには支援している。勿論バレたら不味いので女真の時のように何人も仲介人を通しての秘密支援だ。

武器や物資、情報などを売ったり、時には援助したりする。

こうして何とかロシアは持ちこたえた。

ロシアの国力を上げる必要があるのでポーランドには犠牲になって貰おう。

どうせドイツ、オーストリア、ロシアの連合に取られる運命だし。

1614年（日輝37年）

ニューギニア島を領有化。

ニューギニア島もそれなりに広いからジャングルを切り開いて鉄道を作る必要がある。

オランダ領が近いが、何れは蘭印も日本領になるのだから気にしないで良い。

それに軍港などを作るだけでそこまで開拓はしない。

流石にジャングルを開発するのはとんでもない手間だからやっつられない。

ここはあくまでオーストリアへの橋頭堡でしか無い。

しかし鉱物資源は豊富だから採掘のための開発はする。

それに畑作には向かないけど、コーヒーやヤシなどの栽培には向いている。

それなりに産業は育つだろう。

ようやく完全鉄製の戦艦が完成した。

富士型戦艦

全長115m

全幅23m

吃水8.1m

排水量1万2550トン

エンジン レシプロ機関2基・2軸、石炭専焼円缶×10
最大速度18.3ノット
兵装 30.5センチ40口径連装砲×2基
15.2センチ40口径単装砲×10基
4.7センチ単装砲×24基
45センチ単装魚雷発射管×5基
装甲 舷側最厚部457ミリ

完全に帆船には見えない戦艦が完成。

そのため樺太に掘った秘密造船所からあまり出られない。

出られたとしても訓練のためにベーリング海をいくぐらいだ。

しかし、現在南洋諸島に建設中の秘密軍港が完成したらそっちに移す。

北方には現在大した敵はいない。

だからもしものために南方に待機させる。

この船なら17世紀の砲弾など通用しない。

というか近付いた時点で速射砲か主砲で撃沈されて終了だろう。

日本サイド

偉大な兼続帝がお隠れになって丁度10年。

兼続帝がご病気となり床に伏せたという発表を聞いた時はもう大日本帝国は終わりだと思っていた。

また大名が乱立して戦乱の世が来るのだらうと誰もが思った。

だから兼続帝が崩御して嫡男の兼次様が皇帝に着任してからは自殺する者が絶えなかった。

当時の兼次様の評判はあまり良くなく、ただ兼続帝に一番顔が似て

いたから皇帝を継いだのだ。と半ばバカにされていたのだ。しかし、兼次様は暗君ではなかった。

絶望する国民に演説で鼓舞し、大日本帝国の更なる拡大を約束する姿はまるで兼統帝の生き写しだった。

その兼次様を見て国民も希望を取り戻し、兼次様を信じてみよう決意した。

そして兼次様は約束を果たされた。

兼統帝が崩御した事により、極小規模だったが、反乱騒ぎが起きた。しかし兼次様は直ぐ様反乱を鎮圧して被害を最小限に留め、国を見事に纏めた。

そして兼統帝が北進政策を終わらせたから兼次様は南進政策をお取りになった。

帝国周辺海域から聞いた事もない島々に進駐して領土、領海を広げている。

だからと言って軍事ばかりにかまけている訳では無かった。

内政にも尽力され、国民生活をより豊かにするために様々な政策を立て、成功させている。

多少税金が上がったが、収入も増えているから仕方がない。それに遥か以前の搾取するかのような苛烈な税はかけない。

兼統帝以前の日本を知らない者達は増税だと若干不満を漏らす、兼統帝以前を知るワシらにとっては天国みたいな状態だ。

農民の家に生まれ、身分や金が無かったから教育も受けられなかったワシ達の世代と違い、どんな身分であろうと教育を受けられる義務教育制度が出来たおかげで日本人全体のねべる？も上がっている。兼統帝もそうだったが兼次様も時々外国語を用いる。

南蛮の言葉らしく、使いやすくと最近庶民の間でも流行っている。

まあ、とにかくワシ等みたいな老人も教育を受けられたので読み書きや計算などが出来るようになった。

本当に兼次様、いや兼統皇帝には感謝してもしきれない。

ワシはもう長くない。

間もなく兼統帝の御元に行くだろう。

だからあまり未来を見れないが、きっと良い世の中になるだろう。兼統皇帝が続く限り、大日本帝国は栄え続けるに違いない。

ワシはそう信じている。

1624年（日輝47年）

ようやくオーストラリアを領有化した。
やっぱり広いだけあって全島を制圧するのに10年もかかった。
この世界の日本の技術力を持ってしてでだ。
ロクに川も無いから進軍は困難を極めた。
マジで鉄道輸送が無かったら無理だった。
それまでは本土から頻繁に物資輸送が必要だったからな。
緊急性が高かったからエンジンを付けた1万トンクラスの大型輸送
船で運搬していた。
俺の能力が無かったら不可能だった。
最悪、俺自らオーストラリアに行って直接物資をコピーしようかと
も考えた程だ。

まあ、そんだけ無限に物資を輸送して補給路が確保出来ていたから
10年で済んだんだが。
イギリスは100年くらいかけていたよな？
流石、土木機械が完成しただけはある。
本土では使えないから北方や南方で基地設営などに使用している。
そうそう、ガソリン車も完成している。
見た目はT型フォードみたいだけどちゃんと走る車だ。
まあ、走る所が本土にはまだ無いけど。
シベリアやオーストラリアもまだ地面を舗装し終わって無いから走れ
ない。
技術力の無駄だ。

まあ、無駄話は良い。

とりあえずオーストラリアを取った事で一段落だ。
後はタスマニアやニュージーランドを取れば簡単だ。

それにオーストラリアは資源大国だからな。

原油、ウラン、金、ボーキサイドなどなど挙げればキリがない程沢
山ある。

それに開発すれば一大農業地にもなる。

そのために今から河川開発やダム建設だ。

これはそこまで時間はかからないだろう。

技術的には何ら問題は無いのだから。

とんでもない成果が上がった。

何と原子力研究所から中性子発見の報告が上がった。

17〜8世紀に核兵器が完成するかも知れないという事だ。

早速、放射線防御のための施設の建造だ。

研究所は小笠原諸島の島にしよう。

島なら何かがあっても封鎖が効くし、誤魔化せる。

それに小笠原諸島なら程よく本土に近いから連絡も楽だ。

電信などは既に完成しているから簡単な連絡などは簡単だ。

技術力は既に大正〜昭和に発展している。

本土の発展具合は精々江戸後期〜幕末レベルだが。

軍の施設では車が走っているのに、一般市民は馬車で移動する。
スゲエ格差だな。

ちなみにまた新たな戦艦が出来た。

三笠型戦艦

全長132m

最大幅23.5m

吃水8.3m

排水量1万5150トン

エンジン レシプロ機関2基・2基、石炭専焼円缶×25

最大速度18.0ノット

兵装

30.5センチ40口径連装砲×2基

15.2センチ40口径単装砲×14基

7.6センチ40口径単装砲×20基

4.7センチ単装砲×12基

45センチ単装魚雷発射管×4基

装甲

砲塔全盾254ミリ

舷側最厚部229ミリ。

あの「三笠」だ。

段々砲もデカくなり、速度も速くなってきた。
多分レシプロ機関は次が最後だろう。

もうすぐタービン機関が出来るからな。

自動小銃も完成した。

まあ、見た目は完全にAK47だ。

この銃なら大抵の環境でも正常に撃てる。

でも7.62ミリ弾を撃つから反動がデカい。

AK74みたいな小口径の銃が必要だな。

弾は5.56ミリで良いや。

NATO弾と同じだ。

多分これが良いんだろう。

後グレネードを装着出来るようにもした。

敵が集団で来たりすればかなり有効だ。

それと戦車も開発しなくては。

広い土地などには便利だし、何れは必要になる。

先ずは初期型のタンクだ。

そんなに難しくは無いらろう。

中国ではようやく清の元の後金が出来た。

今は明と戦争中だ。

本来ならこの年にはオランダが台湾に城を築き、台湾を領有化するが、この世界では無い。

明が台湾をシツカリ守っているし、台湾の近くは日本の縄張りだ。

オランダはおいそれと手は出せない。

城を築くにはそれなりの損害を覚悟しなくてはならないが、お得意様の日本との取引を無くしてまでは欲しく無い。

だからオランダは台湾に手出しをしない。

もう直ぐにそこは日本領になるからな。

まあ、もしもオランダがそれでも台湾が欲しけりゃくれてやるよ。

どうせ後々貰うから。

よくよく考えたらこの時代のロシアはあんまり強くない。

というよりこの時代では隣のポーランド・リトアニア共和国が欧州

最強国に近いんだった。

日本がウラル山脈以東を取ったから国力が史実より低い。

このままではロシアがポーランドによって滅ぼされるといふ現代ではあり得ない事が起きてしまう。

断腸の思いでウラル山脈以東からイルクーツク以東の極東連邦管区に国境を下げた。

その代わりにアラスカからカナダに侵攻して北米占領に動く。

これでロシアの国力も史実並みか、少し下ぐらいに増強するだろう。ウラルやシベリアもそれなりに開発はしといたが、しばらくはロシアをシベリア開発に当てたいから開発していた所は解体して回収した。

これで史実通りシベリア開発に動くだろう。鉄道や要塞線などこの時代にはあり得ない物は全部解体して極東連邦管区に回収した。

新たに要塞線や鉄道を構築する際に用いた。

こうなったらウラル要塞線以上の要塞を建造して絶対ロシアの侵攻を阻止する。

代わりに北米占領に力を入れる。

今ならフランスはあんまり進出していないから大分手に入れられる筈だ。

しかし大部分を手に入れると本来北米開発に使用する筈だった戦力が他に移されるのも困るからあまり占領しない。

取るのは主にカナダだ。

カナダならイギリスはフレンチ・インディアン戦争に勝つまではあまり領土を広げていなかった。

精々ハドソン湾周辺だけだ。

だからカナダは半分以上取り、アメリカはフランスとスペインの残

りで良いや。

後で北米は貰うし。

1628年（日輝51年）

タスマニア、ニューギランドを併合。

これでデカイのは片が着いた。

ニューギランドやオーストラリアには農業、牧畜、養蜂、羊毛、養蚕などを頑張つて貰おう。

本土の食料や衣服のために働いて欲しい。

キッチンと給料は出すし、福祉サービスも行う。

以前の生活よりは楽になるだろう。

どうしても嫌だと言うのなら極東植域かアラスカの開発をして貰う。

涼しいぞ。きつと。

ちゃんと暖房設備もある。

食料も給料も休日だってある。

死ぬまで働いて貰うからなあ。

中国情勢は順調だ。

後金は朝鮮に侵攻して丁卯の乱を起こして平壤を襲った。

まだ北朝鮮だけか。

1636年に丙子の乱が起きて朝鮮は清に併合されたんだっただな。

後金軍はまだ満州さえ制圧出来ていない。

まだしばらくは様子見だな。

それじゃあ、まだ領土拡大に動きますか。

今度はニューカレドニアを含むロイヤリティ諸島やニューヘブライ

ズ諸島、ソロモン諸島などを目指すか。
まだまだいっぱいあるからな。

次は本土の発展具合だ。

多分日本初の博物館と美術館を設立。
貴重な美術刀や古刀、武器、工芸品、美術品、絵画、書などなど現代では既に無くなった物などを保管、展示している。
もしかして世界で最初の博物館と美術館か？

全国の土産物を扱っているセレクトショップを東京に開設した。
平和になり、裕福な暮らしが出来るようになったために旅行が流行っている。
だからどんな土産物があるか解れば行きたくなるだろう。

日本海軍視点

今日も何時も通り訓練だろう。
そう彼らは思っていた。
彼らはまだ学校を卒業したばかりの新兵だ。
だから船の操舵法や砲術、雑用などひたすら訓練して覚えている最中だ。

そんな彼らは何時も訓練している本土や沖縄を離れ、遠い南洋諸島にやって来た。

何か特別な事でもあるのか？と多少の期待感を覚えていた。しかしその期待は裏切られた。良い方向に。

「教官殿、あの船は一体何なのでありますか？」
多少震えながら自分達の教官に尋ねた。

周りの同期生達も同じ事が聞きたかったのか、頷く。

「あれは我が大日本帝国海軍が誇る最新鋭戦艦、扶桑だ。」
新兵達の目の前には今まで見たことも無い程の巨大な船があった。しかしただ大きい訳では無い。

何故か船の中央には煙突が立っている。それに何かが違う。と新兵達は分かった。

自分達が見てきた戦列艦とは何かが違う。と核心出来た。しばらく呆然と見ていると教官が突然質問してきた。

「貴様等、あの船は何で動力を得ていると思う？」
という質問だった。

新兵達はあまりの質問に反応出来なかった。難しく黙ったのでは無い、簡単過ぎて黙ったのだ。

この時代の常識では船を進ませるにはオールで漕ぐかマストで風を受けて風力で進むしか無い。

そんな当たり前の事を今更聞かれたので、もしかしたら引っ掛けでは？と疑ってしまったのだ。

「どうした？答えられる者はいないのか！？」
教官は誰も答えない事にイラついていた。だから新兵達は分かりきった常識的な解答を述べた。

「は、三本のマストが立っている事から風力によって進むと思われ
ます！」

これしか解答は無いだろう。
誰もがそう思った。

しかし、

「不正解だ。」

教官は違うと切って捨てた。

新兵達が信じられない。と言いたげだが、相手は教官だから黙って解答を聞くしか無い。

「扶桑は蒸気機関によって進む。」
と教官は答えた。

新兵達は皆「：は？」と思わず言ってしまった。

本来なら上官に対して言っではいけない言葉だが、流石に上官も今回は見逃した。

彼らにとっては初めて聞く言葉なのだ。仕方がないと。

「確かに風力でも進む。そのためにマストをわざわざ三本も立てているのだからな。しかしそれだけではない。」

そうが言った後に教官は手を振って合図した。

一体何が始まるのか？

と思いつながら新兵達が見ていると、突然扶桑の煙突から煙が出て来た。

暖でも取っているのか？

それが新兵達全員が思っている事だった。

煙突のそれ以外の機能など知らないからそう考えた。

しかし突然、あり得ない出来事が起きた。

扶桑が進んでいる。

いや、進む事自体は別に不思議は無い。

船は航行するために作られたのだから当たり前だ。

しかし進み方が変だった。

何故なら三本あるマストは全て収納してある。

あれでは風力を得られない。

まあ、それでも進む方法はある。

漕げば良いのだ。

ガレー船のようにオールで漕げば進む。

それが当たり前。

しかし見た所オールらしき物も見当たらない。

なのに扶桑は進む。

どんどんスピードも速くなっていく。

新兵達はまるで魔法を見たかのように仰天していた。

青天の霹靂とは正にこの事を言うのだろう。

教官はニヤニヤしながら新兵達を見ていた。

しばらく呆然としていた後、新兵達は思い出したように教官を見て聞いた。

「教官殿、あの扶桑は一体どのようなにして進んでいるのでありますか？」

全員の言葉を代弁するかのように聞いた。

全員が教官を見ていた。

何故進むのかを知りたいのだろう。

「うむ、分かった。それでは答えを教えよう。」

と言って戻ってきた扶桑に全員で乗り込んだ。

新兵達は最初は蒸気機関というものがどういったものなのかが分からなかったが、現物を見せて貰い、動く仕組みなどを詳しく解説して貰い、何となくだが理解出来た。

何と風力も必要無しに長時間航行可能という技術にまたもや驚かされてしまったのだった。

そしてこうも思った。

こんな見たことも聞いたことも無い技術を持っているなんてやはり我が帝国は世界最強国家なのだ！と新兵達は興奮した。

その様子を見ていた教官は新兵達にまたもや聞いた。

「何故帝国はこのような素晴らしい技術を有している事を発表しないと思う？」

そう聞かれて新兵達も「確かに……。」と思った。

強い兵器を保有しているのなら世界中に発表した方が良い。

そうなれば外交など様々な面で+となる。

しかし帝国は発表しない。

新兵達が悩んでいる様子を見て教官は答えた。

「それは優位を保つためだ。今この扶桑を公開すれば海戦においては世界最強となるだろう。しかしそれは一時的なものだ。

時間が経てば他国も開発する。そうなれば帝国の優位性が失われる。だから発表はしない。いざ必要になった時に使用すれば敵国は知らないから対応に手間取る。それを狙っているのだ。」

その説明を聞いて成る程、と思った。

確かに帝国で作れたのだ。

時間をかければ他国も必ず作り上げるだろう。

と納得した。

そして教え子達が考えている様子を微笑ましそうに見ていた教官が突然真剣な顔になって言った。

「貴様等に警告しておく、この島で見聞きした事は超機密事項だ。

誰にも話してはならない。

例え親兄弟、親類、妻などにも言ってはいけない。もし喋ればお前らの首だけでは済まない。」

その言葉に扶桑を見て舞い上がった感情が消え失せた。

確かにこの事を話しては秘密にしている意味が無い。
もしも話したら文字通り首が飛ぶ。

おまけに自分達の首だけでは済まないと警告された。

もし家族などにも喋れば本当にやるだろう。

それぐらい大日本帝国の軍規は厳しいのだ。

機密漏洩は国家転覆罪になってしまふから言い逃れは不可能だ。

必ず死刑となる。

そう理解して決して誰にも話さないと新兵達は全員誓いを立てた。

彼らも軍の洗脳教育を受けているので命令されれば話す事はまず無いが、もしも酒の席でついウツカリ話してしまう可能性はあったが、今の誓いによって消え失せた。

ウツカリしゃべって家族親類纏めて処刑などはされたくはない。

だから決して他人に話す事は無いだろう。

何か聞かれても外洋に出た場合の訓練を行っていた。と答えるだけだろう。

その後、真剣な顔になった後に扶桑の操作法や砲術訓練などをして南洋諸島を後にした。

また扶桑の訓練のためにちよくちよく南洋諸島に来るらしい。

何時か使う時に備えて。

1630年（日輝53年）

ロイヤリテイ諸島、ニューヘブライズ諸島、ソロモン諸島を領有宣言。

ここら辺から一般人には何処か分からないだろう。

かるうじて分かりそうなのは資源の宝庫であるニューカレドニアを含むロイヤリテイ諸島かな？

後の島はほとんど資源も無い。

マキン、タラワなど激戦地になるギルバート諸島には火薬の原料になる資源などがあるだけだ。

後の島はただ領土と領海を広めるためだ。

太平洋は日本の支配地域で固めたいからとりあえず取っとく。

警備とかが面倒くさいけどやるしかない。

イギリスやオランダ、スペイン、アメリカなどに島を少しほっといたら保護占領をされかねない。

島によって10～100人ぐらい警備を残しておけば良いだろう。

後々港や飛行場を建設すれば良いんだし。

飛行機が出来れば島々の移動も楽になるだろう。

まあ、例え出来てもお披露目出来るのは後200年以上先か？

それにここらの島には水や食料などが不足しているから定期的に物資を運搬する必要がある。

オーストラリアやニューギニア島を中継しないと本土からの輸送はキツイな。

タンカーが使えれば楽だけど、緊急性が高い時以外は使えない。ちよくちよく高速輸送船が通っていたら流石にバレル。一等戦列艦を輸送船に使うしか無い。

あれなら多くの物資を運べるし、この時代にあっても不思議は無い。

それに役所や学校も建てなくては。

南洋庁みたいな統括する施設が必須だ。

ある程度大きくて河川があれば最高だな。

無ければ大きさと利便性で選ぶが。

中国情勢だが、1630年では後金軍は朝鮮から一旦満州に退いている。

朝鮮では乱が起きて混乱状態だ。

大陸は大変だねえ。

でもまだ明は持ちこたえているからまだ援軍は出さない。

もう少しピンチになって貰わないと都合が悪い。

少なくとも後10年ぐらいは明は助けない。

新たに戦艦が完成した。

最後のレシプロ機関搭載戦艦だ。

薩摩型戦艦

全長137・2 m

最大幅25・5 m

吃水8・4 m

排水量 1万9372トン

エンジン

レシプロ機関 2基・2軸 石炭・重油混焼缶×20

最大速度 18.25ノット

兵装

30.5センチ 45口径連装砲×2基

25.4センチ 45口径連装砲×6基

12センチ 40口径単装砲×12基

7.6センチ 40口径単装砲×4基

45センチ単装魚雷発射管×5基

装甲

舷側最厚部 229ミリ

甲板最厚部 76ミリ

ドレッドノート級戦艦が出るまでなら最強だろう。

今までは石炭専焼缶が当たり前だったのに重油も使えるようになった新型艦だ。

でも次は弩級じゃなくていきなり超弩級にいく予定だ。

弩級戦艦ってあんまり無かったしな。

しばらくは大艦巨砲主義で行くか？

軍縮で削られた戦艦も造ろうかな？

航空機の開発も順調だ。

もうすぐ初の飛行も出来るだろう。

航空機が出来れば偵察能力はグッと上がる。

航空機が出来るまでは大艦巨砲主義で行くしか無いしな。

しばらくヒマだから内政に専念するか。

と言っても、大体の問題は始めの時点で方を付けてある。

前の世界を元にして明らかに無駄や無意味な事は始めから無くしている。

例えば地方の予算をやるのは大蔵省で監視をするのは内務省など、明らかに癒着するであろう事は勿論一律している。

このように明らかにおかしい事は日本統一前からやっていたから大してやることが無い。

しかしこの時代では良い事もある。

この世界の大日本帝国は立憲君主制ではなく、絶対君主制国家だから一々国民に知らせる必要などが無いから幾らでも誤魔化せる。

前の世界ではある程度の言論の自由など自由があつたが、この世界で唯一あるのは宗教の自由だけだ。

後は全部規制出来る。

だから兵器開発や技術開発などの予算が国家予算の半分以上を占めていても誤魔化せる。

前は巧妙に隠す必要があつたが、今はちょっと隠せば済む。だから開発などはかなりしやすい。

海域や領土が増えたから訓練場所にも困らない。

オーストラリアやロシア極東部で核実験も平気でやれる。地下核実験だかな。

残念ながらまだ出来て無いけど。

他にも人体実験はやりたい放題だからやりまくっている。

おかげで医療技術はかなり進んだ。

多分昭和中期レベルにも達しているだろう。

まあ、公表しているレベルは精々明治初期レベルだけ。

それでも平均寿命が伸びているから働き手も増えている。

定年を迎えても技術を継承させているから技術の質も上がっている。

まるで理想を体現したかのような国だな。
日本人から見れば。

1632年（日輝55年）

フィジー諸島、サンタクルーズ諸島、トンガ諸島、サモア諸島、ギルバート諸島を領有化。

順調に太平洋を制圧して来てる。

ほとんどは資源も労働力も無い利用価値が低い領土だが、立派な領土や領海だ。

何れは大きな意味を持つ。

これらの島々を制圧すれば後々に邪魔になるアメリカ合衆国を牽制出来る。

まあ、この時代では西海岸はスペイン領だが。

史実から見てスペインはもうすぐ落ちる。

無敵艦隊がイギリスに負けた時点でスペインの時代は終わりを告げたのだから。

フィリピンだって何れは手放さなくてはならない。

あまりにも遠すぎて管理、維持出来ない。

だったらこの世界では日本が買おう。

大した資源は無いが労働力はある。

未開発地域なんて幾らでもある。

寒いシベリアやアラスカ、暑いオーストラリアやニューギニア島や太平洋の島々。

頑張って貰わなくては。

人口や支配地域が増えて国民を整理するのが面倒になってきたから国民背番号制を実施。

社会保障番号を与えて住所、年収、経歴、年金受給記録などを簡単に分かるようになったから現代みたいな記録ミスは起きにくい。

後は裕福になったんだから消費税、所得税、市町村税、貯蓄税などを導入。

消費税は10%と決めた。

計算しやすい。

その分多少公共サービスや福祉サービスが良くなるから文句無いだろう。

相続税は設けなかった。

あれば色々面倒だからな。

地方行政改革を行う。

結構な数がある小規模部落などは統合合併して減らす。

一々予算を振り分けてたらやってられない。

それとこの日本では各市町村長は国が派遣しているが、そいつらが横領などをしないために弁護士、税務士、会計士などを就け、横領などを監視につける。

中央から遠く離れると不正がしやすくなるから監視をつける。

もし汚職をしやがったら処刑してやる。

35 (前書き)

この話はご都合主義です。

明らかなおかしい点が多々ありますがそこは勘弁してください。

1636年（日輝59年）

エリス諸島、フェニックス諸島、ケルマディック諸島を領有化。ここからは本当に「何処？」と聞きたくなくなるような諸島ばかりだな。

でも段々ハワイに近付いて来たな。

ハワイに軍港や基地を建設すればアメリカや太平洋の睨みになる。

それに観光産業を育てればそれなりの収入も期待出来る。

現代のハワイ並みとは行かなくても、それなりに発展出来る。

そのためにはライン諸島や仏領ポリネシアを取らなくてはな。

もうすぐ中国でも動く必要があるから一気に取るか。

朝鮮が後金に併合された。

そして後金は国名を清に変更。

今は北京攻略を伺っている。

ようやくこの時が来たな。

かなり待ったが、ようやく満州と朝鮮を平定したか。

これから清は北京を落とすために長城に攻め込む。

まあ、中々攻め落とせないだろうな、明は史実程疲弊していないから激しい抵抗をするだろう。

清側の最前線は朝鮮軍が勤める事になる。

ソ連みたいに督戦隊を背後に配置して無理矢理戦わせる筈だ。

まあ、こつちもその方がありがたいが。
勝手に減らしあってくれ。
後々攻める時に楽になる。
そして満州、朝鮮、沿海州、台湾、海南島は日本領になるんだから
な。

護衛艦隊を設立した。

領土がかなり広がったから商船や輸送船をガードするために艦隊を
編成した。

輸送船を守るのに海軍を使つてられないしな。

それと海兵隊を設立した。

一々陸軍の兵士達を軍艦に載せるのも面倒だしな。

専門の部隊を作つとけば対応も早くなるし。

戦車が完成した。

まだ初期型のタンクだ。

しかしこれで陸上戦力は大幅アップだ。

実戦配備として沿海州制圧作戦で使おうかな？

流石に旅順や朝鮮には使えないが、沿海州なら遠いからバレル前に
制圧すれば良い。

ある程度実戦データも欲しいし。

航空機は初飛行には成功したが、まだ戦闘機は出来ていない。

あれば楽なんだが、まだロクな航続距離を持っていない航空機を他
国で飛ばす訳にはいかない。

航続距離が伸びるまでしばらくはオーストラリアや南洋諸島で開発を続けるしか無いな。

飛行船なら航続距離は問題無いが、速度が遅いしデカイからバレる。しばらくは航空偵察は無理だな。

現在の大日本帝国の人口は約1500万人。

史実では1200〜1300万人だったからそれなりに増やす事に成功した。

しかし海外領土は史実とは比較にならない程に増えた。

だから警備や新たな領土獲得のための兵士の数が足りない。

だからと言って領土拡大を止めると後々面倒になるから今から頑張るしか無い。

だから本当はしたくなかったが、植民地人達を使う事にした。

一等国民となった植民地人達を士官学校や兵学校に入れて兵士として教育する。

ちなみに一等国民になるには占領後100年以上経ち、厳しい審査や適正などを全てクリアした国にのみ与えられる。

例え100年以上経とうと審査や適正をクリアしなくては一等国民には昇格出来ない。

現時点での一等国民は北海道と沖縄だけである。

どちらも日本人化に成功したため、今年一等国民に認められ、本土の人間と等しい権利と義務を獲得した。

権利は国政に携われるように職に就けるようになったり、社長職に就けるようになった。

義務は今までは収入が少ないだろうからと何種類か免除されていた税金を全て払わなくてはいけないことや、徴兵義務だ。

このように一等国民に昇格した者達は基本的に危険度が低い太平洋の島々などに派遣される。

そんな所に近代兵器を装備する本土の兵士を使うのは勿体無過ぎるからだ。

17世紀の武器を持つ兵士達で十分だ。

ちなみに反乱などを起こさないように念入りに洗脳教育を施している。

まあ、もし起こしても問題なく鎮圧出来るけど。

それに反乱騒ぎや独立運動を起こしたら二等国民に降格される。

そうなれば自国に帰った反乱勢力や独立勢力は鎮圧後に国民からリオンチか処刑されるな。

ようやく得た権利を棒に振ったんだからな。

本土のように裕福になれるチャンスを奪ったんだからな、情け容赦なく殺られるだろう。

だから注意はするが、反乱や独立は起きないだろう。

ロクな武器も持たない三等国民や二等国民じゃあどうなるかは火を見るより明らかだ。

1640年（日輝63年）

現代で言う仏領ポリネシアを領有化。

これで太平洋はほとんど手に入れた。

後はライン諸島やミッドウエー島、ハワイ諸島だけだ。

ちよつと遠いから補給等は難しいが、何とか出来るだろう。

この海域なら大型タンカーなどを使ってもバレない。

こんな遠くに行くためには何か所も中継しなくては不可能だ。

しかし中継する島々は全て日本領で、立ち入り禁止区域だ。

補給無しで帆船が太平洋を横断するなんて自殺行為でしかない。

それにそこまでの価値は無いからな。

遙か遠くに日本が海外領土を持ったと分かってても別にそこまで興味は無いだろう。

今はヨーロッパ方面や大陸方面が忙しい時期だ。

儲け口は近くにある。

わざわざ辺境に来たりはしない。

だから明らかに時代が違う艦船を使っても問題無い。

危ないのはアメリカだが、アメリカはまだイギリス領だ。

こっちに来るようになるのは後200年後。

中国情勢はいよいよ佳境だ。

清軍は山海関を攻め始めたから明にはもう余裕は無い。

長城が破られたら首都北京や南京も落とされる。

そろそろ交渉に移ろうか。

交渉内容は、明に援軍を出して清を代わりに打ち破る。その代わりに旧清領の満州、朝鮮、沿海州と台湾、海南島を大日本帝国に移譲する。

悪い話では無いだろう。

満州や沿海州は漢民族国家では無いから統治しにくい。今回みたいに内乱が起きるかも知れないから友好関係である日本に任せた方が自分達も楽だ。

それと台湾や海南島は明には大した価値は無い。台湾なんて日本から言われるまで存在すら確かじゃなかった。両方とも島だからくれてやるのに抵抗は無い。

それに日本側の要求を退ければ日本が攻めてくるかも知れない。軍事力を増強している日本と戦えば負けないだろうが、かなりの被害が出る可能性が高い。

清とやり合って疲弊している明にはそんな余裕は無い。だから受け入れるしか無いんだよ。

まあ、こっちは良いよ？
勝てるから。

最悪戦車や航空機を出して攻めれば沿岸部は占領出来る。日本としてはもう少し後なら楽に勝てるけど、今でも勝とうと思えば勝てる。

出来るならまだやりたくは無いです。

ようやく超弩級戦艦が完成した。

と言っても巡洋戦艦だが。

金剛型巡洋戦艦

全長214.6m

最大幅28m

吃水8.1m

排水量2万7500トン

エンジン

タービン機関2基・4軸、石炭・重油混焼缶×36

最大速度27.5ノット

兵装

35.6センチ45口径連装砲×4基

15.2センチ50口径単装砲×16基

7.6センチ40口径単装砲×8基

装甲

砲塔前盾254ミリ、舷側最厚部203ミリ、甲板最厚部70ミリ。

魚雷発射管や礼砲は付けなかった。

意味無いからな。

まだウトランド沖海戦の戦訓を取り入れて無いから甲板防御や砲の仰角が低い。

史実のようにおいおい改装しよう。

訓練などでもある程度戦訓は得られる。

ウトランド沖海戦みたいな設定にしてやらせれば自然に気付く。
分からなきや実弾を使わせてやる。

中国サイド

現在明帝国は最大の危機を迎えていた。

満州地方の女真族が反乱を起こし、満州を支配した後に朝鮮も併合して清を建国。

そして清は明帝国を滅ぼすべく現在は山海関に攻撃を加えている。現在は何とか山海関を維持出来ているが、後何年保つか分らない。このまま清に滅ぼされるのか、そう思っていたら明帝国の皇帝である崇禎帝にとある話が来た。

隣国の島国の大日本帝国が清領の満州、朝鮮、沿海州それと台湾、海南島を日本に譲渡するなら明の代わりに清を滅ぼしても良い。

という内容だった。

清領ならともかく、明の領土である台湾、海南島を寄越せというのはムカついて断ろうとしたが、よくよく考えれば悪い話では無い。満州や沿海州は異民族の土地だから元々統制は取れていなかった。だから何れはまた騒ぎが起きる可能性が高い地域を日本に押し付けるのは悪く無い。

台湾や海南島を失うのは痛い、所詮は島だ。

それに台湾は日本のオランダからの侵攻注意が無ければ存在すら口々に知らなかった。

海南島もほとんど手付かずの状態だったのだ。

だからくれてやっても問題無い。

忠臣（明視点）に恩賞を与えるのは支配者として当然の行いだからな。

それに調べてみたら日本は最近北の方や南の方に勢力を拡大して軍事大国となっただけ。

もしこの交渉を断れば清に乗じて明に侵攻する可能性もある。

流石の明帝国も二国を相手には出来ない。

更に日本側は交渉成立の暁には武器や兵器、それと食料などの物資も輸出すると言ってきた。
これだけの好条件が揃っているのだ。
日本の交渉を承諾する。と言うよりは承諾するしかない。
今の明帝国では選択肢が無いのだ。

今は日本を使い、力を蓄える。
そして国力増強のために領土拡大に動くのだ。
満州は日本の領土になるので無理だが、まだ周辺には侵攻可能な土地はある。

明帝国はまだまだ滅ばん！
だから今回は癪だが、日本の要請を受け入れるのだ。
あくまでも日本から頼んで来たのだ。

やっぱり中華思想は強かった。

北郷サイド

ようやく教育レベルが上がって来た。
最初は一筆書きの草書体から楷書体に変える事や、横文字を書く際は左から書くなど小さいことから改革してきた。
最近では字を書くのは筆から金属製のペンや金持ちなら万年筆を使うようになった。

やっぱり筆よりペンの方が書きやすい。
勿論筆で書いている者達もいるが、極少数だ。
今では筆を使うのは習字の時間か書を書く人達だけだ。

カタカナも使われるようになってきた。

外国語を和製英語に変えて使う事が多くなったから自然と全員が使
うようになった。

意味さえ解れば日本語より分かりやすいからな。

教科も少しずつ増やしていった。

最初は国語や社会、歴史、地理、算数、簡単な理科などだった。
しかし今は現代国語、数学、科学、化学、物理学、生物学、経済、
外国語などなどレベルが高い教科を教えられるようになった。

と言っても現代みたいなレベルでは無く、基礎の基礎だ。

一般生活に役に立つものや身近な現象の説明だけだ。

まだまだ質は低いが、江戸時代の人間に多少でも理解させれた。

それでも大きな一歩だ。

これから国民全体の質を少しずつ少しずつ上げれば仕官学校や大学
に來た奴らに1から教えてやらずに済む。

今までは近代的な考え方や知識などを1から教えてやらなくては
いけなかったからな。

物凄い手間だった。

これから兵器レベルは更に上がる。

そのためにある程度の教養は最初から教えとく。

このままいけば18世紀中には現代の中等教育レベルには上げられ
るだろう。

そうなったらスゲエな。

18世紀の時代、大抵の国では読み書き出来る人口は確かまだ10

%未満。

しかし日本は現在で識字率は80%以上。
明らかに教育レベルが違い過ぎる。

まあ、史実の江戸時代もかなりの高等教育を施していたらしいから
な。

識字率も諸外国に比べ極めて高かった。

改めて思うけど、日本で以外にスゲーんだよな。

1641年（日輝64年）

大日本帝国は明帝国に参戦。
軍を派遣した。

アムール州からは戦車で構成された機械化集団が沿海州に攻め入り、
朝鮮、旅順には上陸部隊が侵攻した。

沿海州で警備をしていた清兵達は突然進軍してきた日本軍に驚いた。
何故なら戦場は遙か西の満州や北京だと思っていたので、全く心の
準備が出来ていなかったのだ。

しかし敵は待つてくれない。

アムール川を越えて続々と侵攻を続けた。

一方清国軍もただやられている訳では無い。

最初は動揺して殺られていたが、徐々に落ち着いて来てようやく反
撃を開始。

しかしここでやっと上がって来た清国軍の士気を打ち砕くものが現
れた。

突然目の前に鉄の箱のような物体が進軍してきたのだ。

「何だあの鉄の塊は？」

この時代の人間に戦車が理解出来る訳が無く、清国軍はただ見てい
るだけだった。

そしてその鉄の塊がある程度自分達に近付くと、突然火を吹き砲弾
を放って来た。

『ドーン!!』

という轟音が鳴り響き、前方に固まっていた清国兵達が吹き飛ばされた。

「ギャー!!」

「何なんだあれは!?何か生き物なのか!??」

清国兵達は突然攻撃してきた物体が何か分からないので恐慌状態に陥った。

恐くなり、隊から離れて逃亡する者は日本軍の狙撃部隊や自動小銃を持つ部隊によって皆殺しにされた。

残った者達は目の前の化け物を恐れ、次々降伏していった。

何せ槍も弓も銃さえ通用しない相手だ。

どうしようも無い。

他の戦線でも清の騎馬軍団が日本兵に接近したら日本兵が何かを騎馬軍団に投げた。

そして突然とんでもない光と音が鳴り響き、耳や目が使えなくなり、馬が混乱している所を機関銃で殲滅された。

他の戦線でも毒ガスやダムダム弾など現代では条約違反な兵器を兵器で用いていた。

こうして沿海州は瞬間に陥落して日本軍に占領されたのだった。

一方朝鮮方面はここまで混乱していなかった。

沿海州はともかく、朝鮮や満州は明に近いので戦車は使えない。

万一見られたら大変だからな。

だから木製だが輸送船に乗ってきた日本軍が朝鮮に上陸して攻め込んだ。

戦車こそ使わないが、明とは微妙に距離が離れているから自動小銃で朝鮮軍を蹂躪した。

口々に火縄銃さえも持っていない朝鮮軍は自動小銃に翻弄されて成

す術なく、簡単に降伏した。
やっぱりこの時代でも朝鮮軍は弱いんだな。
これなら沿海州の清国軍の方が頑張っていたぞ？
戦車相手に騎馬で攻めて来たんだからな。
まあ、踏み潰されて終わっただけ。

一方朝鮮軍は支配していた清国軍を倒すと簡単に降伏してきた。
我先に高官達を連れて来て手土産として渡して臣従を誓ったり、女
を賄賂代わりに差し出して来るなど、ある意味分かっていた。
確かに新たな支配者に媚びを売つとくのは大切だ。
今後の待遇がかかっているからな。
しかし相手が悪い。
日本軍には賄賂は通じない。
賄賂を受け取っている事がもし万が一バレたら国賊として処刑され
る。
その場合、自分だけでは無く家族や親戚にも害を為す。
処刑を免れたとしても、一生国賊の烙印は消えない。
だから日本軍將兵達は決して賄賂を受け取らない。
賄賂を渡して来た朝鮮人達は拘束され、処刑される。
国に有害な存在として。

こうして朝鮮自体は簡単に占領出来た。
むしろその後の処理の方が時間がかかっていたのだった。

そして最後は満州だ。
しかしこれには面倒くさい問題がある。
北部なら簡単に占領出来る。

明から遠く離れているから戦車を用いる事も出来るから簡単に制圧出来るが、問題は旅順や山海関近くにいる本隊だ。

明に近いから戦車は勿論、ボルトアクション式ライフルさえも使えない。

もし見られたり、最悪明の手に渡ったりしたら物凄く面倒くさい事になる。

もしそうなたら一刻も速く明を潰さなくてはならない。

しかしそれはまだ早い。

いくら圧倒出来ても大陸は広い。

制圧するには長い時間と多大な犠牲が生じるだろう。

だからそうならないように出来ればミニエー銃を使いたいが、念のためにこの時代にあってもおかしくは無い、ゲベル銃で勝負を挑んだ。

使うのは随分久しぶりの博物館クラスの旧式銃だが、この時代なら最新鋭だ。

長篠の合戦のように連続斉射して敵騎馬軍団を駆逐する。

清国軍も日本側が売った火縄銃で対抗するが数、錬度共に圧倒する

日本軍に敗退して後退を続けた。

日本軍としては明から離れて欲しいので満州方面に押し続けた。

そして明からある程度離れたら自動小銃を使い、一気に攻め立てる。

大砲や迫撃砲、機関銃も連発して清を追い詰め、遂に清の王である

太宗を捕縛した。

こうして後の大国、清を滅ぼした。

太宗など高官達を明に引き渡し、代わりに約束通り旧清領、台湾、海南島を貰った。

何か偉そうに「貴国に」を与えよう。」

とか言われながら移譲の書類を渡された。

相変わらずの中華思想か？

言っちゃあ悪いが現在の中国ってそんなにデカくも無いし、強く無いから威張るのは不味いかと思うのだが…。

幾ら友好関係を築いていても、相手が自分より強かった場合、酷い目に遭わされるのは確実だ。

こっちは初めから争う気は無いから良いけど、イギリスやフランスなど誇り高い国相手には不味いと思うけど？

まあ、良いや、アイツ等が来ればまた介入理由になるし。それに来る頃には明が無くなっている可能性があるしな。

満州と明の国境線については史実の満州国と同じぐらいの国境線を引いた。

明は北京では日本領土に近すぎるとして南京に首都を移転した。そして日本から様々な武器や兵器、物資を買った事で何とか疲弊した国を回復した。

今は力を貯めて蒙古や新疆などを攻める準備をしているようだ。まあ、こっちからも多少煽ったからな。

「外蒙古などを攻める気は無い」と祝宴でわざと漏らしたから更にやる気になったし。

そのせいか今までより通商関係の強化と更なる物資の輸出を求めて来た。

勿論日本側は了承した。

明には出来るだけデカくなって貰う。

その方が後々楽になるからな。

早速占領地の統制だ。

各地に役所や税務署、軍施設を建築して支配を固める。現地民の皆様にはシベリアの広大な領土開発のために移住して頂いた。

大陸から離れていた台湾ならともかく、常に大陸に接して考え方が固まった朝鮮人や満州人は扱い難い。

旧清領には日本人を代わりに移住させて日本民族が支配する。その方が簡単に支配出来る。

満州や朝鮮は残念ながら明に近いから大した発展はさせられない。精々本土と同レベルか少し低い程度。

沿海州はかなり発展させる気だ。

ようやく近くに軍港を建設出来るようになった。

今までは樺太を経由してシベリアに物資を届けていた。

これで直接運搬出来る。

早速シベリア鉄道の延長だ。

これから働いて下さる皆様への補給線を構築しないと。

それに別に強制労働させる訳では無い。

キッチンと賃金は払うし、家も用意する。食料も配給するから食うに困る事は無い。

暖房器具も設置するから家の中で凍死することも無いだろう。

ただしシベリアから出る事は許さないが。

長生きして貰うよ。

開発が必要な場所は腐る程あるんだ。

特に極北地域とかね。

ちなみに太平洋の島々の方々はアラスカやカナダの開発をさせている。

こっちは全員強制では無い。

あくまでも日本にとって有害民族のみだ。

アラスカならシベリア程は酷くないだろう、きっと。

真空管技術が上がって来た。

これで複雑な弾道計算なども可能になるだろう。

レーダー技術も上がっているから軍艦に搭載出来るレーダーの開発も近い。

頑丈で整備がしやすいようにしなくてはならない。

敵弾が命中する度に壊れるようでは使えないし、整備が難しいのでは普及しない。

それと暗号技術も高めなくては。

今の時代では無電を打てるのは日本だけだが、何れは他国も出来るようになる。

だから暗号技術を今から高めなくては。

暗号を破る専門チームでも編成して切磋琢磨すれば破る方も組む方も技術が上がる。

1642年（日輝65年）

早速手に入れた台湾や海南島の整備だ。残念ながら海外貿易の拠点とするため、近代的な発展はさせられない。

軍港や港湾設備、商館などの貿易に必要な設備を建てたり、インフラ整備はするが、それだけ。

軍港に停泊する軍艦は精々威嚇のための一等戦列艦。インフラもこの時代相応なものだけ。

精々上下水道や道路の整備。後は役所など統治に必要な建物や学校、病院などだ。

この時代、台湾はまるで流刑地みたいに荒れているからまずは平定だ。

軍を派遣して有害勢力の粛正。

治安がある程度上がった後は住民登録をする。

台湾にも北郷商会などを出店して雇用を確保して税収も確保する。勿論公共事業もバンバンやるが。

そして日本語教育をして日本人化を図る。

しばらくは三等国民として頑張って貰おう。

海南島は資源が豊富だから公共事業を使って採掘させる。

安南やシャム^{ベトナム}帝国^{タイ}、ビルマ王国、蘭印などとの重要な貿易拠点にもなる。

だから台湾同様、開発を進める。

今まで明からはほとんど放置されていた台湾民や海南島民は急激な開発に戸惑っていた。

まあ、知らない内に聞いた事も無いだろう他国の領土に組み込まれて、急激に開発をされているんだ。

台湾人達なら史実の経験上、教育方法を間違えなければ信用出来る民族になる。

同じ中国人でも本土の中国人とはエライ違いだよな。

まあ、ずっと放置していた宗主国より、開発をしてくれた他国の方を選ぶのは当然か。

今は亡き清や蒙古やチベット侵攻の準備のために様々な物を買ってくる国のおかげでかなりの収益を得れた。

これを気に、国立銀行制度を制定。

日銀を設立して紙幣を発行した。

これで重い金貨を持ち歩く事は無くなる。

少なくとも国内では。

外国との取引は以前として金貨や銀貨だけだ。

各県に国立銀行の支店を設立して硬貨と紙幣の交換などが必要だ。

少なくとも県庁所在地など人口が多い地域には建てないと意味が無い。

金は凄い掛かるが必要だ。

通貨も両から円に変えよう。

そっちの方が分りやすいし。

最近本土では明治時代みたいにレンガ建ての建物や鉄筋コンクリートの建物が増えてきた。

木造住居も2×4の現代式の建築法が好まれるようになって来た。日本は地震大国だから厳しい建築基準を設け、徹底させている。

首都東京では初期的なビルが建ち並んできている。

市場の国内シェアNo.1を誇る北郷商事は都内一等地に本社として鉄筋コンクリート製の6階建てというこの時代では立派な高層ビルを建てた。

一気に街並みが近代化したな。

と言ってもまだ東京や大阪など大都市だけだ。

地方都市はまだまだだし、田舎は江戸時代のままだ。

ゆっくり浸透させれば良い。

史実のペリー来航の年には物凄い国にはなっただけだ。

1650年（日輝72年）

ライン諸島、ミッドウェー島、ジョンストン島、ハワイ諸島を領有化。

これで太平洋はほぼ制覇した。

後は各島の整備だな。

重要拠点になる島々は軍港など軍事施設を建築して立ち入り禁止区域に設定する。

例えて言うなら南洋諸島やフィジー諸島、オーストラリア、ハワイ諸島などそこそこ大きくて軍事施設設置に役立つ場所。

オーストラリアでは兵器の研究や試作、訓練などをする。

バカデカいからうつつつけた。

例え核実験をしてもバレないだろう。

後は蘭印を貰えば完璧に太平洋を支配出来る。

蘭印を取る方法は既に考えてある。

だから今は待つだけだ。

それにしてもこれで領土、領海共に世界一になったな。

まあ、ほとんどの場所は人口が少ないし、発展もまだ不十分だけだな。

とりあえずこれからは内政に専念しよう。

人口を増やして教育して戦力、生産能力を増強させなくては。

日本人化教育も力を入れる。

邪魔な奴らはシベリアかアラスカに飛ばして従順な奴らを洗脳しなくては…。

労働力はいくらあっても足りないからな。

ついでに兼続教の布教もな。

新たな戦艦が完成した。

長門型戦艦

全長215.8m

最大幅29.0m

吃水9.1m

排水量3万3800トン

エンジン

タービン機関4基・4軸

重油専焼缶×16基、重油・石炭混焼缶×6基

最大速度26.5ノット

兵装

41センチ45口径連装砲×4基

14センチ50口径単装砲×20基

7.6センチ40口径単装砲×4基

装甲

砲塔前盾300ミリ、舷側最厚部305ミリ、甲板最厚部146ミリ

後のビツクセブンの一角が史実より約300年早く登場だ。

広大な領海も手に入れたから訓練も思う存分出来る。

まあ、実戦を経験する事はまず無いが…。

多分こいつが使えるようになった時にはスクラップになっている。

まあ、その時はまた同じのを作れば良いしな。

ようやく実戦に向けた戦闘機を開発出来た。

72式陸上戦闘機

全幅9・14 m

全長6・22 m

全高3・15 m

自重914 kg

エンジン

空冷星型9気筒500馬力×1基

最大速度304 km

実用上昇限度9571 m

航続距離941 km

武装

7・7 mm機銃×2基

爆弾111 kg

乗員1名。

木製複葉機だ。

まだ大した性能は持っていないから微妙だが、そこそこ使える。

ようやく空軍を設立出来る。

まあ、表向きには存在しないけど。

空軍は陸海軍の適正検査をパスした者のみが入隊出来る。

志願制入隊者オンリーで徴兵入隊者は入れない。

機密保持には一番敏感な部署だから事前調査をパスした者のみが正式に入れる。

主に家族や親類などがいない者を入れる。

何故なら入隊後はほとんどをオーストラリアや南洋諸島など遠くで生活する事になる。

基本的に本土には帰れない。

航空機を本土で研究する訳にはいかないからな。
だから帰る必要の無い身寄りが無い者達を入れる。

他にも捨て子などを国が預かり、教育して適正を見て軍か政府関係
に入れていく。

初めから国が育てれば手っ取り早く駒が出来る。

そういつた作られた秀才達や天才達を国家運営や軍に配備させれば
楽になる。

前回と同じやり方だ。

例え死んでも処理が楽だからな。

ちなみに爆撃機も出来ている。

72式陸上爆撃機

全幅23.43m

全長15.78m

全高3.66m

自重4059kg

エンジン

空冷星型9気筒600馬力×2基

最大速度304km

実用上昇限度6328m

航続距離869km

武装

7.7mm機銃×2基

爆弾1026kg

乗員5名

双発でそれなりの搭載量を誇る。
しかしまだ排気タービンが出来ていないから上昇限度は低い。
それと燃料タンクなどをゴムなどで覆う必要もある。
アメリカ軍機みたいに防御力を重視させるからな。
機銃の開発も進んでいる。
今は7.7mmだけだがもうすぐブローニングみたいな性能を持つ
機銃が出来る。

ようやくトランジスタが完成した。
これで小型化や更に複雑な計算などが可能になった。
コンピュータ技術も更に高められる。

それとロケット技術も高まって来た。
今は史実のV2ロケットのような超射程ロケットを開発中だ。
何れは人工衛星打ち上げのために必要不可欠だからな。
トランジスタも完成した事だから衛星開発も進む。
衛星が出来ればスパイ活動や天気予報なども楽になる。
それに宇宙に進出すれば新たな資源も得られる。
尽きることの無いエネルギーを。

トランジスタが出来たのだから次は集積回路の開発だ。
これが出来れば更に小型化、複雑な計算が早く出来る。

シベリア視点

シベリアに強制移住させられた各民族はさぞ日本を恨んでいるだろう、そう思ったが実際は違った。

強制移住させられた当初は日本への嫌悪感を露にしていた。それは当たり前だろう。

先祖代々の土地を追い出され、こんな極寒の極地に移住させられれば誰だって恨む。

しかししばらく経つと、それは変わって来た。

今までは食うに困り口角な仕事が見つからなかったのに、ここでは常に仕事に溢れている。

賃金もしっかりと払われ、金額も低くない。

主な仕事のインフラ整備や資源採掘では休憩時間もちゃんとあり、決まった時間休める。

更には昼休憩の時の飲み食いはダダと来てる。

遥かに祖国よりこっちの生活の方が良い。

食うに困らないし、仕事にも困らない。

北郷商事の傘下のスーパーなどがあるから買い物にも困らない。

与えられた家には暖房設備も整っているから家で凍死するような事は起きない。

子供達もキチンと学校に通えて勉強が出来る。

このように祖国より大事にしてくれる国なら好感を抱かない訳が無い。

むしろ占領されて良かったのでは？とさえ思っている人々も多くなっている。

しかし彼らは気付いていない。

日本はそこまで甘く無い事を。

シベリアから逃げようとすれば皆殺しにされるし、作業車など見ら

れて不味い物を見た者達も皆殺しにされている。
便利な作業機械を使えば作業はもっと楽になるのだが、日本は提供
しない。

この過酷な環境条件に少しづつ少しづつ彼らを減らしたいからだ。
だから病院設備もこの時代相応なものしかない。

この広大な土地を日本が本気で開発する気があるのならとつとつに終
わっていても不思議は無い。

しかしそんなに早く終わらせる気は無い。

ゆっくりゆっくりと減らす。

この大地が開発され、主要民族が日本民族となる頃には彼らはもう
いないだろう。

役目を終えたのだから…。

40 (前書き)

今回もかなり都合の良い解釈をしていますが、勘弁してください。

1652年（日輝74年）

ヨーロッパにて第一次英蘭戦争勃発。

イギリスの提案した「航海条例」が発端となった。

中継貿易で栄えていたオランダにとっては受け入れ難い内容だったため、オランダも交渉団をイギリスに派遣したが交渉は決裂し、英蘭戦争となった。

これから長い長い戦争が始まるのだった。

一方、オランダとは通商関係にあり、それなりに友好関係が強かった大日本帝国はオランダに武器輸出を提案した。最新式の兵器などの大量販売を持ちかけた。

オランダはその提案を承諾した。

日本とはそれなりに長い付き合いなので日本の強さをオランダはよく理解していた。

急速に発展し、ロシア帝国を退けてシベリアを占領し、清を退けて明を助けたなど不敗神話を持つ日本の兵器が弱い訳が無いと分かっていた。

今では太平洋の覇者となった日本との関係も強化したかったのでむしろ日本側の提案はオランダにしてみれば渡りに船だったのだ。

早速日本はオランダに向けて大量の兵器を輸出した。

その兵器達はヨーロッパの武器と遜色無かった。

いや、むしろその高品質さで現場の兵士達から大いに喜ばれたのだ。
った。

北郷サイド

史実通りに英蘭戦争が起きた。

この気に稼がせて貰おう。

幸いオランダはまだ金持ちだ。

まあ、この戦争に負けた辺りで没落していくんだがな。

英蘭戦争は四次にも渡って起きた長い戦争だ。

最終的にはイギリスが勝ったけど。

イギリスはそれによってアジア進出を成功させられたからな。

しかしこの世界ではそうはさせない。

アジアは日本が支配するんだからな。

1665年に第二次英蘭戦争が勃発する。

その時にまた武器輸出を打診する。

しかしこの時オランダは第一次英蘭戦争の疲弊から脱却出来ていないから金が無い。

だから代わりにオランダのアジア領土を貰う。

そしてアジア領土を貰ったらアジアでの戦いにおいてはオランダを味方すると言う。

どうせこのままではアジア領土はイギリスに取られるのが明白。
だったら友好国の日本にやって支援して貰った方が利益になる。
それにアジア方面の貿易も続けられる。

だからオランダは日本にアジアを渡すしか無い。

渡さなくては敵国を利する事になるのだからな。

今はオランダには頑張ってもらいましょう。

沢山兵器を売り付けて上げるから。

博物館クラスの新兵器（笑）を。

ちなみに日本が現役として最後に使ったのは九州と中国地方制圧戦の時だから大体80年ぐらい昔だな。

最早骨董品だよ。

他国では最新兵器だが日本ではゴミだ。

清と戦った時に使ったけど。

太平洋の島々や極東地域、アラスカ、カナダ、朝鮮などとの連絡を常時取れるように海底ケーブル網を形成した。

無電では幾つか中継ポイントが必要だが、海底ケーブルなら必要無い。

それに直接繋がっているから安心だ。

イギリスサイド

イングランド王国国王、オリヴァー・クロムウェルは諜報担当官の報告書を読んでいた。

クロムウェル航海法によって始まったオランダとの戦争。

自分は関係していないというのに何故か自分の名が航海法に付けられた。

それが多少気に食わないがまあ、それはもう良い。

既に戦争は始まったのだから。

始まったからには勝たなくてはならない。

幸いオランダの艦隊は大きい軍艦は無い。
貿易のための船が多いから操作性の良い中型船をオランダ軍は用いている。

一方、イギリス海軍は戦うための軍だから大型軍艦が多い。
この利点を生かせば勝機は十分にある。
そう安心していた。

しかし、そこにほんの少しながら不安が生まれた。

東アジアの覇者、新興国の大日本帝国がオランダ支援を表明。
僅か6、70年で東アジア全域を支配した。

そしてロシア帝国をも退けてシベリアを支配した。

最近なら明帝国を支援して反乱勢力を滅ぼして中国へも進出した。

聞いた話によると、とんでもない兵力を誇り、兵全体の質も非常に高いらしい。

兵器もヨーロッパに遜色なく、むしろ最新式で高品質。

そんな国が敵国であるオランダへの武器支援を表明した。

幸いにも軍は派遣しなかったからそんなには脅威では無いが、もし日本が参戦して来たら勝てないかも知れない。という思いがあった。

「日本は参戦することは無いのだな？」

クロムウェルは補佐官に念のために尋ねた。

「はい、日本は発表通りオランダへの武器支援のみを行うようで主力艦隊は本国に係留したままで動く様子はありません。」

世界に名だたるスパイ国家となるイギリスのスパイ網は勿論日本にも潜入していた。

しかし彼らが把握している艦隊は表向きの艦隊に過ぎない。

本当の主力艦隊は南洋諸島などの秘密軍港に隠れているのだ。

しかしそんな事は知らないクロムウェルは安心した。

「そうか…ならば安心だ。幾ら日本の武器で武装しようが、戦力差

は明らか。

問題無く勝てるだろう。」

初戦は敗北に終わったイングランド海軍だが、新たに得た戦訓を元に戦術を新たに生み出した。

次こそ勝つ！！

とクロムウエルは息込んでいたのだった。

とりあえずクロムウエルは更なる日本の情報を集めるように命令した。

日本とは通商関係を築いていないので情報を集めるのは困難だ。

オランダと戦争状態となった事でオランダの友好国である日本は更に遠のいた。

まあ、良い。

今はオランダとの戦争に集中しよう。

この戦いによってイングランド王国のアジア進出が決まるのだ。決して負けられない。

クロムウエルは意気込んでいた。しかし、それは日本が、北郷が望むよう動いているという事には気付く筈も無かった。

1654年（日輝76年）

第一次英蘭戦争が終結。

日本の支援を受けたため、史実より多少善戦したが、結果は変わらずオランダが負けた。

ここからオランダ王国の弱体化が始まるのだ。

イギリスサイド

「結局日本はオランダへは武器支援のみで終わったな」
クロムウェルは安堵したように言った。

日本の主力艦隊は本国に係留されたまま、動く気配が無いのは知っていたが、やはり不安があったのだ。

「まあ、日本とオランダでは遠すぎますからね。予想通り艦隊を派遣するのはキツかったでしょう。」

補佐官の言葉にクロムウェルは頷く。

普通に考えれば直ぐに分かる事だ。

自分は少し日本を過大評価し過ぎていたのだな。

幾らアジアの覇者と言えど、それはアジアでは強いという事だ。

自分達の本拠地から遠く離れた大西洋に来る勇氣など無かったのだろつ。

所詮黄色い猿だ。

我がイングランド王国のアジア領土拡大の際に捻り潰してやるつ。

クロムウェルは慢心していた。

神に選ばれた自分達白色人種が黄色人種に負ける筈がないと。

しかし彼は知らない。

自分達が相手にしているのはある意味悪魔よりも質が悪い存在なのだ。

北郷サイド

予定通りオランダの敗北で終わった。

オランダがバカみたいに日本の武器を輸入してくれたから大幅な黒字だ。

おかげでオランダの財政は史実以上に圧迫された。

第二次英蘭戦争の時はまだ疲弊から立ち直っていないから払う金は無い。

しかし日本の兵器を輸入したおかげで予想より善戦出来たことから、どうしても日本製の兵器は欲しい筈だ。

その時がチャンスだ。

アジア領土を金の代わりに貰おう。

オランダはこの時代が絶頂期だから様々な海外領土を保有している。蘭印、インド、アフリカ、アメリカ大陸にも進出している。

しかしスエズ運河が無いこの時代ではアジアとの貿易はかなりの時間と手間がかかる。

イギリスとの連戦で最早余裕は無い。

遅かれ早かれイギリスに奪われてしまう。

だったら日本との交渉材料に使った方が良いよな？

沢山武器支援して上げるよ？
あのゴミで良ければな。

電気機関車を開発した。

これで煙がウザいSLともおさらばだ。

それにこれで地下鉄を掘削出来る。

バレないように細心の注意を払っているが、やはり屋外を走らせるとバレ易い。

シベリアとかとんでもない極地でない限り、物資の運搬などは今後地下鉄網を張り巡らせて地下鉄で運搬する。

これならバレにくい。

早速北海道の鉄道を地下鉄に改装だ。

これなら外国のスパイにもバレないだろう。

地下なんていう概念は無いからな。

1660年（日輝82年）

第二次英蘭戦争まで後5年。

ヨーロッパ勢はアメリカにご執心らしい。

イギリスがオランダ領のニューアムステルダムを狙っている。

これが第二次英蘭戦争の引き金になったからな。

何とも露骨な。

まあ、別に良いけど。

第二次英蘭戦争は起きてくれた方が助かるからな。

イギリスは王制復興が成功してイングランド共和国からイングランド王国に戻った。

だから新しい領土が欲しいのか？

その欲がイギリスを苦しめる事になるのだから笑える。

このまま第二次英蘭戦争が起きればまたオランダへの武器輸出になる。

オランダに武器を買う金は無いから代わりにアジア領土を全て頂く、そうすれば武器や物資の援助は勿論のこと、イギリスのアジア領土にも侵攻するから結果的にはイギリスを弱める事が出来る。

でもイギリスの事だ、日本にアジアから追い出されたらタダじゃおかないだろうな。

多分スペインのマニラ艦隊辺りを当ててくるだろう。

領土の譲渡や資金提供など何でもする筈だ。

何せ後の大英帝国だからな。

まあ、その前に手は打つけどね。

イギリスが南米を狙っているなどの警告をしとこうか。

そうすればイギリスからの話が来ても警戒する筈だ。

何せスペインも今では凋落の一途を辿っている。

今乗りに乗っている大日本帝国を相手にはしたくは無いだろう。

だからこちらからの話に乗る可能性が高い。

南米に広大な領土を持つスペイン、ポルトガルにある話を持ちかける。

日本、スペイン、ポルトガルで協定を組んで、イギリスの南米侵攻を阻止する。

スペイン、ポルトガルにはイギリスと戦って貰い、武器や物資は日本が用意する。

その代わりにスペイン、ポルトガルのアジア領土とスペインのアメリカ領土のニュースペインを貰う。

場所は中南米とカリフォルニア。

かなりの広さだが、今はその価値があまり無いからそんなに難しく無いだろう。

まだメキシコの大規模銀鉱山やカリフォルニアの金鉱山は見つかっていない。

既に銀鉱山が発見されている南米を寄越せと言われれば流石にスペインは断るだろうが、ロクな資源が無いメキシコやカリフォルニアならくれるだろう。

ついでにパナマも頂こう。

パナマ運河を築けば移動がかなり楽になる。

ようやく空母が完成した。

鳳翔型空母

全長180・8 m

最大幅17・98 m

吃水6・17 m

排水量9449トン

エンジン

タービン機関2基・2軸

重油専焼缶×4基、重油・石炭混焼缶×4基

最大速度25・0ノット

兵装

14センチ50口径単装砲×4基

7・6センチ50口径単装砲×2基

搭載機数

常用×15機、補用機×6機。

これですらようやく航空攻撃が可能になった。

まだ艦載機は無いが。

航空機開発は思ったより進んでいない。

やはりパイロット不足と技術力の不足は否めない。

しかし全金属単葉機は出来た。

82式陸上戦闘機

全幅8・25 m

全長7・26 m

全高3・175 m

自重 9 9 7 k g

エンジン

空冷星型 9 気筒 6 0 0 馬力 × 1 基

最大速度 3 7 7 k m

実用上昇限度 8 3 5 0 m

航続距離 1 0 2 2 k m

武装

1 2 . 7 m m 機銃 × 2 基

爆弾 9 0 k g

乗員 1 名

しかしまだまだ能力が低い。

でもこの時代では悪魔的な能力だな。

空から攻撃されるなんてあり得ないからな。

史実には完成出来なかった戦艦が完成した。

紀伊型戦艦

全長 2 5 2 . 4 m

最大幅 3 0 . 5 m

吃水 9 . 7 m

排水量 4 万 2 6 0 0 トン

エンジン

タービン機関 8 基 ・ 4 軸

重油専焼缶 × 1 1 基、重油 ・ 石炭混焼缶 × 8 基

最大速度 2 9 . 7 5 ノット

兵装

4 1 センチ 4 5 口径連装砲 × 5 基

14センチ50口径単装砲×16基
12センチ45口径単装砲×6基

装甲

舷側最厚部292mm

甲板最厚部155mm

軍縮によつて起工すらされなかつた戦艦だ。

巡洋戦艦天城の装甲を強化して戦艦にしたこの時代ではあり得ない
高速戦艦。

アメリカが天城型と共に恐れ、日本に作らせないためにワシントン
海軍軍縮を開いた程だ。

この攻撃力にこの速力。
化け物だな。

これ以降は戦艦の建造はしばらく中止だ。

流石に戦艦をこれ以上何隻も建造して維持していくのは金の無駄だ。
建造技術や運用技術を得るためならこれで十分だ。

後は順次改装していこう。

ヨーロッパからヴァイオリンやチェンバロなど西洋楽器を輸入した。
そしてピアノの開発もしている。

現代では芸術や音楽の類いはヨーロッパが席卷しているから、この
世界では日本の芸術分野の進出早める。

音響工学を取り入れた最新式のコンサート会場などを建てて初めは
ヨーロッパから招いた音楽家達に演奏させる。

そして音大や美大などを設立して芸術分野を育成する。

絵画についても、今までの日本的な書き方は勿論、西洋の写実的な
書き方やなど様々な技術を取り入れ発展させる。

美大では海外から顧問を雇い、勉強させる。

国の売りが軍事力と技術力だけでは寂しいからな。
芸術分野も発展させて売りにする。

43 改正2011・3・20(前書き)

戦闘描写が微かにありますが期待しないでください。

1665年（日輝87年）

第二次英蘭戦争勃発。

イングランド王国がオランダの北米大陸の植民地ニューアムステルダムを占領してニューヨークにした事が発端。

そして何よりもイングランド王国がオランダ海洋帝国を奪つために引き起こした戦争である。

オランダは第一次英蘭戦争の疲弊から立ち直っていないため、劣勢だった。

このままではまた負ける。そう思っていたら同盟国である大日本帝国からある提案をされた。

「また武器や物資の大量輸出をしても良い。」と。

オランダとしては高品質の日本製兵器を大量に手に入れられる事はありがたいが、残念ながら資金が無いと断ろうとしたら、日本側からとんでもない提案が出てきた。

「では貴国のアジア領土を全て日本に譲渡してくれら輸出ではなく、援助いたします。」

とのとんでもない提案だった。

「流石に兵器と領土では釣り合いません。」

と日本側に抗議したら

「はい、確かにその通りです。ですからアジア領土を全て譲渡して頂けるなら武器援助とアジアにおいては貴国に味方し、イギリスのアジア領土に侵攻してアジアから追い出します。」
と返された。

確かに悪くは無い話だ。

このままいけばイギリスには負ける可能性が高い。そうなればイギリスのアジア進出は拡大してアジア領土を全て奪われる可能性が高い。

イギリスに奪われるぐらいなら日本との交渉材料に使った方がマシか？

それにアジア方面でも戦闘が起きればイギリスはアジアへも戦力を分けるかも知れない。

そうなればこちらにも勝機が生まれる。

交渉の結果、オランダのアジア領土全てを日本に譲渡する事に決定。その代わりに日本はオランダに対して最新式の武器、兵器や物資、資金などの大量援助とイギリスへの宣戦布告を約束した。

北郷サイド

やっぱりオランダはかなりの援助を要求して来たな。

まあ、アジアの貿易を全て失うからな。

その見返りのために莫大な資金援助まで約束させられた。

多少は値切れたけどかなりの額だ。

俺の能力が無かったらキツかったな。まあ、良い。

これで油田地帯と貿易の要所や香辛料の生産地なども手に入れた。

こいつらを使ってヨーロッパや中国などの貿易で儲けるとしよう。

オランダのアジア貿易をそっくりそのまま貰ったんだからな。

とりあえず前々からニューギニアに待機させていた艦隊を出撃させる。

目指すはイギリスのアジア領土、インドだ。

まだこの時代ではイギリスはインドぐらいにしかアジア領土を持っていない。

オランダから貰ったセイロンを経由してイギリス領マドラスに上陸する。

いよいよイギリスとの戦争だ。

イギリスサイド

インドの植民地を警備していたイギリス兵達は突如上陸してきて、自分達に攻撃をしかけて来た他国の軍隊に混乱した。

白地に赤い丸が書いてある旗を掲げる軍隊を見たことが無かったので何処の国か分からなかったのだ。

敵兵の見た目が黄色い肌からアジア系の国と分かるが、それにしては敵の持っている武器は近代的で自分達の持っている武器と遜色無い。

黄色い猿が自分達と同じ技術力を持っているなど信じられないのだ。

と彼が混乱しながらもとりあえずは同じ部隊の兵士達と共に遮蔽物に隠れながら敵に反撃を加える。

「あいつら何処の国だ！？」

同じ部隊の奴が自分に聞いて来た。

「知るかよ！黄色い猿の癖に近代兵器を持っているってことは多分明だろ！？」

イギリスと付き合いがあって近代兵器を持っているのは中国しか思

いつながったので彼は敵は中国だと思った。

しかし別の兵士が否定した。

「違う！明の国旗は前に見たことあるけどあれは見たことが無い！多分日本だろ?!」

「日本？日本ってあの極東の島国の事か？」

微かに聞いた事がある。という程度にしか彼は知らなかった。

「そう！正式名称は大日本帝国。聞いた話ではロシア軍を破ったかなり強い国らしい。」

それを聞いて啞然とした。

ロシアは弱くない。いやむしろ強い。

そんなロシアを東洋の島国が負かしたなど信じられない事なのだ。

この当時まだ日本はさほど有名ではなく、末端の兵士達はよく知らなかった。

その日本軍兵達はまた船が上陸して人数をどんどん増やしていく。勿論イギリス兵達も頑強に抵抗したが、日本軍の弾幕の厚さと砲の雨、そして無限かのような補給力によりマドラスは陥落した。そしてマドラスを陥落させた日本軍はフグリ、ボンベイとイギリスのアジア領土を次々占領して遂にイギリスのアジア領土を制覇した。

イギリスサイド

アジア植民地陥落の報を聞いたチャールズ2世は仰天した。

オランダがアジア領土を日本に渡した事から日本が攻めてくる事は分かっていたが、あまりにも早すぎる。

この進軍の早さは事前に準備していたとしか思えない。

「日本を侮っていたか!!」

執務室にてチャールズ2世は怒りに震えた。

以前のオランダとの戦争では日本は武器支援のみで動かなかったから今回もそうであろうと思ひ、あまり警戒はしていなかった。

そのためアジア方面の戦力は増強せず、ほとんどの軍艦はヨーロッパに回航してしまつた。

インドにいた船は貿易船で大した戦力を持たない。

軍艦を相手に勝てる訳が無かつたのだ。

「生き残つた艦船は何隻だ？」

報告官に尋ねたが、報告官は答えにくく口を閉じていたが、口を開き答えた。

「…生き残りはいません。」

その言葉を聞いた瞬間、自分の耳を疑つた。

「何？今なんと云つたのだ？」

念のためもう一度聞いてみたが、現実が変わらず

「インドにいた我が軍の艦艇は全滅しました。」

更に言えば軍全体が全滅しました。」

その言葉にチャールズ2世は失神しそうになつた。

イギリス海軍サイド

話は日本軍がインドに上陸する前に戻つて。

オランダとの戦争が始まつたことにオランダの同盟国である日本を警戒するためにインド付近をイギリス海軍の軍艦が警戒していた。

しかしその軍艦は三等戦列艦クラスの大きさなので大した迫力は持たない。

しかし彼らは自信満々だつた。

日本がどういふ国かはよく知らないが、アジアの国という事で彼らは完全に日本を嘗めていたのだ。

というとんでもない轟音が鳴り響いた。

しかしあまりイギリス軍は心配していない。

距離が遠すぎる。

大砲はそんなに簡単に当たる物では無い。

当てるには敵艦に横付けするぐらい近付かなければそうそう当たる物ではないのが常識だ。

しかしその常識が打ち砕かれた。

100発以上放たれた砲弾はほとんどが外れたが、数発が命中した。ダーーーーーン!!!!!!

という音が鳴り響いた。

通常の鉄球なら大した被害は出ないが残念ながら砲弾は榴弾だったのだ。

着弾の瞬間爆発し、弾着地にいた船員達は引き裂かれた。

そして爆発自の炎によって火災が起きた。

イギリス艦は一気に地獄へと変わった。

「ギャーーーー!!!!!!」

「熱い!!熱い!!」

経験したことの無い衝撃を受け、ある者は砲弾の破片が体に突き刺さり叫び、ある者は炎に包まれるのたうちまわり、またある者はその地獄から助かりたく神に祈る。

しかしこれで終わらない。

混乱が冷め止まない内に第二、第三斉射を砲撃され、遂にイギリス艦は沈没した。

僅かにいた生き残りも日本軍兵士に射殺され、全滅した。

そして哨戒艦を沈めた日本艦隊はインド上陸に向かったのだった。

北郷サイド

これでインドを取ったも同然だ。

イギリス以外にはインドには強い国は来ない。

フランスは同盟国だからインドに攻めてくる事も無いだろう。

まあ、その前に占領するがな。

インドにはムガル帝国というデカイ国があるからまだインドは制圧しない。

ジワジワと弱めてイギリスのようにインドを奪う。

とりあえず蘭印とインドを手に入れたから整備をしなくてはな。

軍港などは既にある奴とかを流用したり拡張すれば良いから楽だ。

インフラ整備と役所などの建設、住民登録などなど沢山仕事がある。

オランダは沿岸部しか占領していなかったが俺は島に入り全島を占領する。

だから原住民達との話し合いが必要になる。

しかしアイヌの時に慣れたから問題無いだろう。

蘭印は石油などの資源が豊富だから開発しなくちゃな。

それとそろそろトルコと国交を持つか。

トルコとは史実同様仲良く出来る筈だ。

何せお互いロシアに頭を悩ませているからな。

でもロシアは日本との国境紛争で損害を受けたから史実よりは多少国力は減っている。

そのせいで最近は何も無く、小康状態を保っている。

トルコとは多分終始友好的な雰囲気のまま国交を樹立して同盟を結

んだ。

やはりお互いロシアを相手にしているから話が弾んだらしい。やっぱりこの時代でもロシアは嫌われているんだな。

まあ、強引だし酷い事を平気でするからな。

日本もあんまり変わらないが、極力相手の事を考えているから周辺諸国と仲が良い。

善隣関係を築くのが外交の基本なんだよ？

トルコには武器輸出とロシアの様々な情報を流した。

もうすぐ露土戦争が起きるからそれに備えて貰わなくてはな。

露土戦争は何度も起きるから良い儲けになる。

ロシアの目をトルコに向けさせればこっちの負担も減るしな。

そんなことは知らないトルコは日本側に大感謝していた。

自分達が欲しいものを何でも与えてくれる相手を嫌う訳が無い。

おまけに邪魔なロシアに勝ち越している国だ。

しかし日本はイギリスにも一方的に勝ち越している事も知っているから当然警戒心も持っている。

この時代ではロシアはまだ西洋の中堅国家でしかない。

だからロシアよりもイギリスを警戒している。

そのイギリスに日本は圧勝した事はヨーロッパ中に知れ渡っている。だから協力しながらも日本を警戒している。

まあ、別に良いけど。

最悪トルコを潰す事も可能だし。

でもそうするとロシアやヨーロッパと深く関わる事になるからやりたくはない。

だから潰しはしないが、脅しはする。

史実のように仲良くなることは不可能だが、協力関係だと言う事は変わらない。

まあ、精々利用させて貰う。

トルコは中東を抑えているから邪魔だしな。

そのためにロシアには頑張って貰おう。

そのためにはたまにはロシアも助けなくてはな。

44 (前書き)

この小説は作者の妄想です。

ですから深く考えず、軽く読んでください。

一応作者としては時代を考えて調べながら書いてはいますが、知識不足でおかしい点が多々あります。

そついった事がどうしても気になる方は読まない事をお勧めします。

1667年（日輝89年）

第二次英蘭戦争が終結。

オランダ軍の奮闘や日本からの大量援助により、イングランド王国には勝利できたが、フランス軍の南ネーデルランド（ベルギー）侵攻に対抗するためにイングランド王国との協調路線に変更した。そのため中途半端な条約を結び、勝敗はうやむやになった。

イギリスサイド

戦闘では負けたが、フランスのおかげで勝負では引き分けに持ち込めた。

だからイギリスとしては悪い結果では無い。

しかしチャールズ2世の顔は晴れやかとは程遠い。

何故ならアジア進出の要であるインドを日本に奪われたからだ。

更に旧オランダ領インドはオランダが物資や資金援助と引き換えに日本に売り渡したから日本領となった。

日本の他にもスペインやポルトガルもアジア領土を持っているが、日本には程遠い。

つまりアジアは実質日本の庭となったのだ。

「オランダとの戦争は引き分け、いや戦略的には勝利した。元々疲弊していたオランダを更に疲弊させる事に成功したから我々の勝利だ。」

しかし、代わりにアジア領土は全滅した。全て日本に奪われ、アジア方面軍も壊滅。無視出来ない損害を受けた。」
チャールズ2世は会議室にて静かに冷静に喋っていたが、その雰囲気から怒り狂っている事は容易に想像出来た。
会議室にいる全員がそれを正確に把握出来る程に。

「アジア方面への進出は当分不可能でしょう。先の戦いで日本軍の強さが嫌という程にわかりましたから。

ですので今後は南米のイスパニア、ポルトガル領に進出するのは如何でしょうか？

南米にはイスパニア領の銀鉱山など資源が豊富です。それにイスパニア、ポルトガルは疲弊気味ですのでそう難しくはないかと。」
参謀の発言にチャールズ2世も成る程と思った。

アジアに進出出来ないのなら南米に進出するのも悪くない。

北米は未だに未開の地だから大した旨味は無いが、南米ならスペインなどがある程度開発したから旨味がある。

それに資源も豊富だから金にもなる。

「更に、ご存知の通りイスパニアとオランダの仲は非常に悪い。ですからオランダの味方をした日本をイスパニアは好意的には見れない。」

この事を利用してイスパニアと日本を争わせ、互いに疲弊させてら如何でしょうか？

そしてポルトガルとも争わせれば完璧です。

イスパニアやポルトガルには支援や領土譲渡をちらつかせれば乗るか。

そして疲弊した所を我が軍が進出すれば南米、アジアを手に入れることさえ可能になります。」

その意見にチャールズ2世も頷いた。

その作戦なら面倒事が一気に方が着く。

そしてあの黄色い猿共に復讐も出来ると確信したため、チャーチル2世はその意見を採用。

こうしてイングランド王国はスペイン、ポルトガル、日本を争わせ、漁夫の利を得る方策を決定した。

北郷サイド

多分イギリスは南米進出のためにスペイン、ポルトガルを日本と戦わせるように仕向けるだろう。

俺がイギリス側ならそうする。

だからイギリスがまだ動いていない内にスペイン、ポルトガルとの会談を設けた。

会談内容は「イギリスがスペイン、ポルトガルをけしかけて日本と争わせ、お互いが疲弊して来たら南米、アジアの領土を奪う気だ。」という日本側から始まった。

二国とも疑っていたが、後日イギリス側から日本に忠告されたものと同じ話が持ちかけられたため、二国共日本の忠告を信じた。

そして日本側からの要望は、二国の南米防衛のために日本の武器や物資を格安で支援する代わりにスペインにはアジア領土とメキシコ、カリブ諸島、フロリダを、ポルトガルにはアジア領土を日本に譲渡して欲しいというものだった。

ポルトガルはアジアに大した領土を持っていないから日本の要望に好意的だが、スペインは激しく悩んだ。

アジア領土のフィリピンはスペインの艦隊拠点だし、メキシコはあ

まりにも大きい。

メキシコには大した資源が見つかっていない未開の地だが、スペインが苦労して手に入れた領土だ。

もしも資源が豊富な南米を寄越せと言われれば拒否も出来るが北米、中米では明確な拒否は出来ない。

それにこの話を断れば日本との戦争は避けられない。

そうなれば間違いなくフィリピンやアジア領土に侵攻してくる。

無敵艦隊を持っていた時代ならスペインは強気に出れたが、今のスペインは凋落の一途を辿っている。

アジアの大帝国となつた日本を相手に出来る余裕は無い。

それに日本との戦後には南米を狙ってくるイギリスとも戦わなくてはならない。

そうなれば南米を失いかねない。

結局、スペインも日本の要求を呑んだ。

日本との交渉の結果、メキシコにはパナマも含める代わりにフロリダはスペイン領とした。

こうしてスペインは北米、中米、アジアの広大な領土を日本に譲渡した。

ポルトガルも同様にインドなどのアジア領土を日本に譲渡。

日本はスペイン、ポルトガルに新型兵器や武器、物資の大量輸出を
確約。

こうして日本、スペイン、ポルトガルの三国で同盟を結び、イギリスに対抗する事を表明した。

日本の同盟国のフランスはこの同盟を受け入れた。

北米に広大な領土を持つフランスからして見ればスペインより日本

が北米において隣国となる方がまだマシだ。それに仇敵イギリスを疲弊させられる可能性が高い。この気に更なる勢力拡大に向けて準備するのだった。

一方イギリスからして見ればとんでもない同盟だ。

争わせる予定だった三国が同盟を結んで自分達に対抗して来たのだ。しかしこのまま引き下がっては他国に舐められてしまうので引き下がれない。

幸い未知数な日本はこの戦いにも武器輸出などだけで直接的には関わらないらしい。

スペインやポルトガルの二国だけなら何とかなるかも知れないといギリスは南米侵攻を止めなかった。

本当ならこちらでもフランスとでも同盟を組んで南米に攻めたかったが、フランスは日本と同盟を結んでいるから不可能だ。

フランスは日本と争う気は無いから日本が支援しているスペイン、ポルトガルを叩かせるのは不可能。

結果、イギリスは自国のみで二国を相手にする事を余儀なくされたのだった。

北郷サイド

上手くいった。

最初の予定ではアジアとカリフォルニアだけを貰うつもりだったけど、会談の雰囲気などを見るに今が好機と見てメキシコも要求してみたら以外にも簡単に認めてくれたな。

まあ、他に選択肢は無かったからな。

日本の要求を受け入れ無かったら日本とイギリスと戦うハメになるんだからな。
それに今の時代ではまだメキシコの大銀鉱山は発見されていないから大した価値は無い。

イギリスに奪われるぐらいなら日本との関係良好と武器、物資の大量輸入を取ったか。

こっちは助かるけどな。

大量輸出のおかげで財政は潤う。

領土を貰って金も稼がして貰える。

最高だね。

イギリスが日本に大敗を喫して以来、よりスパイを送り込んでくるようになった。

でも軍の施設や秘匿兵器の研究所には監視カメラや探知機など近代的な防犯設備を充実させているから簡単に捕まるんだよな。

何せ17世紀に監視カメラ何て概念無いからな。

捕まえたら自白剤を使って仲間や情報を吐かせて始末するか、こちらの情報を知らない奴なら麻薬漬けにするか脅すかでもして偽情報を流させる。

ちなみに日本もイギリスや各国にスパイを潜入させている。

勿論送り込むのは日本人ではなく、現地人を洗脳したり、元々兼続教の信者だった外国人などを使う。

スパイ教育もしっかりと行っている。

忍者の諜報技術や工作技術、近代のスパイ技術を学ばせたから質は高い。

それに小型化した通信機器も持たせているから逐一情報を得られる。機器には自爆装置が搭載されているから万が一にも敵に奪取されても大丈夫だ。

と、いつかこの時代の人間が通信機器を理解出来るのか？

1668年（日輝90年）

せっかく色々取ったんだから先ずは平定やインフラ整備をしなくてはな。

インドには点々と領土があるから、ムガル帝国では無い下半分を取る。

大した戦力も無いから早く終わるだろう。

そしてムガル帝国とは善隣関係を築き、様々な物を輸出する。

宝石や装飾品など高価な商品を皇帝に買わせまくって史実より早くムガル帝国を終わらせてやる。

元スペイン領だったフィリピンには元から軍港設備などがあるから手早く終わるな。

しかしフィリピン自体は発展していないからそこらへんからやるか。全島を平定したら学校や病院など必要な施設を建設して統治しなくてはな。

この時代の植民地はほとんど発展させないから面倒だ。

まあ、おかげで日本の印象が上がるがな。

何せ植民地をまともに統治しているからな。

学校を建てて教育して仕事にも就かせてくれると大抵は感謝される。あまりにうるさい奴らはシベリアの開発を頑張って貰う事になるがな。

次はカリフォルニアやメキシコの開発だ。

原住民達の対応は散々やったから慣れている。

インディアンも純朴な民族だから簡単に掌握出来る。

それに学校を建てて日本人化して貰わなくてはな。

白人のスペイン人達と違い、同じ黄色人種の日本人にならそんなに抵抗は無いだろう。

今まで無かった文明や裕福な暮らしが出来ればそつちが良いに決まっている。これは万国共通だろう。

それにカリフォルニアの金鉱山とメキシコの銀鉱山を見つけなくてはな。

そのためにここを貰ったんだし。

スペインが銀鉱山を見つけて市場に流しまくったせいで銀の価値が大暴落したけど、日本はきちんと調整して流すから大暴落までは起さない筈だ。

明は市場の拡大で銀貨が不足していたから喜んで銀貨で取引してくれるだろう。

それと農地開発だ。

こんなにも広い土地があるんだ。

農地を作らない手は無い。

農業機械で農地を作り本土に食糧を届けなくては。

人口が増え続けているから食糧需要を満たさなくては。

インディアン達にも農業を教えなくては。

危険な狩りより確実にそして安全に食糧が手に入ると解れば学ぶだろう。

それに領土拡大もだ。

将来の仏領ルイジアナまでを領有化する。

今の内に広げた方が有利だしな。

しばらくはフランスがアメリカを支配するから残っている所を根こ

そぎ頂く。

イギリスもこの時代ではハドソン湾か東海岸ぐらいにしか来ていないからな。

カリブ諸島については特に念入りに日本人化教育（洗脳）が必要だ。あのチエ・ゲバラを産んだ土地だ。

史実でもアメリカやイギリスなどを利用してそれなりに発展していたから油断出来ない。

カリブ諸島にはロクな資源も無いが中米や南米の前線基地だから重要な拠点だ。

しかし中にはイギリス領も入っているから注意が必要だ。

ジャマイカやバハマ諸島やメキシコのイギリス領に点々といやがる。攻めたいが面倒だから今は警戒で止めとく。

後々の植民地戦争の時に一緒に攻め落とせば良い。

ちなみにカリブ諸島にはフランス領やオランダ領の島もあったが、全部買収した。

両国とも経済状況が良く無かつたらしい。

そこそこの値段で売ってくれた。

カリブ諸島には軍港など軍施設を建設して基地能力を充実させる。

後のパナマ運河を守るための重要拠点だからな。

ムガル帝国を借金まみれにして帝位を買うか、それともマラータ同盟を結んで反乱を起こした時にムガル帝国支援のために進駐して大部分を占領した等、支配したら他の植民地よりも念入りに日本人化教育を施す必要がある。

何故なら他の国は大した文明も持っていないし、人口も少ないから日本民族が植民すれば大多数を勝ち取れるが、インドはある程度文明を持っているし、人口も多いから統制が難しい。

だから100年ぐらいの間は洗脳教育を中心にやり支配を徹底する。その間にカースト制度などインド独特の観念を緩やかに変えていく。面倒だがこれぐらいは最低限度必要だ。

その前にインドを手に入れるために様々な浪費をして貰わなくてはな。

それにパキスタンやアフガニスタンなど各地で反乱を起こしたら救援として駆けつけ反乱を鎮圧してやる。

そして守ってやる代わりにインドは勿論、パキスタンやアフガニスタンに基地を建設する。

勿論金はインド持ちだ。

日本軍しか利用出来ない施設を作りまくって更に浪費させてやる。

このまま浪費し続ければ多分史実より早くムガル帝国は滅ぶだろう。今はお得意様として様々な商品売り付けてやるう。

271

次は国内だ。

石油精製技術の発展のおかげでハイオクタンガソリンの精製や化学繊維技術が発展した。

ナイロンを200年近く早く生産出来るようになった。

化学繊維を使用した衣服などは一般にも販売をしている。

海外にも輸出して好評だ。

どうせ真似なんか出来ないのだから日本独自の製法により出来ないと説明した。

完成品だけを輸出しているから勿論何から出来ているのかも分からない。

高級衣料として貴族や王族に人気商品だ。

自動車の性能も上がって来た。
航続距離や荒れた道でも問題なく走れるように足回りの強化なども出来てきた。

まあ、流石に一般には卸せないからジープタイプの奴を基地に配備したり、北米の占領の時の兵士達の足として活躍している。

電気冷蔵庫や電気洗濯機など家庭用電化製品も次々完成してきた。
流石に電子レンジはまだだが。

しかし一般的には電気が存在すら一般人は知らないから勿論街中に電柱などは無い。

だから使える所は軍施設か研究施設などだけである。

まあ、俺も使っている。

やっぱり便利で良い。

今まで冷蔵庫は一々氷を補充しなくてはいけなかったからな。

それと一般にも上下水道が完備されたから水洗便所を開発した。

水洗便所なら電気も使わないからこの時代にあっても不思議は無い。
水洗便所と一緒に洋式便座も流行り、トイレは段々洋式化してきた。
中には和式が良いと言う奴らもいるけど。

さてと、これからしばらくは暇になるな。

次に大々的に動くのは1756年のフレンチ・インディアン戦争だ。
北米の覇権を争ってフランスとイギリスが戦争をする。

史実ではイギリスが勝って北米を手に入れたが、この世界ではフランスは同盟国だから勿論フランスに参戦する。

フランスには勝って貰わなくては困る。
北米は後々日本が貰うんだからな。

という事で後82年間は暇だから今の内にOPEC加盟国を頂こう。
最大の産油国であるサウジアラビアはトルコの支配下だからどうし
ようもないが、イランやオマーン、アラブ首長国連邦などはガラ空
きだ。

それにイエメンやソマリアなど紅海沿岸国も取らなくては。
スエズ運河が完成したら直ぐに買収して手に入れるから紅海の安全
を確保しなくてはいけない。

しばらくは中東遠征だな。

1670年（日輝92年）

イランに侵攻。

それなりにデカイ国で兵も強いが、肝心の君主のサファイー2世が残念ながら無能だからそんなに難しくは無かった。

機銃や迫撃砲で追い詰めても軍は簡単には逃げ出さず、果敢に攻めて来たが、王宮は包囲したら比較的簡単にサファイー2世は降伏してきた。

物凄く簡単に制圧出来た。

君主がアル中で薬中なんて最悪だなこの国…。

ちなみに国境線には現代みたいにグルジアやアルメニアなどは入れない。

ロシアと国境が接するなんてイルクーツクで十分だ。

トルコには事前に言つといたから国境についての争いも特に無かった。

一応関係が良い日本が隣国になるなら特に問題も無いしな。

これで世界第二位の産油国が手に入った。

今は石油の価値が見出だされていないから価値は無いが、何れはとんでもない金になる。

今はとりあえずインフラ整備や基地建設、教育だな。

道徳観念とかをキツチリと教えなくてはいけない。

中東やアフリカには道徳観念なんか存在しない。

貧困と戦禍が続くからモラルなんて言葉は無いのだ。

賄賂が無いと何もしてくれないからな。

先ずはそういった所を矯正して、産業などを発達させないと管理出来ない。

いざというときは朝鮮や満州みたいにシベリアに飛ばすか？

次に攻めるのはオマーンやアラブ首長国連邦、イエメンだ。

まあ、この時代ではまだアラブ半島の一部か？

オマーンには一時期ポルトガルがいたからそれなりの軍港などがあるだろう。

それとイエメンやソマリアなどは海賊の巣窟だ。

他国の輸送船を襲って金品を強奪するのが漁師が漁業で魚を取るのと同じ感覚の国だからな。

海賊は根城ごと殲滅して、国民はキツチリ教育をしなくてはいけない。

いずれ紅海にはスエズ運河が出来て重要海域になるからな。

現代みたいに海賊騒ぎが起きたら困る。

じゃなきゃ冗談抜きで民族整理が必要だ。

まあ、今から100年ぐらいかければ流石に出来るだろう。

製塩や漁業、果樹園栽培、織物などの産業を発達させればマシになる筈だ。

新たな空母が完成した。

蒼龍型空母

全長222・0m

最大幅21・30m

吃水 7.62 m
排水量 1万8800トン
速力 34.5ノット
兵装
12.7cm 40口径連装高角砲×6基
20mm 3連装機銃×14基
搭載機数
57機、補用16機。

ようやく空母らしい空母が出来た。
まだ小さいけどとりあえずは基本が完成した。

そして空母完成と同時にようやくマシな艦上機が完成した。

92式艦上戦闘機

全長 8.76 m

全高 3.61 m

最大幅 11.58 m

エンジン

空冷星型復列 14気筒 1200馬力×1基

実用上昇限度 10637 m

最高速度 511 km

航続距離 1290 km

武装

20mm 機関砲×4基

爆弾 45 kg×2。

つまりワイルドキャットだ。

ようやくちゃんとした艦上戦闘機が完成した。

今までは陸上機を艦上機に改造したような機体だったから不満が多かった。

ちなみに艦爆や艦攻なども開発済みだ。

92式艦上爆撃機

全長11.18 m

全幅15.16 m

全高4.01 m

エンジン

空冷星型14気筒1900馬力×1基

最大速度475 km

武装

20 mm機関砲×2基

12.7 mm機銃×2基

爆弾907 kg。

ヘルダイバーを模した。

92式艦上雷撃機

全長12.48 m

全幅16.51 m

全高4.70 m

エンジン

空冷星型14気筒1900馬力×1基

最高速度444 km

実用上昇限度9170 m

航続距離1610 km

武装

20mm機関砲×2基
7.62mm旋回機銃×1基
爆装

航空魚雷×1
または爆弾907kg。

これはアヴェンジャーを模した。
勿論全部にレーダーを装備しているから夜間飛行も可能だ。

これで空母艦載機は揃った。
ちなみに普段は訓練にしか使わないが、侵入禁止区域に入った外国船を沈めたりもしている。

陸上戦闘機も新たなのが完成した。

92式陸上戦闘機

全長8.69m

全幅11.38m

全高3.71m

エンジン

空冷星型復列14気筒1050馬力×1基

最大速度486km

実用上昇限度10056m

航続距離1328km

武装

20mm機関砲×2基。

少し艦上機に比べると性能は落ちるが、堅実な設計でなかなか良い。

四発の重爆撃機が完成した。

92式爆撃機

全長20・648 m

全幅31・447 m

全高5・800 m

エンジン

空冷星型9気筒1200馬力×4基

最大速度465 km

実用上昇限度10786 m

航続距離5474 km

武装

20 mm機関砲×4基

12・7 mm機銃×10基

爆弾2724 kg。

ようやく重爆撃機が出来た。

まだB-17レベルなので核攻撃力は無いが、いざというときに反乱鎮圧などに使えるだろう。

これで航空戦力は整った。

でもこの時代に公開するとキリスト教に異端認定される可能性が高いから公開出来ない。

残念だ。

イランには一応ロシアと当たらないように間に緩衝地帯を設けたが、多分ロシアは南下してくるから国境に要塞線を築こう。ウラル要塞のような堅牢な要塞を築けば侵攻を防げる。それはウラルで既に証明しているから安心だ。

ちなみに俺専用の輸送機も作った。

C-47スカイトレインをコピーした機体だ。

内装や防弾、防音設備を充実させたからちょっとした旅客機になった。

流石に遠くの領土を視察する時に船での移動は面倒過ぎるからな。

47 (前書き)

これからは特に大きな戦争は無いので更にダラダラとした展開が続きます。

1672年（日輝94年）

第三次英蘭戦争勃発。

オランダとフランスの戦争にイギリスがフランスと同盟を結んでい
たから参戦した事によって起きた局地戦だ。

しかしオランダにはキツイ戦争だ。

第二次英蘭戦争からそれほど時間が経っていないために疲弊してい
た。

こんな時にフランスとイギリスの二国を相手にしなくてはいけない
という地獄を強いられたのだ。

そんなピンチのオランダに同盟国の日本からある要請があった。

最新式の武器、兵器や物資などを大量支援する代わりに代金として
ケープ植民地を日本に譲渡して欲しいという要請だった。

最新式兵器や物資などを大量にくれるのは嬉しいが、貿易の要所と
なるケープ植民地を渡すのは流石に躊躇われた。

日本には前回の戦争でイギリスのアジア領土を全滅させた恩義があ
るから簡単には断れない。

どうしようか悩んでいると日本側から

「もしもイングランド王国がケープ植民地を占領したら貴国の使用
は不可能になるが、我が国に譲ってくれるなら同盟国である貴国も
勿論使える。」

という前回と同じ言葉だが成る程。と思った。

確かに現在の勢力図では自国の勝目は薄い。

もしもケープ植民地を奪われればイングランド王国は自国の使用を

許さないだろう。

その前に日本に譲れば自国も貿易に利用出来る。

アジアでイングランド王国相手に完勝した日本ならケープ植民地も守れるだろう。

交渉の結果、日本は大量の武器、兵器、物資をオランダに支援する。そしてその代金として日本にケープ植民地（南アフリカ）を譲渡することに決まった。

北郷サイド

よし、これでスエズ運河が出来るまでのヨーロッパとアジアを結ぶ貿易の要所、ケープタウンを手に入れた。

そして現代の南アフリカらへんまで進駐する。

南アフリカには大規模なダイヤモンド鉱山や金、プラチナ、ウランなどなど鉱物資源に優れている。
残念ながら原油は出ないがな。

とりあえずこれでアフリカの拠点も出来た。

アフリカは資源が豊富だからまだまだ欲しい所はある。

そこを取るために南アフリカは中継地点として欲しかったんだよ。

イギリスサイド

チャールズ2世はまたまた不機嫌になっていた。オランダとフランスの間にネーデルラント継承戦争が起こり、フランスと同盟を結んでいたイギリスはフランスに味方してオランダと戦端を開いた。そうしたらまたあの極東の島国、大日本帝国がオランダ支援してきた。おかげで戦線が多少膠着状態になってしまった。

「それで、今回の日本は支援だけなのか？」
チャールズ2世が補佐官に聞いた。

「はい、日本はオランダからケープ植民地を貰う代わりに大量に武器、物資を支援した模様です。」

以前の戦争では支援だけではなく、参戦してきてアジア領土を全て奪われるという耐え難い屈辱を与えられたのだ。

「だから日本の動きに過敏に反応しても不思議は無い。
「そうか、ならば今回の戦争は大丈夫だな。ただの武器支援だけなら多少こちら側の被害が大きくなるだけで戦局までは変わらないだろう。」

「安心したようにチャールズ2世はため息をつく。
日本の強さはインド戦で嫌という程に解らせられた。
だから日本が参戦して来ないなら大丈夫と確信出来たのだ。」

「しかしこれからどうするかが問題だな。日本はフランス、イスパニア、ポルトガル、オランダと言った大西洋の主要国を仲間に付けている。」

この同盟を崩したいが、利用出来そうな神聖ローマやトルコは既に日本と同盟を結んでいる。
今の勢力図では日本が圧倒的有利だから日本を敵に回してまで我が国に付く国はいないだろう。」

それがチャールズ2世の悩みの種だった。

ヨーロッパの有力な国はほとんど日本と同盟を結んでいる。唯一同盟を結んでいないのはロシアだが、イギリスとロシアの関係は微妙だ、それにロシアは日本と国境を接しているからイギリスに味方すれば本国が危機に瀕するから協力してくれないだろう。

「やはりここは先ずこの戦争に勝ち、そして戦力を蓄えた後に南米を攻めましょう。」

ポルトガルやスペイン相手なら勝機は十分あります。

それに南米には銀鉱山など資源が豊富ですから来る日本との決戦のために戦力を蓄えられます。」

その意見にチャールズ2世も頷く、とりあえず日本は後回しにして南米を叩くしかないのだ。

余裕があればアフリカにも進出して更に勢力を強める事も出来る。

こうしてイギリスは先ずはオランダとの戦争に集中する事にした。日本が参戦することは無いだろうから勝てると確信を持てたのだ。

北郷サイド

先ずは南アフリカの平定だな。

治安上昇のために盗賊などは殲滅する。

そして政府庁舎建設やインフラ整備、軍港、港湾部の拡張。

オランダは港街などは整備していたが、地方はほったらかしだったから地方も整備する。

各種産業を教えて雇用を生み出す。

勿論港街も更に発展させて税収も上がる。

北郷商事の店舗も展開して物流をスムーズにする。

これだけで住民の心を大体は掴める。

この時代では黒人は奴隷でしかないが、日本は奴隷制度を否定しているので奴隷扱いはされない。

等しく三等国民扱いをされて基本的な教育（洗脳）を受ける。

兼続教も布教すれば大いに流行るだろう。

何せ本当の意味で希望をくれたからな。

ダイヤモンド鉱山などの採掘も始めた。

ヨーロッパ諸国には高値で売れるだろう。

貴族同士で見栄を張る時代だからな。

同盟国への献上品に加えれば各国との関係も更に良くなる筈だ。

今回微妙に敵対したフランスとの仲直りにも使える。

まあ、支援理由にイギリスがオランダに宣戦布告したから、と正式発表したから多分大丈夫だろう。

フランスも日本を敵に回して良い事は無いと分かっているだろうし。

赤外線装置が完成した。

これで夜間攻撃も可能になった。

現在は暗視装置を開発中だ。

ようやくエアコンが完成した。

これで暑い夏ともおさらばだ。

戦艦などにも設置して冷暖房を完備させる。

赤道付近の航海は地獄らしいからな。

1674年（日輝96年）

第三次英蘭戦争が終結。

イギリスとオランダの間にウェストミンスター条約を締結。

オランダはニューアムステルダム（ニューヨーク）やニュージャージーなど北米の領地を失った。

ここからオランダが本格的に落ちていく。

まあ、別に良いけど。

オランダの主要な貿易拠点は大体手に入れたからな。

後は史実通り落ちて行っても良い。

いや、蘭印とかインドが無いから史実より落ちるな。

でも日本の港を利用出来るから貿易自体は以前よりやり易いと思う。

これからは海上貿易一本で頑張る事になるな。

イギリスはまだ動かないだろう。

流石に連戦続きで疲弊しているだろうし、オランダも粘ったからそれなりの損害も受けている。

動くのは18世紀に入った辺りかな？

この時代にはまだ無いが、アラブ首長国連邦を領有化した。

まだこの時代ではただの砂漠地帯だが、何れはとんでもない金持ちの国になるとはな。

石油は偉大だねえ。

しかし今は何も無いからとりあえず開発だ。他の地域みたいに役所など政府庁舎を建てて住民登録をした後、インフラ整備をして生活を楽にする。

雇用も沢山生まれるしね。

そして義務教育として最低2年間日本語教育や簡単な計算など日本人化させる。

後はイランみたいに何かしらの産業を発達させて生活水準を上げてモラルを教える。最早ルーティンワークだな。

もうすぐ第二次露土戦争が始まる。

ロシアとトルコは合計十回以上は戦争をする。

最初はトルコも勝っていたけど、段々劣勢になっていった。最後はほとんどの領土を失っていた。

だからその前に日本が少し貰っても良いよね。

戦争機運が高まってきたら武器や物資、情報など様々なものを買わせよう。

そして代金として領土を貰うよ。

どうせ後々失う領土だ。

インドで反乱が起きた。

ムガル帝国に反旗を翻し、シヴァージーという男がデカン高原を中心とした地域にマラータ王国という独立国を建国した。

史実通り反乱が起きたのでこの騒乱を利用して貰う。

2000年位かけてインドが破産するのを待つのは面倒だからこの気

に一気に勢力を拡大する。

パキスタンやマドラス、カルカッタなどに建設した基地からマラータ王国に宣戦布告した。

理由はムガル帝国救援のために。

デカイ国だからスピードを早めるために戦車や装甲車などで電撃戦を仕掛けた。

相手は歩兵だけだから機動力を重視した装甲車を用いる。

歩兵は自動小銃や機関銃、榴弾砲、火炎放射機など近代装備で固めた。

そして装備や編成が完了したら一気に突っ込んだ。

ムガル帝国がほぼ滅んだから分裂した事で出来たパキスタンやアフガニスタン、そしてマラータ王国に。

マラータ王国サイド

マラータ王国の兵士達は日本軍を待ち構えていた。

散々豪遊をして国を疲弊させていったムガル帝国をデリーまで追いやり、ようやく主導権を掴めると思ったら大日本帝国がムガル帝国に参戦した。

間もなく攻めてくることを聞き付けたマラータ王国軍は防衛のために待ち構えていたのだ。

実際よく知らないのだが、日本は強いらしい。

何でも小さな小国から始まったのに、今ではアジアをほぼ支配するまでに強い国になったらしい。

しかし自分達も負けられないのだ。

ようやく独立が成功してこのインドを牛耳れそうなのだ。

ここで負けられるか。
と彼らは息込んでいたのだ。
敵を見るまでは…。

「な…何なんだあれは？」

自分達の前方からは見たこともない何かか押し寄せて来る。
けたたましい馬の蹄の音や大軍の足音とも全然違う何か大きい音を
ならしながらこちらに来る。

その未知との遭遇に周囲の兵士達は恐怖して今にも逃げ出しそうだった。

しかしその願いは叶わず、ある轟音が鳴り響いた。

未知の物体が突然火を吹き、編隊が爆発した。

突然の事に兵士達が固まっていると、また未知の物体は火を吹き、
そして今度は違う音も紛れていた。

言うならば銃を連射したかのような音が鳴り響き、味方は次々引き
裂かれた。

「痛い、痛い！！何なんだアレは！！！！？」

「俺の足が無い！！！！何処だ！！！！？何処にあ…。」

腕を吹っ飛ばされのたうち回る者や、無くなった自分の足を懸命に
探している内に頭を吹っ飛ばされた者など悲鳴が鳴り響き、辺りは
地獄と化した。

そして次の地獄が訪れた。

足が無くなったり、恐怖からか動けなくなった者達はその物体によ
って踏み潰され、次々と悲鳴を上げながら絶命していった。

何とかそれを生き延びても、後ろの歩兵達に穴だらけにされたり、
洞窟などに逃げ込めば洞窟ごと焼かれ、死んでいった。

そして次々と兵士達を虐殺していき、遂にはマラータ王国国王、シ

ヴァージーが籠る要塞を包囲した。
一応の降伏勧告はしたが、一切応答が無いので榴弾や徹甲弾、ロケット弾までを撃ち込み、要塞を陥落せしめた。

北郷サイド

その後、シヴァージーをムガル帝国に引き渡し、今回の救援の礼として今残っているムガル帝国領土のデリー以外を貰った。

ムガル帝国に最早実行支配能力は無い。

勿論パキスタンやアフガニスタンも占領済みだ。

パキスタン、アフガニスタンを加えデリー以外の新たな領土を手に入れ、以前書いた徹底支配を施した。

イギリスみたいに美味しい所だけを取っていく訳ではなく、インド市民も豊かになるから文句無いだろう。

一応インフラ整備や市場や産業開発もしてやるんだからな。

ムガル帝国は一応残しておいたが、もう保たないだろう。

領土のほとんどを取られ、威厳も何もかも失った。

時期自壊する。

その時に併合すれば良いだけだ。

イギリスとの関係は良くないが、お互い利益を尊重するために通商条約を結んだ。

そして後にイギリスが依存するようになる茶を輸出してやった。

品質は様々、値段によっては一級品も売ってやる。

中国とは違い、金さえ払ってくれば客だ。

だから安い三級品を一級品だと言って売るなどはしない。

それに、この紅茶にハマってくればそれなりの利益になる。中国と貿易関係結んでそつちから茶を輸入しても良いけど、足元見られて高値で売られる可能性が高い。インドは既に手に入れたから安い紅茶は手に入らないし、阿片戦争起こすにも肝心の阿片生産地のインドは日本の領土だし、日本の目の前で戦争するのはかなりの勇気が必要だ。

だから日本から買うのが一番早く、安い。

そうなったら紅茶の販売は日本が独占するから日本と関係が悪くなると茶の値段が高騰する可能性が高い。

そうなると困るからイギリスは日本と仲良くするしかない。

だから今の内に紅茶をイギリスで流行らす。

何せ文化や軍事で最も進んでいる国から入ってきた飲み物だ。

興味を持たない訳が無い。

最初は特級や一等品まで安く売ってやればハマるだろう。

一度ハマればこちらのものだ。

段々高くしてやっても売れる。

と言っても馬鹿高くはしない。

それじゃあ売れないからな。

ある一定になつたらそこを平均として上下させる。

その動きで市場は一喜一憂するだろう。

何せ茶も一種のドラッグだ。

カフェインが含まれているから軽度の依存性を持つ。

合法ドラッグをイギリスに大量に売りさばき、イギリス国民を依存性にさせ、儲ける。

49 (前書き)

今回の話もかなり都合の良い展開になっています。

1676年（日輝98年）

第二次露土戦争勃発。

トルコが領土拡大に動いたために起きた戦争だ。

日本はトルコに事前に大量物資を輸出してトルコを支援した。そして日本は武器や物資、情報代金の代わりにアラビア半島を要求した。

アラビア半島にはイスラム教の聖地メッカがあるが、他には大したものはない。

ほとんどが砂漠や岩、砂地だ。

資源的価値がほとんど無かったため、友好国である日本にトルコは代金の代わりにアラビア半島を譲渡した。

別に聖地メッカに行けなくなる訳では無いからな、友好国だから普通に来れるし、むしろメッカへのインフラを整備して来やすくするなど説明して分かって貰った。

それに前回の露土戦争ではロシアに負けているから今回は負けられないというのも大きかったな。

こうして日本側から大量の武器や物資を受け取ったのでトルコはロシア相手に優勢になった。

トルコ兵達は日本製の最新式武器を持ち、次々進軍する。

後方からは補給は次々届く。

トルコ軍では日本に感謝もしていた。

多少大きな領土を失ったが、代わりに新たな領土が出来そうだ。

何も無いアラビア半島よりウクライナの方が彼らには魅力があった

のだ。
それに日本はやけにアラビア半島を欲していた。
あんな砂漠地帯と引き換えに様々な物を取引に持ち込んでいた。
あの砂漠地帯に何か欲しい物でもあるのか？とトルコは首を傾げた
のだった。

北郷サイド

産油国第一位のサウジアラビアを買った。
あんな旧式兵器と物資などで大量の原油を手に入れた。
何れこの国の価値は跳ね上がる。
そうなれば先進国達は日本から石油を買うしかない。
産油国のほとんどを取るからな。
石油が無いと暮らせない世の中が訪れれば金には困らない。
ちなみに買ったのは現代のサウジアラビアとクウェートの部分だけ
だ。
イラクやヨルダン、シリアなどは流石に無理だった。

この時代ではアラビア半島はロクな資源も無い貧困地域だ。
聖地メッカがあるからイスラム教が強いしな。
兼続教は一神教では無いから仲良く出来るけど、イスラム教やキリ
スト教は一神教だから扱いが面倒くさい。日本は宗教の自由を尊重
しているから別に国から手出さない。
何か騒ぎを起こせば別だが。
しかしイスラム教は広がり過ぎて駆逐するのは不可能だ。
何とか共生するしかない。

メッカは観光地に使えるから収入源にもなる。

サウジアラビアはメツカを観光地として認めていなかったから収益はあまり無かったが、立派な観光地に仕立て上げればそれなりの収益は期待出来る。

何せイスラム教はかなり広まっているから信者の数も膨大だ。

そいつらが巡礼なり何なりできればホテルやレストラン、土産物屋などが儲かる。

原油の価値が分かるまではこれで稼ごう。

イスラム教徒達に文句を言われないようにメツカを発展させる。

古い建物は修繕して昔の雰囲気を残しつつ、新しい建物などを建て更に立派にすれば文句も出ないだろう。

自分達の聖地が大事に思われていると思えば日本に対する忠誠心も上がりやすい。

そのために何時も通りのルーティンワークをしなくては。

道路整備をしてメツカに行きやすくしたり、水を引いて暮らしやすくする。

上下水道も完備しなくてはいけない。

でも水資源に乏しいサウジアラビアで上下水道はキツイな。

現代みたいに深い井戸を掘ったり、海水を淡水化する装置を開発する必要がある。

まあ、まだそんなに人口が多くないから海水ろ過装置はいらないかしらしくは井戸で何とかなる。

それと教育もしっかりしなくては。

日本は政教分離国家で宗教は政治に関われない事をしっかり教えなくてはならない。

長年宗教が政治を支配してきたからな。

日本人化教育を徹底させ、100年以上かけて教え込もう。

通常三等国民は二年間の義務教育だが、イスラム国家は三年に伸ばそう。

洗脳教育を重視して昔の価値観をゆっくり変えてやる。
急激に変えると反発するからな。

それとロシアが史実通りそこそ負けるか引き分けになるように影ながら支援も続ける。

あんまりにも負けられるとロシアが無くなるからな。

露土戦争は史実通り何度も何度も起きて欲しいからロシアとトルコの損害は調整している。

まあ、時期が来ればロシアにも退場して貰うが。

アジア方面をとりあえずは諦めたイギリスは矛先を南米に向け、ポルトガル領ブラジルに侵攻した。

以前敗北した日本ともそこそ離れているし、現在露土戦争においてトルコを支援しているから簡単には援軍を出して来ないだろうと賭け、イギリスはアジアに向ける筈だった戦力を注ぎ、ブラジルに攻め込んだ。

勿論ポルトガル軍も日本から大量に輸入した武器で迎え撃ったが、イギリスの猛撃と言う程の激しい攻撃を受けて劣勢になってしまった。

頼りにしていた日本はトルコ支援で忙しいと軍の派遣は断り、約束通り武器や物資の支援のみはした。

一方スペインも日本が参戦しないならと自分も参戦を拒否。

スペインも財政状態が良いとは言えないので、勝機が薄いポルトガルを助ける事は出来なかった。

北郷サイド

成る程、インドの代わりにブラジルを手に入れるために動いたか。別にポルトガルを助けるのも良かったが、ここでイギリスを撃退するとイギリスはいよいよダメになる。

そうなればヨーロッパの抑えが効かなくなってフランスが活発に動き出す可能性が高い。

だからここはイギリスの力を増強させるためにポルトガルには涙を飲んで貰おう。

スペインにも参戦しないでくれと頼んどいた。

スペインとポルトガルの関係は微妙だしな。

元々ポルトガルはスペインの一部だったから独立した時の恨みは多少残っていた。

だから今回のイギリス・ポルトガル植民地戦争においてイギリス軍がスペイン領に侵攻して来たら必ず援軍を出すという取り決めによってスペインはポルトガルを見捨てた。

ブラジルを吸収すればイギリスもマシになるだろう。

ポルトガルの時代はもう終わりを告げたのだから。

1681年（日輝102年）

第二次露土戦争が終結。

トルコの勝利としてバフチサライ条約を結んで終結した。
トルコがポドリアを得てロシアがキエフを得る事で同意したのだ。

北郷サイド

何とか史実通りになったな。

しかしここまで弄くり回したのに史実通りになるとは、結構歴史の修正力？は強いんだな。

少しロシアの手助けをしただけなのに簡単に状況が回復したり、トルコ側にも何らかのトラブルが起きたりして侵攻が弱まるなどして結局は史実通りに終わった。

成る程、歴史を修正しようとするればある程度は可能らしい。
何かは分からないが後押ししてくれろし。

まあ、俺にとっては助かるがな。

あんまり歴史が変わり過ぎると予測が困難になるし。
出来るならヨーロッパ関係にはあんまり関わりたくない。
年がら年中五月蠅いからな。

北米領有化も順調だ。

カナダは西半分は日本領になったし、アメリカもミズーリ川以西は取った。

まあ、それでも北米の主要な部分はフランスが取ったがな。

東海岸ではイギリスとフランスが睨み合っている。

このまま行けば史実通りにフレンチ・インディアン戦争が起きる筈だ。

日本はフランスと同盟国だから勿論フランスを味方する。

そしてフランスと手を組み、イギリスを北米から追い出す。

その後北米はフランスと日本で二分すれば良い。

そうすれば大した苦勞もせずに北米の大部分を取れる。

フランス側も何れ貰うしな。

アメリカは絶対存在すらさせない。

アメリカが存在せず、イギリスを抑えれば世界を取ったも同じだからなあ。

フランスなんか簡単に勝てるし。

というか勝手に弱る。

うーん…。

フランス革命を阻止する予定だったけど、どうしようかなあ？

革命を阻止してもまた起こりそうだし、起こらないと歴史が変わり過ぎるしな。

どうするべきか。

いつそのことナポレオンを勝たせるか？

というかイギリスが史実より落ちているからトラファルガー沖の海戦で負けるんじゃない？

そうなったらイギリス本土上陸を阻止出来ないからイギリスが陥落する可能性がある。

どうなんだろ？

新たな空母が完成した。

翔鶴型空母

全長270m

最大幅28.4m

吃水7m

排水量3万6380トン

エンジン

蒸気タービン4基4軸

最大速力33ノット

兵装

38口径12.7cm連装砲×12基

56口径40mm機関砲×68門

78口径20mm連装機銃×65門

搭載機数

102機（露天駐機を含む）

名前は翔鶴型だが、実際はエセツクス型だ。

完璧に防空能力を高めた艦だ。

まあ、まだ他国は飛行船すら飛んでいないが。

ちなみにエスコート艦として駆逐艦や巡洋艦も完成している。

秋月型駆逐艦

全長114.8m

最大幅 12 m
吃水 3.8 m

排水量 2500 トン

エンジン

ボイラー 4 基、タービン 2 基・2 軸

最大速力 36.5 ノット

兵装

12.7 cm 38 口径単装砲 × 5 基

40 mm 連装機銃 × 10 門

20 mm 連装機銃 × 10 門

533 mm 5 連装魚雷発射管 2 基

爆雷投射機 6 基

爆雷投下軌条 2 基

フレッチャー型駆逐艦を模した。

他にもクリーブランド型軽巡洋艦を模した阿賀野型軽巡洋艦やボルチモア型重巡洋艦を模した最上型重巡洋艦などを作った。

このように軍艦は完全に第二次大戦に突入した。

戦闘機も完全に第二次大戦に突入した。

102 式陸上戦闘機

通称烈風

全長 10.92 m

最大幅 12.43 m

全高 4.12 m

エンジン

空冷星型復列 18 気筒 2300 馬力 × 1 基

最大速度 690 km

実用上昇限度 12800 m

航続距離 2740 km

武装

20 mm 機関砲 × 4 基

爆弾 9000 kg

P-47D サンダーボルトを模した。

勿論排気タービン過給機を搭載しているら高高度戦闘も可能だ。

防御力も装甲車並に固めてあるから大抵の攻撃には多少耐えられる。

四発重爆撃機も新たに完成した。

102 式重爆撃機

通称連山

全長 30.19 m

最大幅 43.07 m

エンジン

空冷星型復列 18 気筒 2200 馬力 × 4 基

最大速度 580 km

実用上昇限度 9700 m

航続距離 5232 km

武装

20 mm 機関砲 × 4 基、 12.7 mm 機銃 × 8 基

爆弾 9000 kg

まんま B-29 だ。

これなら核爆弾も搭載出来る。

しかしまだ原爆が出来てないから通常爆弾や焼夷弾などしか搭載出

来ない。

まあ、爆撃機以外でも使い道はある。
輸送機代わりにも使えるから空輸能力も上がる。

艦上機も新たに完成した。

102式艦上戦闘機

通称雷電

全長10.22m

全高3.99m

最大幅13.06m

エンジン

空冷星型18気筒2000馬力×1基

最大速度611km

実用上昇限度11370m

航続距離2100km

武装

20mm機関砲×4基

爆弾1.36トン

航空魚雷1本

F6Fヘルキャットを模した。

ちなみに俺がアメリカ機を好むのは防御能力が高いからだ。
史実の日本と違い、人的資源を大事にしたいから重武装で強火力な
アメリカ軍機を好む。

ちなみに偵察機には彩雲を採用している。

採用理由は単純に航続能力が物凄いからだ。

イギリス対ポルトガルの戦争も終結した。

予想通りイギリスが勝利し、ブラジルはイギリス領となった。

史実のインドのように保護国にして、イギリスは美味しい所だけを持っていくらしい。

確かにブラジルもそれなりの市場や生産力を誇るからな。

第二のインドになったか。

こうしてイギリスはアメリカ、イギリス、ブラジルの三角形を描く貿易路が出来た。

更にイギリスは医薬品としてブラジルで栽培したアヘンを中国に輸出し始めた。

まだアヘン戦争前みたいな膨大な量ではなく、一箱60kgを毎年200箱程度を売るだけだ。

でもこれでアヘン戦争フラグが立った。

明は領土を拡大して国力を増やし、ウザったかったから丁度良い。精々中国を荒らしてくれ。

ちなみに日本は麻薬の売買は禁じている。

アヘンやコカインなど外国からの輸入は勿論国内での売買や無許可での製造をしたら処刑される。

兼続教にも麻薬の乱用は害悪にしかならないと厳しく禁じ、麻薬乱用者がいれば迫害すらする。

ちなみに医療目的なら麻薬類の使用や売買、製造は可だ。

ただし扱うには厳しい免許を取らなくてはいけないし、麻薬取締官や医師などしか試験を受けられない。

現代よりも厳しい。

と言っても国内で使われる麻薬は医療用麻薬であるモルヒネぐらいだ。

医療大麻は認めていない。

流石にモルヒネは禁止出来ない。無いと痛み止めがかなり面倒だからな。

最近暇だから久しぶりに食道楽に走るか。

インドから香辛料を輸入してカレー粉を作る。200年ぐらい早いけど日本でカレーを作る。

久しぶりに日本風カレーが食べたかったからな。

インド風カレーはたまになら良いけど何か違う気がする。

日本風カレーを開発して広めればきっと史実通り大流行する筈だ。

それとちよつと難しいけどワイン作りも始めた。

この時代の本物の日本酒や焼酎なども良いけど、たまには海外の酒も飲みたい。

ワインの他にもウイスキー、ウォッカ、テキーラ、ブランデーなど海外の酒を作った。

ストレートやロック、カクテルなどにしたりして楽しむ。

世界一の領土と領海を誇る大日本帝国を影から支配している俺は意外と暇が多い。

基本方針や経過報告を週一回話し合い、指示を出せばやることはほとんど無い。

皇帝時代は事務仕事に追われていたが、皇帝はとつくに辞めたからする必要は無い。

駒達は勝手に量産されて支配基盤は堅牢になっていき、絶大な権力

を更に得るために皇帝直属（実際は皇帝より上だが）の戦略研究会を設立したおかげで面倒事は全部片付く。

まあ、俺が生きている事が知られるとヤバいから前の世界のように表に出られないからこうなるしか無いが。

だから暇つぶしに以前のようになんか本を読みまくったり趣味に走る。

そう言えばヨーロッパの絵画技術などを取り入れたせいで最近簡単な漫画が出来て来た。

まだ四コマ漫画レベルだが着実に漫画文化が育ってきた。

まだ輪転機を開発してないから毎日発行は無理だが、毎週発行している新聞に四コマ漫画を載せているから市民達にも流行って来ている。

出来るなら早く漫画が構築されると良いな。

良い暇つぶしになる。

1684年（日輝105年）

オマーン、イエメンを領有化。

これでアラビア半島は制圧した。

OPEC加盟国もデカイ所は押さえたからこれでいいか。

流石にベネズエラは難しいしな。

後はソマリア、エリトリア、スーダン、エジプトを手に入ればスエズ運河を手に来る。

既にパナマは押さえたからスエズを手に入れば主要航路は押さえたも同然だ。

とりあえず今は反乱が起こされたら困るからちゃんと統治しなくてはな。

サウジアラビア同様、役所建設して戸籍登録をさせて人口を把握する。

そしてインフラ整備をして軍の移動や物流をしやすくする。

下水道はそんなに難しくないが、やはり水道は難しい。

オマーンは現代では何故かロクな河川が無い癖に農業をかなりやっている。

あまりに非効率的だから農業は止めさせて漁業や手工業に変えさせる。

この時代ならまだ底引き網の被害は無いから豊富な漁業資源がある筈だ。

農業は出来ても河川の近くで小規模にやるしかない。

野菜などはイランから運搬しよう。

イランではまだ石油の価値が見出だされていないから農業が活発だ。雇用においても他の産業を起こしているけどそれでも人気だ。

農業機械や化学肥料など近代農業を教えているから耕作地も大きくなるだろう。

だが国土のほとんどが砂漠だからたかが知れている。

ちなみに現在積極的に耕作地を拡大しているのはカナダ、アメリカ、オーストラリア、ウラジオストクだ。

日本国民の人口は順調に増えているからその分食糧が大量に必要なだ。新しく手に入れた値域も安定化させるために食糧がまた大量に必要なだ。

人間腹一杯食わせてくれる国に逆らおうとはしないものだ。

フランス革命やロシア革命も食糧不足が大きな理由だからな。食糧や雇用を与えれば革命は起きない。

各植民地で工場制手工業を経営しているから人出は幾らでも欲しいからな。

史実では資本家と国家が対立してたけど、日本の企業のはほとんどは北郷商事の傘下だ。

だから対立することなく、支配下に置いている。

それにメキシコやカリフォルニアの金鉱山や銀鉱山など沢山金銀があるから金には困らない。

まあ、俺の能力があるから無くてもなんとかなるけど、あつた方が
良い。

貿易も順調だ。

明やフランス、トルコ、イギリスなどなど取引相手は幾らでもいるから貿易でも儲けられる。

というかこの二つが無かったらここまで植民地を広げる事は不可能だしな。

今回領有化したオマーンやイエメンも何れは金を産み出してくれる。
というかそれが無かったら一々こんな遠くまで来ない。

ようやく使える潜水艦が完成した。

105式潜水艦

通称大波

全長95m

最大幅8.2m

吃水4.6m

排水量2410トン

エンジン

水上航行用ディーゼル4基、エレクトリックモーター4基・2軸

最大速度 水上20.75、水中8.75ノット

最大深度90m

兵装

533mm魚雷発射管10門（前部6、後部4）

76mm砲1基

20mm機関砲×2基。

これで海域の監視も楽になる。

侵入したら雷撃かましてやれるからな。

人工衛星打ち上げにも成功。

何度も失敗したが、ようやく成功した。

通信衛星を打ち上げ、問題なく受信出来たから成功だ。
後は気象、スパイ、GPS、天文、通信などを打ち上げれば情
報は完璧になる。

何せ何処に誰がいるのかも簡単に分かるんだ。

反乱防止と治安維持のために銃刀法を制定した。
現代と同じように市民は武器を所持や所有してはいけないと、厳し
く制定した。

更に治安維持のために交番制を制定した。
繁華街など人が集まる場所や田舎など人が少ない地域にも、人口に
合わせて設置し、警官を待機させる。

ちなみに警官は警棒と銃を携帯しても良い。
銃はリボルバー式の拳銃を所持。
流石に丸腰で犯人逮捕は難しいからな。

ムガル帝国がついに日本に帝位を売り払って来た。
まあ、支配地域がデリーのみで借金漬けになり威厳も失っていたか
らよく持ったと言うべきか。
老後の心配のために国を売り払って来た。
勿論買い取り、デリーもインドに併合した。
これでインドを完全に支配した。

ちなみにこの世界ではインドの首都はムンバイだ。
デリーは海から遠いし、後から参入したから発展も遅れている。
だからこのままムンバイで行く事にした。

1686年（日輝107年）

第三次露土戦争勃発。

こんな短期間に何度もするのは凄いね。

今回もトルコの領土を貰うために交渉を持ちかけた。

アルジェリアとチュニスを買いたいとトルコ側に伝えた。

トルコはロシアやヨーロッパ侵攻のために大量の資金を求めている。アルジェリアやチュニスは大した資源も無い砂漠地帯で本国から遠く離れているため支配が難しい。

だからその厄介な土地を大金で買い取ってくれるというのでトルコ側も乗ってきた。

今トルコは勝ちに乗っているので今回の戦争も勝てると思っていたのでアフリカ領土を少し失うぐらいは問題無いだろうと思ったのだ。

こうして日本はアルジェリア、チュニジアを買収する事に成功した。日本は太平洋、インド洋に続き、地中海へも進出したのだった。

北郷サイド

アルジェリア、チュニジアを取った事で地中海も行動範囲内に入った。

この時代ではアフリカ諸国はロクに水資源もない砂漠地帯でしかない。

しかし現代ではとんでもない価値を持つ。

原油やレアメタル、天然ガスなど資源が豊富な土地だ。

だから価値が見出だされる前に手に入れる必要があったのだ。

原油の価値が解れば決して手放さないだろうからな。

それと今の内にモロッコも手に入れよう。

一時期イギリスが占領していたが、既に撤退している。

だから今の内に取っとく。

モロッコを取れば補給路も確保出来るしな。

本当ならエジプト辺りが欲しかったが、エジプトは肥沃な大地と交通の要所だからそれなりの重要性を持つし、アフリカとトルコを分断する事になるから無理と判断して端から順々に取っていく事にする。

この先トルコは落ちていくから取るのは簡単だろう。

先ず今回の戦争でハンガリーを失ってしまう。

そして後の露土戦争でもほとんど勝てず、良くて引き分けの内容になる。

だからこれからは更に物資や資金が必要になるから交渉は楽になる。

今回の交渉も今までなら武器や物資援助で領土を買っていたが、この戦争でトルコには負けて欲しいのでただ買収した。

これなら戦局に変更は出ない。

トルコは中東を支配しているから邪魔なんだよな。

原油の多い所ばかり占領しているからなあ。

とりあえず今は新たに手に入れたアルジェリアとチュニジアの整備

だ。

戸籍登録や住民登録などなど面倒くさい役所仕事だけどやらないと正確な人口や住所などが分からないからキッチンとやるしかない。インフラ整備をして生活環境を整えないといけないし、学校を建てて教育しないと人的資源が使えない。

だから上下水道作ったり道路をアスファルトやコンクリートで舗装して交通を整えて、日本人化教育をして自分達は日本人となるのだと解らせる。

後は公共事業や市場進出で雇用を産み出し、国民全体を裕福にする。どうしても逆らう者は極東地域かカナダ辺りの開発に使う。

産業も進出して稼ぎ口を増やす。

漁業や製塩、織物、工芸品作りなど幾らでも産業は出来る。

それにアルジェリアは年間降雨量が結構多いから農業も出来る。乾燥に強い品種を作ればそれなりの収穫が期待出来る。

結構お徳な国だ。

ようやく原爆が完成した。

太平洋の島で地下核実験を行なった。

結果は成功、小さい地震が起きたことからちゃんと起爆した事が分かった。

これで最終兵器が完成した。

例え何処の国が攻めて来ようとも一瞬に滅ぼせる。

さて、次の段階は水爆の開発だ。

水爆が出来ればほぼ最強だ。

既にロケット、ミサイル技術は発展しているから核ミサイルも完成

する。

そうならば世界中を標的に出来る。

使う機会があるのかは分からないが、核武装はしておくべきだ。

それと原子炉の開発だ。

原子炉が出来れば燃料補給は何十年かに一度で良いし、莫大な発電も出来る。

放射性廃棄物の処分所を作るのが面倒くさいが仕方がない。

何れは放射性廃棄物のリサイクル技術も開発させよう。

そうすればゴミは減るだろう。

それにウランやプルトニウムが簡単に手に入るようになる。

他国に渡ったらとんでもない技術だから厳重な管理が必要になるな。

まあ、アメリカと違って他国に核技術を売り払うなんてバカな真似はしないがな。

今回の露土戦争は史実ではロシア側が勝利するが、この世界ではロシアは日本に大敗を喫してイルクーツク以東には攻められず、国力が多少低下しているからロシアを支援するためにかなり前からスパイを潜入させていた。

かなり昔から潜入させ、トルコ側の情報を流させていたので現在はそれなりの地位に就けた。

そのスパイにトルコの進軍予定や武装、編成、兵糧の量など細かく伝え、ロシアを勝利に導けと命じた。

史実通り勝って貰わないと後々困る。

他にも武器商人を仲介してロシアに安値で海外の最新武器を大量に売ったりなど様々な秘密支援をしてロシアを強化してトルコを弱らす。

トルコには史実みたいに衰退してもらいたいからな。

イランサイド

この国が大日本帝国の植民地となつて16年。
時が流れるのは早いな…。

最初日本軍が侵攻して来た時は不安でしか無かつた。

見たことも無い銃や大砲など様々な兵器を沢山装備し、長年に渡つてこの国を支配してきたサファヴィー朝をいとも容易く滅ぼし、領有化を宣言した。

最初は虐殺や強姦、強奪などが始まるのではないかとヒヤヒヤしていたが、実際はそんなことは微塵も無かつた。

いや、むしろ支配されて良かったとすら大半は思っている。

何故なら今までは身分差別が激しく、下級階層の産まれでは人扱いされなかつたのに、三等国民と区別はされるもの、キッチンと人間扱いをしてくれる。

それも貴族から奴隷までも平等に扱つた。

それに日本は奴隷を認めていないとして奴隷階級の者達は奴隷から解放されて三等国民の称号を与えられ、公共事業の仕事を与えられて今では中流階級とさほど変わらない生活すらしている。

これは今までのサファヴィー朝ではあり得なかつた事だ。

更に見たことの無い機械という物を使い農地を開拓したり整備したりなどし、化学肥料というものを指導通りに撒いた事で収穫量は増大した。

更に新しい漁法を指導してもらい漁獲高も上がったし、紡績業として織物機械などを設置したおかげで質も量も上がった。

インフラ整備によって道路はアスファルトやコンクリートで舗装され安定して、雨が降っても泥だらけになる事も無くなった。上下水道を整備したおかげで飲み水や排水も楽になった。

このように様々な良い事があり、支配されてからは生活に困らなくなった事から植民地にされて良かったと思っっている。

しかし唯一不満があるとするとするのなら、日本人化政策として日本語教育と新たに日本人としての名字を与えられるという事だ。

つまり今まで使ってた言語や一族で代々受け継がれてきた名字を捨て、新たに日本語を覚え日本語の名字を与えられるというのが唯一の不満だった。

事実、これを不服として申し出た者達もいたが、全員追い払われるか国家反逆罪として強制移住させられる者もいた。

この事に対してはまだ国民の中に不満を持つ者も多いが、仕方がない事だ。

新たに散々恩恵を受けて来たのだから何かしらは妥協するしかない。意地を張って反抗しても無意味だし、ただ新たな名字を受け入れるだけで今までと比較にならない裕福な生活や高い教育、社会保障など様々な恩恵を与えられるのだ。

それに段々と不満を持つ人々は減って来ている。やはり慣れだろう。

それに、今では自分達は大日本帝国臣民だという事に誇りも持っている。

高度な教育を与えられ、自分で考える事が出来るようになった事で、自分達に希望を与えてくれたこの国に何か恩返しをしたいのだ。

自分の代では精々どんなに生きても二等国民への昇格ぐらいしか出来ないから国政には携われないが、自分達の子孫達には一等国民に

昇格して、この国を支える人材に育って欲しい。
それが大日本帝国への、偉大な兼統帝への恩返しになるのだから。

1690年（日輝111年）

ソマリアを領有化。

現代では最貧国と言われる程に荒廃している国だ。

この時代でも主要産業が漁業か海賊業という国だからな。

しかしこの国にも原油が出るし、ボーキサイドなど資源も豊富にある。

開発次第でそれなりに発展するだろう。

ヨーロッパ勢みたいにただ搾取するだけでは安定した収益は期待出来ない。

リターンを得る為には先行投資をキチンとしないと帰って来ない。

まあ、あんまりし過ぎると独立されるけど。

そこは長年の洗脳教育で抑える。

日本人化教育を100年以上続ければ大丈夫だろう。

本国が壊滅的な被害を受けない限り。

勝ち続ければ基本的に独立機運も起きない。

それに下手に独立すると国際的に孤立するし、今まで受けていた恩恵を一切受けられなくなる。

そこをしっかりと教え込めば国民は独立したがるらない。

ではこの土地の先行投資として先ずインフラ整備をしなくては。

そして戸籍登録をして人口を把握して、様々な政府庁舎や学校、病院などを建設する。

そして義務教育を施して国民の質を上げる。

道路もすっかりアスファルトやコンクリートで整備して流通を確保する。

軍港など港湾設備を整えて海賊狩りを行う。

今後重要な航路になるから徹底的に海賊を殲滅する。

公共事業や市場拡大のために出店して来た商店などで雇用を産む。

原油や資源採掘のために人出は腐る程必要だからな。

そして産業の開発だ。

今まで通りの漁業や農業の他にも製塩、織物、工芸品、造船など様々な産業を育成させれば後は勝手に富を産む。

後は兼続教の布教だ。

希望をもたらしにくれた者を崇めるのは当たり前だろう。

教典の不敗神話や様々な改革などを知れば入信したくなる。

現実にいるか分からない神より、確実に存在する神にすがりたくなるものだ。

このように何時も通り植民地の発展をさせる。

普通の国では費用や物資がかかり過ぎてやらないが日本なら出来る。

豊富な資源と労働力、そして各地にある金、銀鉱山や貿易収支。

そして何より俺の能力。

全部揃ってようやく出来る。

さて、次はエチオピアやスーダンか。

かなり広い土地だが、それなりの収益は期待出来る。

特にスーダンは資源も豊富だし、東部は農業にも適している。

必ず手に入れる。

露土戦争の方は現在進一退だ。

何時もならトルコ側がかなり侵攻しているのだが、ロシア側からの反撃や侵攻に苦戦している。

まあ、最終的にトルコが負ける戦争だからな。

金は渡したけど、多分ロシアに賠償金として踏んだくらいだろう。

新たな戦闘機が完成した。

多分レシプロ戦闘機として最後になるだろう。

111式陸上戦闘機

通称飛翔

全長9.82m

最大幅11.27m

全高4.16m

エンジン

液冷V型12気筒1490馬力×1基

最大速度703km

実用上昇限度12771m

航続距離3700km

武装

20mm機関砲×4基

爆弾907kg

傑作戦闘機P-51Dを真似た戦闘機だ。

長大な航続距離を持つからようやく爆撃機の護衛機が出来た。

まあ、この時代では爆撃機を守る必要は皆無だが。

艦上機の新しい戦闘機も完成した。

111式艦上戦闘機

通称震電

全長 8.38 m

最大幅 10.82 m

全高 4.17 m

エンジン

空冷星型 18気筒 2100馬力 × 1基

最大速度 698 km

実用上昇限度 11860 m

航続距離 1780 km

武装

20 mm機関砲 × 4基

爆弾 454 kg × 2基

レシプロ戦闘機最強とも言われていたF8Fベアキャットだ。

ようやくここまで来た。

次はジェット戦闘機の時代になる。

既に開発は初めているが、中々難航しているようだ。

まあ、別に急ぐ必要は無いからゆっくりやらせる。

戦車も使える奴が出来た。

111式戦車

全長 8.15 m

全幅 3.00 m

全高 2.72 m

懸架方式クリステー式

速度

整地55km、不整地30km

行動距離360km

主砲85mm×1基

副武装7.62mm機銃×2基

装甲

砲塔前面90mm(曲面)

側面75mm傾斜20度

後面52mm傾斜10度

車体前面45mm傾斜65度

側面45mm傾斜50度

後面45mm傾斜47度

上面20mm

エンジン

4ストロークV型12気筒水冷ディーゼル500馬力

乗員5名

T-34/85だ。

これで突っ込めばこの時代なら大抵の方位網は突破出来る。

まあ、完全に対戦車用だから使い道はまだ無いが。

54 (前書き)

この小説はご都合主義です。

1695年（日輝116年）

エチオピアを領有化。

現代ではジブチ、エリトリアが独立しているが、この時代では独立していないから勿論一緒に領有化した。

何か日本の戦国時代みたいに群雄割拠してたけど、外敵に備えていなかったのか、簡単に征服出来た。

まあ、ここら辺にはヨーロッパ勢はあまり進出していなかったからな。

紅海は重要拠点だったけど、別にエチオピアは差ほど重要ではなかった。

隣のソマリアにはポルトガルが来てたけど。

原油は無いけど良港や金、銀など資源が豊富だからそれなりに価値がある。

それに降雨量が多いから作物も良く育つ。

後は何時も通りだ。

役所建設、戸籍登録、インフラ整備、産業開発、雇用確保、資源探掘。

それと軍港や港湾設備整備だ。

天然の良港だから利用しない手は無い。

ポルトガルからアンゴラを買収した。

アンゴラはポルトガルにとってラテンアメリカに奴隷を輸出する貿易の重要拠点だったが、南米の領土のブラジルを失い、更に中米は日本領になっている。

日本は奴隷売買を認めていないため、奴隷を買ってくれない。だから自然にアンゴラの重要性は薄れていた。

そこに日本からアンゴラの買収話を持ちかけられたのだ。

日本側の主張では「ブラジル防衛戦では援軍を出せなかったからお詫びに高値で買い取る」と言われたのでポルトガルはアンゴラを日本に売却した。

領土は失ったが、アンゴラの港は使用出来るので貿易に支障は出ない。

ポルトガルは現在日本や明、インドなどアジアとの貿易に力を入れている。

日本が海外領土を拡大させているから貿易航路が広まったのだ。

特に日本はお得意様で様々な物を輸出したり輸入している。

その輸入した商品をヨーロッパに転売するなどして、ポルトガルはそれなりに儲けていた。

中々抜け目の無い国である。

さて、アンゴラを取ったが、アンゴラがどうしても欲しかった訳ではない。

あのままほっとけば何れイギリスが取っていた。

だから先に取ったのだ。

それに何よりアンゴラの隣国、コンゴが欲しかったからだ。

現代で言えばコンゴ民主共和国。

日本では内戦で有名だが、他の事でも有名なのだ。

それは世界有数の鉱物資源国だ。

銅、亜鉛、ウラン、黄金、銀などなど数えきれない程に様々な資源を有する。

だからこれからコンゴ民主共和国、コンゴ共和国、ガボン、赤道ギニア、ナミビアを領有化する。

ギニア沖の海底には油田もあるらしい。

流石に広大な土地だから領有化するにはそれなりの時間がかかるだろう。

しかし取ればとんでもない利益になる。

とりあえず今はアンゴラの整備だ。

抵抗勢力などを平定して制圧する。そして政府庁舎の建設、戸籍登録、インフラ整備、軍港など港の拡張だ。

原油などがかなりあるから早速採掘だ。

というかアフリカの国って掘れば大抵原油は出てくるよな？

スゲエ土地だな。

ちなみに現在イギリスは南米のスペイン領か、アフリカ中部を狙っている。

手っ取り早い労働力や市場を探しているのだ。

何せインドが手に入らなかったからな。

1700年（日輝121年）

第三次露土戦争終結。

結果はトルコも頑張ったが、健闘虚しく史実通り敗北。カルロヴィッツ条約にてトルコは初めてヨーロッパ勢に海外領土を奪われた。

まあ、来年になればロシアからも奪われるけど…。

日本にアルジェリアやチュニジアを売った事で懐具合は多少良いけど、かなり疲弊していたので日本はトルコに物資援助などを始めた。10年後に起こる第四次露土戦争には史実通りトルコに勝って貰う必要があるからな。

今回はアルジェリアとチュニジアを貰ったという事と、トルコが敗戦して支払い能力は無いだろうということから無償援助にした。

「同盟国として当たり前前の事です。」とトルコに伝えるとトルコ側はエライ喜んでいた。

そりゃあそうか、支援は欲しいけど買う金が無い時に日本から交渉を打診され、また領土の代わりに物資などを輸出するという話か？と思っただら無償援助してくれると言ってくるんだもんな。

トルコ市民も日本の寛大な援助に多少反日感情は減った。

これで領土だけが目当ての国というイメージは多少なりとも払拭出来たらだろう。

流石に連続して買い取るのは不可能だからな。

トルコサイド

トルコ帝国皇帝、ムスタファ2世はいきなりの日本の大盤振る舞いに喜びもしたが、同時に疑問も湧いていた。

日本とはそれなりに長い同盟関係を結び、良好な関係を保っているが、全くの無償援助を受けた経験は無かった。

日本は何時もなら大量の武器、物資、資金の代わりに領土を要求していた。

まあ、領土と言ってもほとんど価値も無い砂漠地帯ばかりを払っていたが、れっきとした領土を代金の代わりに支払っていたのだ。

だから今回も物資の代わりにエジプト辺りを要求してくるかと思いきや、全く要求せずにたどくれた。

人としては素晴らしい行為だが、国としては異常な行為だ。

何も要求しないなどあり得ないのだ。

確かに今回のことで国内の親日感情は多少増えたが、それにそこまでの価値は無い。

市民の意見など無意味だからだ。

確かに国政にも影響する中枢にも親日派や日本寄りの日和見主義者が増えているから無意味とは言えないが、どう見ても我が国に有利過ぎる。

今回のロシアやヨーロッパ勢との戦争で疲弊した我が国に必要な食糧や医療品、生活雑貨、武器などを大量に無償でくれるなんてあり得ない。

何か企んでいるのか？

それともただ単に日本の善意の心、騎士道に似た武士道なのか？

ムスタファ2世の悩みは尽きない。
まさか日本の狙いが10年後に再び起きるロシアとの戦争に史実通り勝つて欲しいから。何て理由は思い付く訳が無かったのだ。
神でも無い限り。

北郷サイド

アンゴラを手に入れ、本当は一気にコンゴも手に入れたいが、広大な土地を占領するには兵士の数が足りない。

史実では18世紀の初めの日本の人口は約3000万人。

この世界の日本の人口は約4500万人。

これに植民地人を足せばかなりの数になるが、植民地人に近代兵装は渡せないから除外する。

史実よりかなり増やす事には成功した。

やはり医療技術の発展と国民全体が裕福になってきたからや食糧不足などを解決したからだろう。

しかし、それでも足りない。

現代みたいに1億人以上いれば良いのだが、流石にまだ無理だ。

だからしばらくはコンゴなどデカイ国を1から占領するのは不可能だ。

トルコから貰うのは引き継ぐだけだからそこまで抵抗も無いし、ある程度支配体系が確立しているから良いけど、コンゴみたいな口クな支配体系が確立していない国で、熱帯のジャングルが生い茂る国を占領するのはかなりの労力と人出がかかる。

だから少なくとも後100年は無理だろう。

それまでは各植民地支配と北アフリカや中東方面に集中する。

新たに樺太、極東地域が一等国民に入った。
主にフィリピンや旧蘭印など他国との貿易路の警備兵として派遣する。

あそこは様々な国が通るから近代兵装は使えない。
だから新たに編入した一等国民に防衛させる。
本隊は中東かアフリカにいるからな。

1705年（日輝126年）

コンゴ共和国、ガボン、赤道ギニアなどアフリカ沿岸部を領有化。南方の防衛を新たに編入した一等国民兵達に任せたから余裕が生まれたために可能になった。

しかしまだ奥地のコンゴ民主共和国にはいけない。

流石にまだ兵士の数が足りない。

しかし何時かはいくので準備は怠らない。

地形や気象、病気、有害生物などなどの調査と対策を練っている。

確か何かのマンガで読んだけど、コンゴはとんでもない場所らしいからな。

もしエボラを本土に持ち帰ったら終わりだし。

それに原住民達との関係も良好にしておこう。

占領の時に多少でも楽にはなる筈だ。

それでは何時も通り、新たに占領した地域の整備だ。

役所建設と戸籍登録。

インフラ整備のために道路の整備やアスファルトやコンクリで舗装。

幸い水資源は結構あるから上下水道を完備させる。

そして雇用確保のために市場や産業開発、資源採掘を始める。

アフリカは資源の宝庫だから多いに役に立つ。

金や銀相場は暴落していないから高値で取引出来る。

それに熱帯雨林だから農業も出来る。

開発さえすればアフリカもそれなりに発展出来る。

現代では長い内戦の影響で悲惨な状態だが、この時代からキッチンと

安定させればかなりの収益を期待出来る。

イギリスはブラジル平定に忙しいらしい。

この時代、ポルトガルが占領していた地域は沿岸部に過ぎない。

だから内陸部に侵攻して領土拡大に動いている。

スペインとの国境争いが起きそうだがな。

確かにスペインは絶頂期に比べればかなり落ちたが、未だそれなりに戦力を保持している。

それにスペインと戦争になれば日本も参戦してくる。

ポルトガルの時は助けなかったけど、スペインは流石に守る。

何せスペインまで負ければ南米は完全にイギリスの物になるからな。流石にそれは許さない。

最低でもパナマ運河の安全確保と原油産出国が欲しいからコロンビアとベネズエラは欲しい。

独立時でも狙うか？

1710年（日輝131年）

第四次露土戦争勃発。

ヨーロッパの北方大戦争に巻き込まれ、スウェーデン王のカルル12世の亡命を受け入れたために、ピョートル一世統治の成長著しいロシアと戦う事になった。

前回負けたばかりで10年しか経っていないのにまたロシアと戦う羽目になり、そして例えロシアに勝ってもオーストリアとの戦争も待っているという最悪な自体になってしまった。

日本からの援助で多少は回復していたが、まだまだ予断が許されない状況なのだ。

そのため、トルコは日本に対して支援を求めた。

日本からの返答は「リビアを日本へ譲渡してくれるなら武器や物資を援助する。」と返して来た。

トルコとしては、アルジェリア、チュニスに引き続きたアフリカの領土が減ってしまうが、このままでは本当に黒海の制海権やギリシャまでもを失い兼ねない。

トルコ側は日本の条件を了承し、リビアを日本へ譲渡した。

日本側も約束通り武器や物資、情報なども援助した。

北郷サイド

日本が何もしなくてもトルコはロシアには勝つからな。

そしてプルト条約を結び、トルコはアゾフを得るが、後々のベオグラード条約でロシアに奪われる。

それにロシアを倒した後にオーストリアなどに負けてベオグラードを失う。

確かに様々な支援や援助はしたが、戦局を覆す程にはしていない。

リビアがとんでもない重要な国だったら話は変わるが、リビアはそこまで重要ではない。

エジプトを寄越せと言えばかなりの援助をしなくてはならないが、リビアなら代金分しか援助しない。

結局はトルコは疲弊していつている。

その穴埋めとして支援や援助をしてやっているのだ。

だから史実は変わらず、ロシアには勝つだろうが、他のヨーロッパ勢には負ける。

そしてトルコの衰退が本格化する。

そうなればスエズを取るためのエジプト領有化は格段に楽になる。

エジプトは肥沃な大地と豊富な人口を抱える利用価値が高い国だ。

それにスエズを経由してアジアとの貿易のための交通の要所だ。

だからトルコも簡単にはくれないだろう。

しかし敗けが込んで領土が次々奪われていったらどうだろうか？

アゾフを奪われて黒海の制海権を失いそうになれば多少不利な条件でも渡さざるを得ない。

だからその時に貰うよ。

さて、ではリビアを手に入れたんだから早速整備といきますか？

リビアのキレナイカにはアフリカ最大とも言われる程の埋蔵量を持つ大油田がある。

他には大した産業は無く、人口も少ないが何れは価値を持つ国だ。

史実ではイタリアがトルコから奪い、植民地化したのが、抵抗勢力のせいで平定するまでかなりの時間を費やした。

しかしこの時代ではその抵抗勢力はまだ存在しない。それにイスラム教を相手にするのも慣れている。

別にイスラム教を否定も肯定もしない。日本は宗教の自由を持つ多神教国家だ。

無理矢理勧誘などをしない限り特に何もしない。それに兼続教も布教して信者も増やせるし。

そのために色々しなくてはな。

インフラ整備や雇用確保、そして洗脳教育。もう完全に慣れたからお手の物だ。

国民は飢えと職に困らなければ大抵は服従する。そうなれば兼続教の入信者も増える。

入信者が増えれば反乱機運も無くなってくる。誰だって裕福にしてくれた他国を追い出して貧乏な時代に戻りたいとは思わない。

まあ、それでもイスラム教を刺激しないように兼続教はイスラム圏内にはあまり進出しない。

キリスト教みたいに広げ過ぎるとテロ攻撃の標的にされかねない。何せ聖地メツカを奪ったのだからな。

と言つても別にイスラム教を迫害した訳でも、重要な建築物を破壊した訳でも無い、イスラム教徒がメツカに巡礼に行くのを拒みはしないし、トルコなど他国から来る者も巡礼者なら入国を許可している。

その代わりにスパイ狩りのために厳重な警戒網を広げていて、「許可なくメツカを出たら間諜と見なす。」と宣言している。

出たら尋問として軽い自白剤を飲ませてスパイなら処刑、ただの民間人なら説教か罰金刑をして強制送還だ。

ようやく第一世代ジェット戦闘機が完成した。

131式陸上戦闘機

通称明星

全長11.44m

全幅11.91m

全高4.47m

エンジン

ターボジェットエンジン×2

推力約2.68トン

最大速度1118km

実用上昇限度1万4630m

航続距離1026km

兵装

20mm機関砲×4基

IR誘導型（赤外線）AAM（空対空ミサイル）×2基

爆弾907kg

F-86Fを模した。

開発に手間取ったがようやく完成した。

記念すべきジェット戦闘機一機目だ。

艦上戦闘機も完成した。

131式艦上戦闘機

通称桜花

全長12・55m

全幅10・44m

全高3・73m

エンジン

ターボジェットエンジン×1基

推力約3・18トン

最大速度1100km

実用上昇限度1万5250m

航続距離1600km

兵装

20mm機関砲×4基

IR誘導型AAM×4基

爆弾907kg

F6F-6を模した。

ジェット艦上戦闘機も完成した。

ちなみに空母はエセックス型空母をアングルデッキに改装した物を使っている。

流石に一々新造してられないからな。

戦艦の建造もストップしている。

別に大和型造っても意味無いし、維持費の無駄だから紀伊型で止めた。

建造技術や運用法などを蓄積するために建造していたのだ。

後は改装や解体だ。

訓練用として何隻か残しておくが、戦艦の建造はとりあえずストップだ。

時代が来るまでは。

今は空母や航空機に集中する。

爆撃機も完成した。

131型爆撃機

通称富岳

全長49・40m

全幅70・10

全高14・25m

エンジン

過給式4連星型28気筒3800馬力×6基

ターボジェット4基

最大速度685km

航続距離11000km

兵装

機銃16基

爆弾39000kg

B-36を模した。

他にも輸送機タイプや、期待下部に機銃を並べたガンシップタイプもある。

これがあれば反乱も一発で鎮圧出来る。

これで兵器技術は朝鮮戦争期に突入した。

間もなく水爆も出来る。

後は核ミサイルを開発すれば恐いもの無しだ。

例え秘匿兵器がバレてキリスト教に異端認定されてもヨーロッパを焼き尽くす事も出来る。

ちなみにCIWSやアスロック、ハーブーン、速射砲などなど現代兵器も開発中だ。

何せミサイル相手に機銃では話にならないからな。

まあ、この時代では機銃すらまだだが。

それと今までアフリカでは工業資源を重視していたが、まだ工業資源採掘などが出来ていないから農業資源を得ようと思う。

コーヒーやカカオなど現代では欠かせない食品を本国に輸入して食品にする。

確かチヨコレートはもうヨーロッパでは知られていたけど、コーヒーはまだ知られていなかったな。

ある程度日本で流行ったら外国に輸出して儲けるか。

1720年（日輝141年）

スーダンを領有化。

と言ってもまだ現代で言えば緑豊かな東部だけだ。
西部や南部はこれから占領する。

スーダンも内戦や制裁によって荒廃した国だが、資源や土地としての価値は高い。

原油や天然ガス、レアメタルなど資源が豊富で、東部は「アフリカのパン窯」とも称される程に肥沃な大地を持っている。
ナイル川の恩恵ってスゲーな。

これで残るはエジプトだけだ。

現在トルコの状況は微妙だ。

ロシアからはアゾフを取れたが、オーストリアにベオグラードを取られた。

結果的に言えばブラマイゼロだ。

いや、マイナスか？

まあ、良い。

次の戦争でも一応は引き分けたが、ほとんど負けみたいな結果に終わる。

だからエジプト割譲のための交渉が更にしやすくなる。

流石に負け続きでは植民地経営も難しいだろうし、反乱機運も高まるから抑えるのにも苦労する。

トルコにはしばらくただの支援として武器や物資を売り付けるだけ

にしよう。

そして弱った所でエジプト売却の話を持ちかけよう。その頃には断れなくなるぐらい疲弊しているだろう。

だからしばらくは何もしない。

流石にエジプトは直ぐにはくれないだろうからな。

そろそろ蒸気機関を使い出すか。

確か18世紀後半ぐらいにイギリスが産業革命を起こす筈だ。

史実と違って市場はブラジルと北米だが、同じような事は起きる。

この世界では何だかんだ言っても史実通りに動いているからな。

今までは工場制手工業だったが、機械制工業に変えよう。

本土にも鉄道を引いて流通を便利にして全国に行き渡るようにする。日本領土全体に鉄道を引いて移動を便利にする。

蒸気船も表に出そう。

外輪が付いた遅いものだが、河川を移動する船や航海中に風が無い時にも使える。

それと炭坑の採掘だ。

各領土の炭坑を掘る。

流石にまだ原油は使えないから石炭を大量に消費するから石炭が出る所は掘る。

これからの燃料になるからな。

ちなみにイギリスと違い、蒸気機関の技術を他国に売るなんてバカな真似はしない。

そんなの利敵行為以外の何者でも無い。
だからヨーロッパで一斉に産業革命が起きたんだ。
一國で独占しとけば良かったのに。

鉄道の他にもガス灯や転炉など現代でも使われている物も公に使い出す。

と言っても他國に発表はしない。

他國に発表して注目を得られたい訳ではないからだ。
いつの間にかあった。という感じに日本は発展していく。

ちなみに日本では産業革命から社会主義起思想が産まれる理由となつた安い賃金や過酷な労働条件などは無い。

そんなのやつたら後々マイナスになるだけだ。

確かにやれば儲かるが、国内に大量の反乱勢力を育てる事になる。
だから最低賃金をキツチリと決め、生活が出来ないような低い給料は出させないし、あまりに過酷で死亡者が続出するような労働条件も認めない。

労働基準法を制定して過酷な労働条件は許さない。

別にそこまで急激に儲ける必要は無い。

現時点で経済発展レベルはトップなんだからそれを徐々に上げていけば良い。

例え越されても別に気にしない。

そいつも何れは落ちるのだから。

と言つても市場のほとんどを独占している日本に敵う国があるとは思えんが。

新たな戦車が完成した。
ようやく戦車も戦後の機体だ。

141式戦車

全長9.2m

車体長6.45m

全幅3.27m

全高2.35m

重量36トン

懸架方式、トーションバー方式

速度

整地50km

不整地35km

行動距離460km

主砲56口径100mmライフル砲

副武装

12.7mm機関銃

7.62mm機関銃

装甲

防循210mm

砲塔側面110mm、後面60mm

砲塔上面30mm

車体前面上下100mm

車体側面上部80mm、下部20mm

車体上面33mm、底面20mm

エンジン 液冷12気筒ディーゼル580馬力

T-55を模した。

ソ連製の傑作戦車だ。

ある意味戦車の代名詞だ。

現代の紛争地域の映像には必ずと言って言い程映る。

1730年（日輝151年）

マダガスカルを領有化。

ついでにセーシェルも領有化した。

マダガスカルにはかつてフランスの要塞があつたが、現在では無人だから今の内に領有化した。

マダガスカルを他国に押さえられると結構困るからな。

マダガスカルやセーシェルなどは現代では観光業や農業で栄えている。

あまり有用な資源は無いが、立地が重要だから取つといて損は無い。ここを敵対勢力に取られるとアフリカの航路が危機に貧する。

確かマダガスカル周辺はフランス領になる予定だったな。

今は友好国だけこの先どうなるか分からない。

日本はフランス革命を邪魔する気だしなあ。

最初はフランス革命を阻止して早期にウィーン体制を構築させる気だったけど、どうせ遅かれ早かれ民主主義革命は起こるんだから止めない事にした。

まあ、一度は止めるけど。

欲しい物があるからなあ。

それを貰った後はどうでも良い。

勝手に革命でも何でもしてください。

日本では多分起きないだろうけど。

だってフランス革命はルイ王朝の放漫財政と対外戦争で更に悪化し

た財政を課税などで立て直そうとした事や食糧危機が重なって起きた。

しかし日本では財政危機は訪れていないし、食糧危機も無い。各植民地で食糧増産をしているから一ヶ所が食糧危機を迎えても他でカバー出来る。

それに備蓄もしてあるから突然食うに困る事も無い。

それにもし革命機運が高まったらキッチンと鎮圧も出来る。

フランスでは鎮圧出来なかったから市民革命は成功した訳で、他のヨーロッパ諸国は鎮圧出来たから革命は成功していない。

まあ、その後に時代の波に吞まれて民主化したけどな。

マダガスカル、セーシエルの整備を始めた。

政府庁舎を建設して戸籍登録や公共事業によるインフラ整備。

そして商会の出店で市場の開拓。

公共事業や市場開拓により雇用を産む。

まあ、何時も通りだ。

後は軍港の整備と後々に必要な空港の整備。

今はただ基地に空き地を確保するだけだが、何れは必要不可欠なものになる。

第二世代ジェット戦闘機が完成した。

151式陸上戦闘機

通称 隼

全長 21.55 m

全幅 11.67 m

全高6・18 m

エンジン

アフターバーナー付きターボジェット×1基

推力

約7・8トン

アフターバーナー

A/B使用時約11・1トン

最大速度マッハ2・3

実用上昇限度1万7400 m

航続距離2963 km

兵装

20 mmバルカン1基

SARH（セミアクティブレーダー誘導型）AAM ×4基

核弾頭装備大型非誘導ロケット弾×1基

F-106を模した。

勿論搭載しているFCSなども最新式だ。

ようやく超音速機が完成した。

主に本土防衛任務に就く。

まあ、この時代では敵機なんてないが。

ちなみにたまに抜き打ちで本土領空侵犯をする。

151式戦闘攻撃機

通称屠龍

全長10・65 m

全幅19・23 m

全高5・99 m

エンジン

アフターバーナー付きターボジェット×1基

推力

約7.3トン

A/B使用時約12.3トン

最大速度マツハ2.03

実用上昇限度1万5240m

航続距離3553km

兵装

20mmバルカン1基

IR式AAM×4基

外部兵装最大搭載量5.9トン

主に対地攻撃任務専用機だ。

勿論空戦能力もそれなりにある。

艦上戦闘機も完成した。

151式艦上戦闘機

通称彗星

全長10.87m

全幅16.61m

全高4.80m

エンジン

アフターバーナー付きターボジェット×1基

推力

約4.54トン

A/B使用時約7.26トン

最大速度マツハ1.8

実用上昇限度1万7700m

航続距離2260km

兵装

20mm機関砲×4基

IR誘導型×4基

外部兵装最大搭載量1.81トン

F8Uを模した艦上戦闘機だ。

艦上攻撃機も完成した。

151式艦上攻撃機

通称天山

全長16.6m

全幅16.2m

全高4.75m

エンジン

アフターバーナー付きターボジェット×2基

最大速度1040km

実用上昇限度1万2400m

航続距離5222km

兵装

外部兵装最大搭載量約8.2トン

A-6を模した。

かなりの対地对艦攻撃力を誇る。

ジェット艦載機が続々と出来てきて、エセックス型では手狭になってきたから新たに空母を建造中だ。

祥鳳型空母

排水量 83573 トン

全長 326.9 m

全幅 76.8 m

吃水 11.4 m

エンジン

蒸気タービン 4 基・4 軸

最大速度 32 ノット

兵装

短SAM 8 連装発射機 3 基

C I W S 3 基 (予定)

R A M 2 1 連装発射機 2 基 (予定)

搭載機 90 機

キティーホーク型を模した。

まだ原子炉が完成してないから通常動力での最大空母を建造した。装備もまだ未完成の物が多いから微妙だ。

原子炉は間もなく完成する。

完成すれば原潜や原子力空母を建造出来るようになる。

そうなれば燃料補給をほとんど考える必要もなく、膨大な電力も確保出来る。

ちなみに現在ヘリコプターも開発中。

完成すればとても便利な物になるからな。

1735年（日輝156年）

トルコ、ロシア・オーストリア間の戦争勃発。

これによって東方問題が更に表面化した。

トルコの領土回復やロシアがアゾフを求めた事から起きた戦争だ。

この戦争は最終的には引き分けみたいな感じに終わる。

トルコはオーストリアから領土を取り返すが、ロシアにアゾフを取られるという微妙なベオグラード条約を結んで講話となる。

これによってトルコの衰退は更に加速する事となる。

まあ、俺にとっては好都合だが。

トルコが衰退していけば中東進出がかなり楽になる。

イスラエルはいらないけど。

あんな面倒くさい国を領土に入れたくない。

あそこを取るとキリスト教、ユダヤ教、イスラム教との抗争に巻き込まれる。

だからあそこはトルコのままが良い。

最初は取ってユダヤの奴等に高値で売ってやれば良いかとも思ったが、そうすればイスラム教からは敵視されるし、国内のイスラム教徒達が反乱を起こしかねない。

宗教って面倒くさいよなあ。

この戦争に日本は特に何もしない。

トルコに武器や物資の輸出を行うのみだ。

流石に今エジプト寄越せと言ってもダメだろう。

トルコは一応まだ勝っているから重要なエジプトはくれない。
この戦争が終わったら交渉してみるか。

トルコはかなり疲弊するだろうからチャンスだ。

そしてスエズ運河を開通すればヨーロッパへの近道が出来る。

その時まではまだ待ちだ。

しばらくは内政に専念しよう。

かなり増えた中東やアフリカ植民地の経営などやることは嫌になる程ある。

イランへのロシア侵攻に備えて要塞線を築かなくてはいけないし、
本土もより発展させなくてはいけない。

ようやく宗教観念が薄くなってきたて動き易くなったんだからな。

現代の大都市東京を目指して開発だ。

原子炉がようやく完成した。

これで原発や原潜、原子力空母が建造出来る。

空母はまだ出来たばかりの祥鳳型があるから良いけど、潜水艦は
新たに原潜に変えた。

蛟型原子力潜水艦

排水量

水上3070トン

水中3500トン

全長76.7m

全幅9.6m

吃水7.7m

機関

加圧水型原子炉×1基

蒸気タービン×2基・5翼スクリュー1軸

最大速力

水上15・5ノット

水中29・9ノット

最大深度213m

兵装

533mm水圧式魚雷発射管×6門

スキップ・ジャック型原潜を模した。

原子炉を積んでいるから航続距離は無限だが、静粛性は皆無だ。

それに魚雷しか積んでいないからまだ戦力として微妙。

まあ、この時代では静粛性は必要無いが。

ちなみにヘリコプターも完成した。

攻撃ヘリはAH-1やAH-64。

汎用ヘリはUH-60。

輸送ヘリはCH-47。

対潜ヘリはSH-60を模した。

これで戦力は大幅UPだ。

もうすぐミサイル巡洋艦やミサイル駆逐艦も完成する。

まだVLSは完成していないから微妙だけど、ハーブーンは開発出来たからかなりの攻撃力を誇る艦が出来る。

フランス商人サイド

「ここが日本の首都、トウキョウか…。」

商人であり貴族である彼は普段は現場には赴かないが、今回の貿易

では日本本国の首都に行く予定だったのでわざわざフランス本国から極東のこの地に来たのだ。
現在世界最強と名高い大日本帝国をこの目で直接見てみたかったのだ。

トウキョウ湾について彼が見たのはアジアの国とは思えない程発展し、ヨーロッパの街並みに近いが、どことなく違う風景が広がっていた。

以前訪問した中国はまんまアジアな風景だったが、日本はレンガ積みみや家やコンクリートという建築物で作った高層施設、きちんと綺麗に舗装された道路、ゴミはほとんど落ちていない。

成る程、確かに行った事のある人々がみんな「日本は世界一綺麗な国だ。」などを言うだけある。

馬車に乗り都内を見学すると、市場や工場など活気に溢れていた。人々は早く歩き、忙しそうだった。

余裕が無いとも取れるが、皆顔は生気に溢れ、今日を楽しんでいるようだった。

何よりも驚いたのは、明らかに裕福そうでは無い者達や子供でも新聞や本などを読んでいたりした所だ。

案内役の男に「あの者達は字が読めるのか？」と聞くと、「はい。」と何を当たり前な。という顔をされた。

どうやら日本では教育を平民にも義務付け、早い内に読み書きが出来るようにしているらしい。

ヨーロッパでは字を読めるのは王族か貴族、聖職者などの高度な教育を受けられる者達だ。

平民でも読み書き出来る者達はあるが、極々限られている。だから平民は普通字が読めない。

というよりも読む必要が無い。

平民は命令された通りの労働が出来れば良いのだから。

しかし日本では義務教育を修めなくてはロクな就職が出来ないので全員受けると言われた。

「国民全員が高度な教育を受けられるとは素晴らしいな。」と褒め称えたが、案内役の男は「偉大な兼統帝が即位なされた時から出来ていた制度ですから私達には当たり前なんです。」と返して来た。つまり150年以上昔には既にこういった制度は確立していたという事と分かり、彼は恐れさえ抱いた。

近年では庶民にも権利を与える時代になって来たが、150年前では考えられ無い事だ。

何故そんな時代に発想が産まれたのか？と彼は兼統帝に恐れを感じた。

更に詳しく聞くと、この国では植民地にも教育義務を与えて教育し、日本人となるように教え込んでいるらしい。

植民地の人間達も始めは反発するが、日本の力を思い知るようになると段々と反発は少なくなり、日本人化を受け入れるようになるようだ。

恐ろしい事にこの国はただでさえ強い軍を持っているのに、植民地人達にも高度な教育を施し、最新式の兵器を与えて軍に編入させて更に軍を強化させている。

植民地兵は長年の教育で日本人としての自覚さえ持っているから反乱機運は低い。

その後、しばらくトウキョウの街並みを見て、取引を済ませた後に帰国する事になったが、日本本国を発つ前日に彼は日記にこう書いた。

た。

この国とは絶対戦つてはいけない。

軍も技術も何もかもがヨーロッパを上回っている。

例えヨーロッパが一つになったとしてももしかしたら勝てないかも知れない。

日本とはこのまま同盟国としてやっていくしか無いのだ。

そうでは無いと侵略されかねない。

どうか、願わくば日本と剣を向けあう事が無い事を神に祈る。

1739年（日輝160年）

トルコ対オーストリア・ロシアの戦争はベオグラード条約を結んで講話した。

トルコはオーストリアからベオグラードを奪回したが、ロシアにはアゾフを取られた。

こうしてロシアは黒海への足掛かりを掴んだ。

そしてここから更なる戦いが産まれる要因となるのだった。

トルコサイド

トルコ帝国皇帝、マフメト1世はとりあえず安堵していた。

かつて超大国だったオスマン帝国は落日の様相を見せていた。

相次ぐ敗戦で領土を削られ、隣国の大日本帝国に物資や資金の代わりに中東やアフリカ領土を売り払い、確実に国は小さくなっていった。

だから今回の戦争はとりあえずは成功と言える。

ロシアにアゾフを取られたのは痛い、代わりに前回オーストリアに奪われたベオグラードを奪回出来た。

ここから更に北進して、バーナードやブダペストなどを占領してくれる。とマフメトは考えていた。

しかし心配事もある。

ロシアには黒海に近いアゾフを取られた。

このまま侵攻され、クリミアまで取られたら黒海の制海権を失い兼ねない。

そうなればこちらの戦力は大幅に下がる。

だから何としてでもここで食い止めなくてはいけないのだ。

ここでマフメトは控えていた秘書に話しかけた。

「日本は今回は領土を要求して来なかったようだな？」

「はい、今回はただ武器や物資の支援のみでした。」

もう一つの脅威である大日本帝国についてもトルコ側は勿論警戒していた。

今では世界一の強国に発展した隣国を警戒しないバカはいない。

オスマン帝国は大日本帝国と直接戦火を交えた事は無い。

しかし如何に強力無比なのかは分かる。

ロシア、イギリス、インド、ペルシャなどなど強国との戦いに必ず圧勝して、広大な領土を築き上げた。

そして我がオスマン帝国にもその牙を向けている。

一応は平和的に領土を譲渡しているが、若干の脅しも受けている。確かにあまり利用価値が見出だせなかった土地と最新兵器や物資と交換するのは悪くないが、それが徐々に徐々に本国に迫って来ている。

最初は砂漠だらけのアラブ半島。次は同じ砂漠地帯のアルジェリア、チュニス。

そして次も砂だらけのリビア。

ここまでならまあ、良い。

アフリカを大分失ったが、ヨーロッパの戦いを重視しているため、大した収益の無い領土を交換や売却した。

しかし残るエジプトは渡せない。

アジアとヨーロッパを繋ぐスエズを持っているし、肥沃な大地のお

かげで食糧生産も出来る。
だからエジプトは簡単には手放せなかった。

予想では今回の戦争でまた交換や売却の話を持ち込んで来るだろう
と思っていたが、何も無かった。

ただ武器や物資輸出など普通の支援交渉だったのだ。

「何故エジプトを要求しなかったのだ？」

マフメトは呟いた。

その問いかけというより独り言に秘書官は答えた。

「恐らく我が国がエジプトを手放さないだろうと予測したのでしょ
う。」

立地的にも経済的にも我が国に重要な拠点だと言っるのは明白です。

ですからとりあえず儲けられるただの支援に切り替えた。と考えら
れます。」

秘書官の考えも納得出来る。

確かにエジプトは今まで交換してきた領土よりも遥かに重要な事は
誰でも分かる。

だから領土拡大は諦めてただの支援に切り替えた。と考えるのが常
識か。

しかしマフメトは不安だった。

確かに今のままなら日本からエジプトの譲渡要求が来ても突っぱね
られるが、もし状況が悪化したら、その具合によつては日本からの
要求を断れない。

もし断れば宣戦布告され、領土の大半を失い兼ねないのだ。

だからそういつた困難な状況に陥ったら日本の要求を受け入れ、物
資との交換や売却せざるを得ない。

そうすれば攻められる事も無く、何らかをエジプトの代償として得
られる。

だからオスマン帝国はもう負けられ無いのだ。
負ければ必ずやエジプトを失うだろう。

これから更に領土を拡大して戦力を増強させ、日本の要求を正面から突っぱねられる国を築くのだ。
とマフメトは決意した。

しかし現実には甘くない。

例え何らかの奇跡が起き、トルコがロシアやオーストリアを制圧出来たとしても日本にとっては脅威になり得ない。

何故なら例え千万単位の兵力で日本を攻めようとも、僅か一発で無に帰す事が日本には可能なのだ。

人類史上、最強最悪な兵器を日本が数多く保有しているのだから。

北郷サイド

原子炉完成により、原子力巡洋艦の建造を開始した。

妙高型原子力巡洋艦

排水量 8956トン

全長 171.9 m

全幅 17.7 m

吃水 9.4 m

機関

加圧水型原子炉 × 2基

原子力蒸気タービン方式 2軸推進

最大速度 31ノット

兵装

127mm単装速射砲 × 1基

20mm CIWS x 2基 (予定)
連装ミサイル発射機
テリアSAM (艦対空ミサイル)
スタンダードSAM

アスロックSUM (対潜ミサイル)
各1基

ミサイル4連装発射筒

ハープーンSSM (艦対艦ミサイル) x 2基

3連装短魚雷発射管 x 2基

ヘリコプター1機

武器管制システム

各種FCS

レーダー

二次元、三次元レーダー

艦首装備ソナー

チャフ、フレア

かなり強力な艦になる予定だ。

チャフやフレアなどミサイル欺瞞装置や対電子戦装備をしているが、訓練以外では全く使わないだろう。

まだCIWSが出来ていないから防御力に不安があるが、この時代の敵なら近づく前に速射砲で終わらせられる。

ミサイル駆逐艦も建造中だ。

朝風型ミサイル駆逐艦

排水量 4526トン

全長 133.2m

全幅14.3m

吃水6.7m

機関

蒸気タービン方式2基2軸

ボイラー2基、ギヤード・タービン1基

最大速力32.5ノット

兵装

127mm単装速射砲×2基

SAM連装発射機×2基

SUM8連装発射機×1基

ハープーンSSM発射機×1基

3連装短魚雷発射管×2基

各種FCSやレーダー

ヘリコプター1機。

ようやく現代のようなミサイル艦艇が完成した。

日本だけは砲弾の時代からミサイルの時代に移った。

他国ではまだ至近距離から鉄球を飛ばし合っているのに、日本だけは超長距離からミサイルを撃ち合う。

何て差だ…。

1745年（日輝166年）

最近ヨーロッパが特に騒がしいな。

各地で継承戦争が起きて面倒な事になっている。

ちなみに日本はヨーロッパでの戦争については中立を貫いている。

何せどこかを味方すればそれはそれで面倒になる。

幸いというべきか、歴史は概ね変わっていないようだ。

これも歴史の修正力か？

まあ、別に良いけど。

何か俺が深く関わらなければ歴史は変わらないようだし。

そっちの方が先が読みやすい。

唯一変わった事と言えば、アジア戦線か。

アジアはほぼ日本の支配下になったから、アジア関連のイベントは起きていない。

段々と英仏の植民地戦争が激化してきた。

去年にジョージ王戦争が起きた事から、北米植民地の奪い合いが続いている。

今はカナダで戦鬪が起きているようだ。

衛星で常時監視しているから全部分かる。

お互い騎兵や歩兵で頑張っているのを、宇宙から衛星監視しているという技術差。

何か子供の喧嘩を見ている気分だ。

とりあえずこのままいけば間もなくフレンチ・インディアン戦争が起ころのは間違い無いだろう。

フレンチ・インディアン戦争に呼応してヨーロッパで七年戦争が勃発するけど、多分史実よりは小規模となるだろう。

史実ではイギリスがフィリピンなどアジアを攻めるが、この時代ではインドにも進出していないイギリスがフィリピンなどの東アジアを攻めるのは不可能。それにイギリスはフレンチ・インディアン戦争に負けるからな。

まあ、別に良いだろ？

どうせ間もなくアメリカ独立戦争が起きてアメリカ植民地を失うんだから。

その前に失った方がキズは少なく済む。

何せ独立戦争が起きたのは植民地の拡大と相次ぐ戦費のせいでアメリカに重税を課したから起きたんだし。

今イギリスが持っている植民地は南米と北米ぐらいしかない。

だから北米を失えば植民地にかかる金は減るから南米の独立戦争は起きにくい。

もしも南米に独立されたらイギリスは一気に落ちる。

そうなれば遅かれ早かれ、フランスやドイツなどに侵略されて終わりを迎えるだろう。

だから北米を得れば破滅、南米だけで我慢しとけばとりあえずは生き残れる。

それにペルーやチリ、ボリビアなどは何れは独立するんだから、それを吸収すれば更なる国力UPに繋がる。

まあ、コロンビアやベネズエラは日本が貰うけど。

パナマ運河を守るためと、資源のためだ。

コロンビアは鉱物資源が、ベネズエラは油田がある。

下はあげるよ、だから上は頂く。

第二世代戦車が完成した。
多分ソ連の戦車を真似するのは最後になるだろう。

166式戦車

全長9.2m

車体長6.54m

全幅3.4m

全高2.2m

重量4.2トン

懸架方式トーションバー方式

速度65km

行動距離500km

外部タンク搭載時700km

主砲125mm滑空砲

副武装

12.7mm機銃

7.62mm機銃

装甲 複合装甲

エンジン

水平対向5気筒多燃料ディーゼルエンジン700馬力

T-64Aを模した。

次の第三世代からは日本の戦車を真似する。

最初はアメリカ製にしようかとも思ったが、やっぱり日本製にすることにした。

日本の戦車は日本国内で戦う事を想定しているから他の国の戦車より一回り小さくて軽い。

あんまりにも大きくて重いと橋が通れなかつたりして不便だからな。ちなみに装甲兵員車や偵察警戒車、装甲機動車など兵員輸送車や四駆のジープなども開発済みだ。

本国の発展は順調に進んでいる。東京などは現在みたいに高層ビルとは言えないがビル郡が並んでいるし、地方の都市にもそういった光景が出来てきた。

日本は資本主義国だが、やはり現代のように微妙に社会主義的だ。これは文化だから仕方がない。それに、あまり貧富の格差が開き過ぎると反乱機運や暴動などが起こり兼ねない。

植民地の都市も発展してきている。

台湾、樺太など本国から近い植民地の発展は著しい。

中東やアフリカなどは石油の有効性が認められればさぞかし発展するだろう。

まあ、そうなつたら本国もかなり発展するだろうが。

しかし日本は使える国土が少ないからあまり大都市は築けない。

植民地に築くとしても、アメリカやオーストラリアは農業国にするからなあ。

それに本国より発展させると独立機運を呼びかねない。

だから調整が難しい。

まあ、兼統教は順調に信者を増やしているから簡単には独立出来ないだろう。

それに独立機運が出来れば秘密警察などが事前に潰す。だから反乱に以降する前に終わっている。

それに独立に成功しても今までの暮らしを送るのは不可能だ。
大日本帝国を敵に回すんだ。

日本と同時に多くの同盟国とも付き合いが出来なくなるから勝手に
疲弊していく。

唯一イギリスは味方しそうだけど、その国を助ければ宣戦布告理由
になるから流石に慎重にならざるを得ない。

大英帝国と言っても史実程の力は無いのだからな。

パナマ運河建設を始めた。

フレンチ・インディアン戦争が起きれば、参戦するために艦隊を北
米沖に派遣する必要がある。

だから今の内にパナマ運河を作る必要があるのだ。

勿論サイズは現代のパナマツクサイズよりも広くする。

オイルタンカーや鉱石運搬船などデカくて重い船も通過出来るよう
に幅や吃水を広める。

確か現代でも拡張工場をやっているんだよな？

史実では黄熱病などに苦しめられ、作業は進まなかったが、この世
界の日本では予防や治療法が確立されているし、作業機械などが揃
っているから問題無い。

このパナマ運河が出来れば輸送がかなり楽になる。

今までは東海岸に行くにはホーン岬を経由するか、モロッコから行
くしか無かった。

後はエジプトを手に入れてスエズ運河を完成させれば完璧だ。

遺伝子組み換え技術が発展してきた事から遺伝子組み換え作物や医

薬品、生物兵器など様々な物を作れるようになった。

乾燥地帯や農薬、害虫に強い品種を作り、試験的に栽培する。生態系が変わってしまう恐れがあるので慎重にやるが、まあ、この時代なら例え遺伝子組み換え作物が外に漏れて繁殖したとしてもバシないから問題無いけどね。

それにインシュリンなど今まで生産するのは難しかった医薬品なども簡単に生産出来るようになった。

まだ糖尿病は少ないが、食生活の変化から、このままいけば19世紀には流行りそうなので必要になる。

ちなみに現存する様々な作物や草花の在来種や野生種の保存もしている。

まだこの時代なら野生種が多いから簡単に確保出来る筈だ。

缶詰に種子が冬眠するガスを注入して密封して管理を確りすれば何百年と保つ。

様々な土地や国にプラントハンターを派遣して取りに行かせる。名目は植物の生態調査とでも言えば十分だ。

それと広がった領土を利用して本国に動物園や水族館、植物園を建設した。

しかしこの時代にサーモスタッドなど無いので水族館は大きい水槽を並べて温度変化に強い魚を入れただけの簡易的なものだ。

植物園も同様に空調管理が難しく、南方の植物は育ち難い。開発してある技術を使えば簡単だが、まだ公表していないので出来ない。

だから今は動物園に専念する。

動物が相手なら多少誤魔化しも効くからな。

1755年（日輝176年）

北米にてフレンチ・インディアン戦争勃発。

原因はオハイオ川流域のインディアン領を争ってイギリスとフランスとの争いから起きた。

更に言えば北米沖でイギリス艦隊がフランス艦隊を拿捕した事が決定的となった。

勿論大日本帝国はフランスを支持し、フランスに武器や物資支援を表明。

北郷サイド

とりあえず最初はこれだけで良い。

前半戦はフランス側が優位となる。

しかし後1年後にヨーロッパで七年戦争が起きて、イギリスも本気になり、増援を寄越すからフランスが不利になり、更に2年後にはフランスの重要要塞が陥落して決定的になる。

しかしこの世界のイギリスは史実より弱体化しているし、史実では味方のスペインとの関係は微妙。

スペインの友好国である日本がフランス支持を表明したからスペインが味方してくれる可能性は低い。

良くて中立、悪ければ日本に追従してフランスを支援するだろう。

だから迂闊にスペイン領のフロリダを攻撃は出来ない。

フランスに参戦するのは恩を売れる後半の1758年くらいで良いだろう。

その頃にはイギリス本国からの援軍が来てフランスを押し返している筈。

それまでフランスには武器や物資を売りまくり、フランスがヤバくなってきたら戦後、カナダとミシシッピ川以西を日本領とする事を承認させる。

フランスもかなり追い詰められているから承認するだろう。しなきゃ負けて北米から追い出されるからな。

さてと、それでは今から準備といきますか。

南洋諸島に係留している扶桑型など二本マストとエンジンが付いているハイブリット？艦隊や吉野型防護巡洋艦をキューバの軍港に移動だ。

何か戦艦より防護巡洋艦の方がデカイという違和感。

でも富士型みたいな戦艦を連れて来ても意味が無いしな。

別に30cm砲が必要では無いし、吉野型の4.7cm速射砲でも帆船が相手なら十分沈められる。

何せこの時代の大砲は船同士が横付けするくらい近づいてから撃つのが普通だ。

しかし速射砲なら1000〜2000mぐらいから撃てば確実に当たる。

完璧なアウトレンジ攻撃が可能なのだ。

それに吉野型は23ノットの快速艇だ。

この時代の軍艦にそんな速さで進む艦船は存在しない。

では扶桑型はいらわないのでは？と思うが、扶桑型は吉野型の隠れ蓑にするために連れていく。

流石にこの時代に鋼鉄製の軍艦を知らせる訳にはまだいかない。敵船は全滅させて目撃者は全員殺し、従軍画家に扶桑型がイギリス艦隊を全滅させた絵を描かせて世界に発表する。煙突とか変なのが付いているが、見た目は一等戦列艦だから問題無い。

それに吉野型の速射砲で穴だらけにした後に扶桑型の24cm砲で止めを刺す事も出来る。

24cmの大口徑なら一撃で沈むかも知れないしな。

速力は13ノットというお粗末だが、この時代では十分速い。

それに舷側装甲の最厚部は231mmだ。

至近距離から砲弾を食らってもビクともしないだろう。しかし甲板には装甲を張っていないから甲板に食らうとヤバいかな。

イギリスサイド

イギリス王国国王のジョージ2世の心境は微妙だった。

宿敵であるフランスと北米植民地をかけた戦争を始めたのは良いが、戦況は芳しくない。

しかしまだ始めたばかりである。

ヨーロッパでも戦争になりそうだからその気に本国や南米から援軍を派遣すれば戦況の打開も十分可能である。と希望も持っていた。

しかしここで不確定要素が出てきた。

いや、十分予測出来ていたのだが、現実からは目を反らしたくないものだ。

ジョージ2世は國務長官のチャタム伯に聞いた。

「日本は本格的な参戦はしないのか？」

大日本帝国。

イギリスのアジア進出を挫かせ、中東やアフリカにまで進出してきた憎き敵。

その憎き敵はフランスと同盟を結んでおり、関係も良好だ。

だから日本がフランス支持を発表した時は日本も参戦してくると思っていたが、現実には参戦はせず、ただ支援に徹するのみ。

それが不気味でたまらなかった。

帝国主義の日本が領土拡大の好機に乗らず、ただ見てるだけというのはあまりにも不自然だった。

ジョージ2世の質問にチャタム伯は少し考え、答えた。

「……恐らく時期を伺っているのかと思います。」

現在の戦況はフランスが有利ですが、我らの国も援軍を出せばまだ十分巻き返しが可能な段階です。

私の考えに過ぎませんが、日本はフランスが弱るのを待っているのではないのでしょうか？今のまま参戦して仮にも我らの国に勝利したとしても大した分前は期待出来ません。

しかし、フランスがピンチになった時に参戦して勝利すれば戦後、日本側は有利に交渉を進められます。ですから日本はフランスがピンチに陥ったその時に参戦するかと思われれます。」

確かにそれなら分かる。

今までの戦績からいって我が国が日本と戦えば負ける可能性が高い。それなら戦後の交渉に有利な時に参戦するのも分かる。

しかしそれでは我が国は勝てない。

フランスを追い詰めても日本に参戦されれば甚だ不利。

「どこか他国を日本に当てて日本の参戦を邪魔する事は出来ないのか？」

その要求にチャタム伯は顔をしかめる。

「難しいですな。日本と戦える程大きな国は少ないですからね。可能性があるのはイスパニアですが、イスパニアは日本と同盟を結んでいて関係は良好ですので攻撃はしないでしょう。」

他に大国と言えばアジアの明も有望ですが、我々との関係は良好とは言えないため無理でしょう。ロシアも有望ですが今はオスマン帝国やヨーロッパ方面を重視しています。それにロシアと日本の間には強大な要塞線があるため日本側に大した脅威とは感じさせません。」

見事に全滅な回答だった。

「……こうなれば早くフランスを敗北させ、日本が介入してくる前に戦争を終結させるしかないな。」

結局はそういう答えに辿り着いてしまう。

ジョージ2世はとりあえず北米の事は置いて、ヨーロッパの事を考える事にした。

フレンチ・インディアン戦争によってこちらにも戦争機運が上がってきた。

そう遠くない内に戦争が起きる筈なのだ。

北郷サイド

第三世代ジェット戦闘機が完成した。

176式総合戦闘機

通称陣風

全長19・20m

翼幅11・02m

全高5・71m

エンジン

軸式圧縮機ターボジェット

最大速度マツハ2.23

巡航速度940km

戦闘行動半径940km

フェリー飛行時行動距離2600km

実用上昇限度18975m

兵装

20mmガトリング砲×1基

SARH型AAM×4基またはIR誘導型AAM×4基

外部搭載量6.4トン

名前の通り総合的に使える戦闘機だ。

陸上戦闘機から艦戦、艦攻、偵察などマルチロールだ。

ちなみに戦略爆撃機富嶽の後継機として富士を開発した。

と言ってもB-52を模したただけだ。

これで搭載量や航続距離などが飛躍的に上がった。

富士に変わったことでガンシップがいなくなったので新たにAC-130を開発した。

歩兵や騎兵相手なら最悪の兵器だな。

ようやく原子力空母が完成した。

千歳型原子力空母

排水量93284トン

全長336m

艦幅40m

吃水10.4m

最大速度33・6ノット
機関

蒸気タービン4基・4軸推進

加圧水型原子炉8基

兵装

短SAM8連装発射機×2基

CIWS×2基

RAM21連装発射機×2基

搭載機 84機

エンタープライズを模した。

初めての原子力空母だ。

それによろやくCIWSやRAMという近接防御システムを完備出来た。

まあ、まだ祥鳳型も十分使えるからそんなに建造する必要も無いがな。

原子力空母を量産するのは次のニミッツ級を模した奴からだ。

ちなみにE-2など早期警戒機やE-767早期警戒管制機、P-3C哨戒機なども開発した。

任務はもっぱら訓練か味方の位置確認ぐらいだ。

それとこの時代に意味があるのかは分からないが防空ミサイルのナイキやホークミサイルも開発した。

この時代に敵戦闘機は存在しないが、作っというて悪い事は無い。

ちなみに弾道ミサイル迎撃のためにパトリオットも現在開発中だ。

日本は既にICBMやSLBMも開発済みだけど、他国はまだ蒸気機関さえロクに使えていない。

技術レベルが200年ぐらい開いている。

ちなみにICBMは本土に配備済みだ。

主に北海道に配備した。
流石にこれは植民地に置けないからな。

新たに潜水艦も開発した。

渦潮型原子力潜水艦

排水量

水上4460トン

水中4960トン

全長92.1m

全幅9.7m

吃水9.1m

機関

加圧水型原子炉×1基

タービン×2基

7翼ハイスキュード・スクリュー×1軸

最大速力

水上15ノット

水中25ノット

安全潜入深度

396m

兵装

533mm水圧式魚雷発射管×4基

ハーブーン、トマホーク、機雷など24基分

スタージョン型を模した。

ようやく静粛性や居住性などが高い潜水艦が完成した。

今までは酷い騒音を撒き散らし、劣悪な居住性に苦情が多かった。

それにハーブーンやトマホークを積んだ事によって汎用性が増した。

今までは魚雷攻撃しか出来なかったからな。

1758年（日輝179年）

北米の戦争では山場を迎えていた。

前半戦ではフランス側が有利な展開を見せていたが、ヨーロッパでは七年戦争が勃発し、イギリスが北米にも大規模な援軍を派遣した事により一気に戦局は覆った。

セントローレンス湾の入口を押さえるルイブール要塞が陥落し、オハイオ川流域のデューケーヌ砦もイギリス軍に占領され、フランスは窮地に立たされた。

北郷サイド

フランスも頑張ったが、やはり歴史は覆せなかったか。

来年のキベロン湾の海戦でフランス艦隊はイギリス艦隊に決戦を挑むが、返り討ちに遭い、殆ど全滅する。

それが決定打となり、更に一年後にはモントリオールが陥落してフランスが降伏する。

これが史実だ。

しかしここから日本が動く。

フランス国王ルイ15世から日本への参戦要請が来た。

ここで日本は待ってましたと言わんばかりに交渉を持ちかけた。

「カナダ全域とアメリカのミシシッピ川以西を日本領と承認するなら参戦してイギリスを北米から追い出しても良い。」と。

フランス側は断れない。
何せ北米領土の大半を失う事になるが、このままでは全てを失う事になりかねない。
オマケにそれが仇敵イギリスに取られるなど屈辱以外の何物でもない。
日本の要求を飲めばとりあえずは北米の領土は維持出来る。
せっかく開発して一大市場になりうる広大な領土を失う訳にはいかない。

ルイ15世は日本の要求を受け入れ、この戦争後、正式にカナダとミシシッピ川以西を日本領と認めると承諾した。

これで準備は整った。
陸軍を国境周辺に配備して何時でも進行可能にして、キューバに待機させていた艦隊にも出撃準備をさせる。
この期にカリブ諸島やメキシコのイギリス領も侵略して占領する。
邪魔だったんだよねえ。
あんまり大きく無いけど国境を接しているから目障りだった。
だからこの期に全部潰す。

イギリスサイド

朝起きると、ジョージ2世にとって人生最悪のニュースを外相から聞かされた。

「大日本帝国が極秘にフランスと交渉をし、大日本帝国は北米の戦争に参戦するようです。」

「……………」

ジョージ2世はしばらく何も言えなかった。
というよりも混乱していた。

自分はまだ寝ていて、悪夢を見ているだけだと思いたいのだ。
しかし現実は厳しく、そんな都合の良い事は起きない。

「…遂に動いたか…。」

ジョージ2世は項垂れるように呟いた。

恐れた事態が起きたのだ。

「しかしご安心を。まだ日本は正式には参戦していません。まだ参戦要請に了承しただけで、攻めて来ていません。」

外相の言葉にジョージ2世は起き上がり、詳細を求めた。

「日本の主力艦隊や部隊はまだアジアにいます。勿論北米にもそれなりの数がありますが、まだ耐えられるレベルです。」

日本がパナマに運河を建設した事により、艦隊をアジアから大西洋に移動させるのは以前に比べ、遥かに早くなりましたが、それでも日本本国から艦隊を移動させるのはかなりの時間を要するにせう。

ですから日本が宣戦布告する前にフランスを敗北させれば日本は参戦理由を失います。」

その言葉に僅かな希望が産まれた。

確かに日本の戦争準備が終わる前に終わらせてしまえば日本の参戦理由は無くなる。

流石に日本も何の大義名分も無しに攻めては来ないだろう。と淡い希望も持てる。

そうすれば早速フランスの艦隊を撃破して北米への戦力増強を阻止し、北米の陸軍の侵攻を更に進めなければ。

微かに持てた希望のためにイギリスは奮闘する。

しかしその奮闘すら北郷の計算通りとは誰も思わないだろう。何故なら北郷は、というより大日本帝国は宇宙空間から常に監視して行動を予測し、史実を調整しているのだから。

郵便事業を本格化した。

今までも郵便事業はあったが、短距離専門で日本領土全体を行き来する郵便配達は無かったので、そろそろ本格化する事にした。

そして世界初となる郵便切手を発行した。

ちなみに絵柄は初代兼続帝の肖像。

広大な日本領土全体を配達しなくてはならないのでかなり時間はかかるが、遠い親類や恋人などに手紙を届けられると好評だ。

1759年（日輝180年）

大日本帝国はイギリス王国に宣戦布告。

イギリスは史実より少し早く起きたキブロン湾の海戦でフランス艦隊を破り、後少しでフランスを敗北させる事が出来たのだが、予定よりも早く日本は参戦してきた。

早速日本はイギリス領内に雪崩れ込んだ。

カナダのイギリス領へは鉄道や車を使つたため移動は早く簡単だが、アメリカのイギリス領はフランス領を通過する必要があつたため、車などは使えない。

流石にバレるからな。

噂程度ならまだしも、実物を見たら追求は止まないだろう。

だからキューバなどに待機させていた艦隊や輸送船を動員して上陸戦を仕掛ける事にした。

ちなみに艦隊決戦を行う訳ではないので上陸戦には吉野型防護巡洋艦は持つていかない。

精々が扶桑型ぐらいだ。

サウスカロライナに接近して艦砲射撃をして敵守備隊をある程度壊滅させた後、上陸戦を開始した。

自動小銃や機関銃、迫撃砲、装甲車など兵員と一緒に様々な兵器を揚陸させて一気に北進した。

ノースカロライナ、ヴァージニア、メリーランド、ニューヨークとイギリス支配地域を次々占領していった。

更にメキシコのイギリス領やカリブ諸島のバハマ、ジャマイカなど邪魔な位置にあったイギリス領にも上陸し、次々占領していった。敵兵はほとんどがアメリカ植民地軍だから大した脅威にならない。武器も未だにミニエー銃にもなっていない。こっちは普通に自動小銃を使い虐殺していく。戦争になっていない…。

イギリス・アメリカ連合軍

今俺達は地獄を見ている。

ほんの少し前までは相手はフランスだった。

その時は最初こそ苦戦したが、本国からの増援とキブロン湾の海戦によつて最早大勢は決したと思い、喜んでいたが、今はまた絶望に突き落とされた。

いや、絶望では無い、地獄だな。

最初はよく分からなかった。

大国の大日本帝国がフランスに参戦してイギリスに宣戦布告したから日本と戦う事は分かっていた。

日本は如何に強いのかはよく話に聞いたが、実際に見た訳では無かったので、「どうせ過去の栄光さ。」と舐めてかかった。

しかしそのツケを払わされる時は直ぐにやってきた。

日本軍はサウスカロライナに突如上陸してきて、見たことの無い走る鉄の箱や連続して撃てる銃、装填時間は無いのか？と聞きたくなる程の大砲。

どれもが絶望的だ。

最初は数で何とか拮抗していたが、あつちも次々援軍を上陸させて

いるらしく、次第に後退させられていく。

そしてその度に仲間が減っていく。

ある者は砲弾にバラバラにされ、ある者は銃の連発を食らい倒れ、ある者は鉄の箱に踏みつけられて絶命するなど、ロクな死に方をしない。

もうダメかも知れない。

本国からの援軍もパツタリと止んだ。

もう俺達は見捨てられたのか？

段々仲間内で「降伏するべきか？」という考えが広まってきた。

確かに悪くないな。

このままでは何れは皆殺しにされてしまう。

それなら降伏して捕虜になつた方がマシだ。

この戦闘が終わつたら降伏しよう。

そう思ったが、それは叶いそうも無いな。

何故なら俺は腹を撃たれた。

素人目に見ても手遅れな事は分かる。

仲間も皆死んだ。

だから天国でまた逢えるだろうから寂しくは無い。

「国王陛下万…歳。」

そして彼は生き絶えた。

本国イギリスも見捨てた訳ではない。

キブロン湾海戦で歴史的な勝利を勝ち取り、士気は最高潮にまで達していたイギリス海軍は勿論北米への援軍として艦隊を派遣していた。

しかし、その艦隊は辿り着かなかったのだった。

イギリス海軍サイド

キブロン湾海戦を勝利に導いたサー・エドワード・ホーク提督は勿論この北米への援軍艦隊に参加していた。

確かにキブロン湾では素晴らしい戦果を上げたホークだが、今回の海戦は自信が無かった。

ホークに与えられた任務は北米沖にいる日本艦隊の撃滅だ。

そのためにキブロン湾海戦で生き残った戦列艦や、鹵獲したまだ使えるフランスの戦列艦を加えて、合計30隻以上の艦隊を率いている。

戦力としては十分だ。

しかし「絶対勝てるか？」と聞かれれば「分からない。」と答えるだろう。

何せ相手は日本海軍だ。

未だ負け無しの不敗神話を誇る強敵。

…しかしそれは昔の話。

日本海軍は近年では殆ど海戦をしていない。

だから実戦経験の差ではこちらが有利。

そこを突けば勝てるかも知れない。とホークは自分を奮起した。

もし勝てば歴史上初めて日本海軍を下した提督として確実に歴史に名が残るだろう。

微かな野望を胸に、ホーク率いる艦隊は北米に向かい、大西洋を航海していた。

北米に向かい、大西洋を順調に進んでいた時、見張りが叫んだ。

「前方に艦隊を発見！！！！日章旗を掲げていることから日本艦隊と思われます！！！！！！」

その報告を聞いて艦隊全体に交戦準備を発令した。

甲板に出て望遠鏡で覗くと、確かにかなり遠いが艦隊らしき集団がある。

どの艦にも日章旗と旭日旗を掲げていることから確かに敵艦隊と判明した。

この海域はまだ北米には大分遠いから待ち伏せていたのだろう。上等だ。と自分を奮起させ。

「総員戦闘配置に就け!!!」
と命じ、戦闘準備を完全にさせた。

少しずつ少しずつ敵艦隊に近付き、段々と艦型も分かってきたと思つたその時、突然敵艦隊から数隻の船が隊列から離脱し、こちらに向かつて来た。

その向かつて来ている船？は見たことも無い程巨大で鉄で出来ていた。

そしてどうやったらあんなに早く動けるか分からないが、帆が無かつた。

「何故帆が無いのに進める…。」
ホークの疑問に全員が沈黙で答えた。
分かる訳が無かつたのだ。

この時代の人間にレシプロ機関でスクリューを動かしているなど。まだ蒸気機関すら発達していなかつたこの時代では船の動力は帆しかない。

しかしこちらに向かつてくる巨大な鉄の塊はそんな常識を打ち崩しながら高速で接近してくる。

このまま攻撃可能地点まで接近してくるのか、と思つていたら敵は突然減速した。

「？」

とホーク達が不思議がつっていると、敵艦から発泡音が轟いた。

しかしホーク達は慌てない。

何故なら遠すぎる。

敵艦とは2000m以上は離れている。

確かに大口径の大砲なら届くかも知れないが、そんな距離からでは到底当たりはしないと思ったが、何故か嫌な感じがした。

そしてその感は見事当たった。

敵弾は艦隊の前方にいた艦に命中し、凄まじい音が鳴り響いた。

15・2cm砲弾が命中した艦は火薬に引火したのか、物凄い爆発を起こし、沈んでいった。

その光景を目の当たりにした艦隊全体はパニックとなった。

それは当たり前だろう。

砲弾で艦が沈む事など滅多に無い。

たまたま吃水下にかなりの損傷を受け、修理作業が全く出来なかったら沈没する事もある。

しかし今の艦は一撃食らっただけで爆沈した。

「何が起きているんだ?」

ホークも勿論分らない。

しかし敵はただ見ていてはくれない。

数隻の吉野型防護巡洋艦は更に艦隊に15・2cm砲弾を撃ち込み打撃を与えた後、更に接近してズラリと並ぶ4・7cm速射砲をイギリス艦隊に次々撃ち込んでいった。

勿論イギリス艦隊もただやられている訳ではない。

敵艦に向かって砲弾を撃ち出すが、敵の速度が速すぎると、遠すぎてほぼ当たらない。

たまたま運良く命中しても敵には大したダメージを与えないし、その後倍以上の砲弾を撃ち込まれる。

そして更に悪い事が起きた。

遅れていた扶桑型戦艦なども追いつき、イギリス艦隊に24cm砲という災厄をもたらした。

他の艦艇もアウトレンジ攻撃でイギリス艦隊に砲弾の雨や中には潜水艦からの雷撃まで食らい、次々沈んでいった。

ホークが乗っていた旗艦ロイヤル・ジョージも速射砲によって穴だらけにされ、既に戦闘能力を喪失していた。

やはりダメだったかとホークは揺れる船の中から沈んだり燃えたりしている艦隊全体を見渡していた。

幸いというべきかどうかは分からないが彼自身は無傷だった。

しかし彼にとってはどうでも良い。

自分はこのまま船と一緒に海の底に沈むのだから。

艦隊を全滅させ、おめおめと降伏する程彼のプライドは安くは無かった。

それにこの状況では自分の旗艦が沈むのも遠くないと分かっているので仕方がない。

出来るならばこの未知の敵艦のことを祖国に伝えたかったが不可能らしい。

そう彼は瞑目したその時、旗艦ロイヤル・ジョージに扶桑型の24cm砲弾を受けて沈んだ。

そしてイギリス艦隊は全滅した。

生き残った船員達は日本艦に助けを求めたが、機密保持の為に機銃掃射をして皆殺しにした。

と言っても、例え何もしなくても助かる可能性は無い。

何故ならこの海域は大西洋のど真ん中。

近くには無人島すら無いので助かる方法が無いのだ。

日本艦隊は吉野型は本国に帰還し、扶桑型は北米に帰還して勝利を告げる。

そして扶桑型に乗っていた従軍画家が吉野型の姿は消し、扶桑型やこの時代相応な戦列艦がイギリス艦隊を攻撃している絵と全滅させた絵を書き上げ、それを発表した。

その絵を新聞に載せ、大西洋海戦の大勝利を本国は勿論、植民地全域に知らせた。
ちなみに発表では味方の船も数隻沈んだと発表した。
流石に全艦無事なんてあり得ないからな。

この大々的な知らせはフランス、トルコ、スペイン、オランダ、ポルトガル、ドイツなど友好国は勿論、敵国のイギリスにも伝わった。友好国からは本音がどうか分からないが惜しみ無い賛辞を受ける。特にフランス艦隊の仇を取った事になるフランスからは正に絶賛された。

この知らせによって北米のフランス軍の士気は大幅に上がり、イギリス軍の士気はガクンと下がった。

北郷サイド

これが決定打になったな？

多分もう終わるだろう。

イギリスも北米は諦めてヨーロッパに集中するだろうし。

何せここで増援を送っても無意味になるだけだしな。

だったら可能性があるヨーロッパに振り分けた方が良くに決まっている。

ここでヨーロッパでも負けたらマジでイギリスが無くなりかねない。

フランス軍が盛り返して来た地域ではジープなどや近代兵装も簡単には使えなくなっただな。

こうなったらその地域はフランス軍に任せよう。

自分達の領土になるんだからそれぐらいはして貰わなきゃな。

今の状況ならフランス軍でも勝てるだろうし。

1760年（日輝181年）

北米のイギリスの拠点は陥落し、フレンチ・インディアン戦争は日本、フランスの連合軍の勝利で終結した。

領土の分配については最初の約束通りにカナダ全域、ミシシッピ川以西は日本、以東をフランス領土とした。
これで日本は北米のほとんどを手に入れた。
フランスは領土が大分減ったが、旧イギリス領を手に入れたし、それなりに広大な領土も手に入れたのでとりあえずは納得した。それに北米の戦争は終わったが、まだヨーロッパの戦争は終わっていないから今はヨーロッパに集中する。

北郷サイド

これでアメリカ独立フラグはへし折った。
フランスは史実のイギリスと違って広大な植民地は有していないから酷い課税などは課さないだろう。
領土も大分小さくなったから植民地経営にかかる資金も減るだろうし。

いや、待てよ？

それでも王宮の放漫財政や対外戦争の戦費で大分財政は悪いからやっぱり締め付けをするかも。

となるとしわ寄せはやはり植民地に行くだろう。そうなればアメリカは独立戦争を仕掛けて来る。いや、でも今回の戦争でアメリカ植民地人達はフランスの同盟国の日本の強さを嫌と言う程思い知ったから独立戦争を起こしても日本が参戦して来たら無意味に終わる事は分かるだろう。何せ日本は絶対君主制国家だ。自由主義革命に手を差し伸ばす訳は無いのは明白だ。

それにもうアメリカは戦争でメチャクチャになったから大した価値が無い。

植民地人達も軍人と一緒にほとんど死んだ。

旧イギリス領は勿論、ルイジアナ（旧フランス領）もメチャクチャだ。

無事な所はほぼ日本領になったから最早価値は無い。

フランスの財政状況がかなり悪いからもしかしてアメリカを二束三文で買えるかも。

何せロクな資源も見つかっておらず、街は荒廃し、港などもかなりの被害が及んだ。

植民地人達も白人ならイギリスの引き上げの際に一緒に行ったから労働力は奴隷の黒人ぐらい。

これではロクな市場は築けない。

何せ史実と違いイギリスは日本参戦の前に片をつける気だったからかなり内陸部にも進軍した。だからルイジアナはボロボロ。これなら安く買い叩ける。

これで史実通りフランス革命が起きるだろう。

アメリカを買った金は王族などに買い物をして頂きましょう。

かの有名なマリー・アントワネットにも装飾品などバカ高い物をゴ

ミみたいに沢山売り付けてやる。

他にも貴族など金持っているやつらにバンバン売り込む。

品質は確かな物を売るんだから文句は無いだろう。

品は俺がコピーしたやつを売ればこちらの元手はタダだ。

この後フランスとは険悪になるから最後に稼がせて頂こう。

手に入れたルイジアナの整備をするか。

まずは政庁や政府関係の建物の建設をして支配体制を整えた後に戸籍登録だ。

これは白人、黒人関係無く等しく三等国民とする。

そして戦争で破壊されたインフラの補修や、新たに整備をする。

内陸部にはほとんどインフラなんか無いから1から整備だ。

上下水道の完備や道路の舗装、鉄道の敷設、橋の建設など様々ある。

これらを公共事業でやれば雇用が産まれる。

更に北郷商事加盟のスーパーやレストランなど民間企業も進出させ

てサービス業や農業用機械を持ち込んで農業など産業を開発する。

南部の油田や各地の資源採掘をして更に雇用を産み出す。

そのために本国から移民を募り、アメリカを日本民族で支配する。

そうしなきゃ工業化させられない。

日本民族で支配しない内に工業化させて発展させると独立される可能性が高いからな。

今のアメリカの白人人口は少ないから日本民族が支配するのも不可能では無い。

日本人支配を確立するためにも各地に基地を建設する。

広大な基地を建設し、アメリカ中の道路も分厚いコンクリートで舗装して戦車などの大型車両が通っても平気にする。

これで軍隊の即時展開が可能になる。

空港設備も整えて空軍を配備すれば完璧だ。

これで独立戦争が成功する事は無い。

例え軍がクーデターを起こしても本国の軍で制圧出来る。

何故なら植民地へ配備される兵器は最新式でも一世代前の兵器だ。

ほとんどは二世代前の兵器しか無いから本国が本気になれば簡単に鎮圧出来る。

まあ、その前にクーデターは起きないだろうがな、アメリカへ移住させるのは兼続教信者達や日本への忠誠心が厚い者達だ。

それと一緒に兼続教も布教させる。

黒人奴隷にとつては兼続教は白人、黒人差別をしないからハマるだろう。

頑張つて一等国民になれば本国の人間と同じ権利を持てるという希望が産まれる。

それに現在は奴隷階級からは脱出出来たから歓喜に震えている。簡単に入信するだろう。

それと日本人化のための洗脳教育だ。

残った白人達や黒人達、先住民にも念入りな洗脳を行えば反乱機運は更に下がる。

義務教育として最低三年教育すれば洗脳は出来る。

まだ三等国民だから大した教育は施せないが、二等国民に昇格すれば中等部へ進学可能だし、一等国民に上がれば大学にも行ける。

それに兵役義務を負う事になるから兵士不足も解消出来る。士官学校や防衛大学などに進学すれば幹部にもなれる。

まあ、それでも秘匿兵器は配備しないがな。

流石に最新式の兵器を渡すのは危険過ぎる。

最新式の兵器は本国出身で本国勤務の者が装備する。

戦争が起きたらそいつを派遣すれば良い。

本国出身でも植民地に派遣されるなら渡す兵器は二世代前の兵器だけだ。

それでも第二次大戦末期ぐらいのは渡すからこの時代なら十分だ。

本土の更なる発展のために新たに高等学校を設立した。

それに従い教育レベルも引き上げる。

少なくとも大正後期〜昭和初期レベルにする。

これで世界一知識レベルの高い国になったな。

何せ兵器や技術レベルはドンドン進んでいくから国民全体の質を上げなくてはいけない。

1763年（日輝184年）

ヨーロッパでベルツスブルグ和約が結ばれ七年戦争が終結した。北米では史実とかなりの違いがあったが、ヨーロッパでは大きな変化は無かった。

歴史の修正力？つてすげエな。

それともヨーロッパ方面では日本がフランスの味方をしなかったからか？

だとしたらフランス弱っ。それともイギリスが強いのか？

まあ、良いや。

予想通りフランスの財政はヤバイ。

史実より戦争でかなり金を使ったし、植民地経営でかなり出費を強いられている。

何せ戦争のせいで何も無い土地になったからな。

修復しなくては価値が無い。

そこで、日本からある交渉を持ちかけた。

仏領ルイジアナと旧イギリス領土。

つまり北米を日本に売らないか？と。

せつかく手に入れた領土だが、価値が無い。

いや、更には言えば大規模な修復作業が必要だからお荷物状態だ。

課税しようにも富裕層や白人労働者、植民地人などはほとんどはイギリス引き上げと一緒にイギリスに行くか、日本領に移住したから
税収も期待出来ない。

やはり放漫財政のフランスよりも植民地を發展させている日本の方が良いと移住者が未だに後を絶たない。よつて仏領北米植民地はハッキリ言つて価値が無い。それなら領土を売つてこの破綻寸前の財政を少しでもマシにしたいために、フランスは日本の交渉に応じた。

交渉の結果、フランス側も価格吊り上げに粘つたが大した価値が無い土地なので日本側に買い叩かれた。しかし、それでも少なくとも無い額だつたため、フランス財政は多少持ち直した。

北郷サイド

これで北米を完全に制圧した。予想通り二束三文で買い叩けた。何せ原状では本当に無価値な土地だからな。散々日本の植民地経営を宣伝したおかげで続々と移民がこつちに来てくれたからな。あれじゃあ税収も期待出来ないから売るしかない。

それに値引き交渉も上手くいった。あつちが迷つた時に呟いた「このままでは反乱まで起きそうですね？」が効いたようだ。ただでさえ金が無くて苦勞している時に反乱まで起こされちゃたまらない。だから向こうも安値でも売るしかなかった。こうして勞せずアメリカを手に入れた。

さて、次はフランスに売った金を回収しなくてはな。
既に商人達をフランスに寄越してルイ15世や后、多くの愛人達と取引を行っている。

馬鹿みたいにデカイダイヤやエメラルド、ルビー、プラチナ、金細工などなどんでもなく高いが美しい装飾品や、日本で描かれた名画、工芸品などを売りまくっている。

幸いながらフランス国王のルイ15世は政治に関心が無く、愛人ばかりを囲っていたから簡単に売れる。

愛人が腐る程いるから一人一人に売ればかなりの額になる。

他にも貴族など富裕層にも売り込む。

ちなみに宝飾剣や美術刀など鑑賞用の刀剣類がよく売れている。

刀はやはり人気があるようだ。

あいつら収入があつたせいがこの世の春と言わんばかりに何でも買つていきやがる。

マジでダメだこの国。

これじゃあ市民が革命を起こしたくもなる。

官僚が必死に頑張つてはいるが、それでも支出の額が半端ない。

何か北米売った時の金は直ぐに回収できそう。

まあ、この世界ではアメリカ独立戦争が無いからその分使って貰おう。

幸い売る物は幾らでもある。

本国以外でも植民地の装飾品や珍しい動物、食品など何でもある。

ルイ15世は馬鹿だったが、ルイ16世はそこそ良い王だったらしいから今の内に売れるだけ売らなくては。

それにルイ15世が死んだ後はマリーアントワネットや愛人、貴族達に売り込めば良い。

ルイ16世は悪くは無かったが優柔不断だったらしいからそういった動きを止められないだろう。

それでは手に入れたルイジアナや東海岸の整備といきますか。これでパナマ運河が本当に生かされる。

今まではカリブ諸島やフランスとの貿易に使うための航路でしか無かった。

しかしこれでアメリカ両海岸で使える。

先ずはボロボロになっている街やインフラの整備だ。

原状では文化的な生活は不可能だ。

建設機械を使い瓦礫などを撤去し、新たな建物を建てる。

その際に政府や警察署などの必要な物を作る。

鉄筋コンクリートで立派な物でも作るか。

歴史的な建造物として残せるしな。

そして上下水道を整備して生活を楽にする。

アメリカには結構貯水層があるから水にはあんまり困らない。

河川も多いしな。

長大な道路の建設も必要だ。後に高速道路も建設するからな。

今はまだ一般的には鉄道か馬車が移動手段だが、後100年ぐらい経てば自動車も出す。

それまでは鉄道網を張り巡らし交通や物流を発達させる。

それに教育もだ。

白人も支配する事になったが、この時代では白人でも読み書きさえ出来ない者は大勢いた。

だから義務教育として最低限の教育は受けさせなくてはならない。

その際日本人化教育も平行してやる。

史実なら白人が有色人種に教わるなんて考えられ無かったが、この世界では日本人は白人よりも遥かに優れた教育水準だというのは有名だからそう抵抗は無い筈だ。どうしてもと言うなら中国人や朝鮮人と一緒にシベリアやアラスカ開発を頑張って貰う。

この際植民地の教育レベルも本土に合わせて引き上げよう。

三等国民は2年から5年に引き上げ。

洗脳教育や基礎教育をより深くやる。

二等国民は5年から中等部までの9年に引き上げ、基礎や洗脳を構築する。

最終学歴は三等国民は中等部まで、二等国民は高等部まで認める。

これで全体の質も上がるし、洗脳もより深くなる。

流石に本国と植民地の差がありすぎても不便だからな。

軍設備も充実させなくては。

更に領土が広がったから東海岸にもデカイ軍港を築き扶桑型など汽船型軍艦を常駐させる。

そして両洋艦隊計画を打ち出す。

軍艦は幾らでも造り出せるから建造費はあまりかからない。

維持費はバカに出来ないが。

東海岸にも艦隊を編成すればヨーロッパへの睨みにもなる。

何せちよつと行けば大西洋だ。

今までは日本は太平洋の覇者だったが、これからは大西洋にも進出する。

1768年（日輝189年）

第六次？露土戦争が勃発した。

今回の戦争には別に食い込まない。

エジプトを買い取るために特に支援はせず、史実通り戦わせる。

と言ってもお互いに史実より国力が落ちているし、疲弊しているからそれなりの勝負になりそうだ。

ちなみにロシアに潜入させているスパイにも今回は何もさせない。

流石にロシアを更に有利にさせると黒海沿岸どころか、クリミアまで取られかねない。

だから今回はただ静観して待つ。

そうすれば歴史の修正力で史実とほとんど変わらない結果に終わるか、史実より少しトルコ側が不利になるぐらいだ。

そうすればトルコ側もエジプト売却の話を実剣に考えざるを得ない。

フロリダをスペインから買収した。

フレンチ・インディアン戦争に日本が参戦してからスペインはフランス支援を発表し、様々な援助をしていたから財政的にもちよつとヤバかった。

だから日本からのフロリダを高く買い取るという話に食い付いた。スペインのフランス支援発表に頭が来たのかイギリスはフロリダにも攻撃をかけて来たから荒らされてメチャクチャになってしまい、大した価値が無くなったから日本に売った。

これedyouやく北米は全て日本領になった。

まだ戦禍の後が残っているが、復旧させれば問題無い。
そのためにもフロリダにもインフラ整備だ。
鉄道を開通させるなど幾らでも雇用も出来る。

それに北米は現在人口が少ないからドンドン移住させて日本民族の人口が8〜9割程を占めるようになれば工業化させる。

流石にこんなにデカくて有望な土地を農業国にしていたら何れ不満が爆発して独立運動が起きるだろうからな。

それにいざというときは北米に遷都させよう。

地震など自然災害が多くて資源が乏しい本国よりも、ハリケーンや竜巻などがあるが、資源豊かで自活可能な北米の方が首都に向いている。

その場合首都は東海岸と西海岸どちらにしようか？

新たな巡洋艦が完成した。

最上型原子力巡洋艦

排水量 11670トン

全長 178.3m

全幅 19.2m

吃水 9.2m

機関

蒸気タービン2軸推進

原子炉 2基

最大速度 36ノット

兵装

127mm単装速射砲×2基

20mmCIWS×2基

連装ミサイル発射機

スタンダードSAM、アスロックSUM 各2基

4連装ミサイル発射筒 ハープーンSSM用×2基

4連装ミサイル装甲発射筒 トマホークSLCM用×2基

324mm短魚雷連装発射管×2基

ヘリコプター×1機

バージニア型を模した。

多分これが最後の原子力巡洋艦だろう。

原子炉は無給油で何年も航続出来て発電量も莫大なのは良いが、金がかかりかかるし、原子炉の扱いやメンテナンスが面倒だから次からは通常動力に変える。

次はイージス艦になるだろうし。

駆逐艦も新たに完成した。

初春型ミサイル駆逐艦

排水量10500トン

全長171.6m

全幅16.8m

吃水6.2m

機関

COGAC方式2軸推進

ガスタービンエンジン4基

最大速度33ノット

兵装

127mm単装速射砲×2基

20mmCIWS×2基

ミサイル連装発射機

スタンダードSAM、アスロックSUM 各2基
4連装ミサイル発射筒 ハーブーンSSM用×2基
324mm短魚雷3連装発射管×2基
艦載機
ヘリコプター×2機

キッド型ミサイル駆逐艦を模した。

駆逐艦でもかなりの戦力を保有するようになってきた。

レーダーやソナー、ECM、ECCMなど電子装置もレベルUPしている。

使い道が未だに訓練ぐらいしか無いがな。

何せ他国はイギリスがようやく蒸気機関を開発しそう。という差。

こっちは現在宇宙開発に乗り出しているというのに。

ちなみに宇宙開発として各種人工衛星を打ち上げた後、スペースシャトルを建造し、宇宙空間での実験の繰り返しや現在は宇宙ステーション建造に取りかかっている。

後は太陽光発電衛星や、軌道エレベーターの研究も行っている。

軌道エレベーターが出来れば宇宙との往復はずっと楽になる。

それに太陽光を僅かでも利用出来れば莫大な電力を得られる。

そうなれば危険な原発に頼る必要は減る。

原発は放射性廃棄物とか災害が起きると厄介だからできるなら自然エネルギーを利用したい。

新たに潜水艦も完成した。

高潮型原子力潜水艦

排水量6927トン

全長109.73m

全幅 10.1 m
吃水 9.75 m

機関

原子力蒸気タービン7翼ハイスキュード・スクリュー×1軸推進

加圧水型原子炉×1基

最大速力 31ノット

潜航深度 457 m

兵装

533 mm水圧式魚雷発射管×4基

サブ・ロツク UUM

サブ・ハーブーン USM

各種機雷×4基

トマホーク SLCM用×12基

ロサンゼルス型を模した。

対地攻撃力や静粛性を重視した潜水艦だ。

これで海防も安心だ。

何せ空母や駆逐艦などはおおっぴらには使えないから制海権を守る
のは潜水艦がやっている。

領海がバカ広いからなあ。

侵入禁止区域に侵入してきた外国船は原因不明の沈没事故にあつて
貰っている。

1774年（日輝195年）

第6次？露土戦争が終結。

キユチュク・カイナルジ条約によってロシアが黒海の支配権を奪い、クリミア・ハン国も割譲した。

更にトルコは自国内の正教会信徒達の保護権をロシアに与える事になり、以降の内政干渉の口実を与えることになった。

北郷サイド

これでトルコはかなり疲弊し、落ちていく。

この状況下ならエジプト買収も上手くいくだろう。

なんせ命綱だった黒海の支配権も失い、領土もそれなりに失った。

こんな時に大国、大日本帝国の要求を退けるのはほぼ不可能。

なんせそんな事をすれば本国さえも無くす事になりかねない。

いつそ日本の保護下に入ればロシアも手を出せなくなるが、そんなことは永きに渡り栄えてきたオスマン帝国のプライドが許すまい。

まあ、そっちの方がこっちもありがたいがね。

下手にイスラエルを手に入れたりヨーロッパに進出すればとんでもなく面倒になるのは明白だ。

だからオスマン帝国にはこれからも頑張って頂く。

とりあえずエジプト買収の交渉に移るか。

敗戦の影響で金が無いトルコは簡単には断れまい。

安心しろ、これ以降は別に欲しくないからいらない。
スエズを手に入れば別に後はどうだって良いからな。

第四世代ジェット戦闘機が完成した。

195式陸上戦闘機

通称飛燕

全長19・43m

全幅13・05m

全高5・63m

エンジン

ターボファン・エンジン

推力 約6・62トン×2基

最大速度マッハ2・5

実用上昇限度1万9200m

兵装

20mmバルカン砲×1基

SARH型AAM×4基またはARRH型AAM×4〜8基

外部兵装最大搭載量7・62トン

F-15Cイーグルを模した。

現在はF-15Eストライクイーグルも開発中だ。

新たな艦上戦闘機も完成した。

195式艦上戦闘機

通称流星

全長17・07m

全幅12・31m

全高4・66m

エンジン

ターボファン・エンジン 推力約4・81トン×2基

最大速度マツハ1・9

実用上昇限度1万5240m

兵装

20mmバルカン砲×1基

SARHもしくはARRH型AAM×2〜4基

外部兵装最大搭載量6・08トン

F/A-18Aホーネットを模した。

現在F/A-18E/Fスーパーホーネットも開発中だ。

他にもA-10サンダーボルトやステルス機のF117ナイトホークも開発した。

サンダーボルトはかなりの搭載量を持つから空爆などで重宝するだろうし、あんまり必要無いがステルス機の研究も順調だ。

ようやくイギリスも実用的な蒸気機関を開発した。

元々蒸気機関はかなり前に開発されていたが、効率が悪過ぎて使い物にならなかった。

しかしジェームズ・ワットが複水機を取り付けるなどの改良を施し、ようやく実用的な蒸気機関が完成した。

ちなみに蒸気機関を公の場で使う際に先に特許を取らなかったのは、イギリスの産業革命を邪魔するとイギリスの国力は激減し、フランスやドイツに侵略される危険があったのと、流石に産業革命みたいなデカいイベントを潰せば歴史が大幅に変わるのであえて潰さなかった。

でもこの世界のイギリスは史実と違いインドや北米を持っていないから市場が少ない。
代わりにブラジルを持っているから多少はカバー出来るだろうが、史実までは無理だろう。

まあ、それでもヨーロッパの中ではトップになれる筈だ。
何せ他の国はまだ手工業だからな。

一方イギリスより早く蒸気機関を発表した日本は順調に発展している。
っている。

広大な支配地域を誇るから市場には困らないし、日本民族の人口もかなり増えたから労働力にも困らない。

簡単な作業や特に技術を必要としない仕事は植民地人が行い、流出しては困る技術を用いる仕事は全て日本民族が行っている。

ちなみに人口の9割近くが日本民族の植民地は植民地ではなく、日本領として扱われる。

つまり現代の沖縄や北海道と同じだ。

まあ、そういう所は南洋諸島みたいな元々先住民の人口が少なかった地域や、満州や朝鮮みたいに先住民を強制移住させて代わりに日本民族を移住させた地域など、少ない。

現在日本民族が人口の9割以上を占める所は本国の四島と沖縄、樺太、台湾、千島、満州、朝鮮、南洋諸島は正式に大日本帝国の直轄地として組み込まれている。

まあ、それでもやはり本国の四島は別格として扱われるがな。

発展具合も順調だ。

東京のような都心部や他の都会、地方にも高層ビルのような近代的設備が立ち並ぶようになったし、街頭にはガス灯が立ち、路面電車

などが走るなどの現代に近い風景になってきた。

ちなみにアメリカで開発される物を開発している。

ハンバーガーやコーラなど、現代では当たり前なファストフードなど食品。

他にも野球やサッカー、フットボール、アメフト、ボクシングなどスポーツも開発し、順次プロ化する。

コーラは作るのにかなり苦労したが、やはり再び飲みたかったので開発させた。

スポーツについてはアメリカに関係なく色々なスポーツを開発し庶民の娯楽的要素や体育の時間に取り入れたり、プロ化もしている。

それとギャンブルとして競馬や競輪、パチンコなど合法ギャンブルなども開発した。

やっぱりギャンブルなどの娯楽は必要不可欠だからな。

それに今から競馬などを始めとけば後に後進国とバカにされなくなる筈だ。

それと産業革命が起き、環境問題が提唱されるだろうから環境省を設立した。

問題が起きてから設立しても遅いから今の内に設立しとけば行動も早くなる。

このままいけば遠くない内に重油などガソリンを使用する機関やピニールなど石油関連の物質を発表するからな。

そうなったら環境問題が一気に噴出する。

それに他にも仕事はある。

森林を伐採し過ぎると治水能力が落ちる事など今の時代でも環境問

題は存在する。

大学の学科に環境学を取り入れ研究させ、ある程度分かったら一般にも浸透させる。

18世紀に環境意識を持たせるってすげえな。

アヘン戦争フラグが完全に立った。

イギリスは貿易黒字を目指し、中国にブラジルで栽培したアヘンの密貿易を始めた。

以前は精々60kgの箱200個程度だったが、今では倍以上になり年々数は増えている。

そしてイギリス、ブラジル、明の三角貿易を行い史実よりは少ないがイギリスは大幅な貿易黒字を実現した。

これで史実通りアヘン戦争は起きるだろう。

70 (前書き)

この話に出てくる人物、企業などは現実には存在しません。

1780年（日輝201年）

様々な交渉の結果、見事エジプト買収に成功した。

やはりトルコもエジプトを売るのは中々渋ったが、現在の逼迫した状況や国力、そして何より日本との友好関係にヒビが入るのを恐れ、最後には日本の要求を受け入れた。

こっちとしても別に買い叩く気は無いのでそれなりの金額で買い取った。

何かやり方がアメリカよりえげつないような気がする……まあ、良いか。

国政に卑劣も糞も無いしな。

ようやくエジプトを手に入れた。

それなりの手間や金はかかったが、それを補って余る程の価値はある。

早速スエズ運河の建設だ。

これさえ出来ればアジア〜ヨーロッパ間の航行は短期化される。

そのために史実よりかなりデカくし、現代みたいに広く深くする。

何せ軍艦や大型タンカーが通過するからな、かなりの余裕が必要になる。

それに何時も通りの領土整備だ。

せっかく手に入れたんだから使えるように整備しなくては。

政庁など運営に必要な施設を建設し、住民の戸籍登録をする。

治安向上のために盗賊などを植民地兵達に粛正させる。

次にインフラ整備として道路舗装、上下水道完備、橋の建設など様々な公共事業を行い、雇用も産み出す。エジプトにも油田があるので油田を掘削させる。ある程度インフラが整備出来てきたら北郷商事傘下のスーパーなどの日用品点などを建てて市場を作り、また雇用を産み出す。そして学校を建設して三等国民となったエジプト人達に5年間の義務教育（洗脳教育）を施し日本人化させる。そして兼続教を布教して信徒拡大を図る。

ざっとこんなものか。

イスラム圏内での植民地経営も既に慣れたから簡単だ。別にキリスト教みたいないスラム教を駆逐する訳では無いから関係は悪くは無い。

それにどうしても分かってくれない奴らや過激派などはカナダの北極圏の開発に尽力して貰っている。

アラスカや極東ロシアはそれなりに開発出来て来たから今度は北米開発を頑張らせている。

彼等ならきつとやってくれるだろう。

イギリスは勢力圏拡大のためにアフリカへ進出してきた。

現在はガンビア、セネガル、シエラレオネに進駐している。

でもそこから辺この時代では奴隷ぐらいしか資源は無いんだけど…。

本国やブラジルにでも運ぶのか？

第三世代戦車が完成した。

201式戦車

全長9.80m

車体長7.55m

全幅3.40m

重量50.2トン

懸架方式ハイブリッド式

速度70km

行動距離350km

主砲 44口径120mm滑空砲

副武装

7.62mm機関銃

12.7mm機関銃

装甲

複合装甲

エンジン

水冷2ストロークV型10気筒ターボチャージド・ディーゼル

90式戦車を模した。

他にも多連装自走式ロケット砲MALSや155、203mm自走榴弾砲、など長射程兵器も開発した。

自動小銃についても新たに開発した。

今までは構造が単純でメンテナンスも簡単なAKシリーズを使っていたが、これからは高品質、高精密なアーマイト系のM16シリーズを使う事にした。

これなら精密射撃が可能だし、グレネードなどのパーツも付けやすい。

それにメンテナンスには圧縮空気などが必要だから他国に鹵獲されても使えない。

なんせ少しでもメンテナンスを怠ると途端に使えなくなるからな。AKシリーズは後に植民地兵が輸出用にしよう。

歩兵兵器も新たに開発した。

スナイパーライフルとしてレミントンM700やPSG-1。

軽機関銃として5.56mmMINIMI。

自動拳銃としてベレッタM92など現代の装備になってきた。

防御についても本国の兵士達は迷彩服に防弾ベストを着用し、暗視ゴーグルなどをヘルメットに装着して夜戦も可能とするなど完全に現代の歩兵になった。

ちなみにレーションや缶メシなど軍用携帯食料なども勿論開発済みだから手軽に高カロリーな食事が取れる。勿論味もいける。

他国ではようやくゲベル銃が知られてきて、食料は乾燥させた保存食を食べていた時代に日本ではM-16やM4のような自動小銃を持ち、缶詰めやレーションを食うという時代差。

最低でも200年は離れている。

それに日本は進化し続けているから更に差が広がるだろう。

イギリスサイド

我がロイドグループは近年実用化に成功した蒸気機関によって紡績や工業などで目覚ましい程に発展を遂げ、イギリスでもトップクラスに登りつめた。

他社の製品よりも安く、品質を上げる事に成功した事によって衣類などは市場をほぼ独占出来た。

その代わりに労働者には過酷とも言える労働条件を強いているが、

それは仕方がない。
富める者が正義なのだから。

近年の業績や自社製品によってヨーロッパ諸国にも出店し、徐々に市場を取り込む事に成功して来た。
更に炭鉱や鉱山なども所有して業績は正に絶好調。

これならイケるかも知れないと思えた。

幼い頃からの夢、世界最強国にして最も技術レベルの進んでいる国、大日本帝国への出店。

それも首都トウキョウへの。

トウキョウには20年以上前に行ったきりだが、日本領土のリビア、ケープタウン、インドになら輸入交渉で最近行った事がある。

植民地で生産されていた商品はその時代なら素晴らしい質だったが、今では自社でもそれ以上の製品を産み出せるようになった。

だから日本本国でも十分通用するだろうと確信を持てた。

イギリス経済界のジョークにある、「日本本国で店を持てるならヨーロッパを支配出来る。」を実現してやる。

とりあえず現在の日本本国をこの目で見るためにはるばるケープタウンを超えてアジアに向かった。

現在工事中のスエズ運河が出来ればもっと早く行けたのだが仕方ない。

それに、日本に出店する頃には通過している筈だから心配いらぬ。

そう息巻いていた。

日本に着くまでは。

トウキョウ湾に着いて見た風景は以前見たものと全く変わっていた。以前見た時もなんと物凄い大都市なのだ。と驚いたが、20年以上経った今では更に発展している。

その光景は現在急激に発展している自国の首都ロンドンが片田舎の町程度に思える程だ。

道路は以前のアスファルトという物から色模様が美しく絵画のように並べられたレンガ状のコンクリートという建築物に変わっているし、道端にはガス灯という証明器具が等間隔に設置されていて夜でも明るい。

街並みも以前から高層建築物が建ち並んでいたが、今では以前見た高層建築物の倍以上の建物がズラリと並んでいる。

まるで自分は田舎から上京したお上りさんに思える程の衝撃であった。

僅か2〜30年でこの国はどれだけ発展したのかと恐怖さえ抱いた。

しかし自分は街並みを見に来た訳では無く、このトウキョウに出店をするための下調べに来たのだ。

確かにこの発展レベルは驚異的だが、製品レベルがそれに追い付いているとは限らない。

と自分を安心させて日本の外務省から派遣された通訳兼案内人に市場や商店の案内を頼んだ。

名目は見学として。

そしてその唯一残された希望さえも打ち砕かれた。

とても大きなデパートという総合ショッピング店舗で現在の日本製の衣類など商品を見て触ったが、どれも自社製品の質とは格が違う。

だと言うのに価格は自社製品よりも安い。

何故こんな高品質で低価格が実現出来るのだ？

こんなに高品質の布地はイギリスでは上級貴族か王族ぐらいしか着られない。

だと言うのにトウキョウでは平民でさえ着れる。という。

「ここは上流階級向けの高級ブティックなのですか？」

と案内人に聞いたなら

「いえ、ここは大衆向けの安い服屋ですが？」

という絶望的な答えが返って来た。

自分が見ていた商品はバーゲンセールス品という商品で通常より安くなっているらしい。

ついでに高級ブティックにも行ってみたが、今まで触った事の無いような肌触りやとても美しい縫い目、全て職人による手作りらしい値段は確かに高いが、イギリスならこの値段であるのバーゲンセールス品が買えるぐらいだろう。

つまり質、価格の面全てにおいて我が社は、いやヨーロッパ全体が遙かに劣っているのだ。

何故このような高品質の商品を低価格で販売出来るのかが気になるので、何度も何度も日本政府にお願いして日本シェア9割以上を誇る北郷グループの最新工場の見学を取り付けられた。

一切メモを取る事は出来ないし、決められたルートを回るという制限はつくが、工員との簡単な会話は許可された。

そして念願の工場を訪れた。

工場の規模はとても巨大で、一つの町のように大きかった。

そして内部には多くの工員の他にも、多くの機械が立ち並んでいた。どれもイギリスにある最新式の機械よりも新しく、複雑な操作など

も簡単にこなしていた。

イギリスでは人間がほとんどの作業をやっているのにも関わらず、日本では人間も勿論多いが、機械も多いので早く、正確な作業を常に行なっている。

自社も作業機械を導入はしているが、まだ数が少なく人間がほとんどの作業を行なっている。

それに技術レベルが高いとは言えないので精度があまり良く無い。しかしここは沢山の職人がいるらしく、細かく、とても繊細な作業をしている者達が多い。

何故そんなにも細かく出来るのかと聞くように細かく金属の表明を削ったりなど技術レベルの高さがうかがえる。

その他にも様々な工場を見学出来た。

金属加工や製紙、紡績など様々な工場に行き、工員と話をしたが、一番驚かされたのは労働基準法というのが存在する事だ。

イギリスでは労働者は厳しい労働条件を強いられ、低賃金でも危険な作業に従事するというのに、日本では労働条件が定められており、その基準に反する事は出来ないという。

例えば作業時間は原則8時間とし、休憩として合計1時間とること。それ以上の作業をする場合は残業として残業手当というものを支払うなど、経営者としてはとても受け入れ難いような内容が数多くある。

他にも最低賃金の設定や有給休暇などヨーロッパではあり得ない法が制定されている。

このような法律があつて企業が業績を伸ばせるのか？と工場長に聞いたが、「逆に認めないと社員がやる気を出さなくなったり、ストライキなどの労働争議が巻き起こりますからね。

ある程度認めれば社員一人一人のやる気が上がりますし、会社に愛

着を抱いてくれてサービス残業も行なつてくれますからね。」と返された。

確かにある程度労働者の待遇を認めれば労働者のやる気は格段に上がる。

しかしそれでは業績が延びにくい。

それにイギリスでは無理だ。

日本はイギリスよりも遙かに進んだ作業機械があるからある程度人間を減らしても品質は変わらないが、イギリスではまだ作業機械は開発されたばかりで性能も不安定。

だからどうしても大量の人間が必要だ。

だから労働者に高い賃金を渡しては利益が上がらない。

それにヨーロッパの文化的に低い階層の労働者を優遇するなど無理だ。

日本と違い、階級がハッキリと区別されていて、平等などない。

日本とイギリスでは文化が違い過ぎるから日本のやり方を真似る事は不可能だ。

結果、日本領土での出店は取り止めた。

植民地なら我が社でも対抗可能かも知れないが、本国から植民地へ最新式の機器が続々と輸送されているらしいから、近い内に追い抜かれて市場から追放されるのは目に見えている。

やはりあのジョークは本当らしい。

確かに、「日本本国に出店出来るならヨーロッパを支配できる。」今なら確信を持って言える。

多分イギリスが今の日本のレベルに達するには後2〜30年はかかる。

その頃には日本は更に先に進んでいるだろう。
もしかしたら更に先に。

土台無理だったんだ。あの国の市場を奪うなど。
これからはオスマン帝国、ロシアなど日本が統治していない国か今
まで通りにヨーロッパや南米植民地の市場を支配しよう。
その方がずっと現実的だ。

そう悲しい目をしながらロイドグループ総帥、ロイド伯爵は自分の
夢の実現を諦めたのだった。

その後、彼の会社は更に業績を上げヨーロッパの市場を独占しかけ
たが、世界恐慌の煽りを受けてあえなく倒産に追いやられ、経営者
たる彼は自殺した。

1785年（日輝206年）

南米のベネズエラ、コロンビア、エクアドルを買収した。スペインは財政の厳しさと反乱機運が高かったために日本に売り払った。

それに日本が南米に進出する事でイギリスの進出を牽制出来るかも知れないという政治的背景もあった。

北郷サイド

これでパナマ運河の守りとベネズエラの大規模油田も頂いた。

残りの南米は全部くれてやっても良いが、この三国はやれない。

まあ、最悪コロンビアだけでも良かったんだけど、まだ民主主義革命が起きてない内に三国を取り、反乱勢力を始末して洗脳教育を施せば間に合うかと思ひ動いた。

とりあえず先ずは各政庁の建設をして戸籍登録をして人口の把握。

そして徹底的に始末するために本国の兵士達を派遣して反乱勢力や盗賊など邪魔な奴らを殲滅する。

そして次にインフラ整備として鉄道敷設や道路舗装、上下水道完備など公共事業をしまくり雇用を増やす。

そして政府関連の建物と一緒に本国のスーパーなどを出店させて市場を拡大させ雇用と食料、公共サービスを充実させる。

次に学校を建てて義務教育として5年間の日本人化教育（洗脳教育）や基礎教育を施す。

これで大半の反乱は消える。

何せ三等国民に区分されるが、キチンと人間扱いするし、白人との差別もしない。

雇用もしつかりしていて食料も安く買える。

インフラ整備もしているから公共サービスもちゃんとある。

今までは馬か徒歩しか無かった移動手段に鉄道が加わり移動範囲や物流は拡大して地方にも行きやすくなった。

何気にデカい国ばかりだからな。

反乱を起こした原因は膨大な失業者や財政不足、食料難などあるからその問題を無くせば反乱は起きない。

フランス革命が起きて民主主義革命が成功しても既に安定しているから影響は軽微で済む。

それくらいなら秘密警察などで十分抑えられる。

それに日本の強さは世界中に轟いているから反乱活動を起こすのは無意味と分かっている。

キチンとそういう事は洗脳教育の際に教え込むからな。

日本は海外領土も含め、原状の支配体制に特に不満は無い。

他国の植民地支配に比べればずっと楽だし、むしろ発展すらしている。

本国の発展は別格だが、ある程度の差はあれど、日本の植民地は他国の首都や地方都市程度は発展している。

反乱勢力は極々少数で国内ではテロリスト扱いだ。

逆に独立しても今更困るしな。

国防を日本に頼りきり、今更戦い方なんか忘れたし、貿易も広大な

日本領土があるから取引相手に困らない。

それに市場はほぼ100%日本資本だから独立すれば撤退し、市場は崩壊する。

このように今更日本から独立しても貧国になるだけでデメリットが大きすぎる。

それに長い日本人化教育のおかげで自分達は日本人だ。という自覚が産まれているため、今更元の民族に戻るのとは不可能だ。

これなら民主主義運動は起きない。

起きれば肝付家の支配体制が大きく変わり、どうなるか分からない。悪い状態なら運動は起きるが、良い状態の時に人間は変化を求めない。

72 帝国主義世界編

1787年（日輝208年）

第七次？露土戦争勃発。

前回の戦争によってトルコの属国であったクリム・ハーン国が独立という名の事実上ロシアに併合されたという事を侮辱と受け取り世論が加熱した事で起きた戦争だ。

今回の戦争でもトルコは大敗して更に領土を失う事になる。

北郷サイド

またもや始まった露土戦争。

これで7回目だ。

いい加減決着をつければ良いものを。

トルコも諦めたら良かったのに。

ピョートル大帝以降のロシアは近代国家になり国力は急上昇し、第一次ポーランド分割で更に強くなったロシアをよく相手にしようとするな。

まあ、ここまで弱体化したのも日本の工作のせいでもあるから一応は支援はするか…。

ロシアに潜入させているスパイは既にある程度の地位に就き、派閥も形成したから権限も順調に強くなっていつている。

そのスパイが引退する時は別のスパイが後任に就くようにもしてあるから問題無い。

高度な教育を受けた軍人であったり商人であったり政治家であったりなど様々な職業で潜入しているから内部情報は筒抜けだ。

そいつらに昇進出来るだけの情報や金銭は定期的に与えているからドンドン昇進していく。

今ではそこそこの兵を任せられる將軍にさえもなっている。

しかしあまりにも昇進し過ぎると目立つので調整しながらするからいきなり若い内に昇進などは無理だ。

地盤を固めながら昇進していくのが一番良い。

トルコにはエジプトを売ってくれたとしてまた武器、物資などを援助する。

こうしてトルコの戦力を調整し、史実ぐらいの損害が出るようにする。

トルコが強くなればその分ロシアに潜入させたスパイが活躍する。こうすれば史実通りにいくし、武器や物資がトルコ、ロシア両国で売れる。

ロシアには商人を仲介して売るからバレない。

日本からの贈り物など決して受け取らないだろうからな。

でもロシアがトルコに目を向けているおかげで日本に攻めて来る事も無くなった。

それともイルクーツクの要塞線に侵攻するのは無意味な事を悟ったのか？

ピョートル大帝の時代はたまに攻めて来たが、全部失敗した事でようやく分かったのかな？

何せ何時も部隊が全滅か壊滅していたら戦費の無駄でしかないからな。

でも19世紀末期になればロシアは本格的にアジア進出をするから

アフガニスタンやイラン、インドに新たな要塞線を築かなくてはならない。
面倒くせエな。

フランスには大分無駄金を使わせまくったから史実通り三部会招集の布告がされた。

市民の革命機運を高めさせるために煽動させるスパイも忍び込ませた。

そのおかげで順調に革命機運は高まっている。

それにスパイが革命軍の中でそれなりの地位にも立てたから史実のように「自由、平等、博愛」の精神を広めている。

アメリカ独立戦争が無かったから標語や意識を自分達で広めるしかない。

面倒だがやらないと民主主義革命にはならないかも知れないからな。

ルイ16世は必死に立て直そうとしているが、最早不可能だ。

王妃マリー・アントワネットは史実通り浪費をしまくっているし、王族や貴族なども変わらず金を使いまくっているおかげでこっちは儲からさせて頂いている。

でもそのせいでフランス国内での日本の評判は良くない。

何せ財政破綻の原因を作っている国だからな。

アメリカを二束三文で買い叩いたのも響いている。

もしかしてこれは何かのフラグか？

何かあったっけ？

フランス革命が起きても別にやることも無いので念願だったコンゴ民主共和国を領有化した。

懸念だった人口も9000万人を越えて問題無い。

それに近々徴兵制を解除して志願制に変更する。

一等国民が増えて来ているし、そろそろ大量生産、大量消費の時代が来るからそのために労働力が必要だ。

数年間働き手を徴兵に取られていては生産力が低下するし、志願兵の方が士気は高い。

それにこの世界では軍人はエリートコースを走れるから人気が高い。真面目に勤めればそれなりの年金も出るし、社会保障も厚い。

それに愛国心が高いから志願者は絶えない。

だから志願制でも問題無いのだ。

さてと、手に入れたコンゴを整備しなくてはな。

政府など必要な建物を建てて戸籍登録や警察機関の構築などをする。

それとインフラ整備としてこの地はエボラやエイズなどんでもないウイルスの宝庫だから衛生環境をしっかりと整えて流行や蔓延を防ぐ。

エボラにかかったらもうダメだけど、エイズなら進行を送らせるぐらいの薬はある。

特效薬は現在開発中だ。

上下水道や道路などはほぼ無いから建設し、鉄道を敷設する。

内陸部は森が多いから開発しにくいけど、切り開く。

だからと言って自然をむやみやたらに破壊する訳では無い。

それにコンゴ共和国、ガボン、赤道ギニアなどと合併すれば海からの輸送も楽になる。

コンゴから採掘した資源もより運搬しやすくなる。

資源採掘や公共事業で雇用を大量に確保出来るから革命なども起きないだろう。

コンゴ共和国やガボンに既に出店している北郷商事の市場拡大を図れば豊かな市場も形成出来る。

今でこそジャングルと病原体の宝庫で開発しにくいのが、ウイルスの研究が進み、特效薬が完成すればとんでもない有望な土地になるだろう。

まあ、現代でもまだ完成していないが…。

市街地戦やライフルが使い難い環境で使うためにサブマシンガンとしてMP5シリーズやUZIを開発した。

本来なら警察など治安維持やスパイに持たせれば良いが、この時代の警察には不向きだし、スパイに持たせて鹵獲されでもしたら一大事だから軍用に使用する。

たまに反乱勢力の駆逐や他国のスパイ抹殺などにも使われる。

更なる研究促進としてシリコンバレーのような産学共同地域を制定した。

この世界の日本ではここに国も参加し、官産学共同体とした。

国はこの地域の税制や法を優遇して研究しやすくして、代わりに研究成果を得る。

企業も得た技術の特許の優先権を得るなど互いに利益が出るようにした。

と言っても企業が得る特許などは既に開発されていた昔の技術だが、この時代では最先端だ。

その成果としてカメラを発表した。既にカラーフィルムは勿論、デジカメさえ出来そうなのだが、白黒フィルムを使用する初期型カメラを発表した。勿論特許を取り製造権を独占した。ちなみにカメラ自体は100年以上前に完成していたが軍でのみ使用していて秘匿していた。

他にも機械式計算機やタイプライターを発表して特許を取り、事務仕事やレジ打ちなどを楽にする。

電気についても最近学校で詳しく教え始めたので電球や電話も近々発表する予定だ。

電気の社会が来れば石油の大事さが認知されるから原油価格が高騰するだろう。

そうなれば中東を取った苦勞がやっと実る。

さてと、次は市民革命か。

絶対君主制を敷く大日本帝国には決して受け入れられない革命だ。表向きは否定的な態度を取るが、実際は革命を煽動しているなんて他国が知ったらどうなるだろうかな？

フランス革命に先立って多少時代に合わせて憲法を修正しよう。

先ずは基本的人権の尊重だ。

大日本帝国憲法は制定したが、人権関連は省いていた。今回初めて人権についての法を加えた。

大体は現代の日本国憲法の真似だが、「人間は生まれにして平等である。」など平等という言葉は削除した。絶対君主制国家の時点で平等はあり得ない。精々与えるのは最低限度の文化的生活を営む権利などだけだ。

後は自由権だ。

今までは宗教の自由のみを認めていたが、これからは言論の自由や報道の自由などのある程度の自由を与える。

と言ってもマスコミ関係や学者などは全部支配下に治めているから基本的に今までと変わらない。

時代に合わせていかなないと国民が不満を溜めるから形だけでも自由を認める。

戦時など非常事態宣言を出したら制限するけど。

それと身分差別制度の撤廃だ。

士族や華族など、ほとんど有名無実化してきたからこの期に無くす。皇族を除き、華族、士族、庶民を総じて国民と制定した。

これで面倒な身分差別は無くなっていくだろう。

フランス革命後でも良いかと思ったが、それではフランスの尻馬に乗ったように映るから起きる前に制定した。

この時代では破格な法だろう。

こうして大日本帝国は若干民主主義的な絶対君主制国家となった。

1789年（日輝210年）

フランスの財政は既に崩壊寸前まで来ていた。

税収を増やすために増税をしたいのだが、既に第三身分である市民から取るのもう不可能な程増税していた。

そのため、今まで触れずにいた年金や免税を認められている特権階級の第一身分の聖職者や第二身分の貴族の年金や免税などの特権を制限し、課税する。

そのために三部会が招集された。

しかし予想通り会議は紛糾し進まず、ズルズルと時間だけが過ぎていった。

そしてただ時間だけを浪費していく議会に愛想を尽かし、第三身分である市民は結束、「国民議会」を発足した。

しかし政府はその市民の動きを疎ましく思い、軍を集結させて鎮圧に当たった。

その政府の動きと食料危機が重なり市民の怒りはピークに達し、火薬庫として使われていたバステューユ牢獄に襲撃をかけた。

これが切欠でフランス各地でも市民革命が勃発し、フランス国内は大混乱となった。

そして国民議会は封建的特権の廃止を宣言。

また、基本的人権、国民主権を謳う人権宣言を採択した。

やっぱり市民革命は起きたか。

まあ、あんだけ煽動したり裏から武器を支援してやっていたから起きなきゃ困る。

まあ、それでもまだフランス政府は革命鎮圧のために頑張っている。何せ革命が成功すれば王族は間違い無く処刑される。

俺だったら真つ先に逃亡を考えるがな。

この時代なら他国に逃げれば逃げ切るのはそんなに難しくは無いだろっし。

金を持ち逃げして目立たないように庶民か商人の振りでもしていればそこそこの生活は出来るだろう。

まあ、でも生粋の王族のルイ16世やマリー・アントワネットが目立たず、地味な生活をするのは不可能か…。

ちなみに同盟国であり、何かと頼りにしていた同じ絶対君主制国家の大日本帝国にフランス政府は救援を求めて来た。

その事がフランス中に知れ渡ると国民議会や革命軍達は震え上がった。

何せあの大日本帝国だ。

世界最大の領土を持ち、世界最強国である大日本帝国がフランス政府を味方したら自分達に勝ち目は無いと分かるからだ。

しかし彼等は救われた、日本側の回答は「民主主義革命を支持はしないが、自分達の不始末で招いた革命を同盟国と言え何故我等が鎮圧しなくてはならない。」

と救援要請を拒絶した。

フランス政府は絶望し、フランス市民は歓喜した。

あの超大国が関わって来ないのならこの革命は成功する。と唯一の

不安が払拭され、自身が持てた革命軍は更なる攻防を仕掛けてくるようになった。

もしもフランスがアメリカの一部でも持つていれば助けたかも知れないが、今のフランスは金も海外領土もほとんど持つていない。

そんな国にボランテアで助ける訳が無いだろ？

それなのに何故かフランス政府からは裏切り者扱いされるし。意味分からん。

最近ようやく輪転印刷機を世間に発表し、特許を取得したので日刊で発行出来るようになった大日本帝国全土で販売されている北郷日報にてフランス革命の詳細をこと細かに説明し、民主主義とはどういうものかを説明し、フランス革命の標語である「自由、平等、友愛」の矛盾を説いた。

友愛は素晴らしい精神であるが、自由と平等を同時に求めるとどうしても矛盾が起きる事や、民主主義の利点と欠点を分かりやすく、そして細かに説明した。

更に学校の授業でも民主主義とは何かを教えて国民に理解させた。確かに民主主義は一見素晴らしいが、個々のエゴが重なり衆愚政治に陥りやすく、行動が遅れる。

また、議会制民主主義の場合は民意と同意ではない者が議員になったり、選挙の際に不正を取り締まる厳正な選挙ルールが必要になるなど欠点も多いと説明した。

また、民主主義の波が来て、冷静さを失い、ただ権利を求めるような愚を犯さないようにと国民に発表した。

日本国民は特段フランス革命には騒ぎ立て無かった。

同盟国の一つが財政崩壊と食料危機によって革命が起きたとしか思わなかった。

所詮遠い国の話。

日本は安定しているから翻意を持つ意味が無いし、食料などは広大な領土から運ばれて来るから冷害や干ばつなどが起きても一月か二月程度待てば収束する。

それに農業機械や化学肥料などを使い大規模に農産物を生産しているから国内では困らない。

牛や豚、鳥、羊など宗教の違いがあれど、オーストラリアやアメリカ、ニュージーランドなど牧場を作れる所は幾らでもあるから肉も困らない。

食品衛生については農林水産省が規定を作り、全農場や牧場を厳正な検査を済ませてあるから安全レベルは世界一高い。

農作物には農薬を使っているから無農薬野菜とは言えないが、寄生虫の心配などは少ないし収穫量は倍増するから問題無い。

農薬についてもしっかり教えて、正しい使い方や分量なら健康上問題無いと学校でも教えている。

だから食料には困っていないし、雇用もしっかりあるから金銭でも大多数は不満は無い。

これなら民主主義革命が起きても国民は「フランスで変わった政治体制が誕生するらしいよ。」程度である。

唯一不安なのは最近大日本帝国入りしたコンゴ民主共和国や南米であるが、教育レベルがまだ低いのと今の支配体制への不満はごく小規模なので問題無かった。

即応戦力部隊の海兵隊が他国や離れた地域に即座に対応出来るよう

に強襲揚陸艦を建造した。

海鷹型強襲揚陸艦

排水量41335トン

全長257.3m

全幅42.3m

吃水8.0m

機関

ガスタービンエンジン2基・2軸

最大速度22ノット

兵装

25mm単装機銃×3基

20mmCIWS×3基

12.7mm単装機銃×8基

短SAM8連装ミサイル発射機×2基

近SAM24連装ミサイル発射機×2基

ハリアーやヘリ、LCACエアクッション揚陸艇、戦車、装甲車な

ど様々な物を運搬出来る。

勿論兵士達も。

ワズプ型強襲揚陸艦を模した。

こいつなら敵海岸に直ぐに橋頭堡を築けるし、そのまま進軍させる事も可能だ。

戦車など大型車両を沢山運べるのが良い。

一昔前の空母みたいに全通甲板を持っているからハリアーなど垂直離陸機やヘリなら余裕で発艦も出来る。

ちなみにハリアーも開発済みだ。

もうすぐ南米諸国が独立するから今の内に太平洋で残っていた島々
を取る事にした。

ピトケアン諸島、ガラパゴス諸島など南米や中米の沿岸諸島を領有
化した。

万が一ここら辺を他国に取られたら後々面倒になるからな。

ガラパゴス諸島は世界遺産として登録して保護しとけば研究などで
役立つし、史実では絶滅する生物も生き残れるかも知れない。

その代わりにダーウインは来ない可能性があるからこっちで進化論
を提唱する必要があるな。

まあ、この世界の日本は知識、学術等でも世界トップを走っている
から無視は出来ないだろう。

でもキリスト教圏内からの批判や反論は多そうだな…。

1793年（日輝214年）

ルイ16世、並びにマリー・アントワネットが処刑され、第一共和制が始まりフランス共和国になる。

そして国民公会で主導権を握ったジャコバン派のロベスピエールの恐怖政治が始まる。

まあ、一年しか持たなかったけど。

でもその後の政権も数年でナポレオンに負けてまた帝政になり、またその後には王制に戻るといふ大変面倒くさい事になる。

第七次？露土戦争も終結した。

トルコは大敗して1792年にヤシ条約を結びオデッサを失った。順調に落ちていっているな。

何かトルコはまた日本が領土を買いに来るのではと警戒しているよ。うだが、エジプトを貰った時点でもうトルコの領土に興味は無い。精々ロシアとの盾になってください。

それ以外は期待していません。

北郷サイド

フランス革命は見事に成功し、共制となったが、国内はちっとも安定していない。

まあ、今まで特権を持てなかつた階層が特権を持てばこつもなるか。今は民主主義の過渡期だから失敗は多い。

現に今の政権は恐怖政治を敷いて昔よりも悪いかも知れない。オマケに他国からは革命の混乱を狙つて牽制されて関係も良いとは言えない。

何せ他国はまだ君主制だ。

民主主義に協調する訳が無い。

現に他国でも市民革命は起きたが、どれも軍によつて鎮圧されて終わりを迎えた。

だからフランスは現在本当の意味で孤立している。

同盟国の大日本帝国は中立を保っているが、民主主義に賛成はしないだろう。

それに日本では民主主義革命は起きない。

今の肝付家支配の絶対君主制を国民は熱烈に支持している。

何故ならたかが200年そこらでこんなにも広大で強大な国家を築き、貿易や鉱山の収入で莫大な富を有し、広大な領土で食料も大量に生産している。

だからと言つてフランスみたいな放漫財政をしている訳ではなく、キチンと国策にそつて使われ、国内もその恩恵を受けている。

こんな国なら国民がわざわざ現政権に逆らい、成功するか分からない民主主義革命を起こすなどあり得ない。

それに国民は新聞などでフランスの民主主義革命はあまり成功しているとは言えない状況だと知っているので尚更革命は起こさない。もしも肝付王朝が腐敗してダメになれば立ち上がるだろうが、今のところは全くその兆しが無い。

だから同盟国の日本にもフランスは警戒が必要だった。

何せ日本がフランスに攻めて来ればせつかく成功した革命も無意味

となってしまう。

それにこの革命を引き起こした原因の財政破綻は日本の商人が王族に大量の消費をさせたのが原因の一つでもある。

更に唯一の希望になり得たアメリカも日本に足元を見られて二束三文で買い叩かれたのだから日本を恨まない訳が無い。

フランスと日本の仲は急速に冷めていったのだった。

そろそろ電気を使った技術を公開しても良いだろうと思い、モールス信号。

つまり有線電信機の特許を取り、公開した。

モールス符合もキッチンと作ってあるからこれで離れた距離でも連絡が取り合える。

まだ有線だから電線が無い所では使えないが、後々必要になるのだから日本領土中に電柱を立てる。

現代のような頑丈な鉄筋コンクリート製にして倒れないようにする。これなら後の電力社会にも直ぐに移行出来る。

今はまだ市民の灯りは灯油ランプやガス灯だが、もうすぐ白熱電球を公表して電気社会にする。

大体そのぐらいから他国でも石油需要が高まるから原油が高値で売れる。

今はクズみたいな値段なのにも関わらず、鯨油に負けている原状だ。これがクジラ絶滅危機の原因になるのだが、日本はクジラは食用と工芸用に使うだけなのでそこまで捕らない。

ちゃんとクジラの生育数を把握して考えて捕獲している。

F/A-18E/FスーパーホーネットやF-15Eストライクイーグルなど主力戦闘機の発展系が完成した。他にもF-14DスーパートムキャットやF-16Cファイティングファルコンなども開発した。

次はいよいよステルス戦闘機になる。

というか第五世代ジェット戦闘機以降は知らないからここから開発スピードは大幅に落ちるだろう。

何せ新しい概念などを自分達で考えなくてはいけないからな。

まあ、そこらの教育もしっかりしてきたから後は研究者や技術者が勝手に作るだろう。

電池の特許も取得した。

電池と言ってもボルタ電池ではなく、マンガン乾電池だ。

と言ってもまだゲル状のマンガン乾電池の元祖みたいな物だ。

それでもこの時代なら最先端技術だ。

スエズ運河が遂に開通した。

これでアジアとヨーロッパを結ぶ最短距離の貿易航路が完成した。

つまり日本のヨーロッパ進出が容易になったという事だ。

ヨーロッパ諸国はかなり警戒している。

それはそうだろう。

北アフリカにも進出してヨーロッパの対岸を領有化し、更に艦隊を派遣出来る航路まで作ったのだからな。

特にイギリスとフランスは戦々恐々だ。

イギリスにとって日本はかつての敵国である。

しかし最近では貿易を通じて友好関係を築けているから今すぐ攻めてくる事は無いだろう。

しかしフランスにとっては悪夢だ。

長年同盟国である友好関係を築いて来たが、フレンチ・インディア戦争以降、関係は良好とは言えず、オマケにフランスでは民主主義革命が成功して国民主権を叫んでいるのだ。

強固な絶対君主制を敷いている日本とは水と油の関係なのだ。

更にフランス市民の日本に対する感情は良いとは言えない。

民主主義を実現させてしまったため、市民が日本との戦争を求めたらやらない訳にはいかない。

そこが民主主義の悲しい所なのだから。

トルクメニスタンとウズベキスタンを領有化した。

両国とも長年友好関係を築いており、スパイを潜入させて、国を少しずつ少しずつ支配していき、ようやく併合出来た。

まあ、前から傀儡政権が続いていたから併合しても特に混乱は無い。国民も大分前から洗脳教育を実施していたからな。

肝心の国王は麻薬漬けにしたから簡単に王位を捨ててくれた。

先ずは今までもやっていたけど、正式に日本領土になったので大々的に動く。

先ずはロシア進軍を阻むために要塞線の建造だ。

といってもイランやアフガニスタンに敷いていた要塞線を解体してカザフスタンや中国との国境に移すだけだがな。

これなら資材は無駄無く使える。

かなり長大な要塞線になるから資材を集めるだけで大変だ。でもそのおかげで沢山の雇用が生まれるから悪くは無いな。

後は上下水道やインフラ整備だ。

軍用に道路は舗装させていたから道路関係は簡単だが、水道は難しいな。

河川はあるにはあるが、砂漠が多い地域だからな。

カスピ海が淡水なら良かったのに、見事に塩湖だから飲み水には使にくい。

塩分をろ過する機械はあるけど、流石に濃すぎる。

どっかから引つ張って来るしかないな。

洗脳教育は既に実施していたが、貧困階級は学校には行っていないかった。なので義務教育を実施して全国民に受けさせる。

豊富な天然ガスは液化天然ガスにして本国や他の地域に輸送するか。とりあえず今は採掘が必要だが、慎重に掘らないとガスに引火して吹っ飛ぶ可能性が高い。

何せ現代でも採掘の時に発生した火が消えていないらしいからな。

1799年（日輝220年）

ブリュメール18日革命を起こし総裁政府を撃破したナポレオンは自らが第一統領となる統領政府を樹立。こうしてナポレオンはフランス共和国を支配した。

フランスでは血生臭い革命の混乱が続き、フランス市民は社会の安定を求めている強力な指導者を求めている。

そんな中、コルシカ島出身の下級貴族の家に産まれたナポレオン・ボナパルトが王党派の反乱鎮圧やイタリア遠征などで成果を上げ、台頭したのだ。

史実ならイタリア遠征の他にイギリスのインドルートを絶つためにエジプト遠征もあったのだが、この世界ではアジアは日本領土となつているし、エジプトも日本が支配しているのでエジプト遠征は無かった。

ナポレオンは戦力の集中投入などの戦術などにより勝ちに乗り、来年には再びイタリア遠征を行い、イタリア半島を支配下に置こうとしていた。

そして後々にはフランス革命の理念によるヨーロッパ統一を目指していた。

しかしそれには障害があつた。

フランスの対岸に位置する仇敵イギリスだ。

フランスがヨーロッパ統一を目論めば必ずイギリスは阻止しにくる

筈。

今はまだイギリスも警戒に留めているが、このまま勝ち進みイタリアを占領すればイギリスも本気になる。

それを抑えるために最もイギリスが恐れている国の協力を得ようと考えた。

大日本帝国。

アジアやアフリカ、北米のほぼ全域を支配し、地中海にも進出している超大国。

イギリスは日本と何度も戦い、全て敗れている。

だから日本を味方に付ければ流石のイギリスでも簡単には手が出せなくなる。

幸いフランスは日本と古くからの同盟を結んでおり、その同盟は未だに破られていない。

しかし残念ながら現在の関係は微妙だ。

何故ならナポレオンが求めているのはフランス革命の理念を持つてのヨーロッパ統一を目指している。

つまり民主主義を目指しているのだ。

一方日本は絶対君主制国家であり民主主義とは対極関係だ。

民主主義と絶対君主制が仲良くなる筈がなく、フランス革命以降の日本とはあまり交流は無い。

それにフランス市民には革命の発端を作ったとして反日感情すらある。

そのため日本との関係は冷えきっていたのだ。

しかし、ここで日本と再び良好な関係を築けなければヨーロッパ統一が遠のく。

そのためナポレオンは来年のイタリア遠征に日本からの支援を要請した。

軍を派遣してくれれば一番ありがたいが、別に武器支援でも良いの

だ。

大事なのは日本がフランスの味方をしたという事実だ。

反日感情を隠そうともしないロシアは日本の同盟国であるトルコを攻めるのを躊躇しないが、イギリスは日本との関係改善を求めているし、同盟は結んではいけないが通商関係を結び歩み寄っている。

日本を敵に回すより味方にした方が得だからだ。

だから日本が支持を発表したらフランスをイギリスは攻め難い。

攻めれば日本も敵に回し、最悪日英戦争が起きかねない。

そうなれば植民地は勿論、イギリス本国も危機に瀕する。

イギリスもそれは避けたい筈だからフランスの邪魔をしなくなる筈だ。

しかしそのフランスの狙いは見事に外れた。

日本側の答えはNOだった。

つまりイタリア遠征に支援は出さない。つまりフランスを支持しない。という答えだった。

ナポレオンは愕然とした。

何故支援をしないのか？と日本側に聞くと「財政状態が芳しくないため、対外戦争に出せる資金は無い」という答えが帰って来た。

確かにあれだけ植民地を増やせば植民地経営に莫大な資金が必要になるだろうから理由にはなる。

しかしナポレオンは日本の本当の狙いが分かっていた。

もしも支援をしてフランスがヨーロッパを統一したら民主主義は強くなり、自国の植民地などが民主主義革命を起こす危険性が高くなる。

だからフランスを支持出来ないし、叶うなら強くなって欲しく無いのだろう。

日本の狙いを理解したナポレオンは日本とも何れ戦う事になると覚悟した。
巷に広まっている「大日本帝国に勝てるなら世界中の国を相手に出来る」を実践しなくてはいけないのだ。

北郷サイド

フランスからの支援要請は断り、イギリスへ同盟打診をした。
イギリスは史実よりも植民地の数が少なく、国力が低いからもしかしたらフランスに負けるかも知れない。

だからそこを突き、今までの因縁は水に流し、同盟を組もうと持ちかける。

多少時間はかかるかも知れないが、時間が経てば経つほどこちらが有利になる。

フランスは次々勢力を広げていき、イギリス侵攻を企てるようになる。

そうすれば日本を味方に引き入れるしかない。

幸いにも日本はフランスを支持しないと表明しているから、敵の敵は味方理論で一時的に手を組む程度の妥協はする筈。

なんせあのしたたかで狡猾なイギリスだからな。

それにイギリスに負けられるとフランスを止められる奴はロシアくらいしかいなくなる。

それではヨーロッパはロシアが支配する事になってしまうのでそれも困る。

ヨーロッパは均衡を保っている状態が最も好ましいのだから。

国民皆保険制度を実施した。

エライ金はかかるが、人口を更に増やすためにはどんな階級の国民でも医療を受けられるようにしないと人口が増えにくい。

日本民族は一億人を突破しているが、領土はまだまだ広いので日本民族が支配するには足りない。

それにいくら皆保険制度を作っても、高度医療を受けられるのは本国やその周辺だから、自然に日本民族が増える。

アフリカ系や中東の国民も増えるだろうが、あそこら辺の医療技術は時代相応か少し進んでいる程度だ。

だから自然に日本民族が増加する。

こうなったら現代の中国みたいに10億人突破を目指す。

日本領土のほとんどを日本民族で支配すれば独立は起きにくいし、起きても傀儡政権樹立などをしやすくなる。

それに国民皆保険にすれば誰でも医療を受けられるようになるから支持率は更に上がる。

どっちにしても悪い事は無い。

1804年（日輝225年）

ナポレオンはフランス銀行の設立、教育制度の整備、近代社会の原理を纏めた「ナポレオン法典」の制定など様々なものを押し進めた。その結果、フランス国民からの圧倒的支持を得て皇帝に即位。フランス帝国を建国した。

このナポレオンの勢いを恐れ、イギリスも本格的にフランス包囲網を構築するために対仏大同盟を画策する。そして以前から日本から要請されていた日英同盟締結についても積極的に考えるようになった。

北郷サイド

狙い通りにフランスは拡大したな。

まあ、史実通りの展開だから別に驚く程の事でも無いが。イギリスからも今までは否定的な意見が多かったけど、フランスの拡大が予想以上に早いからこのままでは不味いと思い、積極的な交渉を始めた。

後は最後の一押しだ。

「フランスは来年辺りスペインとの連合艦隊を編成して貴国に上陸

作戦を画策しているようです。」と伝えればイギリスも決断するしか無いだろう。

何せフランスとスペインの連合艦隊はイギリス艦隊よりも数が多く、明らかにイギリスの劣勢。

史実では圧倒的な勝利が出来たけどこの世界ではイギリスは史実程強くないから勝てるか分からない。

だから「同盟を結んでくれるならフランス・スペイン連合艦隊を貴国の代わりに撃破しても良い。」と伝えれば断れまい。

何せ日本の強さは嫌と言う程に知っているから必ず勝てると分かる。それに日本を味方に引き入れれば今後もやりやすくなる。

何せ自由民主主義運動を煙たがっているのはイギリスも一緒だ。

ナポレオンの台頭のせいで必ず自由民主主義運動が起きるだろうから、日本を味方に引き入れれば規模が縮小するだろう。

と言うかこれ以上無い程の破格な条件なんだぜ？

フランス軍のイギリス上陸作戦を阻止する代わりに同盟を結んでくれれば特に何も要求しないんだからな。

本当ならブラジル寄越せぐらいは言いたいけど、そんなこと言ったら同盟は結べないだろうし、イギリスとはしばらくは仲良くしたいから同盟は結びたいからあえて我慢しているんだ。

何せここでフランスを支持すると今後のヨーロッパとの関係は微妙になる。

ナポレオンに全面的な支援をすればヨーロッパ統一も出来なくは無けれど、そこまでしてフランスによるヨーロッパ統一を手伝う義理は無い。

だったら史実通りにフランスには負けて貰う方が楽で良い。

イギリス国王のジョージ3世は息子達のスキャンダルなどのせいで

神経衰弱になつたらしいし。

それに少し前には発狂して政務が不可能になる程の重症だ。

現在では回復して復帰したけど今度は痴呆が進んで来ている。

ジョージ3世本人は有能で名君だったが、息子達が悪すぎる。今ならスキヤンダルに加え、ナポレオン問題のせいで弱りきっているだろうからそれにつけ込めば十分チャンスがある。

ちなみに日本ではバカは皇族になれない。

帝王教育を受けて皇族としての自覚や才覚を持たせ、洗脳教育を施して俺に忠実になるようにする。

もしもあまりにもスキヤンダルなどを引き起こせば皇族として相応しくなく、国の品位を傷つけたとして処刑される。

追放では後々面倒になるからな。

白熱電球の特許を取り、公表した。

これでようやくマトモな照明が出来た。

それと水力、地熱、火力など発電所を各地に建設して増加する電力需要を満たす。

それと各会社、店舗、役所などの政府機関にも風力や太陽光などの再生可能エネルギーの発電装置の設置義務を制定した。

そして各家庭にも補助金を出し、設置を推奨した。

まだ一般家庭は電球ぐらいしか電化製品が無いから発電機を買う必要は無いと思うが、早い内から制定しとけば必要になれば設置しやすい筈だ。

まあ、各地に原発でも建設すればこんなにならないけど、地震大国である日本に原発は危険が高いし、色々と面倒だからだ。

それにこの世界では原発は無くしたい。

何故なら原発を作れば核兵器を作る技術も流出して後々厄介になる。だからこの世界では原発ではなく再生可能エネルギーなどを多様化する。

それにまだ完成していないが軌道エレベーターや太陽光発電衛星などが完成すれば原子力など必要無くなる。

宇宙から水素や電気などエネルギーを幾らでも手に入れられるようになる。

でもまだこの時代に発表する発電装置の変換率は低いから自前で電気を完全に賄うのは無理だろうな。

ちなみにダムに利用出来そうな土地にある村などは事前に少しずつ移転させていたからダム建設の際のトラブルは最小限に抑えられた。

1805年（日輝226年）

日英同盟締結。

それと同時に日本は日仏同盟破棄を宣告した。
日本はナポレオンとの敵対を宣言したのだ。

これを聞いたナポレオンは特に驚きもしなかった。
前年の支援要請を拒否された時から予想出来ていたからだ。
しかしフランス市民はそうでは無かった。

確かに支援要請は断ったがせめて中立を宣言するだろうと思っていたが、まさか敵対していたイギリスの味方をするとは思わなかったのだ。

それに日本が敵になった事で不安が生じたのだ。
未だにヨーロッパには進出こそしていないが、多大な影響力を持つ。
フランスの貿易の一番のお得意様は勿論日本だ。
そのお得意様との通商条約こそ破棄してはいないが、同盟を解消して敵対関係になれば貿易は不可能だ。

高品質、低価格な日本製品は一切入らなくなり、低品質で高価なヨーロッパ製品を買うしかない。
それに兵士達の所持している兵器類も3分の1ぐらいは日本製の兵器だ。

しかしこれからは自国のフランス製か同盟諸国の兵器を仕入れるしかない。
それ程までにフランスは日本に依存していたのだ。

フランスサイド

ナポレオンは予定通りイギリス侵攻作戦としてスペインとの連合艦隊を出撃させた。

日本がイギリスと同盟を結んだ事によりイギリス侵攻は遙かに難易度が高まったが、だからと言って止める訳にもいかない。

イギリスが以前として邪魔な事には変わらないから遅かれ早かれ戦う事は避けられないのだ。

それに日本はまだ参戦はしていないから今がチャンスなのだ。

長期戦になれば絶対の補給力がある日本が味方となったイギリスが有利になり、逆に日本と敵対関係となったフランス側は不利になる。短期決戦のために一気にイギリスを征服するつもりなのだ。

幸い日本はその広大な領土や領海を持つため、ヨーロッパへ派遣出来る兵力は制限される。

時間が経てば戦力をよりこちらに振り分けられるが、今ならまだ大した数はいない筈だ。

だから大艦隊で攻め込めばもしかしたら日本艦隊に敗北を与えらるという100年戦争以来の素晴らしい大戦果を得られるかも知れないのだ。

その奇跡を起こすために連合艦隊はジブラルタル海峡に向かった。

ジブラルタルを越えさえすれば後はイギリスまで直ぐに行ける。

そう信じて。

フランス艦隊提督ヴィルヌーヴとスペイン艦隊提督グラビーナは互いに暗かった。

部下達の前では「日本艦隊などこの連合艦隊にかかれば一捻りだ！」

などと鼓舞していたが、一人になれば絶望するしかない。この総戦列艦数33隻にもなる大艦隊を率いているが、「日本艦隊に勝てるか？」と聞かれれば「分からない」。としか答えられない。

昔から洗脳のように教え込まれていた「日本軍とは戦うな。」を実践しなくてはならないのだ。

幼い頃から日本艦隊による海戦を幾度も聞かされてきた。

必ず圧倒的勝利を得て、負けたことが無いというまるでお伽噺のような歴史に子供の頃はよく憧れたものだ。

そしてその不敗神話は未だに破られていない。

日本艦隊が最後に戦った大きな海戦は1759年の大西洋海戦だ。

勿論日本艦隊の大勝利。

日本艦隊の戦う様子を描いた絵は世界的に有名になった。

当時は日本とフランスの関係は良好だったから日本の戦果を喜んだが、今では忌々しいだけだ。

スペイン艦隊提督グラビーナも陰鬱な雰囲気を出している。

かつてはスペインも日本艦隊のような無敵艦隊を有し、海洋帝国を築いていたが、その座はオランダやイギリスに奪われ、そして最終的には日本のものになった。

日本とは長い友好関係にあり、同盟も結んでいたが、フランスと敵対するとの日本の発表で敵国になってしまった。

もしかしたら南米の領土を奪われるのではないか？と思ったが今のところ日本軍は南米では目立った動きはしていない。

代わりにヨーロッパ方面に艦隊を集結させているらしい。

狙いは何かは言わなくても分かるだろう。

そのせいで船員達の士気は急降下だ。

自分達や士官達が必死に鼓舞して何とかしているが、日本艦隊との戦闘になったら一挙に崩れかねない。

まるで葬式に今から行くような暗い雰囲気のまま連合艦隊はジブラルタル海峡を通過したのだった。

ジブラルタル海峡を通過して大西洋に出てからしばらくして、ようやく船員の士気も上がって来た。

心配だった地中海を越えて日本艦隊の襲撃が無かった事でイギリス侵攻の一番の恐怖は訪れ無かったと船員達も少し安心したのだ。

しかしそれは叶わぬ夢だった。

日本艦隊は地中海ではなく大西洋で決戦を行うべくモロッコに艦隊を集結させ、トラファルガー沖で待ち伏せしていたのだった。

458

「前方に艦隊発見！！国旗から日本艦隊と判定します！！！」
フランス艦隊の見張り員が日本艦隊を発見した。

その報告を聞きヴィルヌーヴは来るときが来たか……。と思った。遭遇したく無かったがしてしまったものは仕方がない。

「総員戦闘配置に就け！！！」
戦いの火蓋が切られたのだった。

日本艦隊の艦数は15〜20隻の中規模だ。

数だけなら連合艦隊の方が上だが、日本艦隊の陣営が違うのだ。

連合艦隊は全艦帆船の戦列艦だが、日本艦隊は外輪やスクリュー推進の蒸気船だ。

そのせいかほとんどの艦艇がこの時代の一等戦列艦並みか一回り大

きかった。

数では上回っている連合艦隊だが、日本艦隊の見たことの無い艦艇や雰囲気に気圧されていた。

船員や士官達まで未知のものに対する恐怖からか今にも逃げ出しそうな雰囲気を察知し、ヴィルヌーヴは艦隊全体を鼓舞した。

「敵が見たことの無い艦艇を使っているからと何だ！！明らかに数では我々が上回っている！！良いか、戦闘で重要なのは数だ！！！これは何千年前から変わらない！！！数が多い方が最終的には勝利するのだ！！！！」

だから今回も最後には我等が勝利する。そして日本艦隊を下した後、イギリスに侵攻して我等が皇帝陛下に勝利を献上するのだ！！！！」

スペイン艦隊でもグラビーナが似たような事を言って部下の士気を上げる。

というかそれしか勝てる要素が見つからないからな。

ようやく連合艦隊の士気が持ち直して来たと思っていたら敵艦隊が接近してきていた。

急いで再び戦闘配置に就かせて戦闘準備を取らせた。

今度はさっきのようなノロノロした動きではなく、きびきびと勝ちにいくため頼もしい動きだった。

段々と接近して敵艦が見えるようになったその時、突然艦隊後方の艦艇がとつもない音を鳴り響かせながら沈んでいった。

いきなりの事で艦隊はパニックに陥りそうになる。

最後尾にいた戦列艦が突然何の前触れもなく爆発したのだ。

まだ砲撃も受けていないのにまるで艦底部が爆発したように水柱が立ち登ったと思っただら沈んだのだった。

彼らが分からないのも無理は無い。

19世紀初めに潜水艦による雷撃など分かる筈が無いのだから。精々が弾薬庫で事故があり爆沈したのだと納得するしかない。

更にそのパニックを煽るかのように敵艦隊から攻撃開始の合図として砲弾を一斉発射してきた。

しかしまだ遠いので当たらないだろう。そう思っていた。

確かに旗艦にこそは命中しなかったが、前方にいたフランス艦隊に扶桑型の24cm砲弾が数発命中した。

こちらも凄まじい爆音が鳴り響き船を燃やし、砲弾の破片などが船員を殺傷した。

腕や目玉が無くなったり、直撃を受けて粉々になりそこから中を血まみれにした。

そして更なる悲劇を与えるべく扶桑型の他にも外輪を装備した艦艇も17cm砲や15cm砲、7.5cm砲など様々な砲を連合艦隊に次々撃ち放つ。

その様子を見ている日本艦隊司令は報告書に「これは戦争に有らず、虐殺だ。」と書き記した程だった。

連合艦隊もやられっぱなしな訳では無い。

当たらないと分かっているも砲弾を撃ち込んだり、または特攻として体当たりを敢行するなど中々根性を見せていた。

しかしそういった艦艇は集中的に砲弾を食らい早くに沈み、マストを折られるなどをされて行動不能にさせられた。

逃げようとした艦艇もいたが、大抵の艦艇はマストや舵がやられて動けなかったり、日本艦隊に回り込まれて撃沈させられた。

結局、フランスとスペインの両提督が戦死し、艦隊の七割近くが沈んだ後に連合艦隊は白旗を掲げて日本艦隊に降伏した。

捕虜は拿捕した艦艇に載せて扶桑型などでモロッコに曳航した。

こうしてトラファルガー沖の海戦は史実通りにトラファルガー沖にてフランス・スペインの連合艦隊は大敗した。戦闘相手がイギリスではなく日本だった。

フランスサイド

連合艦隊壊滅の知らせが届いた時、ナポレオンは「やっぱりか…。」と思った。

死んだ将官達には悪いが、予想通りだったので別に驚かなかった。官僚達も奇跡を信じていたが、やっぱり無理だったかと残念がるだけで慌てたりはしない。

連合艦隊壊滅の報は世界中に広まり、フランス軍の士気を多に下げ、逆にイギリス軍の士気を上げた。

しかしここでフランスにとって嬉しい報告が届いた。

「今回の戦争はヨーロッパで片付ける問題であって我々が関わる問題では無い。」と日本は発表した。

つまりこれ以降の戦争には参加せず、以降は支援活動に専念するという事だ。

今回の海戦は同盟国を守るための例外的措置だと日本は主張した。

この発表にナポレオンは歓喜した。

どうせ今後海戦は無理だから陸戦に切り替えるつもりだったので、日本の主張は渡りに船だった。

一方イギリスも安堵した。

今回みたいな海戦には助けが必要だったが、侵略の危険性が無い陸

戦なら別に日本の助けはいらない。

それに支援として兵器や物資などを輸出してくれるから補給には困らない。

それに陸戦まで日本に参戦して貰い、戦後の話し合いによってはヨーロッパに大々的に進出さえされる可能性も高いのだ。

最近日本のせいで薄れて来ていたイギリスの強さをヨーロッパ諸国に思い出させる良い機会だとイギリスも張り切っていたのだった。

北郷サイド

これで一先ずナポレオン戦争への介入は終わった。

イギリスさえ滅びなきゃフランスに勝ち目は無い。

制海権を失ったからって陸戦に走ってもダメなんだよ。

制海権を失ったままじゃ補給に支障が出て何れはジリ貧になる。

勝ち続ければ良いけど、一度でも負けると後は落ちるだけだ。

まだ制海権がそれ程重要な時代で無ければ良いけど19世紀に入ってからでは遅い。

さて、後はヨーロッパ諸国への輸出で儲けるか。

フランスというお得意様が消えた代わりにイギリスという新たなお得意様が誕生した。

戦争は長く続くから物資や兵器は腐る程必要な筈だ。

そのために缶詰の特許を取り、公表した。

ちゃんと缶切りもあるしブリキも開発したから開けるのに困る事も無いだろう。

ナポレオンが懸賞で募集してビン詰めを開発したけど缶はまだだつたからな。

ビン詰めでは割れやすく使い勝手が悪いが、缶詰なら落としても問題無いし、加熱もしているから簡単に腐ったりしない。

戦場ではかなり役に立つ。

沢山売れるだろうな。

兵器などはこの時代にあつた物を輸出する。

まだミニエー銃さえ出来ていないから改良型のゲベール銃で十分だ。

それと今回も従軍画家を乗せて海戦の様子を描かせた。

今回は扶桑型に外輪を付けて初期型の蒸気船っぽくして誤魔化した。それを新聞に載せて国民にも戦果を発表する。

勿論多少は下方修正してこちらにも損害が出たかのようにする。

後は捕虜の始末だけど、捕虜を乗せた船はアメリカにある収容所に移そうとしたら嵐に巻き込まれて沈んだと発表した。

気象衛星で調べて本当に嵐の真つ只中にボロボロの船を突っ込ませて沈めたから嘘では無い。

まあ、沈んだ後にまだ生き残っていた捕虜は潜水艦の機銃掃射で皆殺しにして漂流後の生存も防いだ。

目撃者がいると絵の意味が無くなるからな。

1806年（日輝228年）

ナポレオンは大陸を制圧するために神聖ローマ帝国を解体し、オーストリア帝国とライン連邦を建国させた。そしてイギリスとの通商取引をフランスのみが独占し、大陸の市場を支配するために大陸封鎖令を発令した。しかしこれは甚だ不評で逆に同盟諸国に敵対心を植え付ける結果になった。

トルコでもまたロシアとの戦争が勃発した。

オスマン帝国がワラキアとモルダビアにおける親露派の総督を罷免し、かつ条約に反してロシア商戦の海峡通行権を停止した。その報復としてロシアはワラキアとモルダビアを占領した事により第八次露土戦争が始まった。

北郷サイド

また露土戦争が始まったか…。

にしてもトルコとロシアの仲の悪さは凄まじいな。

まあ、ロシアは不凍港を求めて必死だからな。

冬になると海が凍ってろくな貿易や戦闘も出来なくなる。

オマケに日本がイルクーツク以東を押さええているから東進出来ない。それにウズベキスタン、トルクメニスタンなども日本領だから侵攻出来ない。

だからトルコぐらいしか無いからな。

ちなみに今回もトルコへは支援のみだ。

ヨーロッパと一緒に輸出で儲けさせて貰おう。

有線通信に続いて電話の特許を取得した。

電線網は既に街中に広まっているから電話普及には困らない筈だ。しばらくは交換所が必要になるけど、加入者が増加したら電話回線を引いて自動交換装置を開発すれば現代のような電話になる。

ちなみに史上初の電話番号1番は北郷商事が勝ち取った。

東京都庁も1番を欲しがったが入札で北郷商事に負けて2番となった。

1812年（日輝234年）

ナポレオンは大陸封鎖令を発令してイギリスを日干しにしてやるつもりだったが、イギリスとの通商を禁じられ打撃を受けたロシアはイギリスとの密貿易を行なった。

それに気付いたナポレオンは懲罰としてロシアに侵攻。

一時期はモスクワをも占領したが、クトゥーゾク率いるロシア軍の焦土作戦と冬將軍により撤退、惨敗を喫した。

露土戦争も終結した。

ブカレスト条約を締結し、ロシアがベッサラビアとアブハジアを併合し、ワラキアとモルダビアをトルコに返還した。

そしてセルビアは若干の自治権を獲得して独立の足掛かりを掴んだ。

北郷サイド

ナポレオンはこれで終わりだ。

ただでさえ同盟諸国との関係は微妙になっていたというのに今回のロシア遠征失敗で各国はフランスに見切りをつけた。

後は予想通り落ちるだけだ。

トルコも順調に衰退して行っているな。
後は次の露土戦争でギリシャが独立して決定的になる。
でもその代わりに他の戦争は無くなったがな。
日本がエジプト、イランを占領しているからエジプト＝トルコ戦争
やイラン＝トルコ戦争が無くなる。
だからその後にかかるクリミア戦争には間違いなく勝てるだろう。
何せ史実よりは落ちたとは言え英仏が参戦する予定だからな。
ちなみに日本はまた支援だけの予定。下手に参戦するとロシアが無
くなりそうだし…。

新たな潜水艦が完成した。

高波型原子力潜水艦

排水量

水上7460トン 水中9150トン

全長107.6m

全幅12.2m

吃水10.67m

機関

原子力ギヤード・タービン1軸推進

ポンプジェット1軸

加圧水型原子炉1基

蒸気タービン2基

二次推進モーター1基

最大速力

水上26ノット 水中35ノット

潜航深度 610m

兵装

660mmエア・タービン駆動水圧式魚雷発射管4門
ハープーン、トマホーク、機雷 各8基

シーウルフ型を模した。

遂に冷戦末期型が出来た。

間もなくイージス艦なども完成する。

そうなれば現代と変わらない戦力を有するようになる。

ちなみに戦略原潜も完成したオハイオ型を模した原潜でSLBM（潜水艦発射型弾道ミサイル）を勿論装備している。

兵器以外の開発も進んでいる。

今までは水圧や蒸気を利用したエレベーターはあったが、不安定で安全性に問題があり流行らなかったが、電動式が完成した事により大いに流行るだろう。

建築基準法にも3階以上の建物にはエレベーターの設置を義務付けた。

無いと階段の登り降りで大変だからな。

ちなみに建築基準法では地震など自然の脅威が多い日本に合わせてかなり厳しく設定されている。

植民地の基準もその土地に合わせて緩くしたり厳しくする。
基本的には厳し目だがな。

服装なども現代みたいな洋装を好む人達が増えて来た。

TシャツやGパンなどカジュアルな服装や、ネクタイにスーツなフオーマルな服装など、TPOに分けて使いこなしている。

更に食生活が長期間で変化した事により日本人の平均身長が伸びている。

体系なども男はガツシリとしてきて、女はふくよかになって来た。

それに合わせてブラジャーも開発した。

洋装にノーブラでは色々不味いからな。

1815年（日輝237年）

1813年のライプツィヒの戦いでフランスはプロイセン、オーストリア、ロシアの連合国に敗れ、その翌年には首都パリをも占領されて敗北。

ナポレオンは退位して地中海のエルバ島に流刑された。

その後、ヨーロッパの秩序を回復するためにウィーンにてオスマン帝国を除く全ヨーロッパの代表、90王国、53公国が参加する大規模な会議が開かれた。

オーストリアの外相メッテルニツヒが議長を務めたこの会議は各国の領土的野心が交錯し、「会議は踊る。されど進まぬ。」と評されるまでに紛糾を極めた。

その中々決まらない話し合いの隙を突き、ナポレオンはエルバ島から脱出してパリに帰還。

再び皇帝に即位して天下を築いた。

しかしその天下は長く続かなかった。

ワテルローの戦いが勃発してイギリス、プロイセンの連合軍の前に敗れ、ナポレオンは再び退位。

イギリスの軍艦に乗せられて今度は脱出出来ないようにスペイン沖の絶海の孤島、セントヘレナ島へ流刑された。

こうしてナポレオンの天下は100日で終わり、セントヘレナ島にて52歳で死去した。

その後、会議はようやく終わり、ウィーン議定書を調印してフランス革命以前のウィーン体制を構築した。
ウィーン議定書ではフランスとスペインでのブルボン朝復活、ドイツ連邦の成立、ロシア皇帝のポーランド王兼任などが決められた。

北郷サイド

ようやくフランス革命が終わったか。
ウィーン体制は構築したけど、ナポレオンが民主主義を広げまくったから最早民主化を止めるのは不可能だ。
何せ生活レベルが上がった訳では無いからな。
フランスはウィーン会議にて領土保全には成功したが財政状況は未だに破綻寸前だ。
今に第2、第3の革命が起きるのは目に見えている。

それともうすぐ社会主義や共産主義が産まれるだろうな。
イギリスも産業革命に成功して資本の充実のために貧富の格差が広がって来ている。
このままいけば平等かつ公正な共同社会を目指す社会主義思想が産まれるのは目に見えている。
あの有名なオーウェンやマルクスなどが出てきて一気に広まる筈だ。
何せ社会主義は一見すると素晴らしい体制に見えるからな。

ちなみにこの世界でも日本は微妙に社会主義だ。
一応国家としては資本主義を目指しているが、日本人の感覚では一人勝ちを許さないから公正さを求められる。

まあ、それでも資本は膨れ上がっているがな。
北郷商事なんて間違はなく世界一の資本を抱える大企業だ。
小国の国家予算を超える額を有しているからな。
この時代の小国の国家予算はそんなに高くは無いがな。

さて、とりあえずヨーロッパは安定したからかイギリスは更なる市場と労働力を得るためにスペインから独立したばかりのパラグアイを狙っている。

フランス革命のせいでスペイン本国は荒れているから今が独立の絶好の機会だからな。

南米諸国は独立運動を起こしまくっている。

日本やイギリスが統治している植民地は静かだがな。

日本は安定しているから別に独立機運はほぼ無いし、イギリスも本国が荒らされず、戦勝国としてヨーロッパをリードしているから独立運動を抑えられる。

日本に遅れたと言っても産業革命を起こしたおかげで経済は順調だ。ちなみに日本製品はヨーロッパにあまり出回らない。

基本的に自国の市場だけで十分だし、ヨーロッパにまで進出すれば難癖つけられてトラブルの種になりかねない。

今まではフランスやオランダなどを仲介してヨーロッパに商品を卸していたが、フランスとは現在関係回復中だからそれまでは今まで通りのオランダと新たにイギリスに仲介させるか。

イギリスに仲介させれば仲介料でイギリスも金を得るから断らないだろうし、イギリスにはしばらくヨーロッパの盟主になってもらいたいから産業革命を後押しさせるために利益を分けてやる。

ヨーロッパ諸国に日本製は高価で高品質という印象を植え付けるのもブランドを付けるために良い。

どうせヨーロッパにいく頃には日本製品は高い関税などをかけられて高価になるだろう。

というかそうしないとその国の商品が売れなくなるから自国の商品保護のために関税をかけるしかない。

現代日本の海外農作物へのイカれた関税みたいに。

ヨーロッパ諸国に関税自主権を持っていないから外交である程度下げさせるのが限界だ。

まあ、別に良いけどな。

自国領土だけで数億人の市場があるから何とかなるし、中国とも貿易しているから儲けは十分だ。

81 (前書き)

今回もご都合主義です。

ていうかこのシリーズ全体がご都合主義ですが…。

1821年（日輝243年）

ギリシャ独立戦争勃発。

フランス革命による民族独立や解放機運が高まり、長らくオスマン帝国に支配されていたかつての大国、ギリシャを動かした。

エテリア蜂起から始まったギリシャ人の民族独立運動はヨーロッパ諸国の関心を産んだ。

北郷サイド

ついにギリシャ独立戦争が始まったか…。

ギリシャ一国ならトルコでも簡単に鎮圧出来るがイギリス、フランス、ロシアがギリシャ独立を支持する事になるからトルコはどうしたって勝てない。

日本が参戦すれば一気に力関係は変わるけど、ギリシャの独立、つまり反乱にまで力は貸せない。

トルコには変わらず支援のみを行い、軍は派遣しない。

それよりも数年後にはまた露土戦争が始まる。

オマケに今度の戦争ではかなりトルコの領土が削られる事になるかならな。

バグダッド辺りまでロシア領になるけど、この世界ではイランを日

本が支配しているから精々取れるのは現代のグルジア、アルメニア、アゼルバイジャンぐらいまでだ。

というよりそれ以上取ればイラン領に侵入する事になるから本格的な日露戦争が始まる。

もちろんそうなったら許さないから、最低でも北カフカス連邦管区までは攻め入るつもりだ。

まあ、ロシアも今までの戦闘で痛い目にあっているから日本と戦えば勝てない事ぐらいは分かっているだろう。

イージス艦がついに完成した。

高雄型イージス巡洋艦

排水量 9590トン

全長 172.8m

全幅 16.8m

吃水 9.5m

機関

COGAG方式2軸推進

ガスタービン・エンジン×4基

最大速力 36ノット

兵装

127mm単装速射砲×2基

25mm単装機銃×2基

20mmCIWS×2基

12.7mm単装機銃×4基

VLS(61+61セル)

スタンダードSAM

スタンダードABM（弾道弾迎撃ミサイル）

短SAM

アスロック

VLA

トマホーク

ミサイル4連装発射筒

ハーブーン×2基

3連装短魚雷発射管×2基

ヘリコプター×2機

イージスシステムなど最新機材を装備。

タイコンデロガ型ミサイル巡洋艦を模した。

これでイージス艦を建造出来るようになった。

まだシステムは初期型だから性能は高く無いが、これからゆっくり発展させていけば良い。

スパイサイド

ようやく日本の秘密基地に潜入出来た。

イギリス本国から「日本の兵器開発などを探つて来い。」と命令されて数年。

最初は全く情報が入って来ず、ヤキモキしていたが、長い時間をかけて慎重に情報を探り、情報を繋ぎ合わせてみると、南洋諸島に秘密基地が存在すると分かった。

極限られた人員しか知らない基地で、新兵器の製造やテストを行なっているようだ。

この情報を確かめるために慎重に南洋諸島に行き、日本軍の進入禁止エリアを犯して入った結果、島の大きな洞窟に日本軍の秘密基地を見つけた。

最初はただ位置だけを確認して本国に情報を伝えようとしたが、警備が丁度交代の時間なのか手薄だった。

これなら中に潜入出来る。そう思い、警備のスキを突いて潜入し、見事に成功した。

基地はとても大きく、長い通路がいっぱいある。

基地は日本の建築資材の鉄筋コンクリートという物で出来ており、頑丈である。

等間隔に扉があり、開けて見ると事務室や食堂などありふれたものばかり。

書類を探ってはみたが特に目新しい物は無い。

ここは本当に基地なのか？と思える程何も無かった。

あるのは書類と最新式だが、別に珍しくは無い銃器など。

更に探ってみるかと思ったら突然パツツという何か変な音がしたと思っただらいつの間にか日本軍の兵士が後ろにいて銃身がやけに長い拳銃を構えていた。

そして背中にか何か刺さった感覚がしたら突然強烈な眠気が走り、何とか抵抗しようとしたが、結局眠気には勝てず男は倒れてしまったのだった。

警備兵サイド

南洋諸島の秘密基地の更に奥にある警備室に兵士達が何人もいた。男達は目の前の監視カメラのモニターや探知機の異常を注意していた。

「おい、侵入者だ。」

1人の男がモニターを指差した。

「ああ、多分連絡のあったイギリスのスパイだろう。一生懸命密航したりしてこの島までとうとうやって来たらしい。」

そしてその男は電話を取り

「もしもし、警備室です。侵入者を発見しました。

先日連絡のあったイギリス人のようです。

はい、はい、分かりました。頃合いを見て生け捕りにします。では失礼します。」

電話を切り、上官からの命令を伝える。

「何時も通り尋問するから生け捕りにせよ。だって。」

その通達を聞いた他の兵士が見張りをしている兵士達に「交代の時間のように持ち場を離れる、ただし怪しまれないように全員は離れるな。」と伝えた。

無線で聞いた見張りは指示通りに最低限を残して持ち場を離れていく。

「さて、どうする？見張りがほとんどいなくなった。今なら潜入出来るぞ？」

とモニターに映るイギリススパイを見ながら聞く。

そしてスパイは少し悩んだ後に見張りのスキを突いて潜入した。

「入った。

アイツがしばらく進んだら出入口を封鎖しろ。」

と部下に命令する。

部下は「はっ。」と言って指示通りにスパイが奥に進んでロックの音が聞こえない距離にいったら出入口である扉を次々ロックする。こうしてスパイの退路は絶たれた。

しかしモニターのスパイはそんなことは知らないので部屋の物色に集中している。

その間に他の警備兵達が装備のチェックをしている。

彼らは生け捕りを命じられたので基本装備はサイレンサーを装着した麻醉銃だ。

念のために実弾が入った拳銃ももってはいるが。

彼らは警備室からの誘導を受けてスパイを囲み、スパイが後ろを向けているスキに隊長が背中を麻醉銃で撃った。

弾は背中に刺さり、麻醉薬をスパイに注入する。

スパイもそれに気付いたのかもが、即効性の高い麻醉薬のため間もなくスパイは眠った。

「よし、拘束した後尋問室にぶちこめ。」

と部下に命令して自分は警備室に戻った。

警備室に戻った隊長は部下が淹れてくれたコーヒーを飲んで小休止だ。

「全く、スパイってやつはひっきりなしにやってくるな。」

部下に愚痴を溢す。

「はは、まあそれがアイツらの仕事ですから。」

部下もその愚痴に慣れているのか直ぐに返す。

「しかし、アイツ等も悲惨だよなあ。苦勞して手に入れた情報はわざと分かりにくくした情報で畏にかけられるなんて。

オマケによろやくたどり着いた基地は実はスパイを捕獲するための基地だとはな。」

そう、ここはスパイを捕獲するためにかつて使われていた古い基地を改造したのだ。

だからスパイ達がこの島に来る迄に使った船などはスパイのために出ている船なのだ。

密航をしたスパイの情報は事前に入手し、潜入してくる前にこの警備に全て知られているのだ。

「にしてもここはかつて150年以上昔に建てられた基地とは思えませんねえ。

こんな現代的な建築様式や資材が150年前には確立されていたとは。あらためて帝国のスゴさが身に染みますね。」

部下が隊長に話しかける。

「ああ、確かにな。この基地は昔は新型艦艇の建造や兵器開発をしていたらしいな。

今ではわざわざこの時代様式に改造してハリボテになったがな。」

「へー。じゃあ今はどこで兵器開発や艦艇の建造をしてるんですか？」

部下の何気ない質問に隊長は真剣な目をして。

「何も探るな。俺も知らないし、知りたくも無い。

下手に調べるとお前もあのスパイみたいに人格が崩壊する濃度の白剤を打たれて洗いざらい秘密を喋らされて射殺される事になるぞ。過去に好奇心を押さえられなくて調べた奴がいたけど、そいつは白剤を打たれて自分の名前さえ分からなくなった拳げ匂に頭を撃ち抜かれてミキサ―で粉々にされて魚のイサにされたよ。

家族もスパイ容疑をかけられて同じ末路を迎えたらしい。」

つまり自分1人の行動によって家族の命さえも無くなるかも知れないのだ。

その事を聞いた部下は「は、はい…。」と返事をして自分な持ち場に帰っていった。

「さて、明日はフランスのスパイか。

全くスパイって奴等はしつこいな。」
と先日から密航しているスパイの書類を見て隊長は何時も通りのセ
リフを吐く。
それが慣習のようだ…。

1828年（日輝250年）

ギリシャ独立戦争は長引き、ヨーロッパ諸国の関心を買った。領土拡大や利権を狙い昨年、ロシア、イギリス、フランスがギリシヤ側に参戦。

連合艦隊を編成してトルコ艦隊を打ち破った。

これがギリシヤ独立の決定打となった。

更に今年になると前回の戦争同様、トルコ、ロシア両国はウラキア、モルダビア、セルビアを争い戦争となった。

またもや露土戦争勃発。

戦況は終始ロシア側が有利で、トルコはバルカンの要都アドリアノープルを占領された。

東部戦線においても東アナトリアのカルスやエルズルムが危機に瀕し、トルコは窮地に立たされていた。

北郷サイド

これじゃあまるでイジメだね。

何か日本との戦争を見ているようだ、救援は無く、敵勢力は自分達より遥かに強大。

日本が参戦すれば劇的に戦況は変わるが、日本にその気は無い。

もしも来て貰うなら領土の大半を譲渡するぐらいの覚悟は必要だ。

しかし今まで散々領土を取られて来たから更に取られるのはプライドが許す訳は無い。
だから最早積んでいる。

来年になればギリシヤは独立して露土戦争も終わり、かなりの領土を取られて黒海の制海権やボスポラス、ダータルネス海峡の自由通行権などを奪われるだろう。

内燃機関の特許を取得。

今まではボルタが水素などを使う原始的な内燃機関は開発して特許を取っていたが、こっちは本格的なガソリンエンジンとディーゼルエンジンだ。

エンジンが使えるようになったから公表の幅がかなり広がったな。
オートバイや自動車、などガソリンエンジンを使う自動車やオートバイやディーゼル機関車などディーゼルエンジンを使用する物まで徐々に公表する。

まだ自動車やオートバイは初期型でロクにスピードも出ず、走行距離も無いから実用性は低いが、これらはレベルアップさせていけば良い。

シベリアなど極地に使いやすいディーゼル機関車を走らせれば蒸気機関車と比べて燃料効率も良いし、パワーが出るからより客車や貨物を運べるようになる。

この気に電車も公表する事にした。

発電所の設備も発展してきて、発電量が増えているから問題無い。

これで煙が無くなるし、石炭を掘りまくる必要性は減る。早い内から石炭を掘っていたから日本の炭鉱はほとんど枯渇気味だった。

だから今電車を公表するしか無いのだ。

架線設置などで大分金はかかるが、必要な物だから仕方ない。

それに公共事業になるからまた雇用も増える。

ちなみに植民地は順次電車に変える。

まだ石炭が豊富で安定していないエリアはSLで頑張っつて貰う。

本国の人口は年々増加傾向にある。

それはとても喜ばしいことなのだが、問題は本国の国土が貧弱な事だ。

山間地が多いから居住や耕作、工場建設に適さない。

このままの増加傾向では20世紀に入る迄に遷都をするしかない。

本国を日本列島から北米に移す計画も上がっている。

北米に遷都すれば独立運動を抑制出来るし、広大な土地を工業化させられる。

現在の候補地は西海岸のサンフランシスコ、サクラメント。中部のシカゴ、インディアナポリス。東海岸のワシントンD.C.の5つが上がっている。

利点としては西海岸なら日本列島からも比較的に近いし、脅威となる国は少ない。

中部ならもし侵略されたりしても占領される危険性は薄いし、津波などの自然災害の危険性も薄い。

東部なら豊かな自然や豊富な河川。

ヨーロッパに近いので貿易で栄えやすい。

欠点としては西海岸は地震多発地帯だから日本同様、地震や津波の危険性がある。

中部では危険性は薄い代わりに内陸部だから栄えにくい。五大湖周辺なら工業地帯として発展するだろうが、その他は耕作地にしかない。

東部はヨーロッパに近いから侵略される危険性が高い。

このように様々な利点と欠点がある。

しかし増え続ける日本の人口を支えるのは最早本土では限界に達しつつある。

何れは京都 東京に次ぐ遷都をして第三の首都を築かなくてはならない。

まあ、遷都をするのは多分北米を日本民族で支配した後だから19世紀末期〜20世紀初頭になるだろう。

それまでに遷都をするかしないかを決めるとしよう。

1829年（日輝251年）

アドリアノーブル条約によりトルコはギリシャ独立を承認。

更にドナウ川河口の諸島をロシアが割譲。

東部アナトリアの幾つかの城塞をロシアが割譲。

ロシア商船のボスポラス、ダータルネス両海峡自由通行権承認。などキュチュク・カイナルジ条約並みの酷い要求をトルコは飲まされた。

北郷サイド

ヒデエ条約だな。

ギリシャ独立だけでもトルコにはキツイのに、更に海峡の自由通行権や領土や城塞割譲とは…。

ただでさえ弱体化が進むトルコに更なる追い討ちをかけたな。

まあ、別に良いけどね。

ロシアの日本侵攻が無かったから日本にあんまり影響無いし。

それよりもイギリスが勢力拡大のために独立したばかりのウルグアイやパラグアイに侵攻した。

どうやら本格的に南米を支配下に置く気らしいね。

北部は日本に取られたから他全部を取る気らしい。

南米諸国の戦力は低くは無いが、イギリスには敵わない。幾ら史実より弱くても、ヨーロッパの盟主であるイギリスが元スペインの植民地に負ける事は無い。

それとこつちも史実通りに進んでいる。

中国ではアヘンが流行して庶民にまで広まっている。

もうすぐアヘン戦争が起きるだろう。

そうなれば遠いが、イギリスは遂にアジア進出を再興出来る。

スエズ運河は出来ているからアジアまでの航路は短いし、一応日本の同盟国だから日本の各港を使用できるから中国に行くのは難しく無い。

中国の膨大な市場を手に入るなら喜んで遠征するだろう。

幸い中国も史実より領土が小さいので国力は低いが、中華思想が根強いから今では超大国になった日本にまで強気に出てくる。

頭の中が1000年前と変わっていないらしい。

ある意味スゲエな。

まあ、中国は外国から手酷い敗北を経験したのはモンゴル帝国ぐらいしか無いからな。

満州族の反乱も日本が手助けして勝ったから明王朝は変わらなかつたし。

モンゴルやチベットなどを併合した明王朝は未だ大した敗北を経験していない。

まあ、アヘン戦争で世界を知る事になるだろう。

そろそろ冒険物でもしようか…。

100年以上前に発見して調査のために何度か上陸していたが正式

発表はせず、正式にはどこの国も行っていないかった。

しかしそろそろ他国も行けるような技術を持ち始めたから日本は正式に北極に上陸。

そしてそのまま北上して北極点に到達。

北極点に日章旗を掲げた写真を撮り、新聞に掲載した。

それと同時に、南極大陸発見も報じた。

まだこの領土にもなっていないから今の内に上陸し、南極点を目指しながら鉄やクロム、ニッケルなど資源がある地帯を占領し、そして南極点に到達した。

南極大陸の領有宣言をした。

南極周辺海域には海底油田などがあるから後々莫大な資産になる。

現代では南極はどこの国にも属さないという決まりがあるが、この時代にそんなものは無いから堂々と領有宣言をする。

そして基地や政府施設、観測所を建設して正式な領土とした。

南極は人間が住むには適さないから防寒設備をしっかりと暖房器具や極寒地でも稼働するように改造した機器や兵器も持ち込む。

無断で上陸されていつの間にか占領や調査をされてたら堪ったものじゃ無いからな。

1830年（日輝252年）

フランス7月革命が起きた。

ウィーン体制により王制が復活し、シャルル10世の反動政治が自由主義者との対立を生み、1830年の選挙で自由主義者が勢力を伸ばすと国王は議会を解散させた。

これが切欠となりパリで民衆が蜂起。

3日に渡る市街戦の末に国王は海外に亡命した。

北郷サイド

やはり革命が起きたね。

まあ、ナポレオンが負けた事で一旦尻すぼみになったけど、時代的に今更王制に戻すのはかなり難しいからな。

かなりの大国で、経済状況が良好で国民の支持を得られていないと王制を続けるのは困難だ。

日本はまだ続けていられるけど、何れは現代のように立憲君主制にすることになるだろうね。

俺が生きている内は王家が腐敗することは防げるけど、俺が死んだ後は間違い無く腐敗して革命が起きるか対外戦争に負けて分裂する事になる。

歴史が証明している。

とりあえず今はただ静観している。
国内には新聞などでヨーロッパにおいて再び革命が起こったと伝える。

日本国内では「またか。」と、今はあまり関心は無いが、何れは大きな意味を持っていたと分かるだろう。

イギリスがパラグアイ、ウルグアイ侵攻を始めた。

本格的に資本主義となり、新たな市場と安い労働力の確保のために侵略を開始した。

どちらとも独立したばかりで国力が弱く、軍も弱いのでイギリスに勝てない。

それにイギリスが唯一怖がる日本とは付き合いが無いから助けを求められない。

だから負けるしかない。

アルゼンチン、チリ、ボリビア、ペルーなどの南米の国とは良い関係とは言い難いので助けてくれないだろうし、例え連合を組んだとしても勝てるかどうか分からない。

オマケに日本はイギリスと同盟国だから支援を発表。

武器や物資輸出をしてイギリスを助ける。

まあ、産業革命を起こしたおかげで得た金を貰っているだけだね。

無線通信の特許を取得した。

これで無電などが堂々と打てる。

今までは隠れながらやるしか無かったからな。

それに暗号技術も進んでいるからこの時代では解けない筈だ。ちなみにダミーとして簡単な暗号も使っている。重要な内容の場合はデジタル方式など難しい暗号を用いる。

そしてラジオ局を開設して、ラジオ放送を始めた。

ラジオの初めての放送は今上兼統帝のラジオ放送開始祝いの言葉だ。陛下の肉声が聞けるという事でラジオ購入者が激増した。特に遠い海外県や植民地の人間達は聞いた事の無い陛下のお声が聞きたいからこそぞって買った。

ちなみにチャンネルはまだ国営の日本ラジオ放送と民間の北郷通信の2局しか無いが、自由参入なので資本金さえあれば参入出来る。何れは現代のように多くのラジオ局が出来るだろう。

更に蓄音機やレコードの特許も取得した。

これで音楽なども録音出来てわざわざコンサート会場に行かなくても聞けるという事で大好評だ。

やはりこれまた文化発展レベルが本国よりも低い植民地で人気を博した。

1835年（日輝257年）

イギリスはパラグアイ、ウルグアイを瞬く間に陥落させ、更にフォークランド諸島や南ジョージア島を占領した。ますますイギリスは南米の支配力を拡大させていった。

新たな占領地がある程度安定したらイギリスは次にボリビアに攻め入った。

ボリビアもスペインから独立したばかりの国であり、国力は高いとは言えない。

オマケに隣国のペルーやチリとは領土問題を抱えており、関係は良いたとは言えない。

だから救援が期待出来ない。

絶望的だった。

北郷サイド

イギリスはアジア進出の代わりに南米制圧に決めたか…。

上部を日本が押さえているとは言っても南米は広大な土地だ。

他を手に入ればそれなりの市場や労働力になる。

それに中国への麻薬密輸出で相当儲けているし、他の製品でも日本製品よりも安く売り、薄利多売でそれなりの儲けを出している。

まあ、こっちは代わりに紅茶やナイロンなどの合成繊維の衣料をイ

ギリスに売って儲けさせて貰っているがな。

さて、そろそろイギリスの本格的なアジア進出、アヘン戦争が始まるな。

まあ、その後にフランスも進出してベトナムやラオスなどに侵攻して仏印を築くがな。

フランスは何時もイギリスが来た後に来るな。
まあ、良いや。

中国ではアヘンが蔓延して軍にも広まっている。

ちなみに日本領土の満州や朝鮮には麻薬が来ないように税関を厳しくチェックしているし、麻薬探知犬を導入して摘発している。

もし密輸者を発見すれば直ちに射殺すると明政府にも伝えてある。かなり昔から憲法に無許可の麻薬所持や製造、販売は死刑に処すと明記しているから国民も麻薬はやばいものという認識がついた。麻薬については学校や新聞などで有害性を説いている。

といっても悪い事ばかりではなく、利用価値もあると一応書いとく。麻薬は用法、容量を守ればただの薬だからな。

1839年（日輝261年）

中国でアヘン問題が表面化されて来たため、雲南などでのケシ栽培を禁じたり対策を講じて来た。

しかしそれでもアヘン蔓延を止められ無いため特命大臣を広州に派遣し、イギリス商社などが所有していたアヘンを没収して廃棄させ、アヘン密輸を禁じた。

これに対して公行（特許商人）を通じてしか貿易が許されない事にイギリスは不満を高めた。

イギリス国内では、自国の貿易品を勝手に没収され、更に焼却処分や海に廃棄された事で世論は反中感情を高めていった。

イギリスサイド

中国のアヘン廃棄のせいで世論は急激に反中に傾いた。

この時代では麻薬という定義が無かったため、単純に自国の貿易品を無断で没収し、廃棄された事が頭に来たただけなのだった。

これを好機と見たイギリス政府は対中戦争準備を始めた。

「中国のすぐ近くには日本があるが、それについては大丈夫なのか？」

イギリス女王ヴィクトリアは聞いた。

もし日本が中国との戦争を認めなくては、この戦争は成り立たない。何故ならイギリスはアジアに進出出来ていないため、中国にまで艦隊を派遣するには日本領土のスエズ運河かパナマ運河を通過する必要がある。

南米のホーン岬を経由するという航路もあるが、どちらにしても日本の領海を通過する事になるので日本の協力無しには不可能なのである。

それに最悪日本が中国を支持すれば、イギリスに勝ち目はほぼ無いだろう。

イギリス海軍も年々増強され、強くなつてはいるが、日本海軍に勝てるか？と聞かれれば黙るしか無い。

自国の軍こそ最強と言いたいのが、日本とは幾度が戦っているが、全敗している。

だから日本とは絶対に戦いたく無いのでヴィクトリアは聞いたのだ。

「はい、問題ありません。日本大使館に確認を取った所、今回の騒動に日本は中立の立場を取る。」との回答です。

従つて日本が中国の味方することは無いようです。」

その言葉に会議室にいた面々はホツとした。

もしも日本が中国に味方したら泣き寝入りをするしか無かつたのだ。散々国民感情を煽つてきたのに、泣き寝入りすると発表すれば煽つてきた国民感情や貴族の面々からの不満がこちらに来てしまう事になる。

それだけは避けたいイギリス政府はこれで遠慮なく中国に攻め入れるし、更なる市場や中国側に不平等条約を結ばせて利益も出せる。

中国の艦隊は未だ旧態以前の帆船。

一方こちらは最新式の蒸気船艦隊。

日本以外になら必ず勝てるという自信があるのだ。

こうしてイギリスの対中戦争が決定した。

北郷サイド

よし、史実通りにアヘン戦争フラグが完全に立った。

日本が中国を助ければ防げるが、別に助ける義理は無いので何もしない。

せめてもの温情としてイギリス支援はしない。

ただスエズ運河通行を認めるだけだ。

まあ、もしイギリスを支援すれば史実よりも中国が追い詰められ、南京条約や虎門寨追加条約よりも過酷な不平等条約を突き付けられるかも知れないからな。

中国を弱らせるのは大切だが、イギリスに持っていかれても面倒だ。それに現在の中国の首都は北京ではなく、南京だ。

多分この世界でもイギリスは南京を占領するだろうからもしかして中国ヤバいかもな。

無くなったりして…。

飛行機の前身、飛行船を公開した。

勿論特許を取得して。

初の飛行機械を完成させた。（世界的には）

ちなみに気球の気体は危険な水素ではなく、ヘリウムガスを用いて

いるので安全。

まあ、水素ガスで浮かしていると発表したけど。

これで空中移動も可能になった。

その代わりに機密保持も難しくなったがな。

飛行禁止区域の警戒を強化して、秘匿兵器は基本的に格納庫か地下に隠す。

それに軌道エレベーターがバレないように注意しなくては。

まあ、こういう事を想定して飛行禁止区域の最も嚴重な区域に建設しているからまあバレないと思うが。

もしも無許可の機体が侵入したら撃墜すると公表しているからな。

1840年（日輝262年）

イギリスは貿易拒否を口実に明帝国に宣戦布告した。

イギリス本国の議会でも「麻薬の密輸」を拒絶されたという会戦理由に対して反対意見が強かったが東洋艦隊を編成し、日本領土のスエズ運河を通過して中国に近付き、明政府に対して香港島の割譲などを要求。

しかし明政府はこれを拒絶した。

そのためイギリス東洋艦隊は明への攻撃を開始した。
広州に艦隊攻撃を仕掛けた。

中国サイド

明帝国皇帝は最悪の気分だった。

アヘンのせいで国内はポロポロになるし、そのアヘンを撲滅させようとすれば密輸をしているイギリスから宣戦布告された。

イギリスが艦隊をアジアに派遣するにはスエズ運河か喜望峰、パナマ運河、ホーン岬を経由して太平洋に来るので必ず同盟国である大日本帝国領土を通過する必要がある。

イギリスのアジア進出を許さなかった日本が通過を許す訳が無いと思っていたが、「日本はイギリスとも同盟を結んでいる。」と日本は中立を宣言をってしまった。

そのため、イギリスの動きを封じるものが無くなったので、イギリスは本格的に侵攻してきた。本国から艦隊を編成してやって来て、最後通牒として香港島の割譲等を求めた。

この偉大なる明帝国に一方的要求をして来たので勿論拒否したら突然宣戦布告として広州を攻撃して来た。

当初は日本に一度も勝った事の無い国だからそんなに強く無いだろうとタカをくくっていたが、日本海軍のように最新式の蒸気船を多数有し、河川などにも侵入してきて縦横無尽に暴れた。

勿論こちらの海軍でも迎え撃ったが、相手の兵器や船の性能の方が遙かに上で、相手にならないらしい。

このままでは不味いと思い、日本に何度も参戦要求をしたが、やはり日本は中立を貫き援軍を出さなかった。

「このままでは首都、南京にも来かねません！」
官僚達が騒ぎ立てる。

確かに広州湾は最早陥落するだろう。

そうなれば次は上海に来て物資輸送を寸断されればこちらはますます不利になり、南京占領も容易くなる。

日本に満州を与えたせいで北京では日本に近すぎると思い、南京に遷都したら今度はヨーロッパからの侵攻に不利となる。

また北京にでも遷都するべきか？

日本はまだ敵国にはなっていないが、今回の戦争では明らかに我が国を見捨てた。

おのれ日本め、幾つもの領土を与えてやったというのに、恩を返すという観念が無いのか！

そんな国の近くに遷都するのははなはだ不安だが、このままではイ

ギリスに占領されてこの明帝国が無くなりかねないので仕方ない。
「首都を再び北京へ遷都する。」
と宣言した。

こうして明帝国はイギリスから逃げるために再び北京へと首都を移した。

そして二百年前の恩（明視点）を返さない日本への不満から反日感情が高まっていったのだった。

北郷サイド

何か中国に逆恨みされた。

清を撃退した代わりに貰った満州や朝鮮、台湾、海南島の恩を返せ。とか言われても、そんな昔の話。

オマケに日本は散々恩返しとして武器や物資を輸出して、更にあれは清を明の代わりに撃退する代わりに貰ったものだから、既に十分以上に恩は返している。

だと言うのに中国はまだ足りないと言う。

これが中華思想なのか？それとも国民性？

どっちにしてもとんでもない自己中だ。

流石の史実のアメリカでもここまでは言わなかったぞ…。

首都を北京に遷都したか。

まあ、そうしないと首都が占領されて条約の内容がかなり変わりそうだからな。

いつそ重慶に遷都するか？という案もあったが、明に潜入させているスパイ網を駆使して北京に決定させた。

官僚など、政府の奥にもスパイ網は及んでいるので決定を覆させるなど簡単だからな。

「日本に近い位置に遷都すれば、イギリスは攻めにくい筈だ。」などの口八丁で通して、後はデカクした派閥で押しきった。

明は長きに渡る腐敗で、官僚が国を支払している。

皇帝が最終決定を出すのが、案件として出す前に握り潰せるから最早傀儡でしかない。

明帝国は自分達が知らない内に実質日本の傀儡国となっているのだ
った。

1842年（日輝264年）

イギリスは中国の物資輸送の要所である上海の運河を封鎖するなどして中国を弱体化した。

勿論中国側も必死に防衛したが、イギリス側が完全に制海権を握り、火力も劣っていたため、各個撃破されてしまった。

しかし、1841年に広州に上陸したイギリス軍は略奪や暴行を行い、民衆の怒りを買ってしまったために中国の正規軍に加え、民兵も同時に相手にすることになり、危うく壊滅の危機に瀕したが、広州の民朝政府に包囲網の解除を求め辛くも脱出するなどイギリス側にも危うい状況はあった。

結局は物資封鎖のおかげで兵糧攻めに合い、火力で圧倒された明帝国は敗れ、1842年にイギリスとの南京条約を結んだ。

この条約で明は多額の賠償金と香港島の割譲。

江南5港の開港、公行制の廃止など屈辱的な条約を結ばされた。

明の唯一の成功は首都を北京に遷都したおかげで明帝国が無くならなかった事ぐらいであった。

こうして明帝国は建国史上最大の大敗を喫したのだった。

そしてそれにより、今まではヨーロッパ各国に「眠れる獅子」と評され、中々進出しなかったが、今回の戦争で中国の兵器技術の遅れなどが分かったために、ヨーロッパからの侵略を受ける事になる。

北郷サイド

アヘン戦争が終結したか。

南京条約も十分屈辱的だが、来年の虎門寨追加条約の方が遙かに酷いかな。

何せ関税自主権を奪われ、裁判権さえも奪われた挙げ句に最恵国待遇を認めなくてはならないのだから。

これによってヨーロッパ列強による半植民地化が始まる。

来年辺りにフランスからも不平等条約を結ばされるだろう。

史実ではアメリカもいたけど、この世界では存在しない。

ちなみに日本もこの中国半植民地化の動きに乗る。

アメリカの望厦条約のような、イギリスと同じ待遇を求める不平等条約を結ばせる。

これで中国への本格的進出の足掛かりも掴めるし、これを口実に戦争でも吹っ掛けて来るなら、返り討ちにして中国に立ち直れない程のダメージを与えてやる。

それに、このままでは華南経済はイギリス資本に乗っ取られるだろうから、今から日本資本の勢力を拡大して中国市場を独占とまではいかないが、そこそこの地位は確立する。

何せこっちはイギリスよりも20年以上早く産業革命を果たしたんだ、生産力や質で負ける筈は無い。

でも別に中国だけではなく、国内や南米、ヨーロッパにも市場を持っているからそんな躍起になる必要は無い。

新たに兵器が完成した。
ようやくイージス艦隊を編成出来る。

霧島型ミサイルイージス駆逐艦

排水量 9200トン

全長 155m

全幅 18m

喫水 9.3m

機関

COGAC方式2軸推進（マスカー装置付き5枚スクリュウ）

ガスタービンエンジン4基

速度 38ノット

兵装

127mm速射砲×1基

20mmCIWS×2基

VLS（32+64セル）

スタンダードSAM

スタンダードABM

ESSM短SAM

VLA SUM

トマホーク SLCM

等を発射可能。

2基

ハイブーン SSM4連装発射筒×2基

3連装短魚雷発射管×2基

ヘリコプター×1基

アーレイ・バーク型を模した。

高雄型で培った技術をふんだんに使い完成したイージス駆逐艦だ。
艦隊をイージス艦で固めれば、大抵のミサイル攻撃にも対応出来る。

まあ、この時代ではまだミサイルという言葉すら無いが。

他にも戦略原潜として改オハイオ型を模したSLBM搭載の原潜も完成した。

いよいよ技術が現代に追いついて来たな。

これからは未来技術の開発だ。

早速新たな開発としてレールガンの開発を始めた。

レールガンならミサイルよりも遥かに早く敵を攻撃出来るし、射程距離も凄い。

1848年（日輝270年）

フランスで2月革命が勃発した。

1830年のフランス7月革命の結果、一定の選挙権の拡大が行われたものの、ブルジョワジー寄りの政策を取ったため、労働者、農民の身分層にまでの選挙権拡大は行われなかった。

こうして不満の捌け口は革命宴会という集会を度々開いて解消していたが、2月22日にある革命宴会が政府の命令によって強制解散させられたために労働者、農民、学生のデモやストライキに発展した。

こうして2月革命はブルジョワジー主体の7月革命と違って、労働者主体の革命となった。

また、フランスだけではなくドイツでも3月革命が勃発。

この革命は、フランスで起きた革命がドイツ、オーストリア、ハンガリーに波及して起こった革命で、市民階級を代表にするカンフハウゼン内閣が成立したが、軍に鎮圧されて革命は失敗に終わる。

オーストリアでも3月13日にウィーンにて暴動が起こり、ハプスブルグ帝国は崩壊の危機に瀕したが、こちらも失敗に終わった。

北郷サイド

また革命か、革命が好きだねえ。
遂に本格的な民主主義革命が起こって来たな。
まだフランス以外ではロクに成功していないけど。

他にもイギリスやイタリアでもデモ運動が起きたけど、何れもフランスよりも小規模だったから失敗に終わった。

ちなみに日本領土では「またヨーロッパ諸国で革命か…。」程度でしかない。

この気に日本も民主主義を。という考えの人間は勿論日本にもいるけど、大多数が賛同しないからデモ運動は起きない。

今のところ特に不満は無いからな。
何度も言ったが、食うに困らなければ革命なんか起きないよ。

イギリスはアジア進出を更に進めるためにビルマ（ミャンマー）に侵攻した。

ちなみに日本の領土は現代のインド国境ぐらいまでだ。（バングラデシュも含める）

やはりアジア市場を狙うべく、進撃して来たな。

このままいけば史実通りにフランスも進出してきて、仏印を取りに来る筈だ。

まあ、それでも周りは全部日本領土だから行動に制限はかなりかかるがな。

ダーウィンのように進化論を提唱するために「種の起源」を出版した。

日本は別にキリスト教国家では無いので、国民は特に騒ぎ立てる事なく受け入れた。

それに他国でも、教育や文化などでもトップを走る日本が出した。

という事で信憑性が史実に比べてかなり高い。

進化論の他にも遺伝学としてメンデルの法則も発表。
ちなみに提唱者の名前が本当に偶然メンデルだった。

そろそろオスマン帝国と帝政ロシアの一大決戦、クリミア戦争が始まるな。

イギリスやフランスは多分史実通りにオスマン帝国の利権を狙っているからオスマン帝国に参戦するだろう。

日本も参戦しても良いんだけど、そうすると史実での引き分けが圧倒的勝利に終わる事になるだろう。

クリミア半島どころか、バクーなどの資源地帯を手に入れるのも容易い。

しかし、流石にクリミア戦争みたいなヨーロッパにおいてのデカイ戦争に積極的に介入すると史実は完全に変わるから面倒になる。

だからクリミア戦争には支持はするが、支援に留める。

イギリスが史実より弱いから不安だけど、日本が物資や武器を多数支援すれば何とか持ちこたえられるだろう。

1853年（日輝275年）

クリミア戦争勃発。

ロシアがギリシャ正教徒の保護を口実にロシアが進軍した事により始まった。

また、他にもオスマン帝国が支配していた聖地エルサレムの管理問題なども関わっている。

当初ロシア側はオスマン帝国の利権を狙っているイギリスやフランスがオスマン帝国に参戦するのではないかと警戒していたが、ロシア皇帝ニコライ1世は英、仏、露でオスマン帝国を分割統治する事で利害関係が一致出来ると思っていた。

しかし英、仏はロシアのこれ以上の勢力拡大も警戒していたため、ロシア側の思惑と違い、オスマン帝国を支持した。

しかし本格的な派兵はするつもりは無く、あくまでもロシア側に圧力をかけることなどに留めておく気だった。

この戦争にオスマン帝国の同盟国、大日本帝国もオスマン帝国を支持。

オスマン帝国に対して武器や物資、情報などを支援すると発表。大日本帝国は本格的な派兵は避け、支援のみをすると宣言した。

この宣言にロシア側は安堵する。

もしも日本が本格的な派兵をして来たら勝ち目はほとんど無くなってしまうからだ。

ロシア軍はこの戦争に200万人という大軍を派遣しようとしてい

るが、相手が日本軍では勝ち目はほとんど無いと見ていた。今までの国境間の争い経験からいって、200万人程度の戦力では無意味と分かっているからだ。

だから今回の戦争も日本が参戦するか否かで勝敗が決まっていた。日本が参戦しないのならイケるかも知れないとロシア側は思い、更に本格的にオスマン帝国領土に進軍を開始した。

北郷サイド

ロシア側の焦りはスパイを通じて丸解りだったし、ニコライ1世の心配する様子も盗聴器や監視カメラの映像でハッキリと見ていた。もし日本がオスマン帝国に参戦したらその時点で終わりだからな。ちなみにもし日本が参戦していたらロシアは日本が攻めてくる前に早期停戦して無理矢理終わらせる予定だったらしい。

だから日本が参戦しないと知った時の喜びようは凄かった。まるでもう勝利が確定したかのように。

まあ、原状ではイギリス、フランス両国も本格的な派兵はしないつもりだから、相手はオスマン帝国一国となる。

オスマン帝国だけならロシアだけで十分勝てるからな。

ロシア側の余裕さも分かる。

大体、もし日本がクリミア戦争に本格的に介入するとしたら、かなり秘匿兵器がバレル。

何時もみたいに自動小銃や迫撃砲、機関銃、戦車、装甲車、場合によつてはヘリなど、この時代ではあり得ない兵器を使いまくる。

確かに圧倒的勝利は見込めるが、ヨーロッパで戦う事になるからかなりの情報がバレル事になる。

そうすれば各国の兵器開発速度はかなり早まるだろうし、ヨーロッパの歴史がかなり変わるだろうから予測が困難になる。

だから、まだヨーロッパの戦争に本格的に介入しない。

1856年（日輝278年）

クリミア戦争終結。

ロシアの過大な要求に不満と懸念を抱いていたが、当初英、仏は本格的な参戦はしない予定だった。

しかし黒海南岸の港湾都市シノーブで停泊中だったオスマン帝国艦隊が、少数のロシア黒海艦隊によって殲滅され、更には港湾施設までもを徹底的に破壊しつくされたというシノーブの海戦が起きたために状況は一変した。

ロシア側のあまりに一方的な虐殺だったために世論は沸騰し、これをシノーブの虐殺と呼んだ。

この動きによりイギリス世論はロシアに対して強硬姿勢を取ったために、イギリス政府はフランスも巻き込んでオスマン帝国と同盟を組み、ロシアへの宣戦布告をした。

当初、同盟軍は黒海西岸のヴァルナに上陸してオデッサの攻略を目指したが、オーストリアが国境線に部隊を配置してバルカン山脈以北への進軍を阻止したために、目標を変更してロシア黒海艦隊の基地があるクリミア半島の要衝のセバストポリにした。
これによってクリミア戦争と名がついた。

その後は開戦当初はロシア側が優勢だったが、次第に同盟軍に押され初め、産業革命を経験していなかったロシア側の弱点が露呈し、

ロシアの敗北で幕を閉じた。
そして1856年にパリ条約が結ばれ、正式にクリミア戦争は終結した。

パリ条約によってウィーン体制は崩壊し、列強は帝国主義の赴くままに勢力を拡大していく事となった。

一方、アジアでも争いが起こっていた。

中国への進出を果たしたイギリスだが、期待した商業利益は上がらず、イギリス国内では明との条約を改正するべきだ。との意見が強くなってきていた。

そこでイギリスは1856年に起きたアロー号事件を口実にしてフランスと共同で明に宣戦布告した。

こうしてアロー戦争（第二次アヘン戦争）が始まった。
ちなみに今回の戦争については日本は英、仏を支持した。

北郷サイド

クリミア戦争が終わったと思ったら、今度はアロー戦争か。
ウィーン体制が崩壊した事により、ヨーロッパ列強が自由に動けるようになったからな。

今回のアロー戦争を支持する理由は、アロー戦争終結後の天津条約や北京条約に食い込むためだ。

中国国内での更なる特権などが欲しいからな。

それに、これに食い込まないと他国に遅れを取る事になり、侮られかねない。

今はイギリスに中国をくれてやるが、何れは中国も日本が貰う。

と言つても中国を占領しても抵抗運動や中華思想が邪魔して面倒なだけだな。

全くもって面倒な国だ。

1858年（日輝280年）

1857年に英仏連合軍は広州を占領、そして今年には英、仏、露、日の全権大使連名による北京政府に対して条約改正交渉を求めた。しかし、これに対する明の回答に不満を持った連合軍は再び北進を開始して天津を制圧。

ここに天津条約を結んだ。

この条約により海外勢の進出が進み、アヘンの輸入は公認化された。

北郷サイド

一応休戦にはなったが、天津条約では英仏の旨味が少ないし、明も不満を高めているから史実通りまた戦争になるな。

まあ、戦争中に明から何度も何度も早期停戦の仲介を頼まれたけど、アイツ等立場解ってんのか？

今や自分達の時代は終わり、ヨーロッパ列強の時代が来ているというのに、昔の恩や縁を引き合いに出して何度も頼みにくるとはね…。

マジで未だに自分達を天下唯一の支配国と思っているんだね。

まあ、2000年以上も昔から洗脳されてれば当たり前か。

確かに2000年以上前だったなら、中国が世界最強になれたかもな。

途中にローマ帝国やモンゴル帝国という超大国がいたけど。

そろそろ原子力についても発表を始めるか。
先ずは電磁場の方程式や元素周期律の発表だ。
そして大学に原子力関係の学科を設立する。
まだ世界では原子や分子の存在などロクに知らないだろうから、日本が独占する。

もうすぐ放射性物資としてラジウムの発見や量子論の発表。
特殊相対性理論や一般相対性理論などアインシュタインが成し得た功績も既に分かっているから後々発表する。

そうすれば第一次大戦後ぐらいにはもう原爆の公開実験も出来る。
そして核兵器が如何に危険かを世界中に広めて保有制限を決めさせる。

出来れば核兵器は日本のみで独占したいが、核兵器はウランなどが手に入れば簡単に作れるから無理だろう。
それに抑止力という名で敵国が生まれるから国を纏めるために独占はしない。
開発は邪魔するけど。

何か最近ロシアやイギリスからの縁談がよく来るな。
ロシアは先のクリミアの失点回復や今後の関係改善、イギリスは日本との同盟を確固たるものにしたから。
まあ、どちらとも丁重に断ったけど。
イギリスはまだしもロシアは立場分かってんのか？
長年敵対関係にあったのにいきなり縁談なんて無理に決まってんだ

る？

ロマノフ王朝が史実より強くないからかなり焦ってるな。

あんまりにもしつこく来るから「国境を以前のようにはウラル山脈以東を我が国にしてくれるなら良いですよ？」と言ったら流石に諦めたようだ。

史実よりも共産主義が強いからねえ。あれじゃ第一次大戦が起きたら直ぐにソ連になるかも。

1860年（日輝282年）

アロー戦争は天津条約によって一旦は終結したが、連合軍が引き上げた後の北京では天津条約を避難する動きが高まっていた。

1859年に英仏艦隊は天津条約批准のために天津に来た。

しかし明側からの歓迎は無く、逆に航行を妨げる障害物などが設置されていた。

英仏艦隊がこれを除去している最中に明からの砲撃を受けて英仏艦隊は上海に撤退した。

これに激怒した英仏軍は大艦隊を集結させて砲台を占領後、北上して首都北京を占領。

そして日本の仲介によって北京条約を締結して、アロー戦争は終結した。

この条約で明は新たに天津の開港、九竜半島のイギリスへの譲渡、中国人の海外への渡航許可を認めさせた。

最後の渡航許可とは、中国人労働者を劣悪な労働条件で安く大量に手に入れるためのものだ。

こうしてアヘン戦争で堕ちた明帝国の威信は更に落ちる所まで落ちてしまったのだった。

史実と少し変更が起きたな。

史実では北京条約を仲介したのはロシアだったが、この世界では日本の方が影響力が強いから自然と日本が仲介する事になった。勿論ダダで仲介した訳では無い。

ロシアがウラジオストクを代わりに貰ったように、日本も代わりに青島と舟山郡島を割譲した。

本当は福建省が欲しかったけど、条約の仲介レベルではこれが限界だった。

まあ、あんまりにも露骨にやると英仏がうるさいからな。

これで中国への前進基地が完成だ。

後は青島の港湾設備や基地建設、舟山郡島も砲台を設置するなりして要塞化。

これで日清戦争ならず、日明戦争が起きてもすぐに反応出来る。本来ならドイツが青島を支配するが、ドイツが中国に領土を持ってもあんまり意味無いしな。

強い海軍を持っているならまだしも、ドイツは典型的な陸軍国家。ヨーロッパを攻めてれば良い。

一応同盟は結んでいるからドイツ統一の時は支援したりはするけどね。

フランスを微妙に敵に回す事になるけど、これからはドイツと仲良くするつもりだからな。

その他サイド

ロシアから見た日本。

200年以上昔からの仇敵。

敵対関係だからかあまり情報が入って来ない。

市民がイメージする日本は恐ろしく巨大な国で武力による世界制覇を狙っているらしい国。という政府発表の情報ぐらいいしか知らない。商人達から見れば「トウキョウを見た後にサンクトペテルブルグに行く」と何とも田舎町にきたなあ」と思えるらしい。

イギリスから見た日本

最近様々な技術を公開してきて改めてスゲエ国だと認定。

市民から見ると遠い国だから実際に見た人間は極少数だが、船乗り達は「あそこは別世界さ。」と語る。

周りが綺麗な格好をしているのに自分達のみすぼらしい格好が恥ずかしくなったらしい。

ちなみに船乗りが日本に行ってきた際に買ってくる土産は大多数がタバコや酒だ。

その品質の高さと旨さから買えるだけ買ってきて本国で高値で売りさばく奴らもいる。

フランスから見た日本

かつての同盟国。今はかなりムカつく。

フランス市民から見た日本はムカつく国なのだ。

やはりあの革命の要因となった日本商人の悪辣な売買によってフランスは貧乏なのだ。と文句を言う市民が大多数。

他にも最近日本のワインが世界に流れているため、ワイン市場を奪われた。と更に八つ当たりしている。

しかし貴族階級には好評、ちよくちよく日本に行つては良い品物を買つてきて自慢するのが密かなブームとなっている。

中国から見た日本

かつての恩を忘れて侵略している国。

中国市民から見るとまだ日本が国としての体裁を整えて無かつた時代に様々なモノを教えてやったのにそれを忘れている田舎者。

日本は満州ぐらいいしか見たことが無いのでよく分からないが自分達と大して変わらないだろうと思つている。

北京に住んでいる住民なら日本の強大さが分かるが、内陸の田舎にいくと日本という国すら分からない。

唯一ある知識は1000年以上昔の島国でしか無かつた頃の日本なので興味が無い。

たまに出稼ぎで返つて来た奴が「日本というデカイ国がある。」と教えても自分達こそが最強という中華思想のためか認めない。

日本から見た外国

どこの国の首都も大体1000年ぐらい昔の東京のように見える。

インフラ設備が不十分で移動がしにくいし衛生状態がまだ劣悪な所が多いのであまり外国には行きたくない。

たまに市民も海外旅行として外国に行くが辺鄙さに下に見てしまいがちだが、旅先で慢心してその国を侮辱するような事は控える。

何故なら歴代の兼統帝全員が

「慢心は極刑に値する大罪である。」

現地での日本人の慢心した行動はその国にとって日本とは慢心した下劣な国であるという印象を植え付ける。そのような屈辱的な印象

を植え付ける行為をした国賊は極刑に値する。」
と何度も何度も刷り込んでいるので少なくとも外国では現地や現地
民をバカにしたりする事はしない。
もしそれがバレれば国賊扱いを受けて場合によっては死罪を言い渡
されるからだ。

そうならないように義務教育において「外国にいったらその土地の
習慣などを決してバカにするな。」とも洗脳する。

おかげで海外での日本人の行動は非常に冷静で批判される事は少な
い。

たまに酒に酔って騒ぎを起こしたりするけど…。

1862年（日輝284年）

ヨーロッパではイタリア統一やドイツ統一など新勢力が続々と出来てきた。

特にドイツはプロイセン王国のビスマルク首相の鉄血政策と呼ばれる富国強兵、対外強行策を推進している。

現在はオーストリアとの戦争を画策中。

ちなみに日本はドイツとは長年の同盟関係にある。

今までは通商取引ぐらいしかしていなかったが、これ以降、ドイツは更に強大化すると見て武器や物資の販売などを活発に行なっている。

また、アジアでも大きな動きがあった。

1858年に始まったフランスと安南ベトナムの戦争はフランスの勝利で終結し、サイゴン条約を締結した。

これによってフランスはコーチシナ（ベトナム南部）の一部を割譲した。

こうしてフランスもアジア進出を果たしたのだった。

未来の大国、ドイツが動き出したな。

ドイツにもスパイを潜入させているから内部情報は筒抜けだし、ドイツの戦局も多少変える事も出来る。

これまでは多少の通商取引しかして来なかったが、これから対外戦争を連続して行うために武器や物資が大量に必要となる。

ヨーロッパの国々はドイツの強大化を警戒して売りたがらないだろうから、日本から買うしか無い。

だからこれからはトルコに次いでドイツがお得意様になるだろう。

これからヨーロッパは更に騒がしくなるから良い稼ぎ時だ。

最近ようやく明治時代のような船舶を作れるようになった。

今までは鉄骨木皮の船舶で時代を誤魔化していたが、これからは堂々と鉄鋼船を使える。

まだ使えるのは鎮遠のように高性能とは言い難いが、他国から見ればとんでもない巨大艦だ。

他国、特にイギリスやフランスから鎮遠と同型艦の建造依頼があったが、日本は一切を拒否している。

他国に技術を売るなどあり得ないからな。

だからと言って全部を断っている訳では無い。

扶桑型のような時代相応な軍艦や輸送船の建造は請け負っている。

その代わりに外国からの留学生や技術交流などはしていない。

日本が他国から得られる利点が無いし、何かいらぬ技術でも盗まれたら面倒になるだけだからな。

それでも特にイギリスは日本に軍艦建造依頼をしている。

何としてでも日本の技術を盗んで日本を撃ち破ると息巻いているよ
うだな。

でも他国に売っている艦はこの時代相応の技術レベルで作っているから大した成果は上がっていないようだ。
扶桑型も精々この時代の10年先程度だから少し画期的な技術は得られてもそこまでだ。

1866年（日輝288年）

プロシア・オーストリア戦争勃発。

第二次産業革命の波はドイツにも訪れ、ドイツも工業化を図ろうとするが、小国分立で十分な経済権の無いドイツは中央集権体制を目指してドイツ民族によるドイツ統一を図った。

しかしドイツ民族が多数暮らすオーストリアはその考えを拒絶。それが切欠になりプロシアはオーストリアに宣戦布告した。

当初、ドイツとオーストリアの戦力は五分五分と外部は見ていたが、ドイツ側は優れた軍略を持ち、軍隊の早期展開のために事前に日本から購入した鉄道線や電信線などをオーストリアとの国境に張り巡らした。

そのため、開戦当初からドイツ軍はオーストリア軍の予想を遥かに超えた進軍スピードを見せた。

オーストリア軍は旧来通りの銃剣突撃を敢行するが、ドイツ軍は日本から購入した丈夫で装填時間が短い後装式大砲やボルトアクションライフルを多数装備するなど近代兵装で固めたドイツ軍によってオーストリア軍は壊滅的な被害を受けた。

その後、オーストリアの大敗を見たフランスのナポレオン3世は戦

争に介入しようとし、ビスマルクもそれ以上深入りするつもりは無かったので8月23日にプラハ条約が締結された。ドイツ側はオーストリアに領土や賠償金は請求しなかったが、いくつかの公国や自由市を領有化してドイツ東西のプロイセン領の統合を達成し、オーストリアを統一ドイツから排除した。

北郷サイド

史実通りに終わつたな。
日本の利益も出るようにプロイセンには骨董品（他国には最新式）を売り払って儲けた。
本来ならドイツ人が開発して名をはせるようになったボルトアクションライフルも日本から輸入したという事で益々日本神話が上がった。

にしても史実ではボルトアクションライフルはあまりに先進的過ぎて理解されるのに時間がかかったが、日本が発明した銃と分かれると各国もこぞって注文してきた。
まあ、200年以上かけて日本神話を作り上げたからな。
不敗の国が作り上げた傑作ライフルとして人気を博している。
でも日本はヨーロッパの武器商人と違い、最新式？の武器をバラまいたりほしくない。
そんなことをすれば勢力図が一気に変わったりなど、面倒な事がおきかねない。
それに、新技術を使っているとかなり高価な武器だから金が無い国は買えないし、転売するような量も仕入れられない。
だからヨーロッパ中に回るのは史実同様、時間がかかる筈だ。

イギリスも領土拡大のために動いている。
南米のアルゼンチンに侵攻を開始した。

どうやら第二次産業革命のおかげで向上生産力に比例した市場や労働力が必要になったために領土拡大に動いたらしい。

ちなみに日本もようやく来た第二次産業革命のおかげで石油の利用価値が見出だされて来たため、領土拡大としてデンマークからグリーンランドを買収した。

グリーンランドは万年雪に覆われた人が住むのに適していない地域だから、大した発展はしておらず、安値で買い叩けた。

グリーンランドには鉱物資源や漁業資源などが将来的に期待出来るし、流刑地としても使用出来る。

それに北米にかなり近いから、イギリスが狙っていたので、その前に買収した。

後は何時も通りの政庁など政府施設や警察署などの建築、インフラ整備や洗脳教育、そして植民だ。

土地の性質上、沿岸部しか居住に適さないが、それでもかなりの人は住める。

でも北米や本国からの食品などを輸入しないと生活が成り立たない。資源が出るまでは漁業で収入を得るしかないな。

1870年（日輝292年）

プロシア・フランス戦争勃発。

オーストリアとの戦争に勝利し、ドイツ連邦を解体して北ドイツ連邦を成立させたプロイセンは北ドイツ連邦を主導し、勢力拡大に動いて北ドイツ、ライン川流域に勢力を伸ばした。

しかしこれはライン川流域に近いフランスにとって直接的な脅威となつた。

一方、プロイセンにとつても皇帝ナポレオン3世は脅威だったため、両国関係は自然に険悪になっており、1868年に空位となつたスペインの王位継承において両国の意見に齟齬が生じ、戦争機運が一気に高まつた。

そして決定打になつたのはこの事件についてのプロイセン王ヴィルヘルム一世の電報をプロイセンの首相ビスマルクが改竄し、フランスがヴィルヘルム一世を侮辱したかのような文にして各国の報道機関に流した。

この電報に刺激されたフランス世論に促されてナポレオン3世は動員令を発令、翌日にはプロイセンも動員令を発令。こうして北ドイツ連邦とフランスの命運をかけた戦争は始まつた。

この戦争を予想していたプロイセンはオーストリアとの戦争後にフ

ランスに向けての鉄道線路を6本引き、情報将校を観光客に紛れ込ませてフランスに潜入させていた。

ちなみにフランスもプロイセンとの戦争を警戒していたが、日本側の工作で一本しか鉄道を引いていなかった。

また、北ドイツ連邦加盟国はプロイセンが先に宣戦布告された場合には協力するとの条約通りにフランスに宣戦布告した。

他国が介入して来ないようにロシア、イタリア、オーストリア、イギリス、日本に事前に根回ししていた。

フランス側はオーストリアに参戦を求めていたが勝算が薄いのと日本の工作によつて交渉は失敗に終わった。

ちなみに日本は前回同様、北ドイツ連邦に武器や物資を支援するに留まる。

開戦当初からドイツ軍の周到練られた作戦によつてフランス軍は翻弄され、劣勢に立たされた。

ナポレオン3世は戦局打開のために自ら戦地に趣き指揮したが、逆にドイツ軍に包囲され、あえなく将校10万人と共に捕虜にされてしまった。

この出来事にフランス市民は激怒し、ナポレオン3世の廃位を宣言、国防のために速やかに新政府が誕生した。

最早勝利が確定したのでビスマルクは講和を行い、緩やかな条約を結んでフランスとの遺恨を小さくしようとしたが、軍や世論の強硬な反対にあった。

彼らの言い分はオーストリアと違い将来同盟国になる可能性は皆無なため、統一ドイツ帝国を建国した暁には列強と条約を結び、フランスを封鎖する事が出来るなどであった。

このため、ビスマルクは渋々パリ進軍を命じた。プロイセン軍は各地の基地や要塞を占領しながら進軍し、遂にパリを包囲した。

そして翌年には砲撃を開始した。

パリ砲撃が続く中、ヴェルサイユ宮殿にてドイツ帝国が樹立され、プロイセン王はドイツ帝国皇帝として即位した。

そして休戦条約が結ばれ、パリ陥落という屈辱をフランスに与えて戦争は終了した。

北郷サイド

今回は前回と引き続き、武器や物資販売で儲け、フランス国内の派閥をスパイでほぼ独占出来た。

反対派や邪魔だった奴らは適当な罪をでっち上げで死刑や追放してやったからな。

まあ、追放された奴らも不満を持つ市民に惨殺された。という事で始末したけど。

これでドイツとの太いパイプを持てるようになったし、フランスを実質支配可能になった。

イギリスやオーストリアなどでもシンパやスパイがかなりの勢力を誇るようになったから戦争を止める事はまだ無理だが、戦局や政局を多少変える事は出来るようになった。

今まではヨーロッパも王が決める事が多く、中々操作は難しかったが、今や民主主義の時代だから簡単に操作出来る。

世論や政局を握れば国を操るなど容易い。

例え軍が暴走しても傀儡政権に日本に救助を依頼させれば堂々と叩ける。

そうすれば戦後は軍や市場さえも操作可能になる。

バカ正直に戦争するなんて考え無しのやる事だ。

戦争なんて始まる前に9割は終わっているんだよ。

戦争の時は戦後処理の事を考えてやるからな。

1877年（日輝299）

再び露土戦争勃発。

1870年代に入り、南ロシアの経済的發展を遂げると黒海貿易の重要性が高まり、ロシアはパン・スラヴ主義の名の元に再びバルカンに進出し、黒海においてもパリ条約の規定に反して艦隊建造を進めた。

そして1875年以降、ボスニアヘルツェゴビナ、ブルガリアに相次いで民族蜂起が起こり、セルビアとモンテネグロがこれに加わるとロシアはこれらスラヴ民族の救済を口実にオスマン帝国に宣戦布告した。

ロシアはクリミア戦争の苦い経験を繰り返したく無いため、これはあくまでスラヴ民族救済のためだと各国に訴えて参戦を阻止した。オスマン帝国は逆に各国の参戦を求めた。

しかしオスマン帝国は前年ブルガリアで起きた反オスマン反乱の4月蜂起を鎮圧する際に4万人もを虐殺したため各国支持は得られ無かった。

日本は参戦こそしないが、オスマン帝国を支持してオスマン帝国に対して支援を発表。

武器や物資輸出を開始した。

北郷サイド

ヨーロッパは戦争がお好きだねえ。

ていうかバルカン周辺ってロシアが求めている不凍港である地中海への玄関になるから是が非でもロシアは欲しいし、トルコはあそこを支配出来ないと国防上かなり不味い。

オマケに様々な民族がいて扱いが面倒くさいと来ている。

あそこはイスラエル並に面倒な地域だ。

テレビの特許を取得。

国営テレビ局と民間テレビ局を開設して史上初のテレビ放送を開始。最初の放送は現皇帝からのテレビ放送開始の祝辞と飛行船から見た首都東京の上空からの映像だった。

販売当初からテレビ開発記念として一般庶民にも買えるような低価格で販売し、皇帝陛下の顔を見たいという庶民が大勢いたので初期からテレビの普及率は60%を超えた。

しかしこれは首都圏の数字であり、地方や海外領土ではまだまだ低い。

地方や海外領土にも系列のテレビ局を次々開設しているため、時期日本領土中でテレビを見られるようになるだろう。

テレビなら洗脳や情報操作がより楽になる。

何せ今までは新聞やラジオなど字や音でしか無かったが、今度は画像を利用出来るのだから簡単に民衆を操作出来る。

ちなみにアニメも放送予定だが、マンガなどは100年以上昔に出

来てかなり進んでいるから、白黒画像では面白くない。

ガンダムやコードギアスを白黒で見ると同じだ。

何か迫力が伝わって来ないのでしばらくは白黒を意識したアニメや映画を中心にする。

まあ、これで新たな娯楽が出来たんだから庶民は大喜びだ。

一部からはカラー化を急がされるが、カラー映像なんて150年以上前に完成させているから何時でもカラーテレビを販売出来るが、流石にまだ早いから販売は控える。

ちなみにカラー放送自体は既に行われている。

現に俺は特注の液晶テレビでカラー映像を見ている。

軍や政府関係の庁舎にはブラウン管だがカラーテレビがあるからな。

これまで通貨は金本位制にしていたが、管理通貨制度に変更した。

金や銀の鉱山などもほとんどデカイのは日本が押さえているから金相場はそこまで荒れてはいないが、これからの時代は史実でも金は暴落したりなどの金融危機が訪れるようになるだろうから現代のように国が管理する制度に切り替える。

この制度は不安定だが景気や物価調整、雇用に介入しやすくなる。

まあ、外国との取引ではまだ金や銀で支払う必要があるがな。

他国、というか日本以外は金本位制だからな。

98 (前書き)

ダラダラとした展開が続きます。

1878年（日輝300年）

露土戦争終結。

1877年4月から始まったこの戦争はバルカン半島とアナトリア半島東部が戦場となり、当初バルカン半島にあるオスマン帝国のプレヴェン要塞にロシア軍は5ヶ月にも及ぶ包囲戦を余儀なくされた。しかしその後、シプカ峠をロシア軍が確保した事によりプレヴェン要塞は完全に孤立したため陥落してしまった。

プレヴェン要塞陥落後は終始ロシア軍が優位となり、ロシア軍はイスタンブールに進軍、その間にアナトリア東部ではカルス要塞が陥落して勝負が決まった。

538

こうして1878年3月、ロシアの勝利で終わりサン・ステファノ条約が締結された。

この条約によってロシアは多額の賠償金の他に多くの領土を得ることになり、ヨーロッパにより進出する事になった。

しかしこの動きが気に食わない国もあった。

これ以上のロシアのヨーロッパ進出を阻止するためにヨーロッパ諸国が協力し、サン・ステファノ条約を修正して新たな条約を作ろうとベルリン会議が開かれた。

イギリス、フランス、ドイツ、オーストリアハンガリー帝国、ロシア、イタリア、オスマン帝国、日本が出席した。

ロシアは勿論サン・ステファノ条約と同じ条約を求めたが、このままではエーゲ海にまで進出するロシアを止めるためにヨーロッパ諸国は反対し、このままではクリミア戦争の再来が訪れる可能性が高かったし、今度は日本とまで戦うことになるのでロシア側も折れた。結果、サン・ステファノ条約のセルビア、モンテネグロ、ルーマニアの三国の独立こそ認められたが、オスマン帝国から割譲した領土の大部分を返還する。という屈辱的な条約を結ぶ事になった。

北郷サイド

無事ベルリン会議にも参加出来た。

まあ、一応日本も地中海に進出しているから満更無関係では無かったからな。

それに日本を引っ張り出せば流石のロシアも折れざるを得ない。

だから出席して本来イギリスが得るはずだったキプロス島を買収した。

これで本格的に地中海に進出した。

にしてもロシアは悲惨だよなあ。

戦争で勝ち取った領土もほとんどを返さざるを得なくなるなんてとんでもない屈辱だな。

徴兵制度を確立して得た膨大な兵士を使いまくった結果がカルス程度。

割に合う筈が無い。

スパイからの報告ではロシア皇帝のアレクサンドル2世は怒り狂っているらしい。

まあ、当たり前か。

さあて、後はキプロス島の整備だな。

軍港施設を整備して艦隊が停留出来るようにして、軍事施設を建てまくる。

後は政庁など支配設備を建築して戸籍登録をする。

そして洗脳教育を施す。

島自体はそんなに大きくないから苦勞も少ないし、軍事関係の施設が多いから軍需で雇用も確保出来る。

肝付王朝支配300周年を記念して建造されていた東京タワーが完成した。

現代と同じ333メートルのこの時代ではあり得ない程高い電波塔が完成した。

昨年から始まったテレビ放送のために建造されていて、今年に合わせて完成させた。

肝付王朝支配の成功のシンボルとして称えられた。

今は流石にこのタワー以上に高い建物は無いからこれで十分だが、これからの都市開発計画では更なる高層ビル郡建設が予定されているので、そのうちスカイツリーみたいな更に巨大な電波塔が必要になるだろう。

1887年（日輝309年）

フランスはベトナム南部を併合してベトナム中部、カンボジア王国を保護国、ベトナム北部を保護領とした。
これによってフランス領インドシナ連邦が完成した。

そして前年にはようやくイギリスが上ビルマも完全支配を達成し、イギリス領インドが成立した。

ちなみに両国の間はタイ王国があり、緩衝地帯として扱われている。

北郷サイド

これでイギリス、フランスのアジア進出はようやく完成したな。
イギリスは本命では無かったがミャンマーを手に入れた事でアジアの貿易拠点を手にしたし、フランスも同様に手に入れた。

両国とも狙いはやはり中国らしい。
まあ、とんでもない人口を誇るから市場と労働力としてはうってつけだ。

しかしやはりまだ中国を警戒しているのか、露骨に進出はしていない。
まだ日清戦争は起きていないからな。

でもこの世界で日清戦争は起きるのか？

清の代わりにまだ明が頑張っているけど、日清戦争の原因になった朝鮮はもう完全に日本領だし、明も日本の力は分かっているようだから迂闊に攻めては来ない。

ならこちらから原因を作るか？

イギリスはアルゼンチンを占領して支配し、更なる領土拡大のために現在はチリに侵攻している。

チリを取れば太平洋に出られるからな。

そうすれば遠いが、日本や中国などアジアとの貿易もやり易くなる。それに何よりもホーン岬を取るの大きい。

ヨーロッパからアジアに行くルートはホーン岬以外、全て日本が押さえている。

自国が支配する経由ポイントは何よりも欲しい筈だ。

それ以後はチリとペルーを取れば南米はほとんどイギリス支配下となる。

豊かな資源と豊富な労働力。

魅力的な地域だからな。

医療技術発展のためにレントゲンなど医療機械も次々特許を取って公開する。

手術に必要な不可欠な無影灯やゴム手袋なども公開した。

これで手術技術や無菌性を高める事も出来て成功率も上がる。

1894年（日輝316年）

アジアで激震が走った。

日本領土である朝鮮半島の反体制組織に中国製の武器や物資が大量に横流しされている事が発覚した。

何故分かったかと言うと、日本政府は前々から目をつけていた反体制組織を襲撃し、テロリスト達を全員逮捕に成功。

そしてアジトにあった大量の武器や物資はどうやって手に入れたのか尋問した所、明帝国から武器や物資を支援して貰っていたと告白した。

このことから明は日本内部の反体制組織を支援して日本に内乱を起こさせようとしていたのだと日本政府は分かり、直ぐに明政府を猛烈に批判した。

更にこの事を各国にも知らせて明政府を弾劾した。

しかし明政府は「そんな事実には存在しない。」と否定する。

しかしその後の日本政府の調べによって明政府高官数名の犯行だと判明した。

その高官達は「明政府から命令されてやった。」と告白した。

しかし明政府は「そんな命令はしていない。」とあくまで無実を訴えた。

こうして日明関係は急激に緊張状態となった。

北郷サイド

ふふふ、上手くいったな。

実際日本内部の反体制組織に中国が武器支援などを行っている。という事実はあった。

しかしそれは中国内部に潜入させていたスパイ達が極秘に細々としていたから明政府は知らない。

でも確実な証拠はあるし、まだスパイとバレていないから明政府の人間が明らかに日本の反体制組織に武器や物資を支援している。という事実は代わり無い。

明政府は何かこの騒動を交渉で終わらそうとしているが、日本政府は「明政府が事実を認めるのなら考える。」と返しているから何も解決などしていない。

もし明政府が内乱煽動を認めたらその時は代償にかなりのモノを要求するから別に損は無い。

まあ、十中八九戦争になるだろうがね。

日清戦争の代わりの日明戦争がね。

日清戦争の時は日本は朝鮮を手に入れただけで終わりを迎えたが、この世界ではそれだけじゃあ終わらせる気は無い。

最低でも福建省は貰わなくてはな。

本当なら沿岸部全部寄越せと言いたいが、それは後にしよう。

それに義和団事件が起きて欲しいから山東省を取る事は出来ない。

何せアレが無いと辛亥革命が起きないだろうからな。

にしても今回の戦争はちょっと面倒な制限が付くな。

イギリスやフランス支配の地域が中国にはあるから戦車や戦闘機は使えない。

自動小銃も鹵獲されたら不味いからせいぜい使えるのはボルトアクションか半自動小銃だけだ。

戦車の代わりには装甲車を使い、戦闘機の代わりに飛行船を使う。

飛行船でもある程度の爆撃は出来るからまあまあ使える筈だ。

多分対空機銃なんて持っていないだろうし、制空権の大切さもあまり知らない筈だ。

そんなに内陸部には侵攻しないからこれらでも勝てる筈だ。

1895年（日輝316年）

日明戦争勃発。

朝鮮危機に対し、明政府は一切の事実否定をし続けているため大日本帝国は制裁として明帝国に宣戦布告した。

戦争勃発直後に満州、朝鮮の艦隊を編成した連合艦隊は明国艦隊に襲撃をかけた。

明海軍も遅れながら西洋列強や日本の技術を取り入れ、軍を近代化させていた。

その結果、史実の鎮遠型に加え、日本から購入した富士型戦艦なども所有していた。

明海軍もこれだけの戦艦を多数所有しているのだから、日本海軍にもかなりの被害を与えられるだろうと期待していた。

しかし、その期待は裏切られた。

日本の艦隊は薩摩型や香取型などレシプロ機関末期時代の戦艦が主になっている。

他にも黄海には潜水艦などが多数派遣されているため、明海軍に勝ち目は初めから無かったのだ。

しかしそんな事は知らない明海軍は「近年、没落が進んでいる明の栄光を取り戻すのだ。」と意気軒昂になり、日本艦隊を撃滅するた

めに日本艦隊の基地である旅順に向かった。

一方日本艦隊は明側の動きは衛星監視やスパイのせいで筒抜けになっていたため、艦隊を集結させ渤海海峡にて待ち構えていた。

1895年7月25日に渤海海峡にて両国艦隊の戦闘が開始した。

明海軍はご自慢の日本から購入した富士型やドイツから購入した鎮遠型などから編成された艦隊を率いていた。

この30cm砲を搭載した最新戦艦なら流石に日本海軍にも通用するだろうと日本海軍に接近した。

しかしその願いは叶えられず、戦端を切ったのは日本海軍であった。薩摩型や香取型の富士型よりも性能が優れている30cm砲を発射したり、23ノットというこの当時最速の吉野型防護巡洋艦の快速で明艦隊を翻弄した。

明海軍も負けてはいられないと日本艦隊に接近して砲弾を撃ち込もうとしたら、突然艦隊中部にいた艦が爆発した。

「何だ！？何が起きたんだ！！？」

と明海軍が混乱している内にまた艦が攻撃を受けて沈んでいく。

これは日本海軍の潜水艦隊による雷撃だった。

潜水艦などロクに分からない明海軍は混乱し、日本海軍から何らかの攻撃を受けているとしか分からなかった。

まあ、無理も無い。それに潜水艦からの攻撃と分かったところでどうにも出来ない。

何故ならこの時代にはまだ爆雷なんて無いから対潜水艦攻撃が出来ない。

潜水艦が浮上してくれるなら砲弾を撃ち込んでやれば簡単に沈むが、日本が使用している潜水艦は第二次世界大戦のガトー型を使ってい

るからそんなに浮上しなくても良いし、シュノーケルを装備しているので、艦全体を浮上させる必要は無い。

こうして後に渤海海戦と呼ばれる海戦は日本海軍の圧倒的勝利に終わった。

明海軍は最後まで潜水艦に翻弄されて隊列を組めないでいたのだった。

その後、日本海軍は威海衛に上陸作戦を実施した。

猛烈な艦砲射撃で防御陣地などをほとんど粉碎し、その砲撃にビビった基地守備隊は各々勝手に逃げていった。

粗方砲撃が終わった後に上陸用舟艇で上陸し、ほとんど誰もいない威海衛を占領した。

北郷サイド

とりあえず第一ラウンド終了だな。

これで中国に艦隊はいなくなったから制海権は完全に日本のものになった。

後は面倒な陸戦だけだ。

まあ制海権に加えて制空権も独占してるからそんなに難しくは無いだろう。

使える兵器は制限されるが工夫次第で簡単に打ち破れる。

明国海軍を撃退して艦艇を殲滅させ、威海衛を占領した事で制海権は完全に確保した。

作戦第2段階として陸戦を開始した。

満州の陸軍は首都北京を目指し。

舟山群島の海兵隊は浙江省を目指し。

台湾の海兵隊は福建省を目指した。

尚、制空権確保として本国や台湾などから飛行船が何機も飛び立ち、上陸作戦を支援したり、軍事施設など戦略上重要な証拠爆撃を敢行し出した。

台湾から福建省に上陸した海兵隊は海軍と共同して威海衛同様、戦艦による艦砲射撃をして防御陣地や障害物を粗方破壊した後の上陸用舟艇で次々歩兵や装甲者、砲、機関銃、迫撃砲などを揚陸させた。流石に今回は威海衛のように明国兵士達も逃げては不味いと思ったのか、そこそこな数の守備隊や増援で来た兵士達が残っていた。

そのせいで海兵隊も上陸には抵抗を受けて犠牲が出たが、抵抗拠点の位置を飛行船が知らせ、その位置に戦艦からの砲撃を与えて沈黙させた。

抵抗が弱まったスキに兵器を揚陸させて橋頭堡を築き、反撃を開始した。

最初は押されていたが、次々とやってくる舟艇に明国側が徐々に劣

勢になっていき、艦砲射撃に加え、大量の155mm榴弾砲などの攻撃を受けて遂に守備隊は撤退した。

こうして上陸作戦に成功した日本軍は海兵隊に続き、陸軍を投入して福建省を侵攻した。

そしてそのまま浙江省にも侵攻して舟山群島の海軍と共同して当たり福建省、浙江省を占領した。

浙江省を占領した陸軍は更に北進して元首都の南京に侵攻。

やはり元首都という事でそれなりに重要拠点のためか、激しい抵抗を受けたが、またしても飛行船を活用して爆撃や機銃掃射をして敵の抵抗を弱め、陸軍からも大量の砲撃や装甲車による進撃などにより、侵攻開始2週間後に南京は陥落した。

ちなみに上海には侵攻しなかった。

ヨーロッパの租界が多いから下手に攻めると難癖つけられる可能性があるので租界を持っている各国には事前に上海は攻めないと通達してある。

そして最後の戦場、明国首都北京への侵攻を開始した。

南京攻略後に明政府から講話の申し出はあったが、講話条件が威海衛の譲渡と賠償金だけ。というショボい内容だったために拒否。

その後最後通告として日本側から講話条件としては威海衛、福建省、浙江省の割譲。

莫大な賠償金、関税自主権、治外法権などの最恵国待遇を認める。などの苛烈な要求をした。

流石にこれを飲んでしまえば明は実質日本の属国に落ちてしまうので拒否し、首都の防衛を強化して日本軍を待ち構えた。明国皇帝は最初は北京を放棄して西安や成都、蘭州などに逃げようとしたが、日本側の侵攻速度の方が遥かに優れているし、飛行船による爆撃を受けるかも知れないので北京で待ち構えた。

1895年9月21日、満州の陸軍は首都北京に向けて侵攻を開始した。

大量の装甲車や兵員輸送車、砲を牽引した車など機械化集団を用いて侵攻した。

途中、明国が集結させた兵士による防衛線があつたが、大量の砲による砲撃、夜間の狙撃兵による明国将官や仕官の狙撃、装甲車による進軍などによりことごとく突破され、遂に首都北京を日本軍は方位した。

これによって明国政府は最早勝負にならないと悟り降伏した。

北京にて条約を結んで日明戦争は終結した。

条約内容としては以前出した講話内容に広州湾の割譲もプラスした。

これによって明帝国は重要な領土をかなり失い、莫大な賠償金の支払いによって財政も圧迫され、ただでさえ衰えた明国の威厳は最早無くなつてしまった。

北郷サイド

これで列強は明の分割に走るだろう。
ちなみに日本は別に参加しない。
既に重要な処は取ったから別に他の場所を租借する必要は無い。
出来るなら広東省が欲しいが、香港があるからイギリスと面倒になりかねないので今はいらぬ。

さてと、久しぶりに大量に領土が出来たんだ。
整備をしなくてはな。

新たに手に入った軍港の威海衛や流通の要所である広州湾や杭州湾などの拡大、整備をして流通を拡大する。

大量の中国人というお荷物はグリーンランドやカナダ北極圏開発に頑張つて貰おう。

代わりに人口増加のせいで最近本国が手狭になってきたから大量に植民させて完全に日本にしてやる。

そして福建省や浙江省に政庁を建設して支配体制を整え、インフラ整備をしていく。

浙江省は多少発展してはいるが、日本領土的に見ればド田舎なので道路整備や上下水道整備、通信網構築などをして最低限のレベルに引き上げる。

そして残った中国人達にもキッチリとした洗脳教育を施して中華思想を徐々に良いから無くしていく。

ちなみにグリーンランドや北極圏に飛ばされた中国人達にも洗脳教育を施す。

最初は故郷からこんな僻地に飛ばされた事で日本を恨むが、環境こそ厳しいが、生活水準は遥かに高い暮らしに順応すれば故郷での暮らしよりもマシな事に気付く。

薬物中毒者達には死んで貰ったがな。

働く薬中ならまだしも、全く働かずに犯罪ばかりを起こす奴らはいらないとして見せしめに処刑した。

日本において麻薬の無許可所持や製造は極刑とすると分からせるためだ。

1898年（日輝319年）

日明戦争の敗北で明国の衰退が世界中に知られた事により列強は中国分割に走った。

イギリスは揚子江沿岸部は日本に取られたが、四川や湖北、安徽などを獲得し。

フランスは仏印周辺や広東を手に入れた。

ドイツは山東省を手に入れ、ロシアはモンゴルや内蒙古など華北部の分割をした。

北郷サイド

戦争終結後にヨーロッパがハゲ鷹のように次々と中国に群がって来たな。

まあ、今まで少なからず警戒していた肥沃な大地が、実は大した力を持たなかったと世界中に知らせたから群がるのも分からなく無い。でも史実と大分違い、浙江省は日本が押さえているからイギリスの支配力は史実程高くない。

まあ、それでも江蘇や雲南、貴州、湖南、河南、四川など大部分を掌握しているから日本よりも明に対する発言力は持っているな。

代わりにドイツはほとんど中国に関われなかった。

まあ、三国干渉が起きていないから中国に食い込めなかったからな。

ちなみにアフリカは日本になった所以外は概ね史実通りだ。

と言ってもフランスがサハラを支配している訳ではなく、
精々が現代のマリ、ニジェール、チャドなどを支配しているぐらいだ。

日本との国境についての争いは多少あったが、現代の国境と同じぐらいで話つけた。

電気冷蔵庫、洗濯機、掃除機、エアコンなどの特許を取得して一般向けへの販売も始めた。

まだ価格は多少高いが、所得も上がっているから頑張れば買えなくは無い。

これで電力需要はかなり上がるから日本領土の各地に火力、水力、地熱など発電所を建設して供給量を上げる。

他にも太陽光発電の変換率を上げたソーラーパネルや発電効率を上げた風力発電装置の販売も開始して一般家庭でも発電出来る電力量を上げる。

これで一般家庭なら電気のある程度は買わなくても良いし、逆に売る事も出来るようになる。

他にも様々な発電装置を開発して設置して再生可能エネルギーでの自活を目指す。

工場や政府施設など大規模な電力を必要にする所でなければ再生可能エネルギーでも必要量を供給出来る筈だ。

最悪原発を使う必要になったら現代のようなウラン型原発よりも、

トリウム溶融塩炉を使う。

これなら放射性廃棄物はウラン型よりもずっと少ないし、メルトダウンの可能性はほぼ無い。

何よりもプルトニウムを精製しないから他国に売っても核兵器に転用される危険性はウラン型よりもずっと少ない。

将来IAEAみたいな原発関係の機関を設立する時にはトリウム溶融塩炉なら認めるとする。

まあ、安全性が高いし、プルトニウムを精製しないという理由があるから各国も反対は出来まい。

イギリスはチリを平定した後に残る南米の国ペルーにも侵攻した。

ペルーも必死に戦ったが、日本に次ぐとは言っても大規模な海軍を誇るイギリスに成す術はなく、ペルーは降伏した。

これによってイギリスは南米の大部分を支配した事になった。

着々と国力を高め、何時か日本を倒して世界一の国になるべく、今は牙を研いでいるのであった。

1900年（日輝324年）

中国で義和団事件が勃発。

山東省方面にあつた義和拳教という宗教を奉じる秘密結社で、民衆の不満を背景に西洋文化の象徴であるキリスト教を迫害したのが始まりだ。

更に義和団はドイツ公使と日本書記官を殺害したため、キリスト教国家ではなかつた日本も猛烈に義和団を批判した。

更に明帝国の太后がこの運動を支援し、官軍も行動を共にするようになり、明朝政府が列国に対して宣戦布告をするに至つたため、日本、ドイツ、イギリス、フランス、ロシア、イタリア、オーストリアの7カ国の連合軍が明帝国に侵攻した。

激戦は幾つかあつたが、どれも連合軍は苦戦しなかつた。

明国軍は数こそ連合軍を圧倒していたが、装備はほとんどが旧式で最新式の装備で固めた連合軍にはほとんど敵わなかつた。

しかし連合軍の進軍は遅々として中々進まなかつた。

何故なら各国が各々進軍計画を出して意見が纏まらなかつたのと、各軍の軍事作戦上の齟齬や戦闘への積極性など様々な問題が発生した。

しかし最終的には明国軍を退け、首都北京を占領。
義和団は討伐され、明朝は連合軍に対して降伏した。

1901年に北京議定書が調印され、明朝は列国に対して自国の国家予算を遥かに超える賠償金の支払いを命じられた。

北郷サイド

義和団事件はあんまり活躍しなかったな。

別に日本が積極的に攻めなくてもイギリスやロシアが頑張ってくれたし。

それに後に日露戦争の引き金になるロシア軍の満州の駐屯。

一応帰還を要請したが、未だにロシアの大軍は日本領土の満州に居座っている。

どうやらこのゴタゴタに乗じてロシアは北満州を手に入れるつもりらしい。

というかそうなるようにこちらがスパイに命じてやらせたんだけどね。

勿論ロシア国内にもこんなあからさまな挑発行為を賛成しない派閥はあったが、金でこちら側に引き込むか事故や暗殺で主要メンバーを失ったからこちらの派閥の意見が通った。

かなり強引な手段を取ったが、こうでもしないと日露戦争の切欠が作れない。

まあ、日本側から攻めても良いんだけど、一応理由が欲しかったしね。
ロシアには極東艦隊こそいないが、強力なバルチック艦隊は勿論この世界でもいる。
あの艦隊が健在のまま第一次大戦に突入したらかなり戦局が変わりかねない。
だから史実通りバルチック艦隊には滅びて貰う。

公式的には人類史上初の友人動力飛行機を公表した。
日本のメディアは勿論、イギリス、フランス、ドイツなど外交関係があるヨーロッパ諸国やトルコなどアジア諸国などのメディアや大使を呼んで公開飛行実験を実施した。

飛行に使用した飛行機は第一次大戦後期の複葉機を模した機体だ。
機体が飛んだ瞬間にメディア達は驚き、写真や映像を撮りまくり、ヨーロッパ諸国から呼んだ科学者達は「あり得ない！機械が飛ぶなんて科学的にあり得ないんだ！！」とか絶叫していたが、実際に自分の目で見ているし、大勢のメディアや大使、科学者、それに写真や映像が残っているから「あれは幻覚だった。」とは言えない。
こうしてようやく飛行機を使えるようになったから本国や各領土にある公表している基地にも飛行場を次々整備する。
まだ少し早いけど空港を建築して各領土への移動をスムーズにする。

今の首都がある日本本国は地震や台風など自然災害に毎年見舞われるし、近くには中国などからの侵略の危険性、何よりも国土が貧弱

なために食料生産率が低いことなどを踏まえ、首都機能を北米の中部、シカゴに遷都することにした。

最初は緑豊かな東部にしようかとも思ったが、それではヨーロッパから近くなって侵略の危険性が高まると思ったので侵攻しづらい中部のシカゴに決定した。

尚、日本列島はその位置を考え、商業都市として栄えさせる。

つまり首都機能は北米に移るが、産業などはそのまま。軍も北米に移ったが、日本列島が一大軍事拠点でもある事は変わらない。

これで万が一北米が独立する事は無くなるし、カナダや中米、南米の上部を押さえてあるから首都の安全性は高まった。

北米に大々的な移民を開始して本格的に工業化させる。

これで日本の生産力はハネ上がるだろう。

今までは日本列島で発展させていたが国土のほとんどが山間部だから大規模な工場とかを建設するのはかなり難しかった。

1904年（日輝328年）

日露戦争勃発

ロシアはとつくに義和団事件は終結したというのに未だに満州に軍を駐留させ続けていた。

それだと言うのにロシアは「中国の治安はまだ回復していない。」という理由で更なる大軍を満州に派遣した。

これに日本政府は激怒し、日本政府はロシアに対して宣戦布告を行なった。

こうして20世紀最初の一大戦争は幕を開けたのだった。

先ず戦闘が行われたのは満州だった。

北満州に駐留するロシア軍に日本軍は南満州、極東地域から編成した大軍を当てた。

そして更に日本軍はイラン国境からアゼルバイジャンに向けて進軍するという2正面作戦を展開させた。

北満州ではそれなりの数のロシア軍が北満州を防衛するために奮戦したが、本国から遠く離れた地での戦闘のため、士気は中々上がらないし、補給も滞ったりした。

一方日本軍は周辺は全て日本領土だから輸送は簡単に行われ、土気や補給も十分だ。

更にロシア側の兵士達の練度はバラバラで全体として高いとは言えない。

本国からも続々と補給や増援がやって来る日本軍にロシア軍は苦戦し、どんどんモンゴル方面に押され、戦闘開始2ヶ月後に北満州のロシア軍は降伏した。

日本軍はジュネーブ条約に従い捕虜を丁重に扱い、満州の捕虜収容所に収監した。

カフカス方面の戦闘は激化の一途をたどっていた。

北満州は負けてもロシア側に見たらアジア進出に失敗した程度で終わるが、こちらのカフカス方面が破られると首都にまで侵攻されかねないのでロシア軍は必死に防衛する。

しかし戦闘は日本軍有利に進められており、日本軍はバクー要塞を陥落させてアゼルバイジャンを占領した。

更にアジア方面での戦争が終結した事により本国からも更なる増援が派遣されるとの情報がロシア側に入った。

今でさえ押され気味なのに更なる増援が来たら北カフカスは落ちてしまふと考えたロシア軍はスエズ運河を越えてくるだろう日本艦隊を撃滅するためにバルチック艦隊を派遣した。

日本もバルチック艦隊を撃滅するために本国から艦隊を編成して地中海に向かった。

地中海海戦の始まりである。

ロシア海軍はバルト海から出航してジブラルタル海峡を越え地中海に進んだ。

史実では言望峰を越えての長距離航行をしたため、日本艦隊と戦う時は疲れ果てていたが、この世界では地中海に進むだけなので土気は高いし、艦隊も損傷を受けていなかった。

万全の状態で日本艦隊を迎え撃つ準備が整っていた。

そんなバルチック艦隊が日本艦隊との戦闘を開始したのはエジプト沖だった。

ロシア艦隊はほぼ史実通りの編成だったが、日本艦隊の編成は戦艦は金剛型の超弩級戦艦を引き連れていた。

自分達の倍ぐらいデカイ日本戦艦にロシア海軍はビビった。

そして更に驚いたのは、そんなにも巨艦だと言うのに自分達の戦艦よりも倍近く早い戦速という不可思議。

更に砲はおよそ35cmという攻撃力の高さ。

自分達の何もかもを上回っていた。

戦闘開始後直ぐに日本艦隊からの先制砲撃を受けた。

ロシア艦隊からは遠い距離でも日本艦隊からして見たらほとんど必中距離なため面白い程日本艦隊の砲撃は命中した。

更にロシア艦隊の上空には飛行船が飛んでいるため、弾着観測を行い日本艦隊の砲撃は更に正確さを増した。

本当は飛行機を飛ばしたかったが、まだ航続距離が短いため長時間の観測には向かないとして飛行船を使った。

海戦の結果、日本海海戦のように日本艦隊の圧勝に終わった。

ロシア艦隊はほとんどが沈められて幸運な艦艇は降伏して捕虜はエ

ジプトの収容所に、艦艇は鹵獲されて軍港に回航されて修復中だ。後々トルコに売り払う予定だ。トルコには近代艦艇が無いから喜んで買ってくれるだろう。

バルチック艦隊撃滅によりロシアは日本の要求に従い日本有利な講話を結んで停戦した。

サンクトペテルブルクにて条約が結ばれ、日露戦争は終結した。

サンクトペテルブルク条約の内容はロシア軍の北満州からの即時撤退。

莫大な賠償金の支払い。

アゼルバイジャンとアルメニアを割譲。

北郷サイド

これでロシアはソ連へと変わるだろう。

ロマノフ王朝は史実のような栄華を誇ってはいないからこの賠償金請求は痛すぎる。

太平洋戦争の戦費ぐらいを請求してやろうかとも思ったが、それはロシアはドイツみたいになりそうなので精々日露戦争の戦費程度だ。

それでもロシアにはかなり痛いだろうがな。

早速新たに手に入れたアゼルバイジャンとアルメニアの整備だ。

先ずは何時も通り政庁を建設して支配体制を整えて住民登録をする。

そしてイラン国境の要塞線を解体してアゼルバイジャンとアルメニアに建設してロシアの南下を防ぐ。
アゼルバイジャンの天然ガスや原油掘削、アルメニアの鉾山開発などで大量に雇用を生んで失業者を減らす。

他にもロシアは大した開発をさせていなかったから代わりに開発して日本に良い感情を抱くようにする。

大体この時代は植民地や支配領土の開発は本国から離れるとほとんどされないから開発を行う日本は良く見られる。

そろそろ人権についての考えが世界中に広がって来たので洗脳教育は念入りにする。

まだこの時代なら3等国民など等級分けも問題無い。

106 (前書き)

ここから更にご都合主義な展開になります。

1907年（日輝331年）

史実なら英露協商が結ばれてイギリスとロシアのわだかまりが解け、新興国のドイツを警戒するようになるけど、この世界では英露協商の要であるイラン、アフガニスタンは既に日本領土だから両国とも進出出来ない。

その代わりに日本とドイツが最近親密関係になっている事や、南米でのイギリスの勢力拡大に警戒した日本はイギリスとあまり良い関係を持たなくなってきた。

その動きを敏感に察知したイギリスは日本に負けたとは言え、未だに強大な戦力や国力を誇るロシアと深い関係を構築して、わだかまりを解いた。

567

これによって日独と英露の対立が決定的となった。
英露は日本の本格的な地中海進出を防ぐために要であるバルカン半島を手に入れようと躍起になる。

北郷サイド

これで第一次大戦フラグが立ったな。

3B政策や3C政策を潰したからもしかして起きないかとも思ったが、こちらの懸命な工作と修正力のおかげか日本も加わる事になっ

だが、イギリスとロシアをドイツと対立させる事が出来た。
これなら第一次大戦の同盟諸国側への参戦理由の一端になる。

新たな戦車を開発した。

10式戦車を模した331式戦車だ。

これから先は未来知識が無いから戦闘機同様自分達で考えなくてはならないから時間がかかりかかるだろう。

ステルス戦闘機も完成した。

F-22やF-35を模した空軍型や海軍型も開発した。

F-35は垂直離陸が出来るようになったから海兵隊でも使用出来る。

これならもうすぐ他国もレーダーを開発するだろうがある程度誤魔化す事も可能になる。

初期のレーダーはほとんど大雑把に分かる程度だったからな。

自動車の発展と普及が進んで来たから流通の促進と利用を考えて高速道路建設を始めた。

本国は勿論、将来遷都する北米や他の海外領土にも建設して道路網を構築する。

有事の時は軍の即時展開や滑走路としても利用出来るから汎用性は高い。

更に建設の際に大量の雇用も生み出すから失業者対策にもなる。

それに高速道路が出来れば地方の人間も都市に出やすくなるし観光もしやすくなる。

海外からの観光客が増えてきたから観光省を設立した。

案内板などの表記を日本語に加え、英語、ドイツ語、フランス語などを表記して外国人にも分かりやすい道路表記を作り、観光ルートの整備や土産物の開発をする。

わざわざ残しておいた室町時代や江戸？時代など昔の建築物を一ヶ所に集めて観光スポットとする。

他にもハワイやグアム、海南島などリゾート地としてうってつけの場所を開発して本格的に旅行者を勧誘する。

富裕層向けのセレブプランから庶民向けの格安プランまで儲けて観光産業を発達させる。

1911年（日輝335年）

中国で辛亥革命が勃発。

明帝国は滅び、中華民国が建国された。

アヘン戦争以来、列強に侵略され中国国土は犯され、先の日明戦争の敗北で日本にも進出されて一時は北京も占領されかけ、更に次の義和団事件では遂に北京を占領された。

北京を占領された結果、今まで慎重だった保守派の勢力も積極的に動くこととなった。

そして1911年10月、武昌で軍隊が蜂起して革命政権を樹立した。

更にその後2ヶ月の間に中国全体の8割に当たる14省が独立を宣言、明朝は崩壊の危機に直面した。

翌年の1912年に独立を宣言した省の代表が南京に集まり、孫文を臨時大統領とする中華民国が建国した。

そして明朝もその建国を認めて皇帝が退位したことにより明朝は滅亡した。

北郷サイド

これで史実通り中華民国が出来たか。

辛亥革命は日本の明治維新を元に起こしたが、この世界では明治維新は無かったから自分達で作らせる必要があった。

だから内部に潜入させていた多数のスパイを駆使して様々なお膳立てをしてようやく中華民国を建国出来た。

孫文が一時は大統領になったが、今の臨時大統領にはスパイを就任させた。

今までは名目だけだったけど皇帝がいたから面倒だったけど、これからは簡単に中国を操れる。

軍閥の幹部達のほとんどは賄賂で買収した奴かスパイだ。

しばらくは軍閥が支配する予定だからこれで十分だ。

文字通り傀儡国家の誕生だ。

新たな潜水艦が完成した。

バージニア型潜水艦を模した海潮型潜水艦だ。

新技術の導入や新素材のおかげで索敵能力や静粛性は更に上がった。

歩兵兵器でも様々な開発が進んでいる。

ステルス迷彩みたいに周囲に溶け込むカメレオンスーツが完成した。姿や赤外線も隠せるからこの時代ではまず見つかる事は無い。

でも本当に消える訳では無いので目の前で動くと違和感を感じて直ぐにバレる。

まだまだ研究が必要のようだ。

1914年（日輝335）

6月28日ボスニアの州都サラエボでオーストリア陸軍大演習の閲兵に赴いたオーストリア皇太子フェルディナント夫妻がセルビア人大学生に狙撃され殺害。
サラエボ事件が起きた。

オーストリアの外相はセルビアへの懲罰的な対セルビア戦を目論み、7月23日にセルビア政府へ10箇条の最後通牒を送付して48時間以内の回答を要求した。

それに対してセルビア政府は1箇条を除き要求を受け入れた。しかしオーストリア政府はセルビアの条件付き承諾に対して納得せず、翌日にはセルビアとの国交を断絶した。

更に躊躇するハンガリー皇帝と首相を押しきって7月28日にセルビアに対して宣戦布告した。

また、ロシアはオーストリアのボスニア併合を承諾する代わりにセルビア独立を支持していたのでオーストリアの宣戦布告を受けてロシア軍も戦争準備を始めるために総動員令をかけた。その動きを警戒するオーストリアの同盟国であるドイツはロシアの総動員令の解除を求めたがロシアは要求を受け入れ無かった。

それに対してドイツはロシアへ宣戦布告、更に翌日にはフランスに對しても宣戦布告した。

その動きにイギリスはドイツがベルギー領に無断で侵入した事を口

実にドイツに宣戦布告した。

こうしてヨーロッパ中で戦争が勃発したのだった。

しかしドイツを盟主とする同盟諸国側とイギリスを盟主とする連合国のどちらもが共通する事があった。

どちらの盟主とも同盟を結んでいる大日本帝国が参戦してくれるかが問題だった。

もしもどちらかの陣営に参戦してくれるならその陣営が勝つ事は明白だ。

今まで日本が参戦してくれた戦争は負けたことが無い。

だから両陣営共、必死に日本への参戦要請をした。

しかし日本側からの回答は現時点ではどちらの陣営にも参戦しないという中立宣言を発表した。

イギリスサイド

イギリス国王ジョージ5世はとりあえず日本が敵にはならない事を安堵した。

イギリスは日本が参戦した戦争には全敗しているため、日本が参戦した戦争には必ず負ける。というジंकクスが兵士中に広がっているのでもし日本が同盟諸国側に参戦したら士気はどん底にまで落ちてしまう。

出来るなら自分達に参戦して欲しかったが、相手側に参戦しないなだから良いだろう。と思った。

日本と戦わずに済むのなら勝てるだろうと自信がある。

何故ならほとんどの分野を日本に甘んじているが、実質的に世界第2位の戦力を誇る我が大英帝国がドイツなどに負ける筈は無い。そうジョージ5世は信じていた。

ドイツサイド

一方、ドイツ皇帝ウイルヘルム2世は少し焦っていた。頼りにしていた日本が中立宣言をしてしまったためだ。

一応秘密裏の会談では支援活動をしてくれるらしいが大した量は受け取れない。

てつきりロシアと戦う戦争なんだから参戦は無理でも支持はしてくれると思っていたのに正式発表では中立宣言。

まあ、秘密裏に支援をしてくれるのだから支持はしているのだろう。

しかし本格的な参戦はしてくれないので膨大な量の物資や兵器を支援してくれる訳では無い。

イギリスとも戦争状態になった事で海戦の可能性が広がったが、正直我が国は陸軍国だから海軍は微妙だ。

決して弱くは無いが、イギリスに勝てるのか？と聞かれると自信が無い。

だから日本に参戦してもらって、イギリス海軍を壊滅して貰おうかと思っていたのだが、結果は中立宣言。

しかし表向きでは無いにさる支持はしてくれているので、こちらの戦況が悪化したなら助けてくれるかも知れない。

会談ではそのことも聞いてみたけど、「現時点では分かりかねます。」と返されただけらしいからまだ安心は出来ない。

だからと言って変に日本を警戒すると極秘支援すら撤退されてしま
うから今はただ日本の反応を見ているしかないのだ。

北郷サイド

第一次大戦が始まったか。

まあ、まだヨーロッパでの戦いだから一般的にはヨーロッパ大戦と
呼ばれているがな。

とりあえずまだ参戦しない。

今参戦すれば大戦は一年足らずで終結するだろうが、それでは旨味
が少ない。

今はイタリアも同盟諸国側にいるが、オーストリアとの領土問題が
あるから来年には連合側につく。

その翌年ぐらいに参戦すれば同盟諸国側も長い戦争で疲弊している
から大活躍し、終戦後の条約会議でかなりの発言力を持てる。

ヴェルサイユ条約みたいな苛烈な条約を相手に飲ませれば必ず第二
次大戦が起きる。

出来るなら一度で決めたいから第二次大戦が起きないように調整し
て分前を分割する。

別にヨーロッパ間で争いなら構わないしね。

第一次大戦の様子を記録に残したいから8mmカメラなどを持たせ
た従軍記者や戦場カメラマンをヨーロッパに派遣して映像や写真に
残させる。

宣伝工作とかに使えるし、修正して新聞やテレビに流せば世論操作
にも使える。

連合側の残虐な行為などをクローズアップすれば同盟諸国側へ参戦

する事になっても国民は賛成する者が多くなるだろう。

109 (前書き)

今回もかなり都合の良い展開になっています。

1915年（日輝336年）

イタリアが三国同盟を破棄してオーストリアへ宣戦布告、連合側についた。

長年、未回収のイタリアを巡りオーストリアとの領土問題があったイタリアにつけこみ、4月にイギリス、フランスがイタリアに連合側につくように工作を開始。

そして工作は成功しその翌月にイタリアはオーストリアに宣戦布告した。

これによって連合側の戦力が増し、徐々に同盟国側が押され始めるか？と思われたが、ここで連合側にとって最悪なニュースが舞い降りた。

大日本帝国が突然同盟国側を支持し出した。

何故かは分からないが今まで中立を貫いていたのに突然日本政府は同盟国側寄りの意見を言うようになり、国防のためとヨーロッパやロシア方面に大量の部隊や兵器、艦船を派遣し出した。

その事で連合側はもしかして日本は同盟国側に参戦するのではないか？という疑問が強くなり、同盟国側から連合側に寝返ったばかりのイタリア国内はパニック状態だ。

何せ日本が同盟国側に参戦するなら連合側が勝てる訳が無い！。

だからと言って「日本が味方につくなら私達も同盟国側に戻って良いですか？」何て今更言えない。

イタリアは負ける事が濃厚になって来た連合側でやっていくしか選択肢は無いのだから。

イギリスサイド

イギリス国内は大パニックだ。

日本政府がいきなり同盟国側の意見を言うようになった時はまだ多少の余裕はあったが、エジプトなど地中海やアゼルバイジャンやロシア方面に日本軍が軍備増強に走った事で本格的に日本が介入する事が濃厚になって来たのだ。

イギリス政府は何とか日本が連合側につくように今まで以上に交渉を進め、参戦してくれるなら戦後の分配会議での優先順位も約束するなどとも言って来た。

しかし日本側は首を縦に降らず、「あくまで我が国は中立です。」と参戦を断る。

しかしイギリス側が「では同盟国側に参戦することは無いですよね？」と聞くと日本側は「我が国は参戦しないつもりですが確約は出来ない。」と微妙な答えしか返さなかった。

イギリス政府内では日本の参戦要求をこのまま続ける派といつそ先制攻撃を仕掛ける派に分かれた。

そこでイギリス政府はとりあえず日本の同盟国側への参戦を牽制するため、中国政府へ参戦要求を開始した。

そしてその事を日本政府にも知らせ、「もしも同盟国側に参戦したら中国も日本に攻め込む。」と少し脅した。

後は運を天に任せるしか無いのだ。

北郷サイド

同盟国側とは今年から「戦後処理の条約会議を日本主導にしてくれるなら同盟国側に参戦しても良い。」とドイツ、オーストリア、トルコなど同盟国側との交渉をしていた。

しかし流石に戦後処理を日本主導にされると自分達の旨味が少なくなる。と警戒して中々話が進まなかったが、イタリアが連合側に参戦したことからこちらの意見に好意的になつて来た。

何せこのままじゃ自分達が戦後処理をされるかも知れないからな。

イギリスは牽制のつもりか中国政府に脅しをかけて来たけど、言っちゃ悪いが中国政府は最早日本に支配されている。

別にイギリスの脅しが無くても参戦させるつもりだったけど手間が省けた。

更にイギリスが日本包囲網を構築してくれたから宣戦布告の理由も作れた。

これなら連合側に酷い損害を与えても理由が出来たから楽になる。

こっちにとっては好都合にしかない。

110 (前書き)

遂に大戦が勃発します。
ちなみに戦闘シーンはダイジェストになってます。

1916年（日輝337年）

日本政府はイギリスの日本包囲網に対して嚴重に抗議したが、イギリスは受け入れず、あくまで連合側への参戦を要求してきたので制裁として大日本帝国は連合側に宣戦布告。
同盟国側に参戦した。

参戦した日本は先ずは近場の安全を確保するために本国からかなり近い中華民国に攻め込んだ。
開発したばかり（公式には）の戦車を多数所有する機械化集団で満州から首都北京へ、浙江からは南京へと侵攻した。

戦車は軽戦車のBT-7を真似た物で装甲は薄いが中国軍には悪魔のように恐れられた。

何せ今まで見たことの無い鉄の塊が砲台を積んで高速で進撃してくるんだから。

塹壕を軽く乗り越えて接近してきて、45mm砲で防御拠点を破壊してくる。

何とか野砲や重機関銃で撃退出来るが、そんな事をすれば倍返しとして日本軍側から大量の砲弾を食らうし、見たことのない戦闘機や双発の爆撃機から爆撃を食らう。

更に福建からは日本艦隊が出撃してイギリス領である香港島を指す。

去年から日本と敵対するかも知れないとアジア方面にも戦力を割り振ったが、やはり主戦力は本国のヨーロッパ方面に置いているのでこの香港島にいるイギリス艦艇は前弩級や良くても弩級しかない。一方、日本艦艇は超弩級戦艦である金剛型を第二次大戦時に改装したバージョンを中核とした艦隊だ。他の巡洋艦や駆逐艦なども第二次大戦初期レベルの艦艇で固めている。

初めから勝負になどならないのだ。

イギリスアジア艦隊は万山群島沖で日本艦隊を待ち構えたが、その前に予期せぬ襲撃を受けた。

潜水艦での雷撃だ。

この時代ではまだソナーが発達していないから大した精度が無いし、そもそもそんな最新機材をアジアに回しておいてくれる筈も無い。更に潜水艦攻撃用の爆雷はあるにはあるのだが、位置が特定出来ないから適当にバラまくしかない。

敵潜が浮上してくれば砲撃で沈める事が可能だが、イギリス艦隊を雷撃している潜水艦は原潜だからそんなに浮上する必要は無い。

結局その後も雷撃され続け、艦隊の三割もを失ってしまった。

中には切札だった弩級戦艦までもが含まれていた。

イギリス艦隊が混乱冷め止まない内に日本艦隊は射程距離にまで接近していて、アウトレンジにて砲撃を開始。

弾着観測のために水上機を発艦させていたので日本艦隊の砲弾は面白い程当たる。

イギリス艦隊も反撃をするが、まだ遠すぎて当たらない。

運良く命中して何隻か駆逐艦を沈められたが、戦艦には精々中破が

良い所。

オマケにその頃にはイギリス艦隊はほとんど大破か撃沈して最早戦闘にならなかつた。

結果、旗艦がやられて指揮系統が滅茶苦茶になったためか各艦がそれぞれ降伏して海戦は終了した。

中にはプライドのためか最後まで戦った艦もいたがそれらもあえなく撃沈されて終了した。

その後、上陸部隊と合流した艦隊は香港島に接近し、降伏勧告を実施。

艦隊が壊滅して最早勝機は無いと理解したのか香港島はあっさりと降伏を受け入れた。

上陸部隊が香港島に上陸して占領。

こうしてイギリスのアジア拠点である香港島が陥落したのだった。

さて後残ったのは中国だ。

南京を占領した部隊は後発隊と合流して今度は江蘇省に侵攻して各国の租界を守るためと上海にも攻め入った。

イギリスやフランスなど連合側の兵士達は日本軍の租界侵入を阻止するべく防衛したが、戦車や戦闘機という想定外の戦力にやられてあえなく陥落した。

他にも海南島や広州湾から上陸した海兵隊は広東省に侵攻して広東省を占領した。

途中、フランス軍から攻撃を受けたが大量の砲撃とロケット攻撃に

恐れをなしたのか撤退するか降伏してきて割りど簡単に終わった。

中華民国総統は日本軍の侵攻に逃げようとしたが、予想以上に日本軍の侵攻が早く、逃げていた所を爆撃で殺られた。臨時に就任した総統は日本政府に降伏。

こうして第一ラウンドの中国戦は日本の圧勝で幕を閉じた。

北郷サイド

とりあえず中国戦は終結したか。

まあ、まだアジアや南米など面倒なのが沢山残ってるけどな。

とりあえず面倒な中国戦が終わったから後はヨーロッパ戦を片付ければ植民地も落ちる。

中華民国総統に据えていたスパイが自分はもしかして捨て駒にされるのでは？と警戒して逃げた時は少し焦ったが、すぐに爆撃機を回して始末した。

臨時総統もスパイが就任出来た事で簡単に戦争が終結出来た。

何せ中華民国は日本に大して無条件降伏をしたんだ。

後は終戦後の会議で分割してやる。

最低でも沿岸部を全部取れば一気に中国は内陸国になる。

そうなれば経済の発達は難しいから赤化しやすくなる。

仮想敵国には持ってこいだ。

中国戦が終了した日本軍の次なる目標は東南アジア、南米の連合側の植民地だった。

海南島や中国沿岸部から仏印に、インドからビルマに侵攻した。

仏印に向かった海軍と海兵隊は先ず上陸地点にある障害を艦砲射撃を実施して粗方片付けた後に上陸。

多少の抵抗を受けたが航空機による攻撃と艦砲射撃によって粉碎し、橋頭堡を築いた。

ビルマにはインド国境から侵攻してくる陸軍と上陸してくる海軍にイギリス軍は手こずった。

国境を越えてくる日本軍は本国が開発した戦車よりも高機動力を持ち、攻撃力も遙かに上だった。

更に日本軍名物の砲弾の雨を降らせてイギリス軍の抵抗を挫く。

海からは海岸に設置した陣地は砲撃によって破壊され、隠れていた兵士達は砲撃に殺られるか、逃げている所を航空機に銃撃されて大被害を出した。

英仏軍が長年にかけて築き上げた防御拠点や要塞は日本軍によって容易く粉碎されるか占領されて英仏軍の士気はどん底にまで落ちている。

仏印では首都ハノイやポンペンを占領され、ビルマでは首都ヤンゴンが占領された。

これによって英仏軍は日本軍に降伏した。

東南アジア戦が終結した。

戦場は南米に移った。

先ずはベネズエラから英領ギアナ、そして仏領ギアナに上陸した。そして南米艦隊を派遣してブラジル、ペルー、チリ、アルゼンチンにも上陸作戦を実施した。内陸部の国は包囲網を築くだけで侵攻はしない。そこまで余裕は無いからな。

南米諸国は立地条件上、首都は沿岸部だから占領は容易い。

しかしブラジルはイギリスにとって史実のインド同様、大事な拠点だから必死に防衛してきた。

イギリス軍の大半はブラジルにいるからブラジルを落とせば南米は落ちたも同然なのだ。

オマケにイギリス本国はヨーロッパ大戦のおかげで南米に援軍を出す余裕は無い。

南米に大量の援軍を出せば戦況は多少良くなるかも知れないが、代わりにヨーロッパの戦況が悪化するし、本国から南米に援軍を派遣するには輸送船団を組む必要があるが、そうすると日本軍の潜水艦攻撃を受けるし、日本軍の艦隊に待ち伏せされて全滅する可能性も高い。

だから南米のイギリス軍は援軍が期待出来ない状態で日本軍と戦わなくてはいけない。

一方、日本軍は去年から戦う気だったので物資や兵器、兵士等は大量に用意されているし、輸送船団も護衛艦隊を組んでいるので補給は磐石。

何もかもが日本側が優勢だった。

日本軍はブラジルへの上陸作戦のためにイギリスの南米艦隊撃滅に向かった。
やはりイギリス最大の植民地なため、艦隊規模もそれなりだった。しかしこちら側にいるのは第二次大戦時に改装した金剛型を始め、長門型戦艦もいたため勝負にならない。

ブラジル沖で対戦する事になったイギリス海軍は勝てないかも知れないが、相手にも多大な損害を与えることは出来るだろうと思っていた。

しかし対戦してみると、日本軍は自分達よりも遥かに大きく、遥かに巨大な砲を装備した戦艦を幾つも擁していた。

更にそんなにも巨大な癖に自分達よりも5〜10ノットは早い何てどんな反則だよ！？とイギリス軍は呪った。

海戦の結果、予想通りイギリス艦隊の大敗。

イギリス艦隊の戦艦はほとんど沈められ、残った補助艦艇に捕虜を乗せてベネズエラに回航され、捕虜収容所送りになった。

しかし彼らはそれが良かったかも知れない。

何故ならベネズエラの収容所はジュネーブ条約をちゃんと守り、捕虜に対する待遇が良く、本国よりも遥かに美味しい食事や厚待遇を受けた。

しかし脱走しようとした捕虜には容赦しなかった。

夜に逃げても何故かすぐに見つかり、即刻射殺された。

そんなことが何度か続いたため、捕虜達は脱走は止めて終戦を待つ事にした。

それに別に悪い待遇では無いので不自由はしない。

酒は流石に与えられないが日本製の高品質なタバコは一人週一箱は与えられるし、食事も十分な量、質を与えられる。

別に労働がある訳でも無いので好きに過ごせる。

「楽だからこのままここにいたい。」という捕虜もいたほどだった。

一方、イギリス陸軍は地獄だった。

上陸してきた日本軍から連日砲撃は止まないし、時折航空爆撃や機銃掃射があるから防空壕から出られない。

段々と追い詰められてリオデジャネイロやサンパウロなど重要拠点は次々日本軍に占領されていった。

アルゼンチンではブエノスアイレスは占領されたし、チリでは首都サンティアゴ、ペルーでは首都リマも陥落した。

おかげで現在はブラジルを除いて南米の植民地は日本軍に降伏してしまった。

ブラジルのイギリス軍は内陸部に逃げ込んでゲリラ戦を展開して長期戦に持ち込んでいるが、補給は途絶えているから何れはじり貧になる。

最早終わったも同然だった。

北郷サイド

これで残るはヨーロッパ戦線だけだ。

今までヨーロッパ戦線では防衛戦だけを行いこちらの戦闘を終えるのを待っていたが、これから一気に攻め込む。

本当ならすぐにヨーロッパ戦線に加わっても良かったんだけど、そうすると背後の警戒が面倒になるから早目に潰しておいた。

ちなみに史実通りにユトランド沖海戦が起こった。

日本が中々ヨーロッパ戦線に参戦してこないから今の内にイギリス

艦隊を撃滅して戦後処理の取り分を増やそうとしたらしいが、結果は史実通り微妙。

戦術的にはイギリス艦隊を減らす目的があっただから成功したが、代わりにドイツ艦隊もかなりの数が減った。結果的にはイギリス側の勝利だった。

他の戦線も概ね史実通り。

ロシアから度々攻撃を受けたが要塞線に阻まれて成功しない。しかしこれからはいよいよ反攻を開始するので国境に部隊を終結させている。

一気に攻め込んで混乱を引き起こしてやる。

1916年6月

ユトランド海戦直後、日本軍は遂にヨーロッパ戦線に参加した。

日本軍はイルクーツク要塞線からシベリア連邦管区へ。

ウズベキスタン要塞線からカザフスタンへ。

アゼルバイジャン要塞線からコーカシア地方へ。

キプロス島からギリシャへ。

チュニジアからイタリア半島への上陸作戦を決行した。

実に5方面作戦という大日本帝国建国史上最大の戦争となった。

シベリア、カザフスタン、コーカシアを侵攻する陸軍にはアジア戦線と同様BT-7に加え、T-34も動員された。

T-34なら防御力が高く、遮蔽物もなぎ倒せる。

他にも多数の航空戦力を派遣した。

全金属製のP-36ホークや爆撃機としてB-17などの4発機
の重爆撃機を用いて敵要塞や防御陣地を爆撃した。

ロシア軍も長年の因縁を断ち切るために戦力を集結させたが、今まで見たことの無い兵器の数に圧倒された。

最近発表されたばかりのイギリスの戦車よりも巨大で装甲も厚く、大口径の砲塔を持ち、尚且つ機動力が高いという悪夢。

更に上空からは明らかに木製ではない航空機が機銃掃射をしてくるし、エンジンを四個もついているバカデカイ航空機が爆弾を落とすて来る。

オマケにそれが過ぎれば猛烈な砲撃やロケット砲、機関銃などの雨が降ってくるのだ。

如何に数が多いロシア軍でも手も足も出なかった。

ギリシヤでも同様の地獄が広がっていた。

ギリシヤもなけなしの艦艇を総動員して日本軍の上陸を阻もうとしたが、ロクな戦艦も保有していないギリシヤ海軍では第二次大戦時バージョンの金剛型には敵わず、壊滅させられた。

海兵隊は先ずクレタ島に上陸した。

勿論上陸前に砲撃をされて防御拠点は壊滅させられ、海兵隊は悠々と上陸、クレタ島を占領した。

占領した後に別動隊にクレタ島防衛を任せ、次はギリシヤへ向かった。

先の海戦のせいではほとんど壊滅したギリシヤ海軍は一応の攻撃を仕掛けて来たが、結局は水雷艇か駆逐艦ぐらいだった。

それらを撃沈した後にギリシヤ本土へ事前砲撃を敢行して上陸地点を確保し、航空援護の元上陸を開始した。

ギリシヤ陸軍も祖国防衛のために奮戦したが、次々揚陸されていく戦車や自走砲、自走ロケット砲車、装甲車などによって撤退や降伏を余儀なくされ遂には首都アテネを日本軍は占領した。

ギリシヤ政府は日本軍に対して降伏をした。

ギリシヤを降伏させた陸軍はトルコやブルガリア救援のためにセルビアやルーマニアに侵攻した。

地中海では日本軍のイタリア半島上陸を阻止するためにイタリア、

フランス海軍が総力を上げて日本艦隊を待ち構えていた。

フランス海軍はブルターニュ型三隻に弩級戦艦としてクールベ型、準弩級のダントン型、リベルテ型など総力を結集した。

一方イタリア海軍も総力を結集したが、艦隊規模は微妙で弩級戦艦のカイオ・デュイリオ型やコンテ・デイ・カプーラ型などで超弩級戦艦は保有していないが、艦数はそこそこのので戦力にはなる。

フランス海軍にとってはここが正念場だった。

日本軍のイタリア半島上陸を許せば自国への脅威度は格段に増す。

ここは何としてでも日本軍を止めなくてはならないので艦隊のほとんどを割り振り、日本艦隊を待ち構えた。

一方イタリア海軍は既に逃げ出したかった。

フランスの手前、「じゃ、そういう事で。」なんて逃げられないし、日本軍に本土を蹂躪されるのも耐え難いので逃げずに日本軍を待ち構えた。

そして仏伊連合艦隊は日本艦隊と対峙した。

日本艦隊は今まで同様、金剛型戦艦や長門型戦艦に紀伊型戦艦も加えた主力艦隊を派遣してきた。

その大艦隊と戦艦達の巨艦さに連合は混乱した。

フランスの超弩級戦艦であるブルターニュ型の倍近くもある船体に30ノットを越える速力など信じられないのだ。

自分達が最強とまではいなくても日本艦隊に相応の損害を与えて上陸作戦を阻止しようとしたのに、今では逃げ出したい衝動に駆られた。

しかし日本艦隊はそんな事はお構い無しにその射程距離の長さを生かしたアウトレンジ攻撃を仕掛けて来た。

弾着観測機もすっかりいるので初弾こそかなり外したが、段々狙いが正確になってきて、遂にフランス艦隊に命中弾が出た。

紀伊型の41cm砲弾を受けたブルターニュ型は一撃で中破して船体が大きく揺らぎ、次弾で大破して戦力を喪失して、3発目で撃沈させられた。

それを見た連合艦隊は大慌てだ。

一番頼りにしていたブルターニュ型があっさりと沈められてしまったのだからな。

さらに長門型の41cm砲や35.6cm砲が次々艦隊に命中してきて被害は増すばかり。

連合艦隊も時折反撃するが連合艦隊の砲は最大でもブルターニュ型の34cm砲でしかない。

更にそのブルターニュは砲を射つ前に海に沈んでしまったので他の艦では砲弾が届かない。

つまり一方的に撃たれっぱなしなのだ。

この戦況を見てイタリア海軍は最早勝機は無いと考え、次々と降伏旗を掲げ、降伏のための無電を打った。

イタリア海軍があっさりと降伏してしまったため、フランス海軍だけで日本艦隊と相手をするハメになってしまった。

フランス海軍はイタリア海軍程弱く無いのか、簡単には降伏はしてこなかったが、旗艦であったブルターニュ型はもういないし、艦隊全体の損害率が3割を超えた辺りから最早無理と考えたのか降伏する艦が出てきた。

結果フランス艦隊は半数以上が沈んだら全艦が降伏を受け入れた。

敵艦隊を撃滅した日本海軍は降伏した連合艦隊をチュニジアに回航して捕虜をエジプトの収容所に移送した。

そして海兵隊と合流してイタリア半島上陸作戦を決行した。

上陸作戦には空母鳳翔や蒼龍も派遣して事前砲撃後に防御陣地を爆撃して防衛力を弱め、上陸中も海兵隊や陸軍の支援をした。

戦艦の砲撃や支援爆撃、戦車突撃などによってイタリア半島上陸作戦は成功。

拠点を構築して現在は首都ローマに向けて進軍中。

途中、イタリア軍やフランス軍と出会ったが戦車やロケット砲によって壊滅するか降伏する。

にしてもイタリア軍は本当に簡単に降伏するんだな。

戦車で突っ込んだから防御陣地から簡単に出てきたりロケット砲を撃ち込めば「俺、日本に親戚がいるんだ！」と本当か分からない事を言っただけ命乞いをしてくる始末。

おかげイタリアに作った臨時収容所が満杯状態だ。

オーストリアやドイツにも移送して何とかしているけど、まだまだ増える一方だ。

まあ、頭が良いと言えば良いけどな。

勝てないのなら降伏せよ。

生き残って終戦後に復興に役立てた方が有益だからな。

イタリア半島を侵攻している日本軍は次々来る補給と援軍のおかげでどんどん北進していき、遂には首都ローマにまでやって来た。

流石にイタリア軍も首都にはかなりの防衛戦力を集結しているだろう。と思っていたら日本軍が攻め込む前に降伏してきた。あまりの呆気なさに日本軍は呆然とした。

一応通例としていた侵攻前の降伏勧告にイタリア政府はアツサリと承認。

日本軍は何かやるせない感じのままローマを無血占領した。

イタリア軍を武装解除して大量の捕虜をゲット？した。

確かにどうせ敗けが決まっているんだから早目に降伏した方が合理的だが、首都を蹂躪されるのを黙って見ているのは中々出来ない筈。

なのにそれを気にすることなくやるのはある意味尊敬するよ。

ちなみに面倒なバチカンには攻め入らなかつた。

流石にカトリック教徒の聖地を荒らせば最悪宗教戦争が起きかねない。

イタリア戦線は終わりを迎えたので次はフランス侵攻だ。

流石にフランスはイタリアと違ってかなりの抵抗が予想されるから戦力を集中させなくては。

陸軍はイタリアを占領後に国境からフランスに侵攻して、海軍や海兵隊はマルセイユに上陸作戦を仕掛けた。

フランスの重要拠点を潰しとけば後々楽になるからな。

と言っても今のフランス海軍は別に脅威にならない。

何故なら先の海戦で主力艦艇はほとんど沈んだか鹵獲した。

だから残っているのは海防艦か駆逐艦、面倒なのは僅かな潜水艦くらいだ。

先ずは何時も通り戦艦での事前砲撃をして敵の防御陣地を破壊する。そして空母から戦闘機を発艦させて細かい敵の位置を割り出し、そこをまた砲撃なり爆撃する。

イタリア半島にも臨時空港を整備したから爆撃機を飛ばす事も可能だ。

そしてほとんど破壊された軍港に海兵隊が上陸して首都パリに向けて侵攻する。

フランスは中立国であるスペインに救援を求めたが、スペインは黙殺した。

最早勝負が決まっているのに今更沈む船に乗りたがる奴はいないだろう。

一方、同盟国側は、特にドイツは歓喜に湧いた。

初戦は勝ち越していたが、段々と戦線が膠着してきていたので日本軍のフランス侵攻はドイツ軍にとっては待ちに待ったものだった。

長期戦によって資材が欠乏していき、このままじり貧になるかと思われたが、今では日本から潤沢な補給があるため前線の士気も高い。

イギリスサイド

同盟国側が歓喜の声を震わせるのと対象に、連合側は沈んでいた。日本が参戦してくる前なら十分勝機はあった。

予想外の長期戦のために戦線は膠着して、資材や資源が明らかに不足する同盟国側は何れは自滅していくと思ったが、日本が参戦したことによって戦況は逆転した。

今ではこちらの資材や資源が底を着きかねない。

我が大英帝国の重要拠点であるアジアや南米は既に日本軍によって蹂躪されて使えないから豊富な資源や兵士達が来ない。

輸送船で資源や兵士達を輸送してもドイツか日本の潜水艦の通商破壊によって前線に届かない。

更に先のジェットランド沖海戦でドイツ艦隊を撃退することには成功したが、そのせいで艦隊は傷だらけで損害も多かった。

だからもし今度は日本が艦隊をこちらに派遣してきたら守れない。もしかしたら本土上陸を許してしまい、バッキンガム宮殿に日章旗が立つかも知れない。

それだけは何としてでも阻止しなくてはならない。最悪首都ロンドンを占領されようと、女王陛下が捕虜になるなどあつてはならない事だ。

だからと言って日本に何もせず降伏では自分達のプライドが許さないし、下手に降伏すれば本土を分割されるかも知れない。ある程度の講話を勝ち取るためには日本軍にそれなりのダメージを与えるしかない。

そのために現在使える艦艇を修理し、他にも民間船を徴発して軍艦に改装するなどして何とか戦力を集めるしかない。

それと先の海戦でほとんどの艦艇がやられたが、フランスにも援軍を乞うしかない。

あのクソ野郎共に頼るのは癪だが、今は仕方がない。それにまだ侵攻されていないポルトガルにも協力してもらい、イギリス、フランス、ポルトガルの連合艦隊を編成してイギリス本土上陸を阻止する。

フランスもポルトガルもイギリスが落ちたらこの戦いは終わる事は理解しているだろうからこの要請は断れまい。

見ておれ日本、今こそ積年の恨みを果たしてくれる。

フランス侵攻は順調に進んでいる。

フランス軍はイギリス軍と合流してドイツ・日本軍を押し留めようとしているが、失敗に終わっている。

イギリス軍も最新式の戦車や航空機を出して来ているが、日本のBT-7やT-34に圧倒されているし、航空機戦でもイギリス、フランス軍の木製複葉機では日本軍の全金属製単葉機との速度差が200km以上あるため、まるで訓練の的のように落とされていく。最早フランス陥落も時間の問題だった。

ロシア方面でも日本軍が圧倒していた。

広大なロシアの大地を戦車群や装甲車、兵員輸送車など機械化集団として行動している日本軍に比べ、ロシア軍は主戦力が歩兵なため、移動手段は馬か徒歩だ。

そのためどうしても機動力でも日本軍に劣り、ロシア軍は劣勢を余儀なくされる。

ロシア軍もイギリスから輸入した戦車や装甲車、装甲車を改造して戦車みたいにした兵器など、様々な兵器を導入しているが、一向に戦線は好転しない。

ロシアの膨大な人口を次々徴兵して戦場に投入しても、ほとんど軍事訓練を受けずにただ銃を渡されただけの兵士達は直ぐに逃げ出す。

それをさせないために督戦隊が後方で待機させていても無意味だった。

何故なら前線にいる鉄の集団よりも、後方にいる機関銃の方に攻めかかった方が生存率が高そうだったからだ。

各地で督戦隊と兵士達が争うという仲間？割れが続出したのだった。

南米のブラジルでは最後の決着がついた。

イギリス最大の植民地であるブラジル軍はゲリラ作戦を実施して抵抗を続けていたが、現地住民が居場所を日本軍に密告したため、日本軍の奇襲を受けて指令部は壊滅。指揮官を拘束して降伏を承諾させた。こうして南米での戦闘が集結した。

ブラジルが陥落したことを受けてイギリス政府は更に落ち込んだ。南米でゲリラ作戦を行い、少しでも日本軍を南米に留めさせてくれる事を願っていたのだが、その望みも潰えた。フランスは最早半分近くを日本軍とドイツ軍に占領されて瀕死の重体。

中立各国に参戦要求をしたが何処の国も相手にしてくれない。まあ、わざわざ負ける方に付きたがる国は無いだろっから仕方がない。

ロシアでも日本軍はノヴォシビルスクを占領して順調に西進してきている。

だと言うのに味方同士での戦闘は絶えないし、中には革命機運さえ浮上しているらしい。

これは最早ダメだ。

そう理解したイギリスは日本に対して講和を打診した。

しかし日本側の回答は無条件降伏なら受け入れる。という屈辱的な回答だった。

それでもこれ以上被害を出さないためには仕方ないのではないか？という派閥はあったが、大多数は無条件降伏というあり得ない回答に怒りを露にする者がほとんどだった。

無条件降伏などしたらイギリス本土が同盟国側によって分割統治にされる危険性もある。

それは流石に承服出来ないとしてイギリスも徹底抗戦の構えを見せる。

海岸線の防御陣地を更に固め、上陸作戦を阻止するために連合艦隊による訓練レベルを上げて指揮系統をはっきりさせるなどをして対策した。

例え勝てなくてもせめて日本軍に一矢報いて、イギリスをナメると痛い目を見ると分らせる。

そうすれば講話の話も無視は出来ない筈だ。

イギリスは児童を田舎に疎開させ、徴兵年齢の幅を更に広げて少年
→老人にまで徴兵を実施。

いざという時のために本土決戦の準備も始めたのだった。

北郷サイド

イギリスがまるで第二次大戦時末期の大日本帝国みたいになっ
てな。

でも日本人ほどイギリス人は国に対して従順じゃないから各地で反戦運動が起きている。

大日本帝国でそんなことをやれば警察に逮捕されて死刑にでもされるだろうが、イギリスでそんなことをすれば大暴動が発生するだろうから出来ない。

まあ、反戦運動を煽動しているのは日本が送り込んだスパイだけだね。

アイツ等には武器や資金を支援しているからいざというときは反乱を起こさせてやろう。

流石にイギリスも外部と内部を同時に相手には出来ない。

115 (前書き)

ユトランド海戦で沈んだ筈の戦艦が出てきますが気にしないで下さい。

引き上げて修理したのか早期に新造したという設定になっています。

1916年8月

日本はイギリスが降伏勧告に応じず、逆に徹底抗戦の構えを見せたため、イギリス本土上陸作戦を決行した。

本国からも主力艦隊を派遣して地中海艦隊と合流し、編成を終えた後にジブラルタル海峡を越えてイギリス本土へと航行した。

ちなみにイギリス支配のジブラルタル要塞はスペイン政府から上陸許可を得られたので陸上から侵攻した。

ジブラルタル要塞は海上からの攻撃には強いが陸上からの攻撃はあまり考えられていなかったので簡単に陥落して今では日本軍が支配している。

一方、イギリス海軍も日本軍が本土上陸のために艦隊を編成させている事を知ったので今まで訓練を重ねて練度を多少でも上げたイギリス、フランス、ポルトガルの連合艦隊を出航させてビスケー湾で日本艦隊を待ち構えた。

連合艦隊にはイギリスご自慢の超弩級戦艦であるオライオン型、キングジョージ5世型、アイアン・デューク型、クイーン・エリザベス型、更に竣工したばかりのリヴェンジー型など、先のウトランド沖海戦で負傷した艦もあったが、何とか修理をして一応戦闘は可能になった。

他にも弩級戦艦や準弩級戦艦など大規模な戦艦郡を有する。

フランス、ポルトガルはあまり大した戦艦を所有せず、特にフランスは主力を地中海海戦で失ったので残りカスの前弩級戦艦ぐらいで、ポルトガル海軍は装甲艦であるヴァスコダ・ガマ型1隻ぐらい

しか所有していないので連合艦隊とは名ばかりの實質はイギリス艦隊だった。

イギリス海軍サイド

遂に日本艦隊との直接対決になる。

イギリス海軍全体の士気は幸いながらまだ高い。

この凄まじい数の戦艦郡を見れば我らロイヤルネイビーが負ける筈が無いと確信しているからだ。

しかし将官クラスには不安があった。

先の地中海海戦では我々には遙かに劣るが、それなりの戦力を誇るフランス海軍がいと容易く敗北したのだ。

フランス海軍にも超弩級戦艦がいたというのに、相手に全くダメージを与える間もなく沈没させられたと聞く。

噂話だから全てを鵜呑みには出来ないが、日本艦隊の戦艦は全てが我々よりも遙かに早く、頑丈で強力な攻撃力を有してしるす聞く。確かにこの大戦前に公表されたコンゴウタイプはそれなりのスペックを誇っていたが、我々の戦艦と差ほど差は無かったと記憶している。

もしかした新造艦を竣工させたのか、あるいはコンゴウタイプを改装してより強力にしたのか、何にしてもやはり日本艦隊は強力だと分かる。

しかしだからと言って我々が圧倒的に劣っているとも思っていない。この眼前に並ぶ勇壮な戦艦郡なら長くに渡る日本軍との因縁に終止符を撃てるかも知れない。

そうなれば我々は史上初大日本帝国海軍を撃ち破った艦隊として名が残るだろう。

そしてそうなれば日本軍との、ひいては同盟国側との早期停戦も可能になるかも知れない。

だから決して負ける訳にはいかない。

ここで負ければ神聖なイギリスの大地を日本の軍靴によって蹂躪され、最悪バツキンガム宮殿を占領されるという屈辱を与えられないのだ。

将官達も戦意を奮起させて史上初となる快挙を目指すために日本艦隊を待ち受けた。

しかし彼らの野望は打ち砕かれた。

日本艦隊を発見した連合艦隊は至急戦闘態勢を取ったが、日本艦隊を見て恐怖を覚えた。

艦隊規模は連合艦隊と同等がやや下と有利だが、艦隊の中身がエライ違いだった。

日本艦隊の戦艦郡は全艦が超弩級クラスで、一番大きい戦艦は自分達の一回りも二回りも大きい。

それに日本艦隊の艦はみんな艦橋が大きく、何か自分達の艦とは時代の違いを感じた。

何だろう？何か相手にしてはいけない物を相手にした気がした。

しかしそんな事で逃げ出す訳にはいかないので連合艦隊は日本艦隊へ接近を始めた。

しかしその時、日本艦隊からの初弾が撃ち込まれた。

その初弾は外れたが、連合艦隊は動揺した。

何故なら弾着ポイントが自分達よりも後方だったからだ。

つまり自分達の位置は十分射程圏内に入っていることが分かる。

そのせいで各艦がパニックとなり、まだロクに狙いも定めていないのにアバウトで砲撃を始めた。

勿論そんな砲撃が当たる筈もなく、検討違いの方向へ飛んでいく。

連合艦隊が無様な事をしているが間も日本艦隊は砲撃をして射角を修正していた。

そして遂にイギリス海軍艦艇のクイーン・エリザベス型に命中弾を得た。

それを切欠に日本艦隊は斉射を開始して連合艦隊撃滅に動き出した。途中、射角がズレたら連合艦隊上空に飛ばしている水上機からの修正を受ける。

日本艦隊は長門型、加賀型、紀伊型の41cm砲を何十、何百と連合艦隊に撃ち込んだ。

一方連合艦隊の最大の砲やイギリス海軍のリヴェンジ型の38cm砲が最大だ。

そんなに違いは無いが、性能差やレーダー管制射撃によって日本艦隊の命中率は非常に高かった。

連合艦隊も反撃をしてはいるが射角修正中に命中弾を貰い射角がズレるし、照準装置や発射装置が壊れてしまい、ほとんどマトモに撃てなかった。

結果、イギリス海軍の主力艦艇が沈没する結果となり、その瞬間連合艦隊はバラバラになり、フランス、ポルトガルの艦艇は次々降伏した。

イギリス艦艇は本土がかかっているからか奮戦したが、日本艦隊の

戦艦の主砲によって残っている戦艦は次々沈められ、最後は全艦降伏した。

これによって史上最大の海戦となったビスケー湾海戦は日本軍の圧勝によって終わりを告げた。

捕虜や鹵獲した艦艇はモロッコに回航され、収容所や軍港に収容された。

日本側の負傷はイギリスの頑張りのせいか長門型数隻が大破、加賀型、紀伊型が中破と小破となった。

長門型をエジプト軍港に回航して海兵隊と合流。

イギリス本土上陸を開始した

イギリスに最早戦える艦艇はほとんどなく、大した抵抗を受ける事なくイギリス海峡を突破。

事前砲撃をして海岸線の防衛陣地や拠点を破壊して悠々と上陸を開始。

流石に苛烈な抵抗を受けたが航空機による援護と砲撃によって防衛陣地は沈黙し、見事上陸に成功した。

そして陣地を確保してプリマスやポーツマスなど軍港を占領してイギリスの戦力を奪った。

イギリス政府に対して再度の無条件降伏勧告を実施。

イギリス政府は本当はまだ戦いたい、既に戦力は大幅に低下しており、フランスも間もなくパリが占領され、降伏を余儀なくされるし、国内の反戦運動は激化の一途をたどっており、最早継戦は不可能と判断して降伏した。

イギリスが降伏した事で他の連合国も次々降伏していき、最後にロシアは多少抵抗したが、日本にシベリアのほとんどやコーカシアを占領されたため、降伏した。
これによって連合国と同盟国は休戦条約を結んだ。
世界大戦が集結したのだった。

北郷サイド

ようやく終わったか…。

さあ、次こそがいよいよ本番。
戦後処理だ。

ほとんどの戦線で日本軍が活躍した事によって発言力は高い。

それに先の約束である条約会議は日本主導での進行、決議。

とは言ってもベルサイユ条約みたいな苛烈な要求をしたらイギリス辺りでヒトラーが誕生しかねない。

だからそんなに苛烈では無くし、後は日本から支援をして建て直させる。

そうすれば敗戦後の日本がアメリカに憧れたみたいに多少は日本を良く見ると思う。

イギリスに通用すれば良いが…。

116 戦後世界編

1916年10月27日

東京にて先の大戦の戦後処理についての条約を締結。
日本主導で行われたこの条約会議は当初長く続くかと思われたが、
日本側からの詳細な資料や提案が出された。

戦勝国の中でも最も戦果を上げた日本の意見を無視する事は不可能
なので同盟諸国は日本が提示した配分に概ね従った。

日本に次いで戦果を上げたドイツ帝国はポーランド、バルト三国、
フランスのロレーヌ地方を割譲。

オーストリア・ハンガリー君主国はイタリア王国、セルビア王国、
モンテネグロを割譲。

トルコ帝国はギリシャ王国を割譲。

ブルガリア王国はルーマニア王国を割譲。

大日本帝国はロシア帝国のウラル山脈以東、ヴォルガ川以南、イギ
リス王国のジエットランド諸島、中華民国の沿岸部を割譲。

連合側のアジア、アフリカ、南アメリカの植民地は全て独立させる。
独立の指導は大日本帝国が行う。

賠償金についてはあまり苛烈な額は要求しない。というのが日本側
からの提案だったがイギリスには長年の恨みからか同盟諸国は反対
し、協議の結果ベルサイユ条約みたいな無茶苦茶ではないがキツイ
額を課した。

北郷サイド

よし、上手くいった。

ヨーロッパの領土配分は上手くいったが、植民地をどうするかでメモにもめた。

アフリカや南アメリカの広大な植民地をドイツやオーストリアが欲しがったが、どの国も取らない。という結論に達した。

まあ、協議が上手くいかない時に「無用な争いはしたくない。」との脅しが効いたのかその後は上手くいった。

それに独立の指導をする権利も得たから後は傀儡政権を樹立させて利権はいただきだ。

面倒だが大量に手に入れた中国人達はグリーンランドや新たに手に入れたシベリアやウラル地方の開発に携わってもらおう。

移住させた者達には勿論残った者達にも強力な洗脳教育を施して中華思想がいかに愚かしかつた事を詳しく教えてやる。

何せ本当の事を教えてやるのだから説得力は抜群だ。

さて、これからが忙しいな。

先ずは国連の樹立か。

常任理事国は日本、ドイツ、オーストリア、トルコ、ブルガリアで良いか。

トルコ、ブルガリアは日本寄りの意見が多いし、多数のスパイを潜入させて既に傀儡化しているから操作しやすい。

決議の時はこちらの思うがままに動かせる。

次に増えまくった日本民族を次々中国沿岸部に植民させて完全に日本にしてやる。

住民のほとんどを強制移住させたからスカスカになっっている中国を埋めるためにな。

ちなみに中華民国の現在の首都は重慶になっている。

中国では日本からの敗北によって中華思想が大きく傷つけられたので逆に中華思想を神聖化して宗教みたいにした。

かなりの領土を奪われて莫大な賠償金も請求されているから遅くない内に赤化するだろう。

その時もスパイに共産党を設立させ、影から支援して中華民国を打ち倒し中華人民共和国を設立させる。

そして社会主義に宗教の存在は不味いという名目で中国の歴史建造物や中華思想を支える物達を破壊しまくる。

実際に中華思想では列強に勝てなかったから中華思想は段々と衰退していくだろう。

更にこの世界では華人が広がっていないから資金源も無い。嫌が応にも赤化を止められ無いだろう。

それとロシアの脅威を完全には無くさないためにロシアの植民地であるカザフスタンやウクライナなどは没収しなかった。

後のソ連が誕生すればそれなりの戦力が復活するだろう。

やはり脅威が無いと国は纏まらないからな。

仮想敵国としてドイツ、オーストリアと共に頑張って貰おう。

捕虜サイド

日本軍から終戦を聞かされた捕虜達の心境は微妙だった。

普通なら戦争が終わり、祖国に帰れるんだから歓喜の声を上げるの
だろうが彼等はあまり喜べなかった。

「…おい、どうする？戦争終わっちゃったって…。」
捕虜は隣にいた仲間聞いた。

「ああ、どうするかな…。」

今更祖国イギリスに帰っても賠償金請求や戦禍のせいで首都もボロ
ボロだろうし、ロクな仕事にもつけねえ筈だ。」
彼等の心配はそこだった。

祖国である大英帝国は大日本帝国に敗北して最早瀕死の状態。

賠償金の支払いや条約による大規模軍縮が起きて自分達がクビにな
るのは明白。

このまま祖国に帰っても希望が見えないのだ。

「いつそのまま日本に残ってたいな…。その方が希望が見える。」
「ああ、確かに。」

捕虜でいた時が人生で一番楽だったかも知れないしな。」

収容所では基本労役は無く、自由だった。

臨時の収容所にはロクな設備は無かったが移送後の収容所には図書
館など教養施設や体育館やトレーニングルームなど運動施設、音楽
室や美術室など娯楽施設も完備されていた。

タダで様々な本を読めたし、体を鍛えられたし、好きな音楽も聴け
た。

唯一不満だったのは酒を飲めなかったことだがコッソリと密造酒を
作って飲んでたから問題無いし、タバコは配給されてたからそこま
で不満も溜まらなかった。

「下手すりゃ自国にいた時より待遇良かったからな。」

捕虜達は昨日までの夢のような収容所生活を思い出ししていた。自分達は初戦で日本軍に降伏し、情けなくも思っていたが、今では大正解だったと確信している。

日本軍は敵には情け容赦しないが、降伏した者には敬意を払って丁寧に扱ってくれた。

正直な話、今では立派な親日派になった。

そりゃそうだろう。

自国にいた時はロクな仕事が見つからなかったから軍に入隊したが、厳しい訓練と不味い食事、上官からのイジメ。

一方日本軍は脱走したなら射殺されるが、その他はほとんど良かった。

病気になればキチンと診察してくれたし薬や手術もしてくれた。

自国にいるよりも医療レベルが高いから自国で治せないと言われた病気や怪我もほとんど治してくれた。

「これからどうしよう。」

と本国への帰還船に乗っている元捕虜達はうなだれている。

その姿はとても祖国に帰還する姿には見えなかった。

というよりも「まるで今から収容所に送還される捕虜の様だった。」と輸送担当の日本軍は語った。

彼等にとっては今から帰還する自国こそが本当の収容所なのだ。

1917年（日輝338年）

ロシアのロマノフ王朝が崩壊、ソビエト社会主義共和国連邦が誕生した。

史実よりも早くソ連が建国されたのは先の世界大戦の初期から経済基盤が貧弱だったロシアは危機的状況に陥り、更に終戦後には食料暴動まで発生した。
これをきっかけに元々勢力拡大をしていたソビエトが更に伸び、遂にはロマノフ王朝を陥落させ、ソ連を樹立させた。

北郷サイド

上手くいった。

元々この世界ではロマノフ王朝はかなり弱っていたから潜入させていたスパイにソビエトを結成させて少しづつ少しづつ勢力を拡大させていた。

そこに敗戦のせいで一気にロマノフ王朝の威信は地に堕ちたチャンスに乗り、ソ連樹立にも成功した。

史実と違ってレーニンやトロツキー、スターリンもない代わりに日本のスパイ達が中枢を支配している。

ソ連は敗戦によって領土が半分以下になったが、未だに強力な陸軍を擁する軍事国家だ。

この国を支配して日本とあえて敵対関係を結ばせておけば国が一体になりやすい。

冷戦とまではいかないが現代みたいな緊張関係は築ける。

次に国際連合も結成出来た。

常任理事国には大日本帝国、ドイツ帝国、オーストリア・ハンガリー君主国、トルコ帝国、ブルガリア王国の5カ国となった。

国連に加入すれば食料支援など人道的支援を受けれるし、他にも様々な恩恵もあるから他の国も参加した。

というより日本からの参加要請があったから参加したのだが。

東京条約によって過酷な賠償金を命じられたイギリス経済は破綻しかけていた。

史実のドイツ程は酷くは無いが、このままでは国が崩壊してしまう。という危機に瀕した時に思いもよらない所から救援が来た。

戦勝国である大日本帝国からだ。

イギリス本土に日本の軍事基地を建設させてくれるなら食料や資金援助をしても良いという申し出だった。

イギリス政府としては国内に外国の軍事基地を建設するのは屈辱的だが、自国には最早大した軍事力が無いし、日本の基地があるなら他国から侵略される可能性はかなり低くなるとして、日本の基地建設を承諾。

日本軍が占領していたプリマス軍港とその周辺を日本領土とし、新たに在英日本軍の軍事基地に整備した。

その代わりに日本からの大量の食料援助や資金援助を受けてイギリス経済は危機を脱した。

イギリス市民も情けない自国の政府よりも敗戦国である自国に情けをかけてくれたとして親日的な感情を持つ者が増えてきている。

この混乱のどさくさに紛れて日本のスパイを次々選挙に当選させ、更にイギリス中枢に食い込んでいった。

更に最早倒産間近だったイギリスの様々な産業を買収して日本資本の支配下におくなどしてイギリス利権を貪った。

イギリスもこれから復興していき、現代の日本のような経済大国になる可能性が高い。

だから今からイギリスを買っとけば何れは莫大な富を得られるだろう。

ちなみに他の敗戦国も同様に援助の引換に市場や金融を独占した。

流石に駐留軍を置くまではしないが、政権内に食い込む事は出来たからある程度支配下に置いた。

首都遷都のための準備を本格化する。

以前から準備していたが、有事になっていたので停滞気味だった。しかしもう平時に以降したので北米遷都も更に本格化する。

次の首都は予定通りシカゴに決定した。

現在はシカゴに新たな国会議事堂や首都として必要な省庁などの施設の建設中だ。

1919年（日輝340年）

大日本帝国は首都を東京から北米のシカゴへ遷都した。増加し続ける人口と北米の工業化のために遷都を行なった。北米は今までは農業国となっていたが、近年の大量生産、大量消費時代に備えて更なる生産力のためにアメリカ大陸の工業化を推進した。

首都機能をシカゴに移しただけで、東京はこれまで通り経済都市として発展させていくつもりだ。

更にアメリカ大陸でも西海岸、東海岸の都市を経済都市として発展させる。

ちなみに天皇陛下にも日本列島から北米へと移動していただいた。最早実権は無く、お飾り状態になっていたが、未だにその天皇信仰は無くなっていないため、面倒が起きないようにシカゴに新たな皇居を建設した。

史上初（世界的には）となる原爆実験を行なった。

その実験には世界中のメディアや大使、科学者を呼んで北米のアラモゴード砂漠で行われた。

結果は成功。

10キロトンの原爆は見事なキノコ雲を上げた。

その光景を目の当たりにした世界各国のメディアや大使は勿論、日本の科学者や政治家、今上兼統帝は恐ろしい兵器を生み出してしま

つたとして、核兵器の制限条約を制定した。

核拡散防止条約（NPT）を国連にて制定して核兵器は常任理事国である大日本帝国、ドイツ帝国、オーストリア・ハンガリー君主国、トルコ帝国、ブルガリア王国の5カ国のみが保有を許される。

更に上記5カ国にも保有制限があり、国力に準じた数しか生産、保有出来ない。

この条約を国連加盟国全てにサインさせることにした。

他国は常任理事国のみでの独占は不当だと訴えたが、敗戦からまだ大した時間が経っていないし、日本から莫大な援助をしてもらっているため、各国も仕方なく条約にサインしたのだった。

北郷サイド

本当は日本一国で核兵器を独占したかったが、必ず他国も開発するだろうから独占など不可能だ。

だったら制限付きの許可にした方がまだマシだろう。

それに日本以外はまだ核科学など核に大してロクな知識も無いから開発にはかなりの時間がかかる筈だ。

更に潜入させているスパイ達によってことごとく邪魔されるから開発はかなり遅れるだろう。

さて、次は原発か。

原発もタイプによっては核燃料を生み出すからこれも制限しなくてはな。

ウラン型はプルトニウムを精製するし、メルトダウンの危険性が高

いとして禁止にして、プルトニウムの精製能力が低いトリウム溶融塩炉にさせるようにする。

これなら一応メルtdownの可能性が低いとして理由にもなる。

まあ、日本では基本的に原発は建設しないけどな。

管理や維持、放射性廃棄物の始末が面倒過ぎる。

原発のマイナスイメージを作り上げて火力発電などの通常発電やソーラーや風力などの再生可能エネルギー発電にした方が後々良くなる。

地球温暖化にでもなってくれば日本の発電方式が賞賛される日が来るだろうからな。

1921年（日輝342年）

原子力の平和利用のために原子力発電方法を開発。

そして原子力発電所を建設した。

当初は少量のウランで莫大な量のエネルギーを生み出せるとして素晴らしい発電方法と賛美されたが、後々に放射線による健康や環境被害が明らかになってきて、更に発電の際にどうしても放射性廃棄物という非常に有害なゴミが出てしまうとして原子力発電は微妙な発電方法と言われるようになった。

幾度も行われた核実験により、放射線は環境には勿論、健康において重大な障害を及ぼす事が発見された。

近年発見された遺伝子が放射線により切断され、ガンになる確率が飛躍的に上昇する他に、その遺伝子は遺伝して子供にも多大な影響を及ぼすと分かった市民は日本国内中で原発反対運動を起こした。

日本政府も莫大なエネルギーを生み出すが、国民の健康被害を及ぼすとして原子力発電所を閉鎖、解体される事となった。

これからは従来通りの火力、水力、地熱などの通常発電方法の他に太陽光、風力、波力などといった再生可能エネルギーでの発電方法に切り替えた。

その結果、個人でのソーラーパネルや風力発電機器の購入、設置が流行ることになった。

日本政府は外国でもこれから原子力発電を取り入れる可能性がある事を考えて国際原子力委員会（IAEA）を設立。もしも原発を建設するなら危険性が高いウラン型では無く、まだマシなトリウム溶融塩炉を建設すること。と明記した。トリウム型ならウラン型に比べてメルトダウンの可能性が低いし、まだ環境や健康被害にマシだと言う事で採用された。

北郷サイド

とりあえずこれで良いか。

核兵器や原発に対するマイナスイメージは世界中に広めまし、放射線をモロに浴びた兵士達の写真や映像も世界中のメディアに流したから核兵器はとも恐ろしい物というイメージはついただろうし、あつてはならない物というイメージも根付いただろう。

核兵器のイメージがよく分からないと各国の核兵器開発を国民は重要視しないが、それでもし他国が核兵器を開発すれば重大な脅威として認識され、国内は纏まる。

他にも核兵器は開発していないが原発を建設して核技術を高められないように世界中に原発のマイナスイメージを広めたからかなり建設はしにくい筈だ。

何せ日本ですら撤退した技術だからな。

日本よりも技術に劣る自国が出来る筈が無いと国民は更に反発する筈だ。

それでも原発を建設する国を牽制するためにプルトニウムを精製しやすいウラン型から精製しにくいトリウム型を推奨して核兵器に転

用しにくくしてやった。

一応環境を配慮しているからトリウム型を推奨する理由になるしな。もしもトリウム型ではなくウラン型で原発を建設すれば制裁対象になるから各国はそんなことは出来ない。

さてと、そろそろ民主化の波が高まって来たな。

デカイ戦争が終わり、敗戦国は軒並み民主国家になったし、戦勝国でも民主化を目指しての運動が高まっている。

日本国内でもまだ小さいが民主化運動が起き始めている。

まだ俺の寿命は大丈夫そうだが、そろそろ民主主義に転換するか？ 絶対君主制国家は権力が集中するから統治が簡単で良いがもし俺がいきなり死んだりしたら絶対腐敗するだろう。それは歴史が証明しているから確実だ。

だから国内が安定している今のうちに絶対君主制国家から立憲君主制国家に転換しよう。

ていうか既に日本は体面は絶対君主制だが実質は議会制民主主義をしている。

内閣は存在するし、首相も存在する。

だから内閣の権限を強化し、総理大臣の権限をかなり強化すれば今までと大した違いは無い。

最大の違いは選挙制を実施する事だが、まだ国民レベルに差があるからしばらくは制限選挙制になる。

条件は

一 等国民以上である事。

かなりの納税をしている事。

学歴がある程度ある事。

などなど制限を課さないとしてもないバカや反日家が議員になり

かねない。

まあ、基本的に国家運営は優秀で忠実な駒達で固めた戦略研究会がやってるからな。

俺が今後に対する意見を言った後に戦略研究会が方針を決定して皇帝はただサインするだけ。

だから別に皇帝がいなくても国家運営には何ら支障は無い。

戦略研究会の面々は俺が1から鍛え上げ、俺に絶対の忠誠を誓った奴らだ。

未来の統治法や考え方、不正摘発、国民感情の操作法などのエキスパートだから俺が命令しなくてもちやんとやってくれる。

そのせいで俺の仕事はほとんど無いがな。

1924年(日輝350年)

絶対君主制を敷き、肝付王朝は大日本帝国を350年という長きに渡って支配し栄華を誇っていたが、時代の趨勢を見て自らその長い歴史に幕を閉じ、立憲君主制国家、日本国へと生まれ変わった。

絶頂期とも言える時に自ら王朝を解体して民主主義国家を建設するという行動に各国は驚きを隠せなかった。

今上兼統帝は帝国解体宣言において

「時代は王朝から民主主義へと移り変わっている。

時代が民主主義を求めていると強く感じ、何れは帝国も民主主義国家になるだろうと分かった。

ならば他国のように革命や戦争によって民主主義国家となるよりは自ら民主主義国家となる方が国のため、ひいては日本国民のためになると決意し、偉大な初代兼統帝が建国なさり350年にも長きに渡る我が肝付王朝の歴史に終止符を打った。

帝国が腐敗し、衰退した後に民主主義国家になっても遅すぎる。

だからあえて絶頂期とも言われている今こそが絶好の好機なのだ。

帝国が解体された後でも私はこの国が更に発展してくれると信じている！

何故なら支配体制が大きく変わったとしても、ここは日本国だ！

日本国民が今まで通り一丸になって進んで行けば今まで通り必ず成功する！！

これは予言では無い、断言だ！！

日本国万歳！！
天皇陛下万歳！！
日本国民万歳！！！！」

その宣言後、正式に大日本帝国は日本国へと生まれ変わった。

君主としては今まで通り天皇陛下を指すが、今まで通り実権は無く、日本国の象徴となっている。

実権は内閣が有し、内閣総理大臣が強い権力を持ち、国を引っ張る存在となった。

後は現代に準じている。

衆議院と参議院の2院制。

現代と違って法改正には厳しい3分の2以上の賛成が必要。ではなく、過半数の賛成で良い。など日本国憲法には加筆修正が加えられている。

北郷サイド

国内の混乱は最小限に押さえられた。

まあ、慎重に10年以上かけて民主主義に移行したから準備は万全だったからな。

最初は議員内閣制ではなく強大な権力を有する大統領制にしようかとも思ったが、それでは俺が支配しにくいかと思ったので議員内閣制に変更した。

大統領なら直接国民からも選ばれるから良いように思ったけど、それだとよく分からない奴が大統領になる可能性は否定出来ないし、

俺の命令に逆らう可能性も高い。
議員内閣制なら長い時間をかけて洗脳なり買収なり出来るし、傀儡
を総理大臣に据えられるからやり易い。

幸いまだ外見年齢は変わって無いし、肉体年齢も変わって無いこと
から寿命はまだ来ていない。

何時来るかは分からないがそれまではこの国を支配し続ける。

一応俺の祖国でもあるからな。

今はどうか分からないが俺がいた時代みたいな政権をこの国のトッ
プになど任せられない。

肝付王朝が無くなった事で兼続教の求心力が無くならないように皇
族にも肝付の血はちゃんと入っている。

百年ぐらい前にこのままでは皇族が崩壊してしまうかも知れないと
焦っていた皇族が求心力を得るためにたまたまに肝付の王子や王女を婿
や嫁に迎えている。

だから肝付の、ていうか兼続帝の血筋は天皇が受け継いでいるから
若干弱まるが求心力はある。

さて、各国も大戦の混乱も収まって来たからいよいよ経済戦争が
始まるぞ。

戦争ほど派手さは無いがその分負けるととんでもない痛手を食う。
勝てばかなりの利益を得られるがな。

各国に潜入させているスパイ達やまだまだ発表していない技術郡を
使って経済戦争においても圧倒的勝利を迎えてやる。

121 (オマケ) 民主主義世界編 (前書き)

要望が多かったので書いてみました。

絶対君主制国家を貫き、そしてその成果を発揮して正に絶頂期に至った大日本帝国が突如、国を解体して民主主義国家になったというニュースは国内は勿論のこと世界中を駆け巡った。

日本国民サイド

今上兼統帝の帝国解体宣言を受けて日本国民は驚愕した。近年、「いよいよ帝国も民主主義国家に移行する。」という噂は流れていたが国民の大多数は信じていなかった。何故なら他国と違って肝付王朝支配は何の問題も無く、王朝支配が始まってから順調に国は成長を続けていた。ただかアジアの1島国でしかなかった大日本帝国を今では世界の半分を支配していると言っても過言では無い支配地域と支配力を有する超大国に導いたのだ。

国内でも特に大きな汚職も無いし、税金がバカ高いことも無い。それどころか汚職などは決して許さず、行なった者達はほとんどが処刑され、たまにはその家族までも死罪とした。それを「やり過ぎだ。」と避難する声は絶えないが、「甘い刑罰では汚職は絶えない、汚職をやる気にならないようにするためだ。」という帝国の方針と大多数の国民は賛同していまから特に問題は無かった。何せ例え王族であろうと王族に相応しく無い行動を行えば公開処刑をするのだ。

その平等性のおかげか国民は兼統帝に追従した。

他にも社会保障が確立されていて全国民が健康保険に加入しているから医療費は3割負担で安いし、他国に比べて医療技術が格段に進んでいるため死亡率は他国に比べてかなり低いし、平均寿命も長い。

それに大戦の結果、新たに支配地域となったシベリア、ウラル地域、コーカシア地域、ジエツトランド諸島、プリマス周辺、中国沿岸部の原住民は日本に支配されて良かったとも思っている。

旧ロシア領の住民達は「ロマノフ王朝支配時代は酷い税金と無理矢理な徴兵、不十分なインフラなど悲惨な状態だったが、日本支配下になると常識的な税金に食料援助、上下水道や道路などインフラ整備をしっかりとってくれるし、家も建ててくれた。」と日本支配を受け入れている。

旧イギリス領では「祖国の敗北で日本支配外では急激なインフレなどで苦しんでいるが、ここでは何も無いし。それどころか昔よりも技術の恩恵を受けれるようになった。」と日本支配を歓迎している。

唯一、グリーンランドやカナダ北極圏に強制移住させられた旧中華民国人達は不満を言っていたが、何年か経つと「祖国にいた時より楽。」や「子供に希望を持たせられる。」など好意的な意見も出てきていた。

何せもしも祖国に残っていたら今の内戦が絶えない状態の国で生きなければならなかったからだ。

中国国内では現在資本主義の国民党と社会主義の共産党が激しい内戦を巻き起こしている。

そんな国にいたら内戦に巻き込まれて死ぬ危険性が高いし、徴兵されて戦争に参加させられる危険性が高い。

だったら環境的にはキツイがインフラや住居環境、医療設備、教育施設など何でも充実しているこの極地の方が何百倍もマシなのだ。

だから彼等も段々と日本支配を受け入れきているのだった。

肝付王朝が無くなり、内閣が日本国支配をするようになった当初は国民は不安だった。

何せ今までも内閣はあったが兼統帝が全てを決定していて、それで上手くいっていたのだ。

それが崩れ、兼統帝の代わりに内閣総理大臣が権力を持つようになったのだ。国民が不安がるのも無理は無い。

しかしその心配は杞憂だった。

内閣の支配になっても今までと代わりは特に無いし、透明性を保つためと国会の様子はラジオやテレビで流されるし、見学も自由だ。

当初は不安で見学者が連日満員だったが、今では安心したのか満員では無くなった。

しかし議員達を監視するためとして何人も民間人が毎日来ているし、議員達の国会答弁の様子をカメラで全国に流しているので寝てたり、失言などをすれば猛烈な数の苦情が来る。

このように内閣の支配下になったが日本国内は非常に安定して順調に成長を続けていたのだった。

外国サイド

一方、他国は混乱していた。

民主主義の風が吹き、王朝支配が危ぶまれていたが、超大国、大日本帝国が絶対君主制を敷いていたから耐えられた。しかしその大日

本帝国が自ら絶頂期にも関わらずに国情を見て民主主義国家に生まれ変わったという英断をしてしまったために先勝国でも王朝支配が危ぶまれていた。

「あの大日本帝国でさえ時代の流れを見て民主主義国家になったんだ。だったら内の国だって民主主義になるべきだ。」という意見から民主主義運動が激化していた。

警官隊や時には軍隊が出動し、鎮圧して何とか持ちこたえているが長くは持たないだろう。

日本は他国に民主主義を強制したり、押し付けたりはしていないが、他国民から見たら日本がいきなり民主主義国家になったんだから自分達もしたほうが良い。と思ひ、民主化運動は止まらない。

何せ日本は長年世界のトップに君臨し、世界をリードし続けていたのだ。

日本の国策は今のところ間違った事が無いし、常に成果を上げていたから「日本のやることを真似すれば間違いは無い。」という共通認識が生まれてしまっていたのだ。

オマケに戦勝国なのに景気は微妙だし、国内部が日本と違って敵しく賤られていないので汚職は蔓延しているし、経済は良いとは言えない。

むしろ日本から援助を受けた敗戦国であるイギリスの方が現在好景気に沸いている。

「どれもこれも王朝支配が悪いんだ。」と国民は認識しているので民主化運動は止まらない。

このままではクーデターすら起こりかねない状態だ。

その一端として反政府活動家達は日本に支援を要請している。

クーデターや民主化デモを起こしたら自分達を支持して、政府軍と戦う事になったら参戦して欲しいと日本に求めている。

日本側からの回答はまだ無いが、いずれ日本が動き出すんじゃないかと政府は戦々恐々としている。

中には被害を減らすために日本に追従して自ら民主化する国もいたが、いきなり民主化すると言ってもどう民主化するか決めていなかっただけでほとんど無政府状態になり、混乱を鎮圧するために日本政府に助けを求め、日本の指導の基、民主化を進めている国もある。

旧植民地サイド

アフリカ、南アメリカ、アジアなどの旧植民地は順調にいつていた。日本の指導の基、議員内閣制や大統領制などそれぞれが選んだ民主主義を実施し、順調にいつていて日本の経済協力のおかげで引き上げていった宗主国の穴埋めも出来たし、新たな産業も生まれている。軍事面においても多少旧式だが日本製の兵器や武装を援助して貰い、一応の格好はいつている。

現在は日本の指導下での訓練を受けて練度を上げている。国民も「日本のおかげで主権を回復出来た。」や「様々な援助や指導を受けて近代化出来ている。」など感謝の声が多い。彼等にとっては日本は救世主なのだ。

北郷サイド

民主主義国家になったが問題無く順調だ。

まあ、何せ何にも変わって無いからな。

皇帝がサインしてたのが総理大臣に変わっただけ。

戦略研究会が考えた書類を国会で答弁して総理大臣がサインする。基本的に何も変わってなどいない。

民主主義もクソも無い。絶対君主制国家でしかない。

まあ、それで上手くいつてるんだから誰も文句は言わないがな。

敗戦国は勿論、戦勝国でも支援や援助によって市場に参入して独占し、利権を貪り、民主化させてその国を操りやすくする。

選挙で選ばれるようになればこちらのスパイを更に入れやすくなる。民主化様々だ。

旧植民地も指導するためと市場で日本企業有利な法案を通して完全に市場を独占したし、資源地帯も押さえた。

国を管理するのは金がかかるから独立させて自分達で面倒を見させれば管理が楽だ。

更に軍事関連も日本製兵器を優先的に納入するようにしたから軍事関連でも儲けれる。

全く楽で良いよ。

グリーンランドや極地に飛ばした中国人達は何れ絶滅するだろう。

奴等の食材にはホルモン調整剤や避妊薬などを混ぜているから子供が出来にくい。

ついでに人体実験として毒ガスのテストでもするか？

原因不明の伝染病にでも見立てて。

良いデータが取れるだろうな。

民主化してから人体実験を公にやるのは難しくなった。

だから代わりに実験台になっていただけこう。

抗がん剤や副作用の強い薬もバンバン使い、医療技術の発展に貢献して頂く。

何もせず放置すればグリーンランドが中国になりかねないからな。中国人には洗脳教育をしてもあまりかからないという結果が出たから減少案から絶滅案に変更だ。

少なくとも日本領にいる中国人は1割以下にする。

アイツ等の精神構造が柔軟だったら共存の可能性もあったのになあ？
残念だよ。

でもまあ、将来人口増加で食料や水不足が出るだろうから、それを見越して、という建前も出来なくはないかな？

その代わりに日本人がかなり増えそうだな。

このまま増え続ければシミュレーション結果では2000年には10億人以上に増えるらしい。

凄まじいな…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6674q/>

今度は戦国時代かよ...

2011年7月15日09時46分発行